令和６年第２回定例会会議録

令和６年第２回菊池市議会定例会会期日程表（会期２２日間）

月　　日	曜日	区　分	日　　程
６月１４日	金	本会議	開会宣告・開議・会議録署名議員の指名・会期の決定・議案上程・提案理由説明
６月１５日	土	休　会	（市の休日）
６日１６日	日	休　会	（市の休日）
６月１７日	月	休　会	議案調査
６月１８日	火	休　会	議案調査
６月１９日	水	本会議	常任委員会委員の選任・議会運営委員会委員の選任・議会広報特別委員会委員の選任、質疑・委員会付託
		委員会	予算決算常任委員会
６月２０日	木	本会議	一般質問
６月２１日	金	本会議	一般質問
６月２２日	土	休　会	（市の休日）
６月２３日	日	休　会	（市の休日）
６月２４日	月	本会議	一般質問
６月２５日	火	休　会	議案調査
６月２６日	水	委員会	総務文教常任委員会・予算決算常任委員会総務文教分科会 福祉厚生常任委員会・予算決算常任委員会福祉厚生分科会 経済建設常任委員会・予算決算常任委員会経済建設分科会
６月２７日	木	委員会	総務文教常任委員会・予算決算常任委員会総務文教分科会 福祉厚生常任委員会・予算決算常任委員会福祉厚生分科会 経済建設常任委員会・予算決算常任委員会経済建設分科会
６月２８日	金	休　会	議事整理
６月２９日	土	休　会	（市の休日）
６月３０日	日	休　会	（市の休日）
７月　１日	月	休　会	議事整理
７月　２日	火	委員会	予算決算常任委員会
７月　３日	水	休　会	議事整理
７月　４日	木	休　会	議事整理
７月　５日	金	本会議	委員長報告・質疑・討論・採決・閉会宣告

令和６年　第２回菊池市議会定例会会議録（目次）

６月１４日（金曜日）　本会議　　**頁**

１．議事日程第１号…… 23
２．本日の会議に付した事件…… 25
３．出席議員氏名…… 27
４．欠席議員氏名…… 27
５．説明のため出席した者の職氏名…… 27
６．事務局職員出席者…… 28
７．開　会…… 29
８．開　議…… 31
９．日程第１　会議録署名議員の指名…… 32
10．日程第２　会期の決定…… 32
11．日程第３　議案第３０号から議案第３６号まで一括上程・説明・質疑…… 32
休　憩…… 42
開　議…… 42
討論（議案第３２号、議案第３４号）…… 42
（１）東奈津子議員討論…… 43
（２）安武睦夫議員討論…… 44
採決（議案第３０号、議案第３１号、議案第３３号、
議案第３５号、議案第３６号）…… 45
採決（議案第３２号）…… 45
採決（議案第３４号）…… 45
12．日程第４　議案第３７号から議案第４３号まで一括上程・説明…… 45
13．日程第５　議案第４４号　上程・説明…… 47
休　憩…… 49
開　議…… 49
・質疑・討論・採決…… 49
14．日程第６　議案第４５号から議案第４７号まで一括上程・説明…… 49
15．日程第７　議案第４８号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 53
16．日程第８　議案第４９号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 54
17．日程第９　議案第５０号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 56
18．日程第10　議案第５１号から議案第５４号まで一括上程・説明・質疑
・討論・採決…… 57

19. 日程第11　議案第５５号から議案第５８号まで一括上程・説明…… 59
20. 日程第12　報告第１号から報告第７号まで一括上程・報告…… 60
21. 日程第13　請願第１号及び請願第２号一括上程…… 63
22. 日程通告　散会…… 63

６月１５日（土曜日）　休　会
６月１６日（日曜日）　休　会
６月１７日（月曜日）　休　会
６月１８日（火曜日）　休　会

６月１９日（水曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第２号…… 67
２．本日の会議に付した事件…… 67
３．出席議員氏名…… 67
４．欠席議員氏名…… 68
５．説明のため出席した者の職氏名…… 68
６．事務局職員出席者…… 69
７．開　議…… 70
８．日程第１　議事第１号　常任委員会委員の選任について…… 70
休　憩…… 71
開　議…… 71
９．日程第２　議事第２号　議会運営委員会委員の選任について…… 71
休　憩…… 72
開　議…… 72
10. 日程第３　議事第３号　議会広報特別委員会委員の選任について…… 72
休　憩…… 72
開　議…… 72
11. 日程第４　議長の常任委員会委員辞退の件…… 73
12. 日程第５　質疑…… 73
東奈津子議員質疑…… 73
○久川知己建設部長答弁…… 73
東奈津子議員質疑…… 74
○久川知己建設部長答弁…… 74
13. 日程第６　委員会付託…… 74

14. 日程通告　散会…… 75

６月１９日（水曜日）　予算決算常任委員会

６月２０日（木曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第３号…… 79
２．本日の会議に付した事件…… 79
３．出席議員氏名…… 79
４．欠席議員氏名…… 79
５．説明のため出席した者の職氏名…… 80
６．事務局職員出席者…… 80
７．開　議…… 81
８．日程第１　一般質問…… 81
（１）泉田栄一朗議員質問…… 81
「防犯について」…… 81
○開田智浩総務部長答弁…… 82
泉田栄一朗議員質問…… 83
○前川幸輝教育部長答弁…… 83
○開田智浩総務部長答弁…… 84
○前川幸輝教育部長答弁…… 84
泉田栄一朗議員質問…… 85
○開田智浩総務部長答弁…… 86
○前川幸輝教育部長答弁…… 86
（２）泉田栄一朗議員質問…… 87
「不登校対策について」…… 87
○前川幸輝教育部長答弁…… 88
泉田栄一朗議員質問…… 89
○前川幸輝教育部長答弁…… 89
泉田栄一朗議員質問…… 89
○音光寺以章教育長答弁…… 90
（３）泉田栄一朗議員質問…… 91
「単身高齢者の終活支援について」…… 91
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 91
泉田栄一朗議員質問…… 92

○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 93
（４）泉田栄一朗議員質問…… 94
「孔子公園の活用について」…… 94
○三池克徳経済部長答弁…… 96
休　憩…… 97
開　議…… 97
（１）稲継智康議員質問…… 97
「本市小中学校における熱中症対策について」…… 97
○前川幸輝教育部長答弁…… 98
稲継智康議員質問…… 98
○前川幸輝教育部長答弁…… 99
稲継智康議員質問…… 100
○音光寺以章教育長答弁…… 102
（２）稲継智康議員質問…… 102
「社会体育施設の整備と管理に関して」…… 102
○前川幸輝教育部長答弁…… 103
稲継智康議員質問…… 104
○音光寺以章教育長答弁…… 104
○前川幸輝教育部長答弁…… 105
稲継智康議員質問…… 105
○前川幸輝教育部長答弁…… 105
稲継智康議員質問…… 106
○前川幸輝教育部長答弁…… 106
（３）稲継智康議員質問…… 106
「施設の修繕について」…… 107
○開田智浩総務部長答弁…… 107
稲継智康議員質問…… 108
○開田智浩総務部長答弁…… 108
稲継智康議員質問…… 108
○江頭実市長答弁…… 108
昼食休憩…… 110
開　議…… 110
（１）後藤英夫議員質問…… 110
「菊池産木材の活用に向けた取組について」…… 110

○三池克徳経済部長答弁…… 112
後藤英夫議員質問…… 113
○江頭実市長答弁…… 114
（２）後藤英夫議員質問…… 114
「本市の地域開発促進について」…… 114
○久川知己建設部長答弁…… 115
後藤英夫議員質問…… 115
○久川知己建設部長答弁…… 116
（３）後藤英夫議員質問…… 116
「本市在住外国人労働者への本市の対応について」…… 116
○宇野木浩二市民環境部長答弁…… 117
後藤英夫議員質問…… 118
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 118
（４）後藤英夫議員質問…… 119
「北宮、深川、大琳寺区の道路整備について」…… 119
○久川知己建設部長答弁…… 120
○前川幸輝教育部長答弁…… 121
後藤英夫議員質問…… 121
○前川幸輝教育部長答弁…… 121
後藤英夫議員質問…… 122
○久川知己建設部長答弁…… 122
休　憩…… 122
開　議…… 122
（１）島春代議員質問…… 122
「帯状疱疹ワクチン接種への助成について」…… 122
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 123
島春代議員質問…… 123
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 124
島春代議員質問…… 124
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 126
島春代議員質問…… 126
○江頭実市長答弁…… 126
（２）島春代議員質問…… 126
「軟骨伝導イヤホンの設置について」…… 127

○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 127
島春代議員質問…… 127
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 128
島春代議員質問…… 128
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 129
（３）島春代議員質問…… 129
「がん患者のアピアランスケア推進について」…… 129
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 130
島春代議員質問…… 131
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 131
島春代議員質問…… 131
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 132
（４）島春代議員質問…… 132
「熱中症から市民を守る取組について」…… 132
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 133
島春代議員質問…… 133
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 134
休　憩…… 135
開　議…… 135
（１）荒木崇之議員質問…… 135
「選挙管理委員会の対応について」…… 135
○古庄和彦総務課長兼選挙管理委員会事務局長答弁…… 136
荒木崇之議員質問…… 137
○古庄和彦総務課長兼選挙管理委員会事務局長答弁…… 138
荒木崇之議員質問…… 138
○古庄和彦総務課長兼選挙管理委員会事務局長答弁…… 139
荒木崇之議員質問…… 139
○古庄和彦総務課長兼選挙管理委員会事務局長答弁…… 140
荒木崇之議員質問…… 140
休　憩…… 141
開　議…… 142
○古庄和彦総務課長兼選挙管理委員会事務局長答弁…… 142
荒木崇之議員質問…… 142
○古庄和彦総務課長兼選挙管理委員会事務局長答弁…… 143

荒木崇之議員質問…… 143
○古庄和彦総務課長兼選挙管理委員会事務局長答弁…… 143
（２）荒木崇之議員質問…… 143
「公共施設における政治的掲示物について」…… 144
○前川幸輝教育部長答弁…… 145
荒木崇之議員質問…… 145
○前川幸輝教育部長答弁…… 146
荒木崇之議員質問…… 146
○音光寺以章教育長答弁…… 146
荒木崇之議員質問…… 147
休　憩…… 148
開　議…… 148
○音光寺以章教育長答弁…… 148
荒木崇之議員質問…… 148
○前川幸輝教育部長答弁…… 149
荒木崇之議員質問…… 149
○音光寺以章教育長答弁…… 150
荒木崇之議員質問…… 150
○開田智浩総務部長答弁…… 150
荒木崇之議員質問…… 151
○前川幸輝教育部長答弁…… 151
９．日程通告　散会…… 153

６月２１日（金曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第４号…… 157
２．本日の会議に付した事件…… 157
３．出席議員氏名…… 157
４．欠席議員氏名…… 157
５．説明のため出席した者の職氏名…… 158
６．事務局職員出席者…… 158
７．開　議…… 159
○宇野木浩二市民環境部長発言訂正…… 159
８．日程第１　一般質問…… 159
（１）田中教之議員質問…… 159

「教育現場における保護者の諸費等の支払いの現状について」…… 159
○前川幸輝教育部長答弁…… 160
田中教之議員質問…… 160
○前川幸輝教育部長答弁…… 163
（２）田中教之議員質問…… 163
「ゴルフによる地域活性化について」…… 164
○開田智浩総務部長答弁…… 165
○三池克徳経済部長答弁…… 166
田中教之議員質問…… 166
○三池克徳経済部長答弁…… 167
（３）田中教之議員質問…… 168
「地産地消の推進について」…… 169
○三池克徳経済部長答弁…… 170
休　憩…… 172
開　議…… 172
（１）緒方哲郎議員質問…… 172
「本市農業従事者について」…… 172
○三池克徳経済部長答弁…… 174
緒方哲郎議員質問…… 174
○三池克徳経済部長答弁…… 174
緒方哲郎議員質問…… 175
○三池克徳経済部長答弁…… 175
緒方哲郎議員質問…… 175
○三池克徳経済部長答弁…… 177
緒方哲郎議員質問…… 177
○三池克徳経済部長答弁…… 178
緒方哲郎議員質問…… 178
○三池克徳経済部長答弁…… 179
（２）緒方哲郎議員質問…… 179
「菊之池小学校校舎について」…… 180
○前川幸輝教育部長答弁…… 180
緒方哲郎議員質問…… 181
○前川幸輝教育部長答弁…… 181
緒方哲郎議員質問…… 182

○前川幸輝教育部長答弁…… 182
緒方哲郎議員質問…… 183
○前川幸輝教育部長答弁…… 183
緒方哲郎議員質問…… 183
○前川幸輝教育部長答弁…… 184
昼食休憩…… 186
開　議…… 186
（１）本藤潔議員質問…… 186
「認知症予防と対策について」…… 186
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 187
本藤潔議員質問…… 188
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 189
本藤潔議員質問…… 190
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 190
本藤潔議員質問…… 191
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 191
（２）本藤潔議員質問…… 192
「少子化対策について」…… 192
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 193
本藤潔議員質問…… 194
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 195
本藤潔議員質問…… 195
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 195
本藤潔議員質問…… 196
○前川幸輝教育部長答弁…… 197
本藤潔議員質問…… 197
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 198
本藤潔議員質問…… 198
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 199
本藤潔議員質問…… 200
○久川知己建設部長答弁…… 200
本藤潔議員質問…… 201
○江頭実市長答弁…… 201
休　憩…… 202

開　議…… 202
（1）福島英徳議員質問…… 202
「委託契約及び補助事業の在り方について」…… 202
○久川知己建設部長答弁…… 203
福島英徳議員質問…… 204
○久川知己建設部長答弁…… 204
福島英徳議員質問…… 204
○久川知己建設部長答弁…… 204
福島英徳議員質問…… 205
○開田智浩総務部長答弁…… 205
福島英徳議員質問…… 206
○開田智浩総務部長答弁…… 206
福島英徳議員質問…… 207
○前川幸輝教育部長答弁…… 207
○開田智浩総務部長答弁…… 208
福島英徳議員質問…… 208
休　憩…… 209
開　議…… 209
○江頭実市長答弁…… 209
福島英徳議員質問…… 210
○江頭実市長答弁…… 210
（2）福島英徳議員質問…… 210
「カスタマーハラスメントの現状について」…… 210
○開田智浩総務部長答弁…… 211
福島英徳議員質問…… 211
○開田智浩総務部長答弁…… 211
福島英徳議員質問…… 211
○開田智浩総務部長答弁…… 212
福島英徳議員質問…… 212
○江頭実市長答弁…… 212
9．日程通告　散会…… 213

6月22日（土曜日）　休　会

6月23日（日曜日）　休　会

６月２４日（月曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第５号…… 217
２．本日の会議に付した事件…… 217
３．出席議員氏名…… 218
４．欠席議員氏名…… 218
５．説明のため出席した者の職氏名…… 218
６．事務局職員出席者…… 219
７．開　議…… 220
８．日程第１　一般質問…… 220
（１）安武睦夫議員質問…… 220
「定住支援施策について」…… 220
○北島悠子政策企画部長答弁…… 221
安武睦夫議員質問…… 222
○北島悠子政策企画部長答弁…… 223
安武睦夫議員質問…… 223
○北島悠子政策企画部長答弁…… 225
安武睦夫議員質問…… 226
○江頭実市長答弁…… 226
（２）安武睦夫議員質問…… 227
「半導体関連企業への竜門ダム工業用水供給事業について」…… 227
○三池克徳経済部長答弁…… 228
安武睦夫議員質問…… 229
○三池克徳経済部長答弁…… 230
安武睦夫議員質問…… 231
○三池克徳経済部長答弁…… 232
安武睦夫議員質問…… 232
○江頭実市長答弁…… 233
休　憩…… 234
開　議…… 234
（１）東奈津子議員質問…… 234
「ＰＦＩについて」…… 235
○久川知己建設部長答弁…… 236
東奈津子議員質問…… 236

○久川知己建設部長答弁…… 236
東奈津子議員質問…… 237
○久川知己建設部長答弁…… 238
東奈津子議員質問…… 238
○久川知己建設部長答弁…… 239
東奈津子議員質問…… 239
○江頭実市長答弁…… 240
（２）東奈津子議員質問…… 240
「マイナ保険証について」…… 241
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 242
東奈津子議員質問…… 243
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 244
東奈津子議員質問…… 244
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 245
東奈津子議員質問…… 246
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 247
東奈津子議員質問…… 247
○江頭実市長答弁…… 248
昼食休憩…… 249
開　議…… 249
（１）二ノ文伸元議員質問…… 249
「ラブベンチについて」…… 249
○久川知己建設部長答弁…… 250
二ノ文伸元議員質問…… 251
休　憩…… 252
開　議…… 252
○久川知己建設部長答弁…… 252
二ノ文伸元議員質問…… 252
○江頭実市長答弁…… 253
（２）二ノ文伸元議員質問…… 254
「子ども医療費助成制度について」…… 254
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 255
二ノ文伸元議員質問…… 257
○中尾孝浩健康福祉部長答弁…… 257

二ノ文伸元議員質問…… 257
○江頭実市長答弁…… 258
休　憩…… 259
開　議…… 259
（１）木下雄二議員質問…… 259
「ジュニアスポーツ育成ゆうり基金について」…… 259
○前川幸輝教育部長答弁…… 260
木下雄二議員質問…… 260
○前川幸輝教育部長答弁…… 261
木下雄二議員質問…… 261
○江頭実市長答弁…… 261
（２）木下雄二議員質問…… 261
「菊池市の公園等の現状と維持管理費等について」…… 262
○久川知己建設部長答弁…… 262
木下雄二議員質問…… 263
○江頭実市長答弁…… 264
木下雄二議員質問…… 265
○江頭実市長答弁…… 265
（３）木下雄二議員質問…… 266
「竜門ダムの未利用水のＴＳＭＣ等の活用について」…… 266
○江頭実市長答弁…… 268
（４）木下雄二議員質問…… 268
「九州産廃菊池営業所廃止後の水迫地区への対応について」…… 269
○宇野木浩二市民環境部長答弁…… 270
木下雄二議員質問…… 271
○宇野木浩二市民環境部長答弁…… 271
木下雄二議員質問…… 271
○江頭実市長答弁…… 271
（５）木下雄二議員質問…… 272
「菊池市公共施設等総合管理計画について」…… 272
○前川幸輝教育部長答弁…… 273
木下雄二議員質問…… 273
○江頭実市長答弁…… 274
（６）木下雄二議員質問…… 275

「国道３８７号沿いの太陽光発電事業について」…… 275
○宇野木浩二市民環境部長答弁…… 276
休　憩…… 277
開　議…… 277
○江頭実市長発言訂正…… 277
９．日程第２　議案第５９号及び議案第６０号一括上程・説明…… 277
質疑…… 278
荒木崇之議員質疑…… 279
○開田智浩総務部長答弁…… 279
荒木崇之議員質疑…… 280
○開田智浩総務部長答弁…… 280
荒木崇之議員質疑…… 280
○開田智浩総務部長答弁…… 281
委員会付託…… 281
10．日程第３　報告第８号から報告第１５号まで一括上程・報告…… 281
11．日程通告　散会…… 286

６月２５日（火曜日）　休　会
６月２６日（水曜日）　総務文教常任委員会・予算決算常任委員会総務文教分科会
福祉厚生常任委員会・予算決算常任委員会福祉厚生分科会
経済建設常任委員会・予算決算常任委員会経済建設分科会
６月２７日（木曜日）　総務文教常任委員会・予算決算常任委員会総務文教分科会
福祉厚生常任委員会・予算決算常任委員会福祉厚生分科会
経済建設常任委員会・予算決算常任委員会経済建設分科会
６月２８日（金曜日）　休　会
６月２９日（土曜日）　休　会
６月３０日（日曜日）　休　会
７月　１日（月曜日）　休　会
７月　２日（火曜日）　予算決算常任委員会
７月　３日（水曜日）　休　会
７月　４日（木曜日）　休　会

７月　５日（金曜日）　本会議　　頁

１．議事日程第６号…… 289

２．本日の会議に付した事件…… 289
３．出席議員氏名…… 289
４．欠席議員氏名…… 290
５．説明のため出席した者の職氏名…… 290
６．事務局職員出席者…… 291
７．開　議…… 292
８．日程第１　各常任委員長報告…… 292
・総務文教常任委員長報告…… 292
・福祉厚生常任委員長報告…… 296
・経済建設常任委員長報告…… 298
・予算決算常任委員長報告…… 300
質疑…… 303
荒木崇之議員質疑…… 303
○緒方哲郎総務文教常任委員長答弁…… 303
荒木崇之議員質疑…… 303
○緒方哲郎総務文教常任委員長答弁…… 304
討論（議案第４２号、議案第４６号）…… 304
（１）東奈津子議員討論…… 304
（２）猿渡美智子議員討論…… 305
討論（請願第１号）…… 306
（１）田中教之議員討論…… 306
（２）猿渡美智子議員討論…… 306
（３）平直樹議員討論…… 307
（４）東奈津子議員討論…… 307
採決（議案第３７号～議案第４１号、議案第４３号、議案第４７号、
議案第５５号～議案第６０号、請願第２号）…… 308
採決（議案第４２）…… 308
採決（議案第４６号）…… 308
採決（請願第１号）…… 308
休　憩…… 309
開　議…… 309
討論（議案第４５号）…… 309
（１）猿渡美智子議員討論…… 309
（２）荒木崇之議員討論…… 309

（３）東奈津子議員討論…… 310
（４）平直樹議員討論…… 310
採決（議案第４５号）…… 311
討論（陳情第２号）…… 311
（１）福島英徳議員討論…… 312
（２）平直樹議員討論…… 312
（３）荒木崇之議員討論…… 313
（４）二ノ文伸元議員討論…… 314
（５）木下雄二議員討論…… 314
採決（陳情第２号）…… 316
９．日程第２　議事第４号　熊本県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙…… 316
10．日程第３　意見書案第２号　上程・説明・質疑・討論・採決…… 317
11．日程第４　意見書案第３号　上程・説明…… 319
質疑…… 320
田中教之議員質疑…… 320
○猿渡美智子福祉厚生常任委員長答弁…… 320
討論…… 321
（１）田中教之議員討論…… 321
（２）東奈津子議員討論…… 321
（３）平直樹議員討論…… 322
（４）荒木崇之議員討論…… 322
採決…… 322
12．日程第５　議会改革検討特別委員会の中間報告・質疑…… 322
13．日程第６　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について…… 325
14．閉　会…… 326

第　１　号

６月１４日

令和６年第２回菊池市議会定例会

議事日程　第１号

令和６年６月１４日（金曜日）午前１０時開議

第１　会議録署名議員の指名
第２　会期の決定
第３　議案第３０号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（菊池市史跡調査検討委員会条例及び菊池市市民会館あり方検討委員会条例の一部を改正する条例）
議案第３１号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（菊池市税条例の一部を改正する条例）
議案第３２号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）
議案第３３号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（菊池市過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例）
議案第３４号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（令和５年度菊池市一般会計補正予算　第１７号）
議案第３５号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（令和５年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算　第６号）
議案第３６号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（令和６年度菊池市一般会計補正予算　第１号）
一括上程・説明・質疑・討論・採決
第４　議案第３７号　菊池市西部市民センター条例の一部を改正する条例の制定について
議案第３８号　菊池市重度心身障がい者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第３９号　菊池市子ども・子育て会議設置条例の一部を改正する条例の制定について
議案第４０号　菊池市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
議案第４１号　菊池市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条

例の一部を改正する条例の制定について

議案第４２号　菊池市営住宅条例の一部を改正する条例の制定について

議案第４３号　菊池市泗水Ｂ＆Ｇ海洋センター条例の一部を改正する条例の制定について

一括上程・説明

第５　議案第４４号　令和６年度菊池市一般会計補正予算（第２号）

上程・説明・質疑・討論・採決

第６　議案第４５号　令和６年度菊池市一般会計補正予算（第３号）

議案第４６号　令和６年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）

議案第４７号　令和６年度菊池市水道事業会計補正予算（第１号）

一括上程・説明

第７　議案第４８号　教育長の任命につき同意を求めることについて

上程・説明・質疑・討論・採決

第８　議案第４９号　教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

上程・説明・質疑・討論・採決

第９　議案第５０号　公平委員会委員の選任につき同意を求めることについて

上程・説明・質疑・討論・採決

第10　議案第５１号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

議案第５２号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

議案第５３号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

議案第５４号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

一括上程・説明・質疑・討論・採決

第11　議案第５５号　財産の取得について

議案第５６号　市道路線の廃止について

議案第５７号　市道路線の認定について

議案第５８号　字の区域の変更について

一括上程・説明

第12　報告第　１　号　継続費繰越計算書について

報告第　２　号　繰越明許費繰越計算書について

報告第　３　号　事故繰越し繰越計算書について

報告第　４　号　繰越計算書について（菊池市下水道事業会計）

報告第　５　号　専決処分の報告について（消防活動事故）

報告第　６　号　専決処分の報告について（市営住宅に関する訴えの提起）

報告第　７　号　専決処分の報告について（道路管理瑕疵）

一括上程・報告・質疑

第13　請願第　１　号　現行健康保険証について当面の間の存続を求める請願

　　請願第　２　号　請願書

一括上程

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　議案第３０号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（菊池市史跡調査検討委員会条例及び菊池市市民会館あり方検討委員会条例の一部を改正する条例）

議案第３１号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（菊池市税条例の一部を改正する条例）

議案第３２号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）

議案第３３号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（菊池市過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例）

議案第３４号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（令和５年度菊池市一般会計補正予算　第１７号）

議案第３５号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（令和５年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算　第６号）

議案第３６号　専決処分の報告及び承認を求めることについて
（令和６年度菊池市一般会計補正予算　第１号）

一括上程・説明・質疑・討論・採決

日程第４　議案第３７号　菊池市西部市民センター条例の一部を改正する条例の制定について

議案第３８号　菊池市重度心身障がい者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第３９号　菊池市子ども・子育て会議設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第４０号　菊池市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定につい

て

議案第４１号　菊池市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について

議案第４２号　菊池市営住宅条例の一部を改正する条例の制定について

議案第４３号　菊池市泗水Ｂ＆Ｇ海洋センター条例の一部を改正する条例の制定について

一括上程・説明

日程第５　議案第４４号　令和６年度菊池市一般会計補正予算（第２号）

上程・説明・質疑・討論・採決

日程第６　議案第４５号　令和６年度菊池市一般会計補正予算（第３号）

議案第４６号　令和６年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）

議案第４７号　令和６年度菊池市水道事業会計補正予算（第１号）

一括上程・説明

日程第７　議案第４８号　教育長の任命につき同意を求めることについて

上程・説明・質疑・討論・採決

日程第８　議案第４９号　教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

上程・説明・質疑・討論・採決

日程第９　議案第５０号　公平委員会委員の選任につき同意を求めることについて

上程・説明・質疑・討論・採決

日程第10　議案第５１号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

議案第５２号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

議案第５３号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

議案第５４号　人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて

一括上程・説明・質疑・討論・採決

日程第11　議案第５５号　財産の取得について

議案第５６号　市道路線の廃止について

議案第５７号　市道路線の認定について

議案第５８号　字の区域の変更について

一括上程・説明

日程第12　報告第　１　号　継続費繰越計算書について

報告第　２　号　繰越明許費繰越計算書について

報告第　３　号　事故繰越し繰越計算書について

報告第　４　号　繰越計算書について（菊池市下水道事業会計）

報告第 5 号　専決処分の報告について（消防活動事故）
報告第 6 号　専決処分の報告について（市営住宅に関する訴えの提起）
報告第 7 号　専決処分の報告について（道路管理瑕疵）
一括上程・報告・質疑
日程第13　請願第 1 号　現行健康保険証について当面の間の存続を求める請願
請願第 2 号　請願書
一括上程

―――――――――――――――○―――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	本　藤	潔
２番	安　武　睦	夫
３番	稲　継　智	康
４番	古　田　浩	敏
５番	島	春　代
６番	大　山　宝	治
７番	田　中　教	之
８番	福　島　英	徳
９番	緒　方　哲	郎
１０番	後　藤　英	夫
１１番	平	直　樹
１２番	東	奈津子
１３番	水　上　隆	光
１４番	猿　渡　美智子	
１５番	荒　木　崇	之
１６番	工　藤　圭一郎	
１７番	二ノ文　伸	元
１８番	泉　田　栄一朗	
１９番	木　下　雄	二
２０番	山　瀬　義	也

―――――――――――――――○―――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――○―――――――――――――――

説明のため出席した者

市　　長　　江　頭　　実

副　　市　　長	芳　野　勇一郎
政策企画部長	北　島　悠　子
総　務　部　長	開　田　智　浩
市民環境部長	宇野木　浩　二
健康福祉部長	中　尾　孝　浩
経　済　部　長	三　池　克　徳
建　設　部　長	久　川　知　己
七城支所長	古　田　十　咲
旭志支所長	佐野木　成　俊
泗水支所長	髙　島　英　輔
財　政　課　長	上　野　重　智
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	古　庄　和　彦
市長公室長	稲　葉　一　郎
教　　育　　長	音光寺　以　章
教　育　部　長	前　川　幸　輝
農業委員会事務局長	中　原　親　弘
水　道　局　長	財　津　裕　一
監査委員事務局長	髙　木　智　生

事務局職員出席者

事　務　局　長	松　原　憲　一
事務局課長	髙　山　賢　一
議　　会　　係	志　水　利　貞
議　　会　　係	右　田　一　樹
議　　会　　係	河　田　真沙恵

午前１０時００分　開会

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席願います。

ただいまの出席議員は１９名です。定足数に達していますので、ただいまから令和６年第２回菊池市議会定例会を開会します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　ここで、日程に先立ちまして、諸般の報告をいたします。

４月１０日、第２８４回熊本県市議会議長会が荒尾市で開催されました。会務の報告及び九州市議会議長会提出議案に、「障害者医療費助成制度に係る国民健康保険の国庫負担減額調整措置の廃止について」並びに「中九州地域の交通網の整備促進について」の２議案が全会一致で採択されました。

また、４月２５日に、熊本市で第９９回九州市議会議長会定期総会、５月２１日には、第５３回全国温泉所在都市議会議長会総会及び第２８５回熊本県市議会議長会、翌5月２２日には、第１００回全国市議会議長会定期総会がそれぞれ東京都で開催されました。その概要は事務局備付けの書類によりご承諾いただきたいと思います。

次に、監査委員から令和６年４月分までの一般会計・特別会計並びに企業会計に関する例月出納検査報告があっておりますので、ご報告いたします。

なお、詳細については、それぞれ事務局に備付けの書類により、ご承諾いただきたいと思います。

ここで、全国市議会議長会より、平直樹副議長、猿渡美智子議員、東奈津子議員が、市議会議員として、１０年市政の発展に努めてこられました功績に対し、表彰状が贈呈されております。

ただいまから、表彰状を伝達いたしますので、平直樹副議長、猿渡美智子議員、東奈津子議員は前にお進みください。

（表彰状の伝達　　伝達後、議長席へ）

表彰状

菊池市

平　直樹　殿

あなたは市議会議員として十年
市政の振興に努められその功績は
著しいものがありますので第百回
定期総会にあたり本会表彰規程によって
表彰いたします

令和六年五月二十二日

全国市議会議長会

会長　坊　恭寿

表彰状

菊池市

猿渡　美智子　殿

あなたは市議会議員として十年
市政の振興に努められその功績は
著しいものがありますので第百回
定期総会にあたり本会表彰規程によって
表彰いたします

令和六年五月二十二日

全国市議会議長会

会長　坊　恭寿

表彰状

菊池市

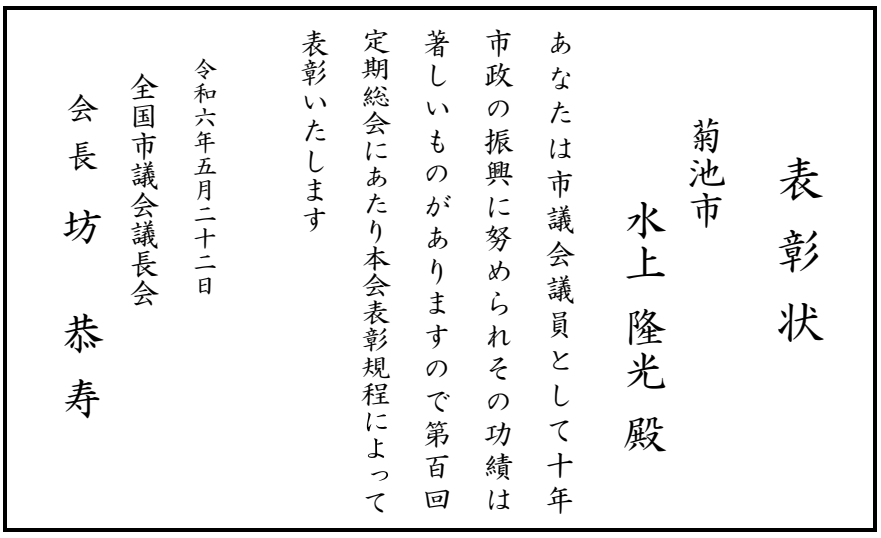
東　奈津子　殿

あなたは市議会議員として十年
市政の振興に努められその功績は
著しいものがありますので第百回
定期総会にあたり本会表彰規程によって
表彰いたします

令和六年五月二十二日

全国市議会議長会

会長　坊　恭寿



表彰状

菊池市

水上 隆光 殿

あなたは市議会議員として十年
市政の振興に努められその功績は
著しいものがありますので第百回
定期総会にあたり本会表彰規程によって
表彰いたします

令和六年五月二十二日

全国市議会議長会

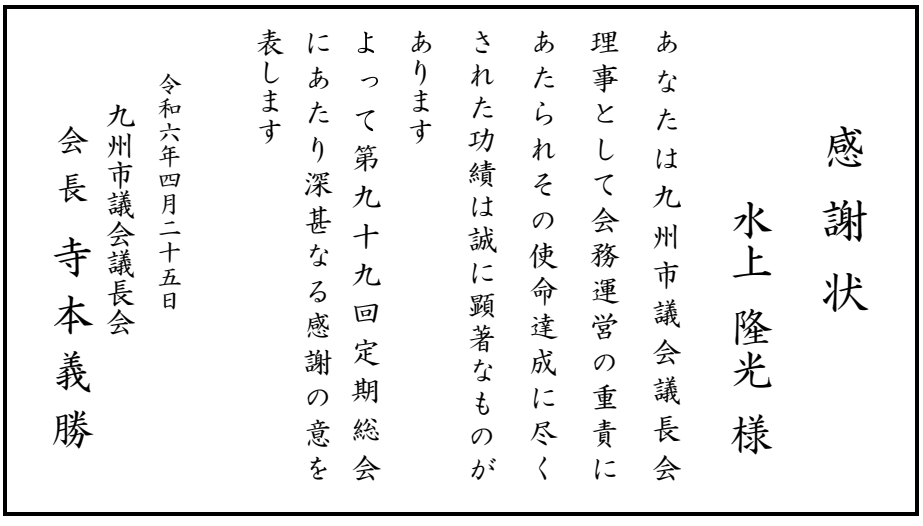
会長 坊 恭寿

○水上隆光　議長　　同じく、私が、全国市議会議長会より１０年の表彰を受けましたので、報告いたします。

受賞されました平副議長、猿渡議員、東議員には、本席から重ねてお祝いを申し上げます。

誠におめでとうございました。

最後に、九州市議会議長会より、私、水上隆光が、九州市議会議長会の理事としての功績に対し、感謝状を受けましたので、ご報告いたします。



感謝状

水上 隆光 様

あなたは九州市議会議長会
理事として会務運営の重責に
あたられその使命達成に尽く
された功績は誠に顕著なものが
あります
よって第九十九回定期総会
にあたり深甚なる感謝の意を
表します

令和六年四月二十五日

九州市議会議長会

会長 寺本義勝

○水上隆光　議長　　以上で、諸般の報告を終わります。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

午前１０時６分　開議

○水上隆光　議長　　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第１　会議録署名議員の指名

○水上隆光　議長　　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第８８条の規定により、島春代議員及び大山宝治議員を指名します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第２　会期の決定

○水上隆光　議長　　次に、日程第２、会期の決定についてを議題とします。

お諮りします。

本定例会の会期につきましては、議会運営委員会におきまして、本日から７月５日までの２２日間とすることに結論を見ておりますが、これに異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、会期は、本日から７月５日までの２２日間と決定しました。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第３　議案第３０号から議案第３６号まで一括上程・説明・質疑・討論・採決

○水上隆光　議長　　次に、日程第３、議案第３０号から議案第３６号までの７案件を一括議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、改めまして、皆さん、おはようございます。

本日、令和６年第２回菊池市議会定例会を招集しましたところ、議員各位におかれましては、本会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

本定例会の会期につきましては、先ほどご決定をいただきましたように、本日から７月５日までの２２日間の日程でご審議をお願いするものでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

また、先ほど、水上隆光議長、平直樹副議長、猿渡美智子議員、東奈津子議員に、全国市議会議長会及び九州市議会議長会から表彰状贈呈のご報告がございました。

長年のご功績に心から敬意を表し、お祝いを申し上げます。誠におめでとうございます。

今後とも健康にご留意をいただき、ますますのご活躍を期待するものでございます。

それでは、議案の提案理由の説明をさせていただきますが、それに先立ちまして、

諸般のご報告をさせていただきます。

令和６年１月に発生した能登半島地震とその余震により被災された方々の一刻も早い復旧・復興を支援するため、県内市町村合同で派遣する災害派遣職員及び、国の災害廃棄物支援員制度による派遣職員として、２月１日から５月３０日までの期間におきまして、本市より延べ１７名の職員を被災地へ派遣いたしました。

また、令和６年１月５日から５月３１日まで、菊池市役所本庁舎、各支所、生涯学習センターキクロスに募金箱を設置し、総額９７万９，１４７円の義援金をお寄せいただきました。

お寄せいただいた御浄財は、災害義援金受付窓口である日本赤十字社に送金いたしました。

数多くの皆様の温かいご支援・ご協議に、心より感謝を申し上げます。

また、これから梅雨の時期を迎え、線状降水帯の発生など、災害の発生が心配される時期となります。

本市におきましては、去る５月３０日に「令和６年菊池市防災会議」を開催いたしました。この会議は、自衛隊、警察等の関係機関及び市内各種団体を含め、国の災害対策基本法に基づき組織しているもので、地域防災計画等を作成・推進するとともに、各関係機関と情報共有し、連携強化を図るものであります。

本市での防災は「早め・強め・多め」を合い言葉とし、平素から情報交換や防災訓練への参加等に努め、緊急時に備えてまいります。

以上、ご報告とさせていただきます。

それでは、ただいま上程されました議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案第３０号から議案第３３号までの専決処分の報告及び承認を求めることについては、それぞれ、菊池市史跡調査検討委員会条例及び菊池市市民会館あり方検討委員会条例、菊池市税条例、菊池市国民健康保険税条例及び菊池市過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部改正を、地方自治法の規定により専決処分いたしましたので、これを報告し、承認を求めるものでございます。

次に、議案第３４号から議案第３６号までは、令和５年度の一般会計補正予算、国民健康保険事業特別会計補正予算及び令和６年度の一般会計補正予算を、同じく地方自治法の規定により専決処分いたしましたので、これを報告し、承認を求めるものでございます。

以上、内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　改めまして、皆様、おはようございます。

それでは、提案をいたします議案第３０号から議案第３６号までにつきまして、一括してご説明をいたします。

議案書の５ページをお願いいたします。

タブレットのほうには反映できておりますでしょうか。

議案第３０号は、菊池市史跡調査検討委員会条例及び菊池市市民会館あり方検討委員会条例の一部改正でございまして、令和６年４月１日からの組織改編に伴い、条例改正の必要が生じましたが、議会を招集する時間的余裕がなかったため、地方自治法の規定により専決処分したものでございます。

６ページが、専決第５号専決処分書で、専決日は、令和６年３月２９日でございます。

改正の内容につきましては、各委員会の庶務担当課を「生涯学習課」から「文化課」に改めるもので、令和６年４月１日施行としております。

次に、９ページをお願いいたします。

議案第３１号は、菊池市税条例の一部改正でございまして、地方税法等の一部改正が令和６年３月３０日に公布され、一部の規定を除き、同年４月１日から施行されることに伴い、条例改正の必要が生じましたが、議会を招集する時間的余裕がなかったため、地方自治法の規定により専決処分したものでございます。

１０ページが、専決第６号専決処分書で、専決日は、令和６年３月３１日でございます。

今回の改正の内容につきましては、個人住民税の定額減税実施による税額控除方法の規定、認定長期優良住宅に係る固定資産税減免措置の特例規定の新設、及び、土地に係る固定資産税特例措置の期間延長などが主なものでございます。

改正の内容について、新旧対照表にてご説明をいたします。

新旧対照表の４ページをお願いします。

左が現行、右が改正案でございます。

主な改正内容について説明をいたします。

７ページをお願いします。

下段の附則第４条の２の削除は、法改正による新たな公益信託制度の創設に伴い、公益法人等に係る市民税の課税の特例の規定を削除するものでございます。

８ページをお願いします。

個人市民税の所得割の非課税範囲等における附則第５条の２として、令和６年能登半島地震に係る雑損控除額等の特例の追加でございます。

９ページ下段から１０ページ中段の附則第７条の５は、個人市民税の定額減税実施による税額控除方法の規定の追加でございます。

１０ページ下段から１３ページ中段までの附則第７条の６は、事業所得者など普通徴収における定額減税実施に伴う特例の追加でございます。

１３ページ中段から１９ページ下段までの附則第７条の７は、公的年金等の所得に係る特別徴収における定額減税実施に伴う特例の追加でございます。

１９ページ下段から２０ページにかけまして、附則第７条の８は、令和７年度分の個人市民税の特別税額控除の規定の追加でございます。

２３ページの附則第１０条の３、第３項は、認定長期優良住宅に係る固定資産税減免措置の特例規定を追加するものでございます。

そのほか、引用する条番号のずれの修正及び字句の修正などを行うものでございます。

なお、この条例は、一部の規定を除き、令和６年４月１日施行としており、そのほか必要な経過措置を設けております。

次に、議案書に戻っていただきまして、議案書２５ページをお願いいたします。

議案第３２号は、菊池市国民健康保険税条例の一部改正でございまして、地方税法施行令の一部改正等に伴い、条例改正の必要が生じましたが、議会を招集する時間的余裕がなかったため、地方自治法の規定により専決処分したものでございます。

２６ページが、専決第７号専決処分書で、専決日は、同じく令和６年３月３１日でございます。

改正の内容につきましては、後期高齢者支援金等課税額の限度額を２２万円から２４万円に改め、国民健康保険税の５割軽減判定基準額を２９万円から２９万５，０００円に改め、２割軽減判定基準額を５３万５，０００円から５４万５，０００円に改めることにより、保険税負担の公平性及び中低所得者世帯への負担軽減を図るもので、令和６年４月１日施行としております。

次に、２９ページをお願いいたします。

議案第３３号は、菊池市過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部改正でございまして、総務省令の一部改正に伴い、条例改正の必要が生じましたが、議会を招集する時間的余裕がなかったため、地方自治法の規定により専決処分したものでございます。

３０ページが、専決第８号専決処分書で、専決日は、令和６年３月３１日でございます。

改正の内容につきましては、減収補塡制度を規定している総務省令の一部改正に伴い、適用期限が延長され、本市におきましては、菊池市過疎地域持続的発展計画

の計画期間に合わせて、条例の適用期限を令和６年３月３１日から令和８年３月３１日に延長するもので、附則改正は公布の日から、その他は令和６年４月１日施行としております。

次に、３３ページをお願いいたします。

議案第３４号は、令和５年度一般会計補正予算（第１７号）でございまして、令和５年度における地方交付税等の交付額確定に伴う歳入の増や、国・県補助金等の確定に伴う事業費の確定のほか、起債対象事業費の確定に伴う起債額の変更や、交付税措置がない起債の減額などの予算調整を行う必要があり、年度末に当たり、議会を招集する時間的余裕がなかったため、地方自治法の規定により専決処分したものでございます。

３４ページが、専決第３号専決処分書で、専決日は、令和６年３月２９日でございます。

３７ページをお願いします。

今回の補正は、予算の総額から１億５，９７１万４，０００円を減額し、補正後の予算総額を歳入歳出それぞれ２９０億９，２６３万６，０００円とするものでございます。

まず、歳入について、事項別明細により主なものをご説明いたします。

４７ページをお願いいたします。

３枠目の目１地方消費税交付金１億１，９７８万６，０００円の増額は、交付額確定によるものでございます。

４８ページをお願いいたします。

１枠目の目１地方交付税１億８，４２４万７，０００円の増額は、特別交付税の交付額確定によるものでございます。

４９ページをお願いいたします。

目２総務費国庫補助金２，８８２万３，０００円の減額は、主に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の交付額確定によるものでございます。

５０ページをお願いいたします。

１枠目の目１０災害復旧費国庫補助金２，２００万３，０００円の増額は、主に令和２年度に発生しました林道八方ヶ岳線災害復旧のための林業施設災害復旧費補助金の交付額確定によるものでございます。

３枠目の目２総務費県補助金５，７９４万５，０００円の減額は、主に物価高騰対応生活者支援交付金の交付額確定による減でございます。

５２ページをお願いします。

最下段の枠の目２総務費寄附金１，７６６万９，０００円の減額は、がんばるふ

るさと菊池応援寄附金及び企業版ふるさと納税寄附金の寄附額確定によるものでございます。

５４ページをお願いいたします。

２枠目の款２２市債につきましては、起債対象事業費の確定に伴う起債額の変更や、歳入増に伴い、交付税措置がない起債を減額するものでございまして、合計で３億８，２７０万円の減となっております。

続きまして、歳出について、主なものをご説明いたします。

５６ページをお願いいたします。

目４財政管理費１５４万９，０００円の増額は、地方交付税などの歳入増に伴う財政調整基金への積立てでございます。

同じく、目９地域振興費のうち、最下段のふるさと納税促進事業２，５２０万２，０００円の減額は、主にがんばるふるさと菊池応援寄附金の確定に伴う基金積立額の減でございます。

６１ページをお願いいたします。

２枠目の目２予防費６６２万６，０００円の増額は、主に新型コロナウイルスワクチン接種に係る事業費確定による国庫補助金返納金の増でございます。

６２ページをお願いします。

目３農業振興費のうち、上段の農林業後継者対策推進事業１，３６１万９，０００円の減額は、主に認定新規就農者への経営開始資金事業補助金の事業費確定による減でございます。

６３ページをお願いします。

最下段の目６畜産業費のうち、畜産競争力強化対策緊急整備事業１，０３１万６，０００円の減額は、畜産クラスター事業補助金の返還額が令和５年度中に確定しなかったことによる減でございます。

６５ページをお願いいたします。

２枠目の目２商工業振興費のうち、３段目の新型コロナウイルス感染症対策事業２，１１８万７，０００円の減額は、中小企業・小規模事業者エネルギー価格高騰対策支援補助金の事業費確定による減でございます。

ページ戻りまして、４２ページをお願いいたします。

第２表、地方債補正でございます。

内容としましては、起債対象事業費の確定に伴う起債額の変更や、交付税措置がない起債の減額でございまして、公営住宅建設事業債や地方道路等整備事業債など、合計で３億８，２７０万円の減額となっております。

次に、７５ページをお願いいたします。

議案第３５号は、令和５年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第６号）を、同じく地方自治法の規定により専決処分したものでございまして、７６ページが、専決第４号専決処分書で、専決日は、同じく令和６年３月２９日でございます。

７９ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額から３億６，２２１万円を減額し、補正後の予算総額を歳入歳出それぞれ６３億７，２８３万７，０００円とするものでございます。

補正の内容につきましては、主に事業費の確定及び普通交付金の確定によるものでございます。

次に、８７ページをお願いいたします。

議案第３６号は、令和６年度一般会計補正予算（第１号）を、地方自治法の規定により専決処分したものでございまして、早急な被災地支援を実施するに当たり、議会を招集する時間的余裕がなかったため、専決処分を行ったものでございます。

８８ページが、専決第９号専決処分書で、専決日は、令和６年４月１日でございます。

９０ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に１９９万９，０００円を追加し、補正後の予算総額を歳入歳出それぞれ２８７億１，９９９万９，０００円とするものでございます。

補正の内容としましては、昨年度に引き続き、能登半島地震被災地への支援を行うための経費でございます。

まず、歳入について、事項別明細によりご説明をいたします。

９４ページをお願いします。

１枠目の目１財政調整基金繰入金１９９万９，０００円の増額は、今回の補正予算の財源調整でございます。

続きまして、歳出についてご説明をいたします。

２枠目の目１一般管理費１９９万９，０００円の増額は、能登半島地震支援事業による増でございまして、職員派遣に要する旅費が主なものでございます。

令和６年度の派遣としましては、４月１０日から５月３０日の間に、県内市町村合同派遣で輪島市の被害家屋の認定調査支援業務に５名、環境省災害廃棄物処理支援で、能登町の公費解体業務支援に１名の計６名を派遣いたしております。

以上、議案第３０号から議案第３６号までの説明とさせていただきます。

○水上隆光　議長　　以上で、議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。

ここで、申合せ事項について申し上げます。

質疑は一括質疑として、３回までとなっています。

質疑は、提出議案に対して疑義をただすものであり、一般質問と違って自己の意見を述べることはできません。

質疑はありませんか。

荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　おはようございます。議案第３３号と議案第３４号について、お尋ねをいたします。

まず、議案第３３号、専決処分で、菊池市過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例ということで上げられていますけど、これ、単純に上げ忘れじゃないんですか。

私が思うのは、総務省の規定が決まってから提出したということなんですけど、この前の第１回定例会は３月１９日閉会なんですよね。３月１９日から３月３０日までの間でその省令が出たということですか。そしたら、総務省のいつ省令が出たのかというのをお示しください。

２番目、議案第３４号、ここには載ってなかったんですけども、健康推進課が１年近く契約をせずに、委託業務をさせていたというのが４月に発覚していると思いますけども、それって専決処分のどこに上がっていますでしょうか、お尋ねいたします。

○水上隆光　議長　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　改めまして、おはようございます。

ただいまのご質問のうち、総務省令のほうですけども、公布日が３月３０日ということになっております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　改めまして、おはようございます。荒木議員のご質疑にお答えします。

専決処分のほうには記載はしておりません。当初予算での計上という形になっております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　最初の議案第３３号のほうは、要は３０日に来たから、

１日で過疎地域については固定資産税の課税免除をするというのを決めたということでいいですか。１日で決めたと。事前に分かっとったということはないんですか。要は３月に上げれたんじゃないかということなんですけど、３月の議会にですね。

次に、もう一つのほうは、今回、専決に上がってないということなんですけども、相手方はそれで待ってくれているということでいいですか。もう支払わなきゃいけないのを支払ってないじゃないですか。出納閉鎖しているけど、大丈夫なんですか。５月３１日で閉めるでしょう。大丈夫なんですか。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　ただいまのご質問にお答えいたします。

３月３０日の日に公布されたものですから、３月３０日に起案をしまして、３１日に決裁をいただき、４月１日に公布をしております。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　再質疑にお答えします。

契約等を済ませまして、支払いのほうも完了いたしております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　ほかにありませんか。

安武睦夫議員。

［登壇］

○２番　安武睦夫　議員　　皆さん、おはようございます。

議案第３４号、専決処分の報告及び承認を求めることについて、質疑をしたいというふうに思います。

専決第３号、令和５年度菊池市一般会計補正予算（第１７号）において、議案書６５ページ、事業番号７２７号、新型コロナウイルス感染症対策事業の減額補正については、令和５年６月の補正予算（第５号）で計上したものを、同年１２月、補正予算（第１０号）において、事業見直しの予算組替えをした中小企業・小規模事業者エネルギー価格高騰対策支援補助金の減額補正がありますが、これにつきまして、事業予算の執行率、また、申請件数、それから、今回の執行率になった原因と課題認識についてお尋ねします。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　それでは、ただいまの質疑にお答えいたします。

１２月補正での中小企業・小規模事業者エネルギー価格高騰対策支援補助金につ

きましては、令和５年１月から１２月のいずれかの月におきまして、対象経費が５万円以上かつ前年同月と比較しまして、１０％以上増加している事業者に対しまして、金額により５段階に分けて補助を行っております。

補助金の算出根拠につきましては、近隣市町村で実施しております補助金を参考にしながら、菊池市の対象事業者数を経済センサスの数字から見込みまして、商工会などと打合せを行いながら積算を行っております。

今回の補助金につきましては、エネルギー価格高騰に伴い、経営に影響を受けている事業者を商工会からの要望等により幅広く補助する目的で、金額、要件を設定をしたところです。

募集期間につきましては、当初、令和６年１月１５日から２月１６日まで募集を行いましたが、申請状況により、２月２９日まで延長を行ったところです。

申請期間中におきましては、菊池市と商工会で連携をしながら、菊池市の広報紙やホームページ及び菊池市安心安全メールでの周知に加えまして、商工会のホームページでの周知や、商工会で発行するチラシ及びＳＮＳなどによりまして、事業者からの申請につながるように周知を頻繁に行ったところです。また、市役所の部署からも関係する事業者へ周知を行ったところです。

最終的な申請件数につきましては１０１件、執行額８６８万５，０００円となっております。予算額２，９８７万２，０００円に対する執行率については、約２９％となっております。執行率が低い理由としましては、５段階の補助額のうち、補助金額の大きい１０万円及び１５万円の申請件数が当初想定の約３０％にとどまったためとなっております。補助要件に該当する事業者につきましては、申請数より多数おられると考えておりますけども、補助金額、申請手順などの様々な要因により、申請が少なかったものと考えているところです。

今後の予算要求に対する積算根拠につきましては、商工会などの関係団体との協議を重ねながら、より精度を上げていきたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　安武睦夫議員。

［登壇］

○２番　安武睦夫　議員　　それでは、再質疑をしたいと思います。

今回の専決処分は、地方自治法第１７９条第１項の規定によるというものでございまして、長において議会の議決すべき事件について特に緊急を要するため議会を招集する時間的余裕がないことが明らかであると認めるとき、ということになりますが、その場合においては、客観的要因がなければならないというふうになっております。今回の事業予算の減額についての客観的要因は何か、お示しください。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　それでは、お答えをしたいと思います。

まず、年度末に補正予算を専決処分している経緯につきまして、お答えをさせていただきます。

各年度予算の不用額につきましては、これまで議会、また監査委員のほうから、決算時に不用額が多いといった指摘とともに、その対応を求められてきた経緯がございます。これを受けまして、単に執行残を減額するという趣旨ではなく、国・県等の交付金や補助金、地方債などの財源を伴う事業を対象に、また、このような事業は年度末まで進めておりますことから、議会を招集する時間的余裕がないため、年度末において補正予算の専決処分を行っておるところでございます。

今回の中小企業・小規模事業者エネルギー価格高騰対策支援補助金につきましても、同様にこの方針に基づき専決処分を行ったものでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　安武睦夫議員。

［登壇］

○２番　安武睦夫　議員　　それでは、再々質疑をしたいと思います。

今回のことで、この事業番号７２７号も関連しておりますが、議案書４９ページ、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の３，２４８万６，０００円の減額の対象になっておりますけども、この減額のうち、事業番号７２７号に関する金額についてお示しください。

○水上隆光　議長　　暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１０時４２分

再開　午前１０時４３分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　ただいまの質疑にお答えいたします。

事業番号７２７号となる最終専決額としましては、１，７２２万６，０００円となっております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　ほかにありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　ほかに質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第３０号から議案第３６号までは、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続いて審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　皆さん、おはようございます。議席番号１２番、日本共産党、東奈津子です。

議案第３２号、菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例について、反対の立場から討論を行います。

反対の理由は、国民健康保険税の限度額の改正が行われている点であります。今回の改正によって、現行の課税限度額のうち、後期高齢者支援金等課税限度額が２２万円から２４万円に引き上げられています。これに伴い、課税限度額が１０４万円から１０６万円へと引き上げられています。課税限度額の引上げは３年連続です。一昨年から比較すると７万円も引き上げられています。

提案理由でも述べられていましたが、本議案では、低所得者対策として５割軽減、２割軽減の基準額の改正も同時に行われており、軽減措置を受けられる対象が広がることは評価します。しかし、その財源を高額所得者層とは決して言えない中間層に求めることには賛同できません。菊池市をはじめ、多くの市町村で保険料は６００万円前後で上限に達しており、高額所得者とは言えない中間層に重い負担となっています。

かつてない物価高騰の中、市民の暮らしが厳しいときに行政がやるべきことは、限度額の引上げではなく、国庫負担増による保険料の引下げを地方としても国に強く求め、自治体独自でも法定外繰入れや基金の活用などで、高過ぎる健康保険税の引下げを行うことであります。

以上の理由から、本議案には反対とします。

○水上隆光　議長　　次に、原案に賛成者の発言を許します。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

安武睦夫議員。

［登壇］

○２番　安武睦夫　議員　　議案第３４号、専決処分の報告及び承認を求めることについて、反対の立場から討論を行います。

先ほど質疑でお尋ねしましたとおり、事業番号７２７号においては、令和５年６月の補正予算において計上されたものを、事業執行があまり進まないということから、事業の中身を組み替えて、令和５年１２月補正予算（第１０号）において、事業見直しを行ったところでございます。

その際において、再三この事業執行については、執行できるのかということをお尋ねしてきたところでございますが、結果的には２９％しか執行ができなかったという状況でございます。

さらには、先ほど地方自治法第１７９条第１項の規定による客観的要因という説明がございましたが、不用額が多いものについては、議会監査からの申入れということではございますが、果たして、それが客観的要因になるのかというのは甚だ疑問でございます。本来ならば、議会における決算審議を行って、この結果については、審議をする必要があるというふうに私は思っております。

さらには、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の３，２４８万６，０００円の減額ということに結びついておりますが、事業執行において、事業における交付金の充当割合が高く、各市民における支援が受けられないような結果になっているのかなというふうに思っております。事業自体が本来必要であれば、一般財源を充てるなどをして、しっかりと交付金の執行に努めるべきではないかということと思っております。

また、こういった３，２４８万６，０００円の減額が行われたということは、市民に対する国の支援を受ける権利を阻害するものだというふうに考えるところでございまして、反対の討論とさせていただきます。

議員各位におかれましては、ご賛同いただきますようよろしくお願いいたします。

○水上隆光　議長　　次に、原案に賛成者の発言を許します。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　これで討論を終わります。

これより採決します。

ただいま討論がありました議案第３２号、議案第３４号を除き、一括採決します。

お諮りします。議案第３０号、議案第３１号、議案第３３号、議案第３５号、議案第３６号は、原案のとおり承認することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、議案第３０号、議案第３１号、議案第３３号、議案第３５号、議案第３６号は、原案のとおり承認することに決定しました。

次に、討論がありました議案第３２号は、起立により採決します。

お諮りします。議案第３２号については、原案のとおり承認することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、議案第３２号は、原案のとおり承認することに決定しました。

次に、討論がありました議案第３４号は、起立により採決します。

お諮りします。議案第３４号については、原案のとおり承認することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、議案第３４号は、原案のとおり承認することに決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第４　議案第３７号から議案第４３号まで一括上程・説明・質疑・討論・採決

○水上隆光　議長　　次に、日程第４、議案第３７号から議案第４３号までの７案件を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、上程されました議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案第３７号から議案第４３号までは、それぞれ、法務省の表記に準じた字句の取扱いとすることに伴う、菊池市西部市民センター条例の一部改正、熊本県の補助金交付要領の改正に伴う、菊池市重度心身障がい者医療費助成に関する条例の一部改正、会議の所掌事務を追加することに伴う、菊池市子ども・子育て会議設置条例の一部改正、内閣府令で定める関係基準の改正に伴う、菊池市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正、厚生労働省令で定める関係基準の改正に伴う、菊池市家庭的保育事業等の設備及び運営に関す

る基準を定める条例の一部改正、市営住宅の用途廃止に伴う、菊池市営住宅条例の一部改正、及び、Ｂ＆Ｇ海洋センター艇庫の廃止に伴う、菊池市泗水Ｂ＆Ｇ海洋センター条例の一部改正でございます。

以上、内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　それでは、提案いたします議案第３７号から議案第４３号までにつきまして、一括してご説明をいたします。

議案書９５ページをお願いいたします。

議案第３７号、菊池市西部市民センター条例の一部を改正する条例の制定については、９６ページが改正する条例案で、法務省の表記に準じた字句の取扱いとすることに伴い、条例の一部を改正するもので、公布の日から施行することとしております。

次に、９７ページをお願いいたします。

議案第３８号、菊池市重度心身障がい者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定については、９８ページが改正する条例案で、熊本県重度心身障がい者医療費助成事業費補助金交付要領の一部改正に伴い、自己負担額を変更するに当たり、条例を改正するもので、公布の日から施行し、改正後の条例の規定は、令和６年４月１日から適用することとしております。

次に、９９ページをお願いいたします。

議案第３９号、菊池市子ども・子育て会議設置条例の一部を改正する条例の制定については、１００ページが改正する条例案で、菊池市子ども・子育て会議の所掌事務に、こども計画の策定に関する事項を追加するに当たり、条例の一部を改正するもので、公布の日から施行することとしております。

次に、１０１ページをお願いいたします。

議案第４０号、菊池市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定については、１０２ページが改正する条例案で、内閣府令で定める基準の一部改正に伴い、アナログ規制の見直しに併せ、「シーディーロム」を「電磁的記録媒体」とする言葉の表現の変更や、保育園の概要を園のホームページで閲覧できるよう、条例の一部を改正するもので、公布の日から施行し、その他必要な経過措置を定めるものでございます。

１０３ページをお願いいたします。

議案第４１号、菊池市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定については、１０４ページが改正する条例案で、厚生労働省令で定める基準の一部改正に伴い、小規模保育事業所及び事業所内保育事業所における満３歳以上の児童に係る保育士及び保育従事者の配置基準を見直すもので、公布の日から施行することとしております。

次に、１０５ページをお願いいたします。

議案第４２号、菊池市営住宅条例の一部を改正する条例の制定については、１０６ページが改正する条例案で、七城の蛇塚団地、元村団地及び林原団地を用途廃止するに当たり、条例の一部を改正するもので、公布の日から施行することとしております。

次に、１０７ページをお願いいたします。

議案第４３号、菊池市泗水Ｂ＆Ｇ海洋センター条例の一部を改正する条例の制定については、１０８ページが改正する条例案で、泗水Ｂ＆Ｇ海洋センター艇庫を廃止するに当たり、条例の一部を改正するもので、令和６年８月１日から施行することとしております。

以上、議案第３７号から議案第４３号までの説明とさせていただきます。

○水上隆光　議長　　以上で、議案の説明を終わります。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第５　議案第４４号　上程・説明・質疑・討論・採決

○水上隆光　議長　　次に、日程第５、議案第４４号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、上程されました議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案第４４号、令和６年度一般会計補正予算（第２号）につきましては、予算の総額に６億８，８４５万１，０００円を追加し、補正後の予算総額を歳入歳出それぞれ２９４億８４５万円とするものでございます。

補正の主な内容としましては、新たに住民税非課税となった世帯等への給付、所得税及び住民税の定額減税に対する調整給付を行う物価高騰対応重点支援給付金、児童手当の制度改正に対するシステム改修等の準備に要する費用による増額などとなっております。

本議案につきましては、今後、給付を進めるに当たり、システム改修などの準備を早急に進める必要があるものでございます。

以上、内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、

慎重ご審議の上、御承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　それでは、議案第４４号についてご説明をいたします。

議案書１０９ページをお願いいたします。

議案第４４号、令和６年度一般会計補正予算（第２号）でございます。

１１０ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に６億８，８４５万１，０００円を追加し、補正後の予算総額を歳入歳出それぞれ２９４億８４５万円とするものでございます。

補正の内容としましては、新たに住民税非課税となった世帯等への給付、並びに所得税及び住民税の定額減税に対する調整給付を行う物価高騰対応重点支援給付金や、児童手当の制度改正に対するシステム改修等の準備に要する費用による増額となっており、事業実施のための財源につきましては、全額国費で賄われるため、市の持ち出しはございません。

なお、物価高騰対応重点支援給付金については８月からの給付を予定しており、早急にシステム改修を行い、対象者の抽出、申請受付等を行う必要があること、また、児童手当については１２月からの支給開始でありますが、これに向けて９月議会にて扶助費の補正予算計上を予定しており、その準備を行うため、対象者抽出及び経費の算出に早急にシステム改修が必要であることから、議決をお願いするものでございます。

まず、歳入について、事項別明細によりご説明をいたします。

１１４ページをお願いいたします。

目２総務費国庫補助金６億８，４０７万８，０００円の増額は、物価高騰対応重点支援給付金への物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金でございます。

同じく、目３民生費国庫補助金４３７万３，０００円の増額は、児童手当の制度改正に対する子ども・子育て支援事業費補助金でございます。

続きまして、歳出でございます。

１１５ページをお願いいたします。

１枠目の目２人事管理費３３万円の増額は、児童手当制度改正に対する市職員対象分のシステム改修業務委託料でございます。

２枠目の目１社会福祉総務費６億８，４０７万８，０００円の増額は、物価高騰対応重点支援給付金及び事務費でございます。

１１６ページをお願いいたします。

目２児童手当費４０４万３，０００円の増額は、児童手当制度改正に対する市民対象分のシステム改修業務委託料及び事務費でございます。

以上、議案第４４号の説明とさせていただきます。

○水上隆光　議長　　以上で、議案の説明を終わります。

ここで、暫時休憩します。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

休憩　午前１１時０３分

再開　午前１１時３０分

――――――――――――――――○――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

これから質疑を行います。質疑は３回までとなっています。

質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第４４号は、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続いて審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。

お諮りします。議案第４４号について、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、議案第４４号については、原案のとおり可決することに決定しました。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

日程第６　議案第４５号から議案第４７号まで一括上程・説明

○水上隆光　議長　　次に、日程第６、議案第４５号から議案第４７号までの３案件を一括議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、上程されました議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案第４５号から議案第４７号までは、それぞれ、令和６年度の一般会計、国民健康保険事業特別会計及び、水道事業会計の補正予算でございます。

以上、内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　それでは、議案第４５号から議案第４７号までにつきまして、一括してご説明をいたします。

議案書の１１９ページをお願いします。

議案第４５号、令和６年度一般会計補正予算（第３号）でございます。

１２１ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に１億９，４２５万９，０００円を追加し、補正後の予算総額を歳入歳出それぞれ２９６億２７０万９，０００円とするものでございます。

補正の内容としましては、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した畜産農家、保育園等の副食費、学校給食等への支援を行うほか、今年度より定期接種となる新型コロナウイルスワクチン接種に要する費用などが主な内容でございます。

まず、歳入について、事項別明細によりご説明をいたします。

１２９ページをお願いいたします。

最下段の枠、目２総務費国庫補助金８，７１１万１，０００円の増額は、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の増でございます。

同じく、目３民生費国庫補助金７８８万４，０００円の増額は、子ども・子育て支援交付金の増で、児童育成クラブの利用者増加による増でございまして、児童育成クラブの運営に対する補助でございます。

同じく、目７土木費国庫補助金３，７４８万円の減額は、社会資本整備総合交付金及び地域住宅交付金の交付額決定に伴う減でございます。

なお、減額分については、辺地対策事業債や地方道路等整備事業債、公営住宅建設事業債へ振り替えることとしております。

１３０ページをお願いします。

２枠目の目３民生費県補助金７８７万５，０００円の増額は、主に放課後児童健全育成事業補助金の増でございまして、先ほど説明しました民生費国庫補助金の子ども・子育て支援交付金と同様に、児童育成クラブの運営に対する補助でございます。

同じく、目５農林水産業費県補助金、節２畜産業費補助金２，３４０万円の増額は、耕畜連携により堆肥を利用する農家集団などに施設・機械導入を補助するため、県の新規事業である耕畜連携体制緊急整備事業補助金へ環境保全型農業総合支援事業補助金から組み替えるもの、及び同事業への新規要望によるものでございます。

１３１ページをお願いいたします。

２枠目の目１財政調整基金繰入金３，４０１万５，０００円の増額は、今回の補正予算の財源調整でございます。

３枠目の目３雑入のうち、最下段の新型コロナ定期接種ワクチン確保事業助成金４，９８０万円の増額は、新型コロナワクチン定期接種に対する助成でございます。

１３２ページをお願いいたします。

款２２市債につきましては、主に社会資本整備総合交付金の減に伴い、辺地対策事業債や地方道路等整備事業債、公営住宅建設事業債への振り替えによる起債額の増や、県営土地改良事業の事業計画変更による起債額の減などでございまして、全体で２，７８０万円の減額となっております。

続きまして、歳出についてご説明をいたします。

１３３ページをお願いいたします。

１枠目の目１１情報化推進費９５４万３，０００円の減額は、主に戸籍システムの自治体情報システム標準化対応作業が、令和７年度までの２か年の作業へ変更となったことによる、令和７年度分の委託料の減でございます。

１３４ページをお願いいたします。

１枠目の目１児童福祉総務費のうち、１段目の児童育成クラブ経費２，３６５万４，０００円の増額は、歳入でもご説明しました児童育成クラブの利用者増加による運営委託料の増でございます。

同じく、目５児童福祉施設費のうち、下段の物価高騰対応重点支援事業１９５万２，０００円の増額は、物価高騰により公定価格が増額されたことに伴う、保育所等に対する副食費の補助でございまして、財源は物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金でございます。

１３５ページをお願いいたします。

１枠目の目２予防費７，９５６万５，０００円の増額は、主に本年度より定期接種となる新型コロナワクチン接種に要する費用でございます。

２枠目の目６畜産業費９，４５２万８，０００円の増額のうち、上段の環境保全型農業総合支援事業７５０万円の減額、及び下段の耕畜連携体制緊急整備事業３，０９０万円の増額は、歳入でご説明しました耕畜連携推進のための県の新規事業に合わせて、耕畜連携体制緊急整備事業へ組み替えるもの、及び同事業への新規要望によるものでございます。

１３６ページをお願いいたします。

１枠目最上段の物価高騰対応重点支援事業７，１１２万８，０００円の増額は、畜産農家に対する飼料価格高騰に係る補助でございまして、財源は物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金でございます。

１３８ページをお願いいたします。

２枠目の目２非常備消防費２，２４０万８，０００円の増額は、消防団の団員定数改正により、令和５年度末の退職者が増となったことによる消防団退職報奨金の増でございます。

１４０ページをお願いいたします。

２枠目の目１学校給食費のうち、下段の物価高騰対応重点支援事業１，４６４万１，０００円の増額は、学校給食の食材費高騰に対する給食費の補塡事業補助金でございまして、財源は物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金でございます。

３枠目の目１農業用施設災害復旧費１７３万８，０００円の増額は、３月の大雨により被災した農地の災害復旧にかかる測量設計等委託料でございます。

ページを戻っていただきまして、１２５ページをお願いいたします。

第２表、債務負担行為補正でございます。

内容としましては、歳出でもご説明をいたしました、戸籍システムの自治体情報システム標準化対応作業が、令和７年度までの２か年の作業となったためなど、今回２件の債務負担行為の設定を行うものでございます。

次に、１２６ページをお願いいたします。

第３表、地方債補正でございます。

内容としましては、主に社会資本整備総合交付金の減に伴い、辺地対策事業債や地方道路等整備事業債、公営住宅建設事業債への振り替えによる起債額の増や、県営土地改良事業の事業計画変更による起債額の減などでございまして、全体で２，７８０万円の減額となっております。

次に、１４３ページをお願いいたします。

議案第４６号、令和６年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）でございます。

１４４ページをお願いいたします。

今回の補正は、予算の総額に２６２万１，０００円を追加し、補正後の予算総額を歳入歳出それぞれ６５億７，９８５万円とするものでございます。

補正の主な内容としましては、マイナンバーカードと健康保険証の一体化に関する被保険者への加入者情報等通知の郵便料や、システム改修費用による増でございます。

次に、１５１ページをお願いいたします。

議案第４７号、令和６年度水道事業会計補正予算（第１号）でございます。

１５３ページをお願いいたします。

今回の補正は、第２条におきまして、特別損失を１０２万８，０００円増額するもので、補正の内容としましては、旭志中学校の給水管から、付近３件分の給水管が分岐され、旭志中学校の水道料金に、分岐された３件分の水道料金が加算された状態が判明したことから、旭志中学校の過払い分の水道料金を還付するものでございます。

以上、議案第４５号から議案第４７号までの説明とさせていただきます。

○水上隆光　議長　　以上で、議案の説明を終わります。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第７　議案第４８号　上程・説明・質疑・討論・採決

○水上隆光　議長　　次に、日程第７、議案第４８号を議題とします。

本案件については、地方自治法第１１７条の規定に関わる議員は除斥する必要がありますが、第１１７条に関係する議員はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　関係する議員なしと認めます。

提出者の提案理由の説明を求めます。

江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、上程されました議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案書１５９ページをお願いいたします。

議案第４８号は、教育長の任命につき同意を求めることについてでございます。

音光寺教育長の任期が、本年７月７日をもって満了するため、その後任の教育長につきまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、議会の同意をお願いするものでございます。

教育長は、人格が高潔で、教育行政に関し識見を有する者とされており、十分検討いたしました結果、これまでの教育長としての経験と実績から、菊池市片角の音光寺以章さんを再度選任いたしたく、ご提案申し上げるものでございます。

音光寺さんの経歴につきましては、１６０ページに記載のとおりでございます。

どうぞよろしくお願いをいたします。

○水上隆光　議長　　以上で、議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第４８号は、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続いて審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。

採決は、起立により行います。

お諮りします。議案第４８号について、原案のとおり同意することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、議案第４８号は、原案のとおり同意することに決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第８　議案第４９号　上程・説明・質疑・討論・採決

○水上隆光　議長　　次に、日程第８、議案第４９号を議題とします。

本案件は、地方自治法第１１７条の規定に関わる議員は除斥する必要がありますが、第１１７条に関係する議員はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　関係する議員なしと認めます。

提出者の提案理由の説明を求めます。

江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、上程されました議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案書１６１ページをお願いいたします。

議案第４９号は、教育委員会委員の任命につき同意を求めることについてでございます。

教育委員会は、教育長及び４人の委員をもって組織され、運営がなされております。

その中で、１名の方が、本年７月７日をもって、４年の任期が満了いたしますので、その後任の教育委員につきまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、議会の同意をお願いするものでございます。

教育委員は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者とされております。

十分検討いたしました結果、菊池市旭志弁利の岩根美紀さんを新たに任命いたしたく、ご提案申し上げるものでございます。

岩根さんの経歴につきましては、１６２ページに記載のとおりでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○水上隆光　議長　　以上で、議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第４９号は、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続いて審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。

採決は、起立により行います。

お諮りします。議案第４９号について、原案のとおり同意することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、議案第４９号は、原案のとおり同意することに決定しました。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第９　議案第５０号　上程・説明・質疑・討論・採決

○水上隆光　議長　　次に、日程第９、議案第５０号を議題とします。

本案件については、地方自治法第１１７条の規定に関わる議員は除斥する必要がありますが、第１１７条に関係する議員はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　関係する議員なしと認めます。

提出者の提案理由の説明を求めます。

江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、上程されました議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案書１６３ページをお願いいたします。

議案第５０号は、公平委員会委員の選任につき同意を求めることについてでございます。

公平委員会委員は、３人の委員をもって組織され、運営がなされております。

その中で、１名の方が、本年７月７日をもって、４年の任期が満了いたしますので、その後任の公平委員につきまして、地方公務員法の規定により、議会の同意をお願いするものでございます。

公平委員は、人格が高潔で、地方自治の本旨及び民主的で能率的な事務の処理に理解があり、かつ、人事行政に関し、識見を有する者とされております。

十分検討いたしました結果、これまでの委員としての経験と実績から、菊池市豊間の緒方登志子さんを再度選任いたしたく、ご提案申し上げるものでございます。

緒方さんの経歴につきましては、１６４ページに記載のとおりでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○水上隆光　議長　　以上で、議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第５０号は、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続いて審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。

採決は、起立により行います。

お諮りします。議案第５０号について、原案のとおり同意することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、議案第５０号は、原案のとおり同意することに決定しました。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第１０　議案第５１号から議案第５４号まで一括上程・説明・質疑・討論・採決

○水上隆光　議長　　次に、日程第１０、議案第５１号から議案第５４号までの４案件を一括議題とします。

本案件については、地方自治法第１１７条の規定に関わる議員は除斥する必要がありますが、第１１７条に関係する議員はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　関係する議員なしと認めます。

提出者の提案理由の説明を求めます。

江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、上程されました議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案書の１６５ページをお願いいたします。

議案第５１号から議案第５４号までは、人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについてでございます。

現在、本市の区域におきましては、１４人の委員の方々が、法務大臣の委嘱を受け、人権擁護活動に従事されております。

その中で、本年９月３０日をもって３年間の任期が満了する委員の後任の推薦につきまして、熊本地方法務局長より依頼がありましたので、人権擁護委員法の規定により、次期委員の推薦に当たって、議会の意見を求めるものでございます。

それぞれの方々の経歴につきましては、各議案に記載のとおりでございます。

推薦に当たりましては、人格識見高く、広く社会の実情に通じ、人権擁護について理解のある者とされております。

十分検討いたしました結果、これまでの委員としての経験と実績から、議案第５１号の菊池市泗水町田島の中島秀さんを再度委員として推薦いたしたく、ご提案申

し上げるものでございます。

また、議案第５２号の菊池市大琳寺の渡邉道信さん、議案第５３号の菊池市今の小堀優子さん、及び議案第５４号の菊池市泗水町豊水の上田久美子さんを新たに推薦いたしたく、ご提案申し上げるものでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○水上隆光　議長　　以上で、議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第５１号から議案第５４号については、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続いて審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これより採決します。

採決は、１議案ずつ、起立により行います。

お諮りします。

最初に、議案第５１号について、原案のとおり適任とすることに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、議案第５１号は、原案のとおり適任とすることに決定しました。

次に、議案第５２号について、原案のとおり適任とすることに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、議案第５２号は、原案のとおり適任とすることに決定しました。

次に、議案第５３号について、原案のとおり適任とすることに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、議案第５３号は、原案のとおり適任とすることに決定しました。

次に、議案第５４号について、原案のとおり適任とすることに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、議案第５４号は、原案のとおり適任とすることに決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第１１　議案第５５号から議案第５８号まで一括上程・説明

○水上隆光　議長　　次に、日程第１１、議案第５５号から議案第５８号までの４案件を一括議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、上程されました議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案第５５号は、菊池市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の規定による財産の取得でございます。

議案第５６号及び議案第５７号は、道路法の規定による市道路線の廃止及び認定でございます。

議案第５８号は、地方自治法の規定による字の区域の変更でございます。

以上、内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　それでは、議案第５５号から議案第５８号までにつきまして、一括してご説明いたします。

議案書は１７３ページをお願いいたします。

議案第５５号、財産の取得については、小型動力ポンプ積載車５台の購入につきまして、条例の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

取得する財産は、小型動力ポンプ積載車５台、契約の方法は、指名競争入札、取得金額は２，６６０万７，３５０円、契約の相手方は、株式会社田原商会でございます。

本件につきましては、５月１３日に指名競争入札を実施し、８事業者から応札が

あり、５月２４日に落札した相手方と仮契約を締結したところでございます。

次に、１７５ページをお願いいたします。

議案第５６号、市道路線の廃止については、道路法の規定により、議会の議決をお願いするもので、１７６ページから１７８ページまでが廃止する路線及び位置図でございます。

次に、１７９ページをお願いいたします。

議案第５７号、市道路線の認定については、同じく道路法の規定により、議会の議決をお願いするもので、１８０ページから１８７ページまでが認定する路線及び位置図でございます。

次に、１８９ページをお願いいたします。

議案第５８号、字の区域の変更については、県営袈裟尾地区土地改良事業の実施に伴い、字の区域に変更が生じましたので、地方自治法の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

１９０ページから１９３ページまでが変更調書及び変更位置図でございます。

以上、議案第５５号から議案第５８号までの説明とさせていただきます。

○水上隆光　議長　　以上で、議案の説明を終わります。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第１２　報告第１号から報告第７号まで一括上程・報告

○水上隆光　議長　　次に、日程第１２、報告第１号から報告第７号までの７件を一括議題とします。

提出者の報告を求めます。

開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　それでは、報告第１号から報告第７号まで一括してご説明をいたします。

議案書は１９５ページをお願いいたします。

報告第１号、一般会計の継続費繰越計算書についてでございます。

令和５年度までに継続費の設定を行った事業について、地方自治法施行令の規定により、議会に報告するものでございます。

１９６ページが、令和５年度菊池市継続費繰越計算書でございます。

繰越件数は２件、右から５列目の翌年度逓次繰越額の合計は５億３，２６９万８，１９０円となっております。

令和５年度までの年割額に係る歳出予算額のうち、年度内に執行できなかったものは、規定により継続年度の終わりまで、逓次繰越しして使用することができるた

め、繰り越すものでございます。

次に、１９７ページをお願いいたします。

報告第２号、一般会計の繰越明許費繰越計算書についてでございます。

令和５年度から令和６年度へ明許繰越を行いましたので、地方自治法施行令の規定により、議会に報告するものでございます。

１９８ページが、令和５年度菊池市繰越明許費繰越計算書でございます。

繰越件数は２３件、右から４列目の翌年度繰越額の合計は８億６，１４０万１，０００円となっております。

繰越しの主な要因につきましては、国の補正予算または予備費による事業であり、年度内での事業完了が困難であるもの、及び資材調達や人員確保等に不測の日数を要したものなどでございます。

次に、１９９ページをお願いします。

報告第３号、一般会計の事故繰越し繰越計算書についてでございます。

令和５年度から令和６年度へ事故繰越しを行いましたので、地方自治法施行令の規定により、議会に報告するものでございます。

２００ページが、令和５年度菊池市事故繰越し繰越計算書でございます。

繰越件数は橋りょう維持整備事業の１件、右から５列目の翌年度繰越額は２，０８９万７，８１１円となっております。

事故繰越しの要因につきましては、令和４年度から令和５年度へ明許繰越を行った橋りょう維持整備事業の橋りょう工事の施工に当たり、施工箇所において、工事に影響を及ぼす水路部の湾曲が見つかったことから、管理者との再協議に不測の日数を要したものでございます。

次に、２０１ページをお願いいたします。

報告第４号、下水道事業会計の繰越計算書についてでございます。

下水道事業会計において、令和５年度から令和６年度へ繰越しを行いましたので、議会に報告するものでございます。

２０２ページが、令和５年度下水道事業会計繰越計算書でございます。

繰越件数は、令和５年度下水道施設改築更新事業の１件、中ほどの翌年度繰越額は２億３，９０４万円となっております。

繰越しの要因につきましては、コロナ禍で停滞していた金属、樹脂及び半導体等の需要の拡大により、必要な機器の調達に不測の日数を要したため、適正な工期が確保できなかったものでございます。

次に、２０３ページをお願いいたします。

報告第５号、専決処分の報告については、議会において指定されている事項につ

いて専決処分いたしましたので、これを報告するものでございます。

２０４ページが、専決第２号専決処分書で、消防活動時の事故について専決処分したものでございます。

事故発生日が、令和６年１月１４日、相手方は、記載のとおりでございます。

事故の概要は、本市消防団員が、枯れ草火災において、消火活動のため消火栓の水を使用した際、水道管内にエアがたまった状態となり、適正圧力を超過した状態のエアが同管を使用している相手方所有の加圧式ポンプユニットに流入した結果、機器の圧力検知部に異常を来し、自動停止せず機器が動作し続けたため、本体が故障する損害を与えたものでございます。

損害賠償の額は、１２万４，１９０円、その他の決定事項は、記載のとおりでございます。

次に、２０５ページをお願いいたします。

報告第６号、専決処分の報告については、２０６ページが、専決第１０号専決処分書で、市営住宅の使用料に関する訴えの提起について専決処分したものでございます。

専決日は、令和６年４月１７日、被告となる相手方の住所及び氏名は、記載のとおりでございます。

事件の概要については、被告は、市営住宅の使用料を滞納し、督促、催告等、再三にわたる請求にもかかわらず、支払いをしなかったため、菊池市は、令和６年１月２２日に熊本簡易裁判所に支払督促の申立をしております。

熊本簡易裁判所は、令和６年１月２５日付で支払督促を発布しましたが、被告は、これに対し、令和６年４月２日付で督促異議の申立てをしたため、民事訴訟法第３９５条の規定により、支払督促の申立てのときに訴えの提起があったものとみなされるもので、請求の趣旨は、記載のとおりでございます。

次に、２０７ページをお願いいたします。

報告第７号、専決処分の報告については、次の２０８ページが、専決第１１号専決処分書で、市道の管理瑕疵について、令和６年５月８日に専決処分したものでございます。

事故発生日が、令和６年１月９日、相手方は、記載のとおりでございます。

事故の概要は、市道菊戸線において、相手方車両が対向車と離合する際、助手席側のヘッドライト、ドアミラー及び助手席ドアが路肩沿いの雑木に当たり、車体を損傷する損害を与えたものでございます。

損害賠償の額は、６万８，９１５円、その他の決定事項は、記載のとおりでございます。

以上、報告第１号から報告第７号までの報告とさせていただきます。

○水上隆光　議長　　以上で、議案の報告を終わります。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第１３　請願第１号及び請願第２号一括上程

○水上隆光　議長　　次に、日程第１３、請願第１号及び請願第２号の２案件を一括議題とします。

請願第１号及び請願第２号が、今定例会までに提出されました請願であります。

その内容については、お手元に配付しているとおりです。

以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

お知らせします。次の会議を来る６月１９日午前１０時から開き、常任委員会委員の選任、議会運営委員会委員の選任、議会広報特別委員会委員の選任及び質疑、委員会付託を行います。

議案に対する質疑を行う方は、事務局備付けの様式により、その要旨を具体的に記載し、６月１７日の正午までに事務局に提出をお願いします。

本日は、これにて散会します。

全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

散会　午後０時９分

第　２　号

６月１９日

令和６年第２回菊池市議会定例会

議事日程　第２号

令和６年６月１９日（水曜日）午前１０時開議

第１　議事第１号　常任委員会委員の選任について
第２　議事第２号　議会運営委員会委員の選任について
第３　議事第３号　議会広報特別委員会委員の選任について
第４　議長の常任委員会委員辞退の件
第５　質疑
第６　委員会付託

―――――――――――――――○―――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　議事第１号　常任委員会委員の選任について
日程第２　議事第２号　議会運営委員会委員の選任について
日程第３　議事第３号　議会広報特別委員会委員の選任について
日程第４　議長の常任委員会委員辞退の件
日程第５　質疑
日程第６　委員会付託

―――――――――――――――○―――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	本藤	潔
２番	安武	睦夫
３番	稲継	智康
４番	古田	浩敏
５番	島	春代
６番	大山	宝治
７番	田中	教之
８番	福島	英徳
９番	緒方	哲郎
１０番	後藤	英夫
１１番	平	直樹
１２番	東	奈津子

１３番	水　上　隆　光
１４番	猿　渡　美智子
１５番	荒　木　崇　之
１６番	工　藤　圭一郎
１７番	二ノ文　伸　元
１８番	泉　田　栄一朗
１９番	木　下　雄　二
２０番	山　瀬　義　也

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	江　頭　　実
副市長	芳　野　勇一郎
政策企画部長	北　島　悠　子
総務部長	開　田　智　浩
市民環境部長	宇野木　浩　二
健康福祉部長	中　尾　孝　浩
経済部長	三　池　克　徳
建設部長	久　川　知　己
七城支所長	古　田　十　咲
旭志支所長	佐野木　成　俊
泗水支所長	髙　島　英　輔
財政課長	上　野　重　智
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	古　庄　和　彦
市長公室長	稲　葉　一　郎
教育長	音光寺　以　章
教育部長	前　川　幸　輝
農業委員会事務局長	中　原　親　弘
水道局長	財　津　裕　一
監査委員事務局長	髙　木　智　生

事務局職員出席者

事務局長	松原憲一
事務局課長	髙山賢一
議会係	志水利貞
議会係	右田一樹
議会係	河田真沙恵

○水上隆光　議長　　全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○水上隆光　議長　　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

日程第１　議事第１号　常任委員会委員の選任について

○水上隆光　議長　　日程第１、議事第１号、常任委員会委員の選任についてを議題とします。

総務文教・福祉厚生・経済建設・予算決算の各常任委員会委員の選任については、委員会条例第８条第１項の規定により、お手元に配付しております各常任委員会の名簿のとおり指名します。

常任委員会構成名簿

◎総務文教常任委員会　７人

稲継　智康	島　　春代	福島　英徳	緒方　哲郎	平　　直樹
工藤圭一郎	木下　雄二			

◎福祉厚生常任委員会　７人

本藤　　潔	古田　浩敏	東　奈津子	水上　隆光	猿渡美智子
二ノ文伸元	泉田栄一朗			

◎経済建設常任委員会　６人

安武　睦夫	大山　宝治	田中　教之	後藤　英夫	荒木　崇之
山瀬　義也				

◎予算決算常任委員会　１９人

本藤　　潔	安武　睦夫	稲継　智康	古田　浩敏	島　　春代
大山　宝治	田中　教之	福島　英徳	緒方　哲郎	後藤　英夫
平　　直樹	東　奈津子	猿渡美智子	荒木　崇之	工藤圭一郎
二ノ文伸元	泉田栄一朗	木下　雄二	山瀬　義也	

特別委員会等名簿

◎議会運営委員会　６人

田中　教之	緒方　哲郎	後藤　英夫	猿渡美智子	工藤圭一郎
二ノ文伸元				

◎議会広報特別委員会　６人

本藤　　潔	安武　睦夫	稲継　智康	大山　宝治	平　　直樹
泉田栄一朗				

ここで、委員会条例第１０条の規定により、正副委員長互選のため、各常任委員会を開催しますので、暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１０時１分

再開　午前１０時１分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

委員会条例第９条第２項の規定による各常任委員会の正副委員長の互選の結果を報告します。

総務文教常任委員会委員長　　緒方　哲郎　議員

同　　副委員長　島　　春代　議員

福祉厚生常任委員会委員長　　猿渡美智子　議員

同　　副委員長　本藤　　潔　議員

経済建設常任委員会委員長　　田中　教之　議員

同　　副委員長　安武　睦夫　議員

予算決算常任委員会委員長　　工藤圭一郎　議員

同　　副委員長　稲継　智康　議員

以上です。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第２　議事第２号　議会運営委員会委員の選任について

○水上隆光　議長　　次に、日程第２、議事第２号、議会運営委員会委員の選任についてを議題とします。

議会運営委員会委員の選任については、委員会条例第８条第１項の規定により、お手元に配付してあります名簿のとおり指名します。

ここで、委員会条例第１０条の規定により、正副委員長の互選のため、議会運営委員会を開催しますので、暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１０時２分

再開　午前１０時２分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

委員会条例第９条第２項の規定による議会運営委員会正副委員長の互選の結果を報告します。

議会運営委員会委員長　　後藤　英夫　議員

同　　副委員長　二ノ文伸元　議員

以上です。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第３　議事第３号　議会広報特別委員会委員の選任について

○水上隆光　議長　　次に、日程第３、議事第３号、議会広報特別委員会委員の選任についてを議題とします。

議会広報特別委員会委員より辞任願が提出されましたので、委員会条例第１４条の規定により許可し、同条例第８条第１項の規定により、お手元に配付してあります名簿のとおり指名します。

ここで、委員会条例第１０条の規定により、正副委員長互選のため、議会広報特別委員会を開催しますので、暫時休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午前１０時３分

再開　午前１０時３分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

委員会条例第９条第２項の規定による議会広報特別委員会正副委員長の互選の結果を報告します。

議会広報特別委員会委員長　　平　　直樹　議員

同　　副委員長　泉田栄一朗　議員

以上です。

ここで、都合により、副議長と交代します。

（議長退席　除斥）

（副議長　議長席へ）

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第４　議長の常任委員会委員辞退の件

○平直樹　副議長　　日程第４、議長の常任委員会委員辞退の件を議題といたします。

議長から、地方自治法の趣旨に伴い、常任委員会委員を辞退したいとの申出がありました。本件は、申出のとおり辞退を許可することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○平直樹　副議長　　異議なしと認めます。よって、議長の常任委員会委員の辞退を許可することに決定しました。

ここで、議長と交代いたします。

（副議長　自席へ）

（議長入場　議長席へ）

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第５　質疑

○水上隆光　議長　　日程第５、質疑を行います。

ここで、申合せ事項について申し上げます。

質疑は一括質疑として、３回までとなっています。

質疑は、提出議案に対し疑義をただすものであり、一般質問と違って自己の意見を述べることはできません。

発言の通告があっておりますので、質疑を許します。

東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　皆さん、おはようございます。議席番号１２番、日本共産党、東奈津子です。

議案第４２号、菊池市営住宅条例の一部を改正する条例の制定について、質疑を行います。

本条例改正において、３つの市営住宅が用途廃止となっていますが、改正の根拠となる計画は何か、お示しください。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　改めまして、皆さん、おはようございます。ただいまの東議員の質疑にお答えいたします。

今回の用途廃止の根拠となる計画につきましては、菊池市公営住宅等長寿命化計画に基づき用途廃止を行います。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　再質疑をいたします。

根拠となる計画は、菊池市公営住宅等長寿命化計画との答弁でした。この計画は平成３０年３月に策定されていると思いますが、本計画において、市営住宅の削減目標はどのようになっているでしょうか。

以上、お聞きします。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　では、ただいまの東議員の質疑にお答えいたします。

計画期間の平成３０年度から令和９年度までの１０年間での削減目標は、管理戸数を１，１７０戸から９８６戸へ、１８４戸の削減を目標としております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　これで、質疑を終わります。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第６　委員会付託

○水上隆光　議長　　次に、日程第６、委員会付託を行います。

議案第３７号から議案第４３号まで、議案第４５号から議案第４７号まで、議案第５５号から議案第５８号まで、請願第１号及び請願第２号については、お手元に配付しております議案等付託表のとおり、それぞれ所管の各常任委員会に付託します。

各常任委員会は、付託されました案件を十分審査いただきますようお願いいたします。

令和６年第２回菊池市議会定例会議案等付託表

付託委員会	議案番号	件　　名
総務文教常任委員会	議案第37号	菊池市西部市民センター条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第43号	菊池市泗水Ｂ＆Ｇ海洋センター条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第55号	財産の取得について
	請願第2号	請願書

福祉厚生常任委員会	議案第38号	菊池市重度心身障がい者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第39号	菊池市子ども・子育て会議設置条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第40号	菊池市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第41号	菊池市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について
	請願第１号	現行健康保険証について当面の間の存続を求める請願
経済建設常任委員会	議案第42号	菊池市営住宅条例の一部を改正する条例の制定について
	議案第56号	市道路線の廃止について
	議案第57号	市道路線の認定について
	議案第58号	字の区域の変更について
予算決算常任委員会	議案第45号	令和６年度菊池市一般会計補正予算（第３号）
	議案第46号	令和６年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）
	議案第47号	令和６年度菊池市水道事業会計補正予算(第１号)

○水上隆光　議長　　以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

次の会議は、明日６月２０日の午前１０時から開き、一般質問を行います。

本日は、これで散会します。

全員、ご起立をお願いします。

(全員起立)

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午前１０時１０分

第　３　号

６月２０日

令和６年第２回菊池市議会定例会

議事日程　第３号

令和６年６月２０日（木曜日）午前１０時開議

第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	本藤	潔
２番	安武	睦夫
３番	稲継	智康
４番	古田	浩敏
５番	島	春代
６番	大山	宝治
７番	田中	教之
８番	福島	英徳
９番	緒方	哲郎
１０番	後藤	英夫
１１番	平	直樹
１２番	東	奈津子
１３番	水上	隆光
１４番	猿渡	美智子
１５番	荒木	崇之
１６番	工藤	圭一郎
１７番	二ノ文	伸元
１８番	泉田	栄一朗
１９番	木下	雄二
２０番	山瀬	義也

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	江頭　実
副市長	芳野勇一郎
政策企画部長	北島悠子
総務部長	開田智浩
市民環境部長	宇野木浩二
健康福祉部長	中尾孝浩
経済部長	三池克徳
建設部長	久川知己
七城支所長	古田十咲
旭志支所長	佐野木成俊
泗水支所長	髙島英輔
財政課長	上野重智
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	古庄和彦
市長公室長	稲葉一郎
教育長	音光寺以章
教育部長	前川幸輝
農業委員会事務局長	中原親弘
水道局長	財津裕一
監査委員事務局長	髙木智生

事務局職員出席者

事務局長	松原憲一
事務局課長	髙山賢一
議会係	志水利貞
議会係	右田一樹
議会係	河田真沙恵

○水上隆光　議長　　全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○水上隆光　議長　　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○水上隆光　議長　　日程第１、一般質問を行います。

初めに、泉田栄一朗議員。

［登壇］

○１８番　泉田栄一朗　議員　　皆様、おはようございます。公明党の泉田栄一朗でございます。

国会では、派閥の政治資金パーティー裏金事件を受け、自民党が提出した政治資金規正法改正案が可決されました。様々な問題を残しながらも、再発防止策の一歩前進になることを願います。私たち菊池市議会も身を引き締めて、市民のために働いていきたいと思います。

それでは、通告に従いまして、質問をさせていただきます。

最初は、防犯についてでございます。

平成３０年にも防犯対策について質問をしていますが、そのときとは、状況が変わっていると思いますので、再質問をさせていただきます。

最近、防犯カメラの映像が決め手となって、重要事件の犯人が逮捕されることが増えております。言い換えれば、現在の捜査は防犯カメラなしでは成り立たないと言っていいほど重要なものになっております。最近の事件では、今年４月に起こった栃木県那須町の夫婦殺害事件では、指示役と見られる容疑者が事件当日、近くの防犯カメラの映像を追うリレー捜査で容疑者を特定し、逮捕に至りました。

古い話ですけれども、以前、オウム真理教元幹部の行動をたどるため、警視庁が分析した防犯カメラは、駅や金融機関、スーパー、コンビニなど、約１，０００台以上に上る映像を次々と公開したことで、市民から多くの情報が寄せられ、逮捕に至ったということであります。

また、最近では、ドライブレコーダーと言われる車の搭載カメラもかなり多くなってきております。そのおかげで、交通事故の原因がはっきりと分かるようになっ

ています。搭載カメラは、交通事故だけでなく、防犯にも活用されているようです。

本市に設置してある防犯カメラについて質問します。

このことは、昨年、二ノ文議員も質問されていますが、確認の意味で、保育園、幼稚園、小中学校、公共施設等、また、通学路や町なかの道路等の設置状況をお答えください。また、実際、防犯カメラの効果があった事例があれば、それも付け加えてお答えください。

２つ目に、防犯用具「さすまた」についてです。

さすまたは、皆さんもご存じと思いますけれども、不審者の対応のためにさすまたが配備されていると思うのですが、壁のないスペースでは不審者を制圧できないと、不審者にさすまたの先端をつかまれてしまって、かえって危険になるという事例もあります。現実問題、さすまたのみでは不審者に対応するのは不可能に近いと思いますが、さすまたの効果は何をもって目的としているのか、初めに質問します。また、今まで、さすまたを実際、不審者に使ったことがあるのか、併せて質問をさせていただきます。

以上でございます。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　改めまして、皆様、おはようございます。それでは、泉田議員のご質問にお答えさせていただきます。

まず私から、市で設置しています公共施設等につきましてお答えをいたしたいと思いますが、ご質問の中に、保育園、幼稚園というところもコメントがありましたけれども、こちらのほうについては、通告と聞き取りの際にお聞きしておりませんでしたので、こちらは準備をいたしておりませんので、お答えいたしかねるところでございます。

公共施設及び学校周辺の見守りカメラにつきましてですけれども、見守りカメラは、菊池警察署及び各小中学校と連携し、犯罪の抑止力として、また、事件や事故が起こった場合の早期解決のために、交通量が多い通学路の交差点や人目につきにくい通学路等、各学校区に１台ずつ計１５台設置いたしております。

次に、不特定多数の出入りがある公共施設におきましても、市役所本庁舎、支所庁舎、生涯学習センター等、各施設の出入口などに、屋内１１３台、屋外４５台の防犯カメラを設置いたしているところでございます。

続きまして、さすまたにつきましては、庁舎等、公共施設におきましては、市役所本庁舎１階に３本、２階に３本、３階に１本、中央図書館に２本、七城支所に２本のさすまたを備えております。

現在、旭志支所及び泗水支所にも各２本の設置を進めているところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　泉田栄一朗議員。

［登壇］

○１８番　泉田栄一朗　議員　　今、配備の状況をお聞きしましたけども、もしその防犯カメラの活用があったのかどうかというのと、あと、実際にさすまたを使ったことがあるのかという事例も、後でちょっと一緒にお答えをお願いします。

［パネルを示す］

皆さんご存じとは思いますけども、さすまたというのが、確認の意味で、ちょっと写真がぼやけておりますけども、カブトムシの角みたいな形で、それを持って相手を動かないように押さえつけるというような内容のものがさすまたでございます。

再質問の中で、このさすまたの防犯訓練について質問をさせていただきます。

防犯訓練は、技術面と心理面の両面で効果的と考えられます。防犯訓練をすることで、不審者を見たときの心の動揺を抑えることや、次に何をするべきかの判断につながれば、落ち着いて行動ができるのではないでしょうか。

この防犯訓練には、警察官などの専門家の手助けが必要と考えますが、警察と連携した防犯訓練を実際にしておられるのかどうか、質問します。

それともう一つ、この防犯カメラのことでございますけれども、今、やはりこの防犯カメラやドライブレコーダーによるプライバシーの侵害という問題もあります。現在、本市の防犯カメラが足りているのか、多過ぎということはないと思うんですけども、その状況をお聞きして、この映像の目的以外使用を禁止するなど、ルールも必要だと思っております。今後の防犯カメラを設置する計画があれば、お答えをお願いしたい思います。お願いします。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　改めまして、おはようございます。泉田議員の再質問の前に、学校の防犯カメラ、さすまたの設置状況について、追加でご答弁をさせていただきます。

小中学校につきましては、小学校１校当たり４台、中学校につきましては、１校当たり５台、合計で６５台の防犯カメラを設置しております。

また、さすまたにつきましても、設置本数は学校ごとに違いがありますが、全ての小中学校に２本以上設置しております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　先ほどの答弁で漏れがございましたので、活用実績のところをまず申し上げたいと思います。

防犯カメラの活用実績につきましては、見守りカメラ、庁舎等公共施設ともに、捜査機関等から犯罪・事故の捜査・調査の目的による要請を受けましたときに、映像を提供した事例がございます。

さすまたにつきましては、これまでのところ、活用実績はないところでございます。

それと、２回目のご質問にお答えいたしますけれども、訓練等の状況かと存じますけれども、こういった防犯訓練、さすまた等も活用しました防犯訓練につきましては、一昨年に中央図書館で、昨年は市役所本庁舎で職員向けの訓練を開催しているところでございます。

訓練につきましては、防災対策監と菊池警察署にご指導をいただいて実施をいたしているところでございます。さすまたが必要な状況下では、暴漢は興奮していることが予想されるということでございまして、動きを想定することが難しいことから、さすまた単体で取り押さえることは非常に難しいということで教授を受けております。警察が来るまでの間、暴漢を近づけないための使用方法でありますとか、複数のさすまたを用いて暴漢の動きを止める方法などを訓練の中で学んだところでございます。

それと、カメラの増設に関してでございますけれども、先ほど申し上げました公共施設及び学校周辺の見守りカメラにつきましては、予定をいたしておりました設置が完了いたしておりますので、新たな設置につきましては、現状考えていないところでございます。

不特定多数の出入りがあります庁舎等公共施設につきましては、必要に応じて増設が必要な場合は、検討を行ってまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、泉田議員の再質問にお答えいたします。

まず、活用実績についてでございますが、小中学校でのさすまたの活用実績はございません。

防犯カメラにつきましては、行方不明者の捜索や交通事故の際に、警察より防犯カメラ映像の提供について依頼をいただいたという事例がございます。

次に、小中学校の防犯カメラ及びさすまたにつきましては、既に設置が完了して

おりますので、今後の設置計画また目標はございません。

次に、防犯訓練につきましても、それぞれの学校において訓練が実施または予定されております。

訓練では菊池警察署に講師をお願いし、さすまたの使用を指導していただいた学校もございます。

以上、答弁いたします。

○水上隆光　議長　　泉田栄一朗議員。

［登壇］

○１８番　泉田栄一朗　議員　　防犯カメラも、また、さすまたについても、ある程度の予定の設置が終わっているということを聞きました。また、このさすまたについては、まだそういう実績はないということですけれども、防犯カメラについては、いろんな事例で活用されているということをお聞きしまして、非常に重要だなと思っております。

次の質問ですけれども、これも二ノ文議員が言われておりましたけれども、今から２３年前、大阪の池田小学校に不審者が侵入しました。２時間目の休み時間の間で、裏の通用門から侵入し、１階にある１・２年生の教室で刃物を持って次々と襲いかかったということであります。児童生徒合わせて２３名が殺傷されました。大変悲しい出来事でありました。

当時はさすまたは１つも準備していなかったということであります。今、事件がきっかけとなり、防犯意識が高まり、警察官が中心となり、さすまたの使い方、方法、この講習が始まっているとお聞きしました。先ほどの答弁でも、訓練がされているとお聞きしました。このさすまたを使いこなすのも非常に困難で、実際、役立つか分からないという不安という声に耳を傾け、今回、開発された「ケルベロス」という瞬間拘束具というものを私は知り合いから聞きまして、ちょっとそれを皆様にご紹介をしたいと思っております。許可をいただきましたので、パネルをまたさせていただきます。

［パネルを示す］

こういう器具で、さすまたに装着して、その上のほうに黒い棒みたいなものをつけて、それを不審者の体に押しつけて、体を拘束するということです。これが瞬間的に、こういう形で押すと、この黒いパネルが体を巻き付けるというような状況になります。これは一瞬のうちになります。

これはちょっと簡単に皆様にご紹介しておきますと、これは私が夕方散歩するときにつける蛍光板のやつですけれども、こういうものを、これがそこのさすまたに蛍光板のこの板がついていると思っていてください。そして、それを体に撃つと、

こういう感じでつくというような感じで、一瞬のうちにこれが体に巻き付くというような要領です。それがこの一瞬のうちにさすまたにつけた器具が体に巻き付くというのがケルベロスという品物です。瞬間拘束具です。

これは従来のさすまたに取り付けることも可能で、壁がないオープンスペースでも効果的に使用され、ばね加工された黒い帯状のヘッドが不審者に巻き付き、身体を拘束するというものであります。軽量で小回りがきくため、誰でも簡単に使えると。女性の方でも使えるということです。さすまたの補助役として活用するものであります。ケルベロスは警察庁長官賞も取り、警察内でも現在使われているそうです。

私はこのケルベロスを宣伝するつもりはありませんが、効果的なら導入することも考えていいと思います。不審者を発見して、１１０番してから警察が到着する約１０分間をいかに身の安全を確保しながら乗り切るかがポイントだと思います。決して捕まえる必要はなく、侵入者を刺激したり挑発することも不要であります。安全第一を考え、児童生徒、市民が安心できるように、今後、さらに考える必要があると思っております。本市として、このケルベロスの導入をどのように考えるか、質問させていただきます。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　まず私から、公共施設における考え方のほうをお答えさせていただきたいと思います。

これまでのところ、ただいまご紹介のありましたさすまたの補助用具の「ケルベロス」等の配備について検討はしておりませんけれども、今後、防犯訓練等を通しまして、警察からこういったケルベロスなど、さすまた補助具の有効性、また配備の必要性についてご指導がございましたら、検討したいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、私のほうから、学校のことについてお答えいたします。

小中学校におきましても、現時点で配備する予定はございません。なお、防犯訓練の中で警察から補助用具の配備について指導等がありましたら、検討してまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　泉田栄一朗議員。

［登壇］

○１８番　泉田栄一朗　議員　　今のところは、配備する予定はないということでありますけれども、ぜひ実物を見て体験していただきたいと思っております。これは購入か、または３年レンタルというのもあるそうです。この日頃の備えが犯罪を防ぐ第一歩だと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

それでは、次に行きたいと思います。

不登校対策についてであります。

文部科学省が「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた不登校対策としてＣＯＣＯＬＯプランを上げております。小・中・高の不登校の児童生徒が急増し、全国で約３０万人になりました。内訳は、中学生が約１６万人と最も多く、次いで小学生が約８万人、高校生が約５万人です。増加率としては、小学校が一番高く、年々急増しております。

不登校児童生徒が急増した背景には、長引く新型コロナウイルスの影響と指摘されますが、より根底には子どもたち一人ひとりの人格の完成や、社会的自立を目指すための学校や学びの在り方が問われていると言われます。

不登校は誰でも起こり得ることで、もし不登校になったとしても、児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいときにその受皿を用意する。つまり、環境を整えることは非常に大事だと考えております。

コロナ禍に自宅でＩＣＴを活用した学習活動を出席扱いにした小中学校が令和３年から急激に増えております。文部科学省のプランで校内教育支援センターの設置を促進しています。これは自分のクラスに入りづらい児童生徒が、落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習、生活できる環境を学校内に設置するものです。本市の校内教育支援センターについて、活動内容と取組についてお答えをお願いします。

次の質問は、本市における不登校児童生徒の件です。

この内容については、東議員、福島議員、島議員も以前質問されていますので、令和４年度までのデータはこちらで分かっております。不登校児童生徒数は、令和２年度は９０人、令和３年度は１２３人、令和４年度は１６３人となっております。確かにこの令和３年度は新型コロナウイルスが背景にあると思っております。しかし、不登校児童生徒数が急増しているのはそれだけではないと感じております。今、子どもたちを取り巻く環境は多種多様で、日々変化しております。学校現場でのご苦労は大変なことだと想像しております。令和５年度がどうだったのか、お答えをお願いします。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、まず最初に、不登校児童生徒数をお答えしたいと思います。

令和５年度の３月末時点での不登校児童生徒数は小中学校合わせて２２３人でございます。

次に、不登校の児童生徒に対する取組についてお答えいたします。

菊池市教育委員会が作成した菊池市不登校対策推進計画に基づいており、市独自で様々な支援を行っております。

１つ目に、心の教育相談員（後に発言の申出があり、「心の教育相談員」を「心の教室相談員」へ訂正）の中学校配置と小学校への派遣、さらに学校支援コーディネーターとスクールソーシャルワーカーを学校教育課に配置した相談体制の充実を図っております。

２つ目に、不登校児童生徒支援引継ぎシートを活用して、年度をまたいだ長期的で切れ目ない支援を行っております。

３つ目に、教育支援センター３教室に指導員を１名ずつ配置し、学校と連携して支援に当たっております。今年度からは、泗水中学校に校内教育支援センターを設置し、教室以外の場所で対応していた生徒への学びの場の保障や、不登校の初期段階での支援を行っております。

さらに、校内教育支援センターへ２名の指導員を配置することで、社会的自立に向けた支援や、長期化する不登校生徒に対する訪問支援、送迎を行ってまいります。

４つ目に、小学校３年生以上の児童生徒に、年に２回、タブレット端末を利用して「こころの問診票」アンケートを実施しており、その結果を基に各学校で教育相談を実施し、悩みや不安を抱えた児童生徒の早期把握と早期支援につなげております。

新たに今年度は、熊本県の委託事業として、１人１台のタブレット端末を活用した「こころの健康観察」を菊池南中学校とその校区内小学校４校をモデル校として実施する予定でございます。

これらは全て本市の取組でございまして、不登校を学校だけに任せず、サポート体制を充実することにより、未然防止や早期発見及び社会的自立支援につなげるところでございます。

以上、お答えします。

すみません、私が１つ目でお答えいたしました、「心の教室相談員」と申すところを「心の教育相談員」と申しました。おわびして訂正いたします。

○水上隆光　議長　　泉田栄一朗議員。

［登壇］

○１８番　泉田栄一朗　議員　　今、菊池市独自の教育支援センターのこと、また、様々な角度で不登校に対しての取組をされているということで、少し安心しました。これからスタートした、新しいスタートということで、まだ大変だと思いますけど、よろしくお願いします。

再質問させていただきます。

学校に通うだけが目的ではないという観点から、学びの環境を整えるという意味で、日本各地に民間のフリースクールというものが開校されております。熊本県内でも熊本市の地球子屋や、おおぞら高校などがあります。先日は熊日新聞に、大津町または阿蘇市でフリースクールが開校されたという記事が載っておりました。

菊池市にはそのフリースクールがあるということも伺っておりますけれども、菊池市のこのフリースクールというものがどのような活動をして、幾つぐらいのフリースクールがあるのか、そして、そこの内容というものを把握されているのか、さらにまた、学年別に何人の児童生徒がフリースクールに通っているのか、その点について質問させていただきます。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、まず１点目のフリースクールの数、活動内容について、お答えいたします。

昨年度と今年度に学校で把握している市内フリースクールの数は３か所でございます。フリースクールの活動内容は様々でございます。個々の活動内容については、学校にて把握するように努めております。

２点目のフリースクールに通っている人数でございますけども、令和６年５月３１日時点でフリースクールに通っている人数についてお答えいたします。

小学校１年生が２名、２年生が４名、３年生が４名、４年生が４名、５年生が３名、６年生が３名、中学校１年生が２名、２年生が１名、３年生が２名の小中学校合計で２５名が利用しております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　泉田栄一朗議員。

［登壇］

○１８番　泉田栄一朗　議員　　このフリースクールに通っている合計が２５名と。これが菊池市で多い数なのか、少ない数なのか、ちょっと私のほうも分かりませんけれども、この方々が通っていると。学校がどういう活動内容をしているかというの

は把握していると言われていますけども、実際、その学校も、本市もやっぱり共有して、どういう活動をされているか確認をしていたほうがいいんじゃないかと私は思います。やはり、ただそこに行って、勉強をせずに、勉強というか、ただそこで遊んだり、体を動かしたりというフリースクールもあると聞いております。中にはきちっとスケジュールを作って、計画を立てて、勉強させたり、体験学習をさせたりというフリースクールもあると思います。やはりその内容によっては様々だと思いますので、やはりそこの内容を本市としても把握をしていたほうがいいんじゃないかと思います。

フリースクールのメリット、デメリットを私なりに調べてみましたら、メリットとしては、友達や居場所ができる。カウンセリングを受けることができる。自分のレベル、ペースで勉強ができる。社会性が養える。毎日通わなくてもよい。在籍校の出席扱いになることもあると。これは在籍校の校長の判断でされるということであります。体力をつけることができる。親も情報収集やリフレッシュができる等々挙げますけど、これが全部そのフリースクールに該当するかというと疑問ではあります。

また、デメリットとして、授業料が高いと。入学金のほかに月に３万円ぐらい要ると。年間では高いところでは８０万円もするところもあると聞きました。勉強したいときにするので、勉強量が足りない。一般の学校や社会生活とギャップがあるというような様々なメリット、デメリットがあります。

不登校の問題は一人一人の形が違うので、難しい問題ではあります。学校だけが取り組むには限界が来ていると思っております。その点、行政としても、今、活動されているということをお聞きしまして、行政、保護者、地域、民間のＮＰＯやフリースクール等との連携が大事であると考えております。

最後に、教育長にお聞きしますけれども、その点についてどのように考えているのか、今後の課題や取組についてお答えください。お願いします。

○水上隆光　議長　　音光寺教育長。

［登壇］

○音光寺以章　教育長　　皆さん、おはようございます。

ただいまのフリースクールとの連携についてはどのように考えているかということでございます。

先ほど部長が答弁しましたように、フリースクールの活動等につきましては、校長がフリースクールに行きまして、子どもの様子とか、活動の様子を見学させていただき、その教育活動内容を聞き取って、そして、その後、教育委員会と協議をした上で、文部科学省が示しますガイドラインに沿った活動がなされているというふ

うに認めた場合は、連携していくというふうに考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　泉田栄一朗議員。

［登壇］

○１８番　泉田栄一朗　議員　　様々なこのお互いの連携で、菊池市独自のことを今されようとされていますので、それを見守りたいと考えております。よろしくお願いします。

それでは次に、単身の高齢者の終活支援についてということであります。

６５歳以上の一人暮らしの世帯が増加しております。総務省の統計によりますと、昭和５５年には８７万人だったのが、平成２７年には５９２万人、６．８倍になっているということです。そして、令和２年、これには６７２万人、そして、２０４０年には８９６万人に上ると推定されています。

単独世帯になる原因として、核家族化が進み、親と子ども、別所帯で生活しているのもだんだん増え、当然だと思います。また、離婚率の増加、未婚率の増加と、これら全てが増加傾向にあるので、一人暮らしは急増する一方だと思っております。

一人暮らしの高齢者が増加すること自体が、すぐに何かの問題を引き起こすというわけではございませんが、しかし、高齢者の体力や判断能力が低下した際には、身寄りのないことで、日常生活に困難を抱えてしまったり、地域社会から孤立してしまったりする可能性があるのではと考えております。孤独死は年々増え続けております。１人暮らしゆえの心配するところであります。体調が急変して、とっさに誰かに助けを求めることが難しく、そのまま亡くなるということ、認知症の症状は自覚しにくく、自覚がないまま進行してしまうおそれがあるということ、高齢者を狙った詐欺や犯罪が近年増加しているということもあります。

そしてまた、地震や台風、豪雨、洪水などの自然災害が発生した際、自力でその対処が難しいということもあります。先月５月には能登半島地震で被災された方で、仮設住宅で７０代の女性が孤独死されていたという記事がありました。

初めに、本市の単独世帯数の現状をお答えください。そしてまた、孤独死された方が今までおられたかどうか、その事例があればお答えください。

以上、２点お願いします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　改めまして、おはようございます。

まず、本市の１人暮らしの高齢者の現状はということでございます。

本市の６５歳以上の高齢者数と、１人暮らしの高齢者数とその割合につきまして

は、令和４年４月１日現在で、高齢者数１万６，２４７人、うち１人暮らしは３，７０９人で２２．８％、令和５年４月１日現在では、高齢者数１万６，１５９人、うち１人暮らしは３，７０４人で２２．９％、令和６年４月１日現在では、高齢者数１万５，４５８人、うち１人暮らしは３，６９４人で２３．９％となっております。１人暮らしの高齢者数はやや減少しておりますが、１人暮らしの高齢者数の割合はやや増加しているというような現状でございます。

次に、孤独死の事例はということでございます。

高齢者だけで生活されている世帯につきましては、各地区の民生委員さんにより定期的な訪問や声かけが行われております。地域包括支援センターにおきましても、様子が気になる高齢者につきましては、継続的な訪問や支援を行っております。

個々のケースに応じまして適切な対応や見守りができるよう、各方面と連携して取り組んでおりますが、孤独死などの件数や事例等の実態把握は難しい状況でございます。

参考になりますが、亡くなられた後、身寄りがなく葬儀ができないといった内容の相談件数につきましては、令和５年度が１件、令和４年度が１件、令和３年度が１件というふうになっております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　泉田栄一朗議員。

［登壇］

○１８番　泉田栄一朗　議員　　一番直近の数として３，６９４人の方がおられるということで、非常にこの数というのは多くなっているんだなと思っております。そしてまた、身寄りがないと言われる方もおられます。

そういう中で、本市で菊池市重層的支援体制がスタートしたということで、執行部の方からお示しいただきました。取組のイメージ図を私もパソコンで見ました。高齢者、障がい者、子ども・子育て、生活困窮等のお困り事をどこに相談すればよいか分からないというときに、福祉まるごと相談室が受けて、必要に応じて様々な組織と連携してくれるというものだと私なりに解釈しております。

次の再質問の趣旨は、終活支援についてであります。

１人暮らしで頼れる家族がおらず、亡くなった後、遺体を引き取る人がいなくて、無縁遺骨になってしまいます。先ほどもおられたということをお聞きしました。

それで、神奈川県の例を紹介したいと思いますけど、これは横須賀市で行っていることでございますけども、引取手のない遺骨がこの３０年間で５倍に増えたということで、２つの支援活動をしているということをお聞きしました。

１つ目は、エンディングプラン・サポート事業というものです。これは利用者が

市の協力葬儀社と生前契約して費用を預け、亡くなった後、市と協力葬儀社が連携して葬儀や納骨を行うというものであります。民間事業者を阻害しないように、身寄りのない低所得者の単身高齢者に限定しているということであります。昨年度までの登録者は１２４人で、そのうち５２人が亡くなられたと。生前に希望した形で、本人の意向が尊重されたということであります。この事業のおかげで、市が火葬費を負担しなくてよいので、市税の削減にもつながっているそうであります。

もう一つは、終活情報登録伝達事業ということであります。緊急の連絡先や、エンディングノートの保管場所、墓の所在地など計１１項目の情報を市に登録できるということであります。万一の際に、警察や医療機関などからの問合せに市が対応し、本人に代わって登録情報を伝えるというものであります。

また、東京都豊島区では終活あんしんセンターを開設、区の委託で運営は社会福祉協議会がしております。終活あんしんセンターが社会福祉協議会にあることから、見守り訪問や成年後見制度の利用など、社会福祉協議会の既存のサービスに円滑につながるケースもあるということであります。

エンディングノートを配布している自治体は全国でも３００近くに上るそうであります。引取手のない遺骨や、全国的に増えている中、自治体に終活支援を始めなければならない時期に来ていると思っております。

本市において、葬儀や納骨を生前にサポートすること、エンディングノートを保管して終活情報を伝達するという考えがあるか、質問をします。お願いします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　終活に関する取組はというお尋ねかと思います。

まず、終活に関する相談窓口につきましては、本市においては高齢支援課となっております。

現在の取組はどのようなものかということでございますけれども、主な取組としましては、生涯学習まちづくり出前講座のメニューに「終活について」を設けておりまして、先ほど議員のほうからもご紹介がありましたが、エンディングノートを活用した講話形式で、自分の望む人生を最後まで自分らしく生きるために、できることについて考える内容となっております。

令和５年度は、出前講座の申込みが２件あり、参加者は１００人程度でございました。

また、先ほどご紹介いただきました横須賀市で実施されているような終活支援事業につきましては、本市においては行っておりませんが、ご相談があった場合は、民間で終活支援を行われている事業所等の紹介をしておりまして、今後も引き続き

啓発等に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　泉田栄一朗議員。

［登壇］

○１８番　泉田栄一朗　議員　　この出前講座をやっているということで、同じ内容ではないけれども、菊池市でもそれに近いものをやっておられるということをお聞きしまして、安心しました。

ぜひこの菊池市の重層的支援体制の中にこういうものを組み込んでいっていただければ、さらに充実していくんじゃないかと考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは最後に、孔子公園の活用についてということで質問させていただきます。

現在、台湾の半導体メーカーＴＳＭＣの進出によって、土地が買収されたり、アパートが立ち並び、一戸建て住宅もどんどん建設されております。近隣には商業施設もでき、町並みの変化に驚かされるところであります。

泗水町にあります孔子公園は１９９２年（平成４年）に完成しました。本格的な中国の宮廷建築様式の公園であります。三国志の物語や、花鳥風月を描いた美しい回廊は、異国情緒漂う雰囲気を感じます。

なぜ孔子公園が泗水町にできたかという由来は、孔子の生誕の地が中国山東省泗水県だからということであります。この孔子公園、ちょっと写真を、皆さんもいつも見ていると思いますけど。

［パネルを示す］

こういう孔子公園の形をしております。この孔子公園、これは泗水町町名百年を記念して建てられたということであります。孔子まつりや夏まつり、花火大会など、イベントで活用されております。本格的な中国建築のため、今まで修復作業にお金がかかっております。これだけ特色のある公園なので、その差別化を生かし、今こそ人を呼び込むための整備や企画をするべきだと考えております。

私は平成３１年の一般質問で、孔子公園の池や水路などを子どもの遊び場にできないかという質問をさせていただきました。そのときは回答が、孔子公園は築２５年を経過して、建物の老朽化に伴う施設の修復が最優先ということでありました。そういうことで今に至っているんだろうと思います。

この孔子公園は、地域の人たちに潤いや楽しみを与えるものだと考えております。この孔子公園のところには、今、水が流れておりますけれども、そこにコイが入れられて、そのコイに餌をやるという自動販売機も昔はありました。でも、その餌をやっている風景はもうほとんど見られません。そういう状況で、この水の活用とい

うのが何とかできないかということで、この環境整備をしていただきながら、子どもたちがそこで遊べるような空間ができないかということで考えております。

私は上津江村の道の駅を通ったときに、子どもたちがそこで遊んでいる風景を見ました。

［パネルを示す］

今、この写真は、子どもが浅い水辺に立って走り回っている風景でございますが、安全面も考慮して、非常に浅い水遊び場所になっております。そういう事例もあって、今、温暖化で夏の暑さは大変厳しいものがあります。うちの地元の田島保育園ではミストを使い、子どもたちに涼しさを届けています。そのようなことで、水遊びができるよう整備する考えがあるか、お答えください。

２つ目の質問でありますけれども、今年３月、県北広域本部主催で七城のリバーサイドパークで２日間、「台湾迷倶楽部」と題してイベントがありました。私も台湾人の友人を連れて家族と参加しました。その模様をお見せします。

［パネルを示す］

こうやって台湾のちょうちんがあり、そして、１つのお店に行列を作って人が買物に来ておられました。私の友人も台湾の方を連れていったら大変喜ばれて、そういう状況でありました。そういう中で、このにぎわいはすごいというふうに考えました。台湾への関心度に大変驚いているところであります。

このようなイベントは、まさにこの孔子公園でできないかという考えが浮かびました。私は台湾に５年間住んでいた経験から言わせていただきますと、台湾の気候が暑いということもありますが、夜に涼しさを求めて、夜に夜市があります。夜市にはたくさんのお店が並び、食べ物だけでなく、子どもたちがゲームをしたり、また、日用雑貨などがあり、とても楽しい雰囲気があります。日本の温暖化はだんだん台湾のようになってきているような気がします。やはりそういう中で、海外の人たちが菊池市に来たときに、何か遊べるところがないかと考えたときに、そういう環境があればいいなと思ったところです。

そこで、孔子公園の中で単独のイベントもいいのですが、定期的な夜市、マルシェ等を行い、ステージを活用して、子どもたちのダンスや歌、武道などの発表の場を作っていただければ、人が集まるような感じがします。この工夫、考え方をしていただければと思っております。そういうことで、今後、この孔子公園をぜひ活用していただければと考えているわけです。そのためには、子どもの水遊び場、夜市、マルシェ等考えていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　改めまして、おはようございます。それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

孔子公園につきましては、市民の憩いの場として、また、地域の活性化の拠点となる文化施設としまして、議員がおっしゃられたように、平成４年度に整備されております。平成２９年度には地方創生拠点整備交付金を活用し、観光交流施設を増築しているところです。

施設としては築３３年が経過しており、経年劣化が進んでいる箇所が多くあるのも実情でございます。

そこで、現在、孔子公園につきましては、再整備基本方針策定に向けた業務を発注しておりまして、今年度中に市民の皆様・関係団体とワークショップを行い、孔子公園の活用方法を検討していくところです。

ご質問いただいた水の活用につきましては、貴重なご意見としまして、今回実施しますワークショップの中で検討させていただきたいと考えております。

次に、ご質問がありました台湾に関するイベント、マルシェ等につきましては、孔子公園の指定管理者であります有限会社有朋の里泗水と様々なイベント等について協議させていただきたいと思います。

また、定期的なイベントということにつきましては、先ほど申し上げましたとおり、今後、市民の方や関係団体と協議をさせていただきますので、そのご意見を伺いながら、より多くの方に孔子公園を活用していただけるように協議をしてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　泉田栄一朗議員。

［登壇］

○１８番　泉田栄一朗　議員　　まずは、このワークショップをされるということでありますので、このワークショップの中で、私の構想等もちょっと中に入れていただきながら、考えていただければと思っております。できればそのワークショップに参加できて、そういうお話も聞かせていただければと思っているわけです。

いずれにしましても、今、行政のほうでこうするということは言えないということで、これからの課題として、この孔子公園がせっかく今あるんで、海外の人たちが喜んでいただけるような環境をつくっていただきたいと思っております。

また、ちなみに、孔子公園というものは、台湾にもたくさん孔子公園があります。台北、台中、高雄とあります。だから、これは全国的、世界的に孔子公園というのはたくさんあるということで、皆さんなじみがあるんじゃないかと思いますので、活用のほどをよろしくお願いします。

以上で終わります。

○水上隆光　議長　　泉田議員のパネル持込みは、議長として許可していたところでございます。

これで、泉田栄一朗議員の質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午前１０時５８分

再開　午前１１時０６分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、稲継智康議員。

［登壇］

○３番　稲継智康　議員　　皆さん、改めまして、おはようございます。議席番号３番、稲継智康です。通告に従いまして、一般質問させていただきます。

昨日も３０度を超える気温が続き、年々暑くなってきているように思われます。２０２４年の九州地区の気温傾向について、日本気象協会から次のような予測が発表されています。九州地区では、年間を通じて平均気温が平年よりも高くなる見込みのようです。特に６月、８月に関しては、かなり高い傾向が続くと予想されているそうです。また、猛暑日が多く、熱帯夜も増加する見込みとのことでした。気温が高くなることは、熱中症のリスクも増加します。特に高齢者や子ども、屋外で作業をする人など、特に注意が必要だと思われます。以前の夏に比べて、私もすごくここ最近の暑さに関しては、異常なほどの暑さだと思います。熱中症の話題がニュースや新聞などでよく聞かれます。

そこで、今回、本市では熱中症対策をどのように行っているかということをお聞きしたいと思います。

また、熱中症対策といっても、かなり広く範囲がありますので、午後からは一般質問で島議員が、一般市民の方に関し質問されますので、私は特に小中学生を対象にした取組についてご質問させていただきます。

それでは、改めて質問させていただきます。

まず１つ目、本市の小中学校における熱中症対策について。

小中学校における熱中症対策はどう行っているか。

また、特に今週末に中体連も行われます。中学校の部活動時の対策についてはどう行っているか。

２つご質問させていただきます。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、まず最初に、小中学校の熱中症対策についてお答えいたします。

小中学校の対策として、各学校で環境省の熱中症アラートの確認や、所有する熱中症計で活動場所の暑さ指数を測定し、活動実施の判断とともに、全校空調を教室に完備していますので、活動場所の変更につきましても併せて判断をしております。

また、製氷機の設置や経口補水液を全校常備し、一部の学校では、体育館に冷風扇やスポットクーラーを必要に応じて配備しております。

全体的な指導としましては、登下校時を含め、暑い日には着帽や各自水筒の持参を呼びかけ、小まめな水分補給と休憩を取ること、健康観察や健康管理を徹底することで、熱中症予防に努めております。

万一、熱中症を発症した際には、適切な応急処置等が図れるよう学校に指導をしております。

次に、学校部活動時の対策としましては、熱中症計の測定に加え、土日や夏休み中の暑い時間帯を避け、朝夕に練習をしております。

また、教職員と部活動指導者で熱中症対策の共通認識を図りながら、小まめな水分や塩分の補給と休憩時間の確保を行っております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　稲継智康議員。

［登壇］

○３番　稲継智康　議員　　ありがとうございました。

学校の生活の中で、十分に先生たちのご指導の下、やられていると思いますけども、たしか本市では、教室に関しては１００％クーラーが入っていると。体育館に関しては入っていない。大型の扇風機でされているということでしたけれども、今回、公立学校の空調設備の全国の設置状況というのをちょっと調べてみました。普通教室に関しては、ほぼ１００％近いような状況です。体育館に関しては、やはり１５．３％と。令和４年度の資料ですけども、体育館施設になると、かなり費用もかかりますし、なかなか進んでいないというのが実情であると思います。

ただ、これ２０２２年ですけども、熊本県の小中学校の体育館の空調は、人吉市は９２％入っているんですよね。甲佐町、球磨郡なんかも８０％以上、山江村も６６％、あと近いところでいくと、宇土市が５０％ですね。多良木町とか、その辺が入っております。これは震災の関係で、復興の工事をしなきゃいけないとかいう部分もあったので、そういう面で一緒にクーラーも入れ替えてしまおうかなというこ

ともあるんですけども、宇土市も半分ぐらい入っておりますし、また、菊陽町では全ての体育館に導入するということを発表されていますので、本市の体育館のほうも若干検討はしていただきたい事項になると思います、予算がかかることですので。

また、２番目の中学校の部活動に関してですけれども、日本スポーツ振興会によりますと、やはり中学校の熱中症発生時を調べたデータによりますと、３分の２がやっぱり部活動中の発生であるということらしいです。特に種目別に多いのを見ると、屋内ではやっぱりバスケット、バレーボールですね。その後にバドミントン、剣道となっておりました。私も剣道のほうがもっと熱中症の率が高いのかなと思いましたけれども、バスケットのほうが高いということで、ちょっとびっくりしましたけども、まあまあ、競技人口にもよるかと思います。

また、やはり屋外ではもう限られていますので、野球、陸上、サッカー、テニスという順番になっておりました。

先ほど答弁でもいただきました。私も練習中のお話を聞きますと、気温の高い時間帯を避けて、野球なんかは午前中にしたりとか、早い時間にされたりとか、水分補給なんかもされているということをお聞きしております。私も野球をやっておりましたが、昔はもう水が飲めないという時代で私は育っておりましたが、今はしっかりと指導されていると思いました。

部活動に関してですけども、やはり競技によって対応策が違うと思うんですよね。特に屋内競技でいきますと、バドミントンなんかは風を入れちゃいけないんですよね。閉め切った状態でしなければいけないとか、そういうのもありますので、今回、日本スポーツ協会から熱中症予防ガイドブックが出ておりました。環境省の熱中症予防情報サイトという中に、やっぱり屋外、屋内に分けた指導方法というのも書いてありました。

それで、再質問させていただきたいと思いますけども、まず、熱中症になりかけたときには、やはり一番氷が必要だと思います。製氷機も完備されているということですけども、その製氷機をどのように使われているのか、また、屋内、屋外、別の指導方法というものは分けて指導されているのか、２つお伺いしたいと思います。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、再質問にお答えいたします。

まず、製氷機の休日、夏休み中の使用ということでございますけれども、日頃、部活動で使用する氷や飲物は各自で準備しております。大会や練習試合、夏休みの練習では、大型の氷などを担当者や保護者が準備をしております。

学校備付けの製氷機の氷につきましては、熱中症の初期段階での体の冷却、けが

をした患部の冷却など、主に緊急時の応急処置を行うため、休日や夏休みにおいても利用できるような体制を取っているところでございます。

次に、屋内、屋外での指導方法ということでございますけれども、先ほども答弁しましたとおり、熱中症対策に加え、屋内と屋外競技の中でも、競技種目によって熱中症リスクの高い場面が異なりますので、各競技種目に応じた指導を心がけているところでございます。

以上、答弁いたします。

○水上隆光　議長　　稲継智康議員。

［登壇］

○３番　稲継智康　議員　　ありがとうございました。

やはり熱中症対策になると、氷というものがすごく必要になると思います。実際、少し前までは、子どもたちが豆腐の入れ物に水を張って氷を朝持ってきて、それを保護者の方たちのクーラーボックスに入れてということが、私が保護者のときなんかもよくしていました。それでも、今、全く氷がもたないような状態なんですよね。特に部活動に関しては、きちっと午前中練習とか、午後練習とかって、時間を決めて今されています。しかし、大会時には一日中、朝から晩まで、朝の９時から夕方までする競技もあります。個人の競技によっては、その時間帯で終わるかもしれませんけども、途中で氷がなくなったら、保護者の方たちが氷を買いに行くとかいうようなことが頻繁に起きております。特に私たちスポーツ関係の保護者の人たちといろいろ話す機会が多いので、やはり氷をいかにずっと大会中でも自分とこで置いとくかというような、やっぱり取組も必要じゃないかというようなことも感じます。これをただ部活動の保護者にお任せしますと、やはり保護者の負担だけが増えるんですよね。これまた大変なことなので、もう少し広く大きく見ていただきたくて、ちょっと何点かご紹介します。

まず、これは高校ですけども、熊本高専なんかは、体育館の横に製氷機があります。部活動中とか、日中ずっと使えるような製氷機を設置してあります。これを中学生に使ってもいいのかということになると、難しい問題かもしれませんけども、製氷機の設置とか、あとはこの質問の一番きっかけになりました、保護者の方がバッテリー付きの携帯の冷蔵庫を持ち歩かれていたんですよね。それに朝、氷を入れて、昼からもほぼ大丈夫ですよということを言われてて、これはいいですよ、ぜひこういうのを部活動で買えばいいですよと言われたんですけども、価格を聞くと、やっぱり７～８万円するような価格なんですよね。その辺に関して、やはり保護者の負担が多いと。そこは部活動の保護者の方たちで折半して買われたということなんですけども、そういうことも少し補助をいただくとか、その辺も１つの案だと思

いますし、また、小中学校への自動販売機の設置、今、自動販売機の設置が小中学校はありません。

先日、自動販売機の大本の会社さんとお話をしました。福岡とか大分ではもう小中学校に設置が始まっているそうです。やはり一番の問題点は、子どもがお金を持って、例えばじゃあ今日、お金を持ってないから貸してくれとかということが起きるということが一番懸念されていたそうですけども、導入後２～３年で、特にそういう問題も起こらず、撤去してくださいという学校はなかったということで、逆に、それを見られて、設置したいという学校さんも多かったみたいなんで、この話は３年ぐらい前に一度、学校のほうに自動販売機の件はお話しされているということでした。その際に、各学校の判断、教育委員会の判断かということで分かれて、３年前にその会社さんが各学校に説明しに行かれましたけれども、そのままになっているというようなことでした。

また、東京都の三鷹市では、中学校で最新技術の対策グッズを使った取組がされています。ウェアラブル機器のメーカーなどと共同で、部活動のときに熱中症のリスクを減らすためにどうしたらいいのかという検証の調査を始められております。４つの市立中学校で様々な部活動に所属する生徒約４００人を対象に、熱中症を防ぐための最新製品や、体に装着する端末を貸出し、約２か月検証されているそうです。生徒は、まず部活動の前に温度を１０度に保つ蓄冷材を握って手のひらを冷やします。これは開発したのはシャープさんなんですけども、運動前に冷やすことで、体温の上昇を抑制する効果が期待されるということです。

また、生徒たちが腕に装着した端末は体温の上昇を感知できるもので、部活動中に得られたデータは、練習内容による熱中症率のリスクの分析に役立てておられるということです。

また、三鷹市の教育委員会は、今回の調査結果を学校における部活動の熱中症対策に反映させていくという方針ということです。

もう１点、先ほど空調の件もお話ししましたけども、私もちょっと細かいところまでは調べられなかったんですけども、今年度から体育館空調設備を新設される場合には、今までの３分の１の補助が２分の１になっているということもあります。

私、ちょっといろんなことを言いましたけども、私の質問は、今年も同じような指導方法だけ、扇風機だけで、やはり今年の夏もされるのか、それとも、本市として新たなこういった取組、私はもうこういう取組がありますよと言っただけですけど、新たなこういう取組とか、具体的な支援策があればお答えください。

○水上隆光　議長　　音光寺教育長。

［登壇］

○音光寺以章　教育長　　ただいま稲継議員からのご質問で、新たな支援策等があるかどうかということですけども、まず、各校長先生方に令和６年５月に通知されました文部科学省の熱中症対策ガイドラインの作成の手引き並びにチェックリストの活用を教職員へ周知するように伝えております。

さらに、本年度は、本市が包括連携協定により民間企業の外部講師をお招きしまして、児童生徒に対しまして熱中症予防に関する講話や、教職員研修を各学校で行っているというところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　稲継智康議員。

［登壇］

○３番　稲継智康　議員　　ありがとうございました。

包括連携協定されているところと講話ということでありますけども、私、今回、学校教育課のほうに製氷機とか、そういうのを言いましたけども、やはり最終的には学校の判断だということをかなり言われました。学校の判断でやっぱりしていくものですよというふうに言われました。なかなか私たち、子ども、保護者とか、指導者の方、現場の方からすごく意見をもらいます。ただ、いろんな設備に関しては、やはり教育委員会に話しても、最終的には学校の判断だということがかなり多いです。私たち、こういう設備とかそういうことでお話ししても、なかなかそこから進まないということが実情であります。

学校教育に関して、私たちは教育委員会に一般質問しなければいけないということがありますので、これをじゃあ、熱中症対策整備に関しては、じゃあ健康福祉部のほうにお話ししてもいいんですかとなると、それは学校教育課なり、教育委員会だというふうになりますので、その辺がやはり私たちも、私は議員になってまだ２年ですけども、一般質問するところで、すごくどこに一般質問すればいいのかということはいつも考えております。ぜひ一度、指導者の方、先生方、子どもたち、保護者の意見をやはりもうちょっと吸い上げていただきたい。現場に行って、困っていることを聞いていただいて、もうちょっと意見を吸い上げていただいて、今年はもう多分何も、このままだと思いますので、次年度、ぜひ何か新しい施策を考えていただくようにお願いしたいと思います。

それでは、次の２番目の質問をさせていただきます。

社会体育施設の整備と管理についてお聞きいたします。

全国レベルの選手を輩出するためには、一般市民や小中学校が気楽にできるスポーツ整備の環境が重要だと思います。

そこで、本市のスポーツ施設の整備や管理について、今回、質問させていただき

ます。

いろんな壊れている箇所なんかが見受けられますけども、やはり単発での利用の方や、市外の方が利用されていて、壊れていますよと気づかれても、なかなか社会体育課のほうに連絡されることがありませんし、一般の方でも、頻繁に使用されることがなければ、あまり連絡することはちょっと面倒くさいなと思われる方も多いです。実際、私たちもよくグラウンドへ行きますけども、穴の空いたネットなんかもずっとそのままありますし、それで、今回、どのような流れで整備・管理をされているのか。

また、一番よくお話を聞く中で、水銀灯照明の製造、輸入が終了しています。ＬＥＤ化に関して、本市としてはどのように取り組まれているのかをお聞きしたいと思います。

３番目に、多目的グラウンド、よく使われる方しか分かりませんけども、多目的グラウンドって、何かものすごく使いにくい、２課にまたがっているグラウンドなんですよね。

その３つをお伺いをしたいんです。

改めて質問させていただきますけども、まず、施設の点検などはどう行っているか。

２番目に、社会体育施設のＬＥＤ化の状況はどうなっているか。

３番目に、多目的グラウンドの管理・整備の体制はどうなっているのか。

３つお聞きしたいと思います。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、稲継議員の施設の点検・修繕等についてのご質問について、まずお答えいたします。

社会体育施設の点検は、社会体育課の職員の定期的な巡視による点検、及び各施設の利用者や管理人からの連絡により異常・修繕箇所の把握を行っております。

点検により異常が見つかり、修繕を要する場合は、すぐに修繕を実施することで、利用者が安心してスポーツを楽しめるよう、適切な維持管理に努めております。

次に、照明設備のＬＥＤ化についてのご質問にお答えいたします。

社会体育施設のＬＥＤ化の状況は、武道館を含む体育館１０施設のうち、七城体育館、泗水Ｂ＆Ｇ海洋センター体育館、泗水第２体育館の３施設をＬＥＤ化しております。

また、屋内コートを含むグラウンド５施設のうち、七城グラウンド及び屋外テニスコートをＬＥＤ化しております。

また、七城屋内スポーツセンターにつきましては、現在、ＬＥＤ化の工事を実施しているところでございます。

なお、今後の社会体育施設のＬＥＤ化は、菊池市体育施設マネジメント計画及び長寿命化計画に基づき整備を進めてまいります。

最後の多目的グラウンドの管理・整備の体制についてでございますが、菊池公園多目的グラウンドの管理・整備は、施設の利用の受付につきましては社会体育課が行い、グラウンドの維持管理・整備については都市整備課が行っております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　稲継智康議員。

［登壇］

○３番　稲継智康　議員　　ありがとうございました。

まず、ちょっと順番にいきます。１番目の施設点検などはどう行っているかという私の質問に対して、社会体育課の方たちが見回ったりとか、管理人の方がされているということですけども、ちょっとその中で、それでもやっぱりなかなか修理ができてませんよということで、私、質問をしていますので、できれば年１回とか、学童クラブチームの集まりなんかがあります。学童クラブチームがやはり一番頻繁に使用されていると思います。１年に１回ありますので、その際にもまとめて意見を引き上げるとか、それともう１点、補修の時期とか、補修の可否というのがなかなか分かりにくいんですよね。

この間、ネットを修理してくださいと言いましたとかって、いつになるんでしょうね、ネットの修理はということもかなりお聞きするんですよね。その点、そういう特に道路なんかは区長さんが行って、きちっと課のほうで書かれて、管理していかれますけども、社会体育課のほうでは多分そうはなっていないと思うんですよね。ただの問合せだけのことになっていますので、その２点、今回集まりであるので、学童クラブなんか、そういう集まりか何かで聞いていただけるのか、また、補修時期とか、補修しましたという、市民に対してどういうふうにされているのか、お聞きしたいと思います。

○水上隆光　議長　　音光寺教育長。

［登壇］

○音光寺以章　教育長　　まず、学童クラブとか、クラブチームに意見を聞くということにつきましては、私と社会体育課でクラブチームを回っておりますので、そのときに聞いたものについては、適宜意見を聞いて、対応しているところでございます。

その可否については、できたところはできたということで返事はしているつもりですけど、それが行き渡ってないということでは、またそういった場において、し

ていきたいというふうに考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　ただいま議員ご質問の修繕する場所とか、修繕した場合の周知等についてお答えいたします。

社会体育施設の修繕等を実施する場合の対応は、異常・修繕箇所の状況及び対応方法を施設へ掲示することにより、利用者の方へ周知しているところでございます。

また、修繕が完了した場合は、異常・修繕箇所の連絡をいただいた利用者の方等へ連絡を行い、修繕完了した旨の報告を行っているところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　稲継智康議員。

［登壇］

○３番　稲継智康　議員　　ありがとうございました。

ぜひその終わりましたということをやはり伝えていっていただきたい。周知のほうをお願いしたいと思います。

２番目のＬＥＤ化に関してですけども、今、本市のほうの私も調べまして、大体取組なんかは調べたところですけども、ナイターに関して、ちょっとＬＥＤ化と外れるかと思うんですけれども、ナイターに関しては、ＬＥＤ化はあまりしないという方向ですけども、電球が取り替えられております。電球の色が違うんですよね。白い電球と黄色い電球になっているんですよね、特に多目的グラウンドに関して。野球をやる人にとって、フライが上がったらすごく見にくいんですよね。白い電球と黄色い電球があったら。ナイターのその電球の色を今後どっちの色に合わせていかれるのか、ただ有り合わせでこんなことになってしまっているのか、そのことをちょっとお聞きしたいと思います。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、多目的グラウンドの照明の色についてお答えいたします。

現在、多目的グラウンドの照明につきましては、白色とオレンジ色のランプを組み合わせたものになっております。これはプロ野球を行う球場でも用いられているもので、電力を効率的に使用することに加え、性質が異なる色を組み合わせることで、昼光色に近い照明効果を出すためのものでございます。

したがいまして、照明色につきましては、現状の２色を用いた形を維持していき

たいと考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　稲継智康議員。

［登壇］

○３番　稲継智康　議員　　ありがとうございました。今の説明でよく分かりましたので、私もそういうふうにお伝えしておきます。

それと、３番目の多目的グラウンドの管理の件ですけども、使われる方しか分からないと思うんですけれども、グラウンドに関しての、例えばグラウンドの中の整備の不良とかに関しては社会体育課なんですよね。Ａコートのほうのバックネットの裏のほうは都市整備課が担当なんですよね。

前回、教育長もいらっしゃいました市民ナイター野球大会のときに、上の電球が壊れたと思うんですけども、あれ、社会体育課に言わなきゃいけないんですよね。こんな分かりにくいことはないんですよね。

じゃあ、Ａコートのグラウンドのネットがありますけど、じゃあネットはどっちの課に言うんですかとか、これ何年もずっと言った課題なんですよね。じゃあ一括して、ここは社会体育課ですよ、ここは都市整備課ですよなんて、私はちょっと何年もいますので分かりますけども、一般の市民の方に、これ分かりようがないんですよね。社会体育課に行ったら、いや、都市整備課ですよ。都市整備課のほうに行ってください。一括である程度管理をしていただかないと、使う側としてもすごく不便なんですよね。その辺は社会体育課だけで決めれることもないんですけども、都市整備課も関わってきますので、今後、こういう使いにくいグラウンドに対して一括した課で、多分来年になると思うんですけども、一括した課で行ってもらうことはできるでしょうか、お答えをお願いします。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、ただいまの管理・整備を統一する考えというご質問に対してお答えいたします。

一応多目的グラウンドの管理・整備及び利用受付につきましては、今後、関係課と協議を行い、スポーツ施設として必要な修繕は社会体育課が行うなど、施設利用者が利用しやすい体制を構築してまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　稲継智康議員。

［登壇］

○３番　稲継智康　議員　　ぜひ先ほどの件は前向きに早急に検討していっていただき

たいと思います。まずもって市民の皆さんが困らないように、公共施設の整備と管理をしていただきたいと思います。

また、これに関しては、じゃあ壊れました、修理しましょうかとなると、やはり予算を伴うことになります。それで、３番目の質問をさせていただきたいと思います。

施設の修繕に関してということです。これは、実際、私、社会体育の施設整備に関して話をしていましたけども、全体的なこれは施設整備に関わるということで、本年度、予備費を増やしてもらっています。しかし、もちろんこれが全ての建物補修に充てられるわけではありません。私が議員になって一番驚いたのは、民間企業にはある建物修繕積立金みたいなのがないんですよね。それは市役所としては単年度予算ということで、積立金がないということになっておりますが、建物に関しては、建物を建てた後には、やっぱり修繕費、年々増えていくだけになります。

熊本県のほうは、４月１８日に木村知事を交えて、熊本県のスポーツ施設の現状などのシンポジウムがされております。特に熊本県のほうのスポーツ施設は、藤崎台球場が築６４年、熊本武道館が築５３年、体育館も築４２年、運動公園が築２６年となっています。

菊池市も同じようなことが起きると思っております。それで１回目の質問をさせていただきます。

現在の施設の突発的な修繕に対してはどのように対処されているのか、また、今回、施設の修繕のための緊急対応のための積立金や基金などの創設はできないのか、２点お聞きしたいと思います。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　それでは、稲継議員のご質問にお答えいたしたいと思います。

まず、１点目の突発的な修繕対応についてでございますけれども、経年劣化、また自然災害等により、施設及び設備が破損または故障を引き起こし、危険性や緊急性の高い修繕について、あらかじめ予算措置がなされていない場合におきましては、補正予算の計上または予備費の充用等にて対応いたしているところでございます。

２点目の新たに「修繕のための基金」をとのご質問でございますけれども、緊急の場合、財源調整のための基金「財政調整基金」を活用して、専決処分等によりまして修繕費の補正予算計上は可能でありますので、新たな基金の創設は予定はしていないところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　稲継智康議員。

［登壇］

○３番　稲継智康　議員　　なかなかやっぱり基金とかは難しいというご答弁でしたけども、専決で決められるということですけども、この専決するしないの考え方ですよね。一昨年ですか、総合体育館の空調の設備が壊れておりました。委員会でも見に行きましたけども、結局、６月議会で出されて、クーラーが直ったのは、夏過ぎてから直ったという状況があって、ほとんど夏の間は、総合体育館とか、トレーニングジムとか、使えなかったということがあります。これ、じゃあ専決するしないという場合は、どういう形で専決するしないというのは考えているのか、例えば予算がこれぐらいまでだったらしますとか、どこまでの緊急性なのか、その辺を教えていただきたいと思います。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　２回目の質問にお答えをいたします。

緊急な修繕等が必要な場合に、補正予算を計上するのか、専決処分とするのか、あるいは予備費の充用等を行うかは、緊急度を判断材料といたしまして、その都度、庁内で協議の上、適切な方法を選択して対応しているところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　稲継智康議員。

［登壇］

○３番　稲継智康　議員　　難しい判断だと思います。ただ、やっぱり市民の方が困らないようにしていただきたいと。ほかの施設に関しても、トイレが壊れましたけど、１か月ぐらい、トイレの工事ができなかったとか、ほか、第三セクターなんかも施設を１週間ぐらい閉めていたとか、そういうことはありますので、私たち、市民になるべく緊急にしていただくようにお願いをしたいと思います。

それで、最後に市長に、今後、公共施設の維持管理に対してどのようにお考えか、お聞きしたいと思います。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、改めまして、皆さん、こんにちは。稲継議員のほうから、公共施設の維持管理についてどのように考えるかという趣旨のご質問でございました。

公共施設等総合管理計画あるいは個別施設計画に基づきまして、計画的な改修や補修を進めてきているわけでありますけども、これを引き続き進めるとともに、定期点検や日常点検等を行って、未然に事故等を防止することに努めてまいりたいと

いうふうに考えております。

特にご質問のありました突発的な施設の修繕につきましてでありますけども、先ほど部長が申し上げましたとおり、利用者の方々にご迷惑をおかけしないよう、今後も最善な方法で迅速に対応していきたいというふうに考えております。

公共施設は、利用される全ての皆様が快適で便利に、安心安全に利用できるということが基本であるというふうに考えておりますので、今後も適切に管理をしていきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　稲継智康議員。

［登壇］

○３番　稲継智康　議員　　ありがとうございました。

ぜひ緊急なものに関しては、やっぱり早急に対応していただくことが一番だと思います。ただ、やはりこれはもう予算の要ることです。根本的に少し考えていかなきゃいけない問題だと思います。

例えば令和５年の第４回定例会で安武議員のほうから、施設維持のためのネーミングライツ事業、何度も提案されております。それが修繕費にたまればいいですし、今回、５月１６日にこども地域ＤＸ化のセミナーと展示会に参加してきました。そこで、ちょっと展示ブースなんですけども、「自治体施設管理者担当者必見！老朽化が進む公共施設の安全・安心を守り、限られた財源を効率的に活用する有効な手法のご提案をします」というブースがあったんですよ。私、真っ先にそこに行きました。これ面白いなと思って、お聞きしますと、施設を民間で包括支援管理サービスというのをされているみたいで、一括型で管理をされているというＤＸをお持ち、されているところがありました。もちろん修繕が地元の業者に来ないと、こんなん始まりませんよと言ったんですけれども、そこはもう管理だけですので、修理に関しては地元の方を使いますというのも一つの方法だと思います。

ぜひ、まずは今、ＴＳＭＣ関係により住宅政策、企業誘致とか、いろんな外から来る人に対しての支援のほうが先行していると思いますけども、まずは菊池市民の皆さんが暮らしやすいまちをつくることが一番の菊池市の誘致の方法ではないかと思います。

これで、今日の質問を終わらせていただきます。

○水上隆光　議長　　これで、稲継智康議員の質問を終わります。

ここで、昼食等のため暫時休憩します。

午後の会議は、午後１時から開きます。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午前１１時５２分

再開　午後　１時００分

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、後藤英夫議員。

［登壇］

○１０番　後藤英夫　議員　　改めまして、こんにちは。議席番号１０番、後藤英夫でございます。議長の許可をいただきましたので、通告に従い、質問させていただきます。

今回の質問の１点目は、菊池市産木材の活用に向けた取組について、２点目は、地域開発促進について、３点目は、外国人労働者への本市の対応について、最後、４点目は、北宮区、深川区、大琳寺区の道路整備について、行います。順次質問していきます。よろしくお願いいたします。

１点目の菊池市産木材の活用に向けた取組について質問します。

なお、この質問は、単に本市が公共施設などに菊池市産木材を使用してはどうかという質問ではなく、菊池市産木材をより多く活用されることで、本市の林業業界が活性化し、本市の山林の環境を整えるなど、広い意味を含んでおります。答弁のほどよろしくお願いします。

菊池地域の森林は、菊池地区から旭志地区にかけて一体的にまとまった広い地域にあります。標高の高い鞍岳や八方ヶ岳もあり、降水量も多く、水源涵養機能を高め、地下水保全にも大きく貢献しています。これは森林の大きな恵みの一つだと言えます。

また、本市にある竜門ダムは、農業用水や工業用水の重要な役割を果たしています。２千年の米作りの歴史、豊かな水資源が育む全国屈指の酪農や畜産業など、菊池地域で育った木材には他の地域と違う独自のストーリー性があります。

ＴＳＭＣをはじめ、多くの水資源を必要とする企業が本市近くに建設されている昨今、森林の果たす役割は大きく、林業をより活性化する必要があると思います。そのためには、菊池市産の木材が多く利用されることがとても重要なことだと考えますが、菊池市産木材の活用に向けた本市の考えを教えてください。

次に、森林認証を活用する考えを質問します。

森林認証制度とは、森林が適切に管理されていること、使用される木材が、その森林由来であることを証明する仕組みです。１９９２年にブラジルのリオで開催された地球サミットが契機となり、世界規模での森林面積の減少や、森林環境の悪化、違法伐採等の森林問題解決の一つとして、持続可能で適切な森林管理の実現が求め

られ、国際的な森林認証制度が誕生しました。

森林認証制度は、独立した第三者認証機関が一定の基準に基づき審査を行い、森林管理の認証であるＦＭ認証と、加工流通の林産物認証であるＣｏＣ認証の２つの認証制度で成り立っています。

また、森林認証制度はＳＤＧｓとの親和性が高く、その達成に貢献する有効な制度です。ＳＧＥＣ認証製品、ＰＥＦＣ認証製品を作り、扱い、そして選択することで、１７番目の項目であるパートナーシップで目標達成しようの持続可能な開発目標の貢献にもつながります。森林認証を通じ、人と森との共存関係、林業従事者の雇用、林産物など、様々な関係に貢献します。持続可能に管理された森林とその森林由来の製品は、まさにＳＤＧｓに重要な役割を果たしています。

一方、森林認証制度にはコストがかかります。例えば天竜材で有名な静岡県浜松市では、昨年度の審査料は１３５万円ほどかかったそうで、市が一般財源からその半分を支出しています。

本市も菊池市材としてブランド化し、多くの工務店などで活用していただきたいと思うのですが、森林認証制度を活用する考えを教えてください。

菊池市産木材の活用に向けた取組について、要旨の３番目は、Ｊ－クレジットを活用する考えを問いたいと思います。

Ｊ－クレジット制度とは、省エネルギー機器の導入や、森林経営などの取組による、CO_2などの温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして国が認証する制度です。

熊本県では、２０１９年１２月、国に先駆けて、２０５０県内CO_2排出実質ゼロを目指すことを宣言しています。２０２１年７月には第６次熊本県環境基本計画を策定し、２０３０年度に温室効果ガスを２０１３年度比で５０％削減を目指すことにしています。また、この計画の中で、適切な森林管理によるCO_2吸収量をクレジット化し、カーボン・オフセットに取り組むことを示しています。

県内では、小国町が町有林の間伐推進活動を通じて創設されたＪ－クレジットを調達し、クレジット売却益を森林組合が推進する林道整備や植林などの森林整備活動の資金として活用しています。Ｊ－クレジットを活用した仕組みを関係者で創意工夫しながら導入することで、ブランド化が確立され、木材の利用の増加につながっているようです。

Ｊ－クレジットという言葉は、令和３年第３回定例会で当時の城議員が、本市区域内の農地におけるカーボン・オフセットの活用について質問された際、当時の市民環境部長がＪ－クレジットの制度に基づくバイオ炭の活用による農地への炭素貯留の取組について答弁された際、使用された言葉です。

当時は農地への活用について、先進地事例を調査研究を進めながら、関係機関と協議していきたいと答弁されておりますが、今回の質問は、菊池市産木材の活用に向けた取組について聞いておりますので、森林由来のＪ－クレジットに絞った質問になりますが、Ｊ－クレジットを活用する考えを教えてください。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、１点目の木材の活用につきましては、平成２４年１１月２２日から施行しております、菊池市建築物等木材利用基本方針で、市内の建築物等における利用促進に関し必要な事項を定めております。

具体的には、公共建築物及び民間建築物につきまして、県内で生産または製造された県産資材の使用を優先するよう定め、県産材の利用促進を行っているところです。

次に、２点目の森林認証の活用についてお答えいたします。

森林認証は、独立した第三者機関が一定の基準等に基づき、適切な森林経営や持続可能な森林経営が行われている森林または経営組織などを審査・認証し、それらの森林から生産された木材・木材製品を分別し表示・管理することにより、消費者の選択的な購入を通じて、持続可能な森林経営を支援する取組です。

認証を取得した場合、信頼のある木材を適正価格で販売することで、健全な森林経営を継続でき、加工業者は企業としての取組姿勢をアピールできるだけでなく、製品の差別化を図れます。

ただし、森林経営者側だけで認証を取得するだけでは、認証森林から算出される木材を認証材として消費者に届けることができません。地域の素材生産者や製材業者、工務店などが認証を取得し、業界一体となっての取組が必要となってきます。

また、取得する際には、第三者機関の実施する審査に合格し、毎年監査を受ける必要があり、その費用負担も多額となりますので、森林関係団体等の動きがあれば、行政も協力していきたいと考えております。

最後に、３点目のＪ－クレジットの活用についてお答えいたします。

議員がおっしゃられましたように、Ｊ－クレジット制度とは、省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの利用による二酸化炭素等の排出削減量や、適切な森林管理による二酸化炭素等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度であり、本制度を活用してクレジットを創出し、また、創出されたクレジットの活用を通じ、地球温暖化対策への積極的な取組のＰＲを行うことや、クレジットを企業等へ売却することで、売却益を得ることができます。

本市では、令和３年第３回定例会の城議員への答弁でお答えしましたとおり、くまもと連携中枢都市圏におきまして、構成しております１８市町村の区域ごとに、温室効果ガスの排出量削減に関する試算を行っております。

この試算によりますと、本市区域では市民生活をはじめ、基幹産業であります農林畜産業、そして、商工業などの事業活動に伴い排出される、二酸化炭素等などの温室効果ガスの排出量と本市区域内に存在しております森林の吸収量との比較では排出量が上回ってしまい、市内の森林のみでは補うことができない試算が出てきております。

このような結果から、Ｊ－クレジットにつきましては、現段階での活用は難しいと考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　後藤英夫議員。

［登壇］

○１０番　後藤英夫　議員　　Ｊ－クレジットの活用は難しいということでございました。

現在、本市に多くの住宅やアパート、マンションが建設されています。近い将来はホテルや店舗など大きな開発があるかもしれません。その際はなるべく多くの菊池市産木材を活用していただきたいと願っています。

森林認証制度は菊池市産木材のブランド化につながると考えます。森林認証制度には確かに毎年コストがかかります。Ｊ－クレジットの売却益や森林環境譲与税を活用するなどとして、関係者で創意工夫しながら導入することで、森林が活性化し、菊池市産木材の活用につながっていくと考えます。また、この場合、森林計画によって生まれるのがＪ－クレジットと思いますので、試算をちょっと考え直してみたらどうかと私は考えます。

Ｊ－クレジット購入企業などの多くは、その購入に際し、価格、量、自社のCO_2排出量のオフセットといった観点のほかに、自社事業との親和性や地域への貢献などのストーリー性も踏まえて、購入するＪ－クレジットを決定することが考えられています。

繰り返しますが、菊陽町に進出したＴＳＭＣは、本市にある竜門ダムの恩恵を受けることになります。菊池地域には他の地域と違う独自のストーリー性があります。ＴＳＭＣなどの本市近郊や、また本市へ進出する企業が菊池地域のＪ－クレジット購入する意義、それから期待は大きいと考えます。

最後に、菊池市の森林、林業の活性化に向けた市長の意気込みを聞かせてください。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、ただいまの後藤議員のご質問、林業の活性化に向けた思いということでございますかね。当初、森林に対する思いをというふうに伺っておりました。いずれにしても、今回のご質問というのは、広い意味での木材活用についてと、その文脈の中での森林あるいは林業に対する考えを述べよというご趣旨というふうに理解しますので、その文脈でお答えしたいと思います。

まず、本市の森林でございますけども、ご存じのとおり、本市の総面積が約２万７，０００ヘクタールございますけども、森林面積は１万５，１００ヘクタール余ということで、全体面積の約５５％を占めておるわけでございます。

その森林が、木材等の林産物の供給というふうな産業としてのみならず、水源の涵養であるとか、地球温暖化の防止あるいは生物多様性の保全、それから菊池市としましては、観光あるいは健康促進の場として、非常に様々な多面的な機能を有しておりますので、それぞれの機能を通じて、様々な恩恵を私たちにもたらしてくれる非常に重要な資源であるというふうに考えております。この重要な資源を長期的に保全しながら、かつ活用していかなきゃいかんということでございます。

そういう意味では、担い手というのは非常に重要になってくるわけでありますけども、幸い本市におきましては、林業研究グループなどの若い担い手の方が大変多くて、かつ大変活躍していらっしゃるということで、こういうふうな未来を担う人材が希望を持って林業に取り組んでいけるように、森林環境譲与税というものもできておりますので、これを有効に活用しながら、長期的に森林保全を進めていきながら、バランスの取れた活用を図っていきたいと、こういうふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　後藤英夫議員。

［登壇］

○１０番　後藤英夫　議員　　ありがとうございました。

それでは、本日、２点目、地域開発促進について質問します。

現在、菊陽町にＴＳＭＣ第２工場が決定し、本市でも三菱電機のパワー半導体工場、それから、県の工業団地には東京応化工業が進出しています。また、多くの企業が進出に意欲を示すなど、様々な変化が起こっています。

本市では、このような変化を踏まえて、農地や山林等が無秩序、無計画に開発されることを抑制するためにゾーニングを行っています。宅地、商業、工業を誘導するゾーンを設定することで、農地や地域とのバランスを保ちながら、地域開発を促進していきたいと本市のホームページに載っておりましたが、さらに、快適で秩序

あるまちづくりを行うため、都市計画区域や用途地域を定める考えはあるのでしょうか。また、現在の社会情勢の変化は著しく、本市全体でも都市計画区域や用途地域の見直しが必要だと思いますが、本市の都市計画の考えを聞かせてください。

次に、インフラ整備の見通しを教えてください。

この質問は、ゾーニング設定地域の道路や上下水道、それから、合併浄化槽などをどのように計画的に配置するのかといった内容に絞った質問です。

住宅や事業が本市のゾーニング設定地域に進出を考える際、特に考慮するポイントだと思います。答弁をお願いします。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　それでは、ただいまの後藤議員の質問にお答えいたします。

現在の都市計画区域は、平成２０年３月に菊池地域、旭志地域の一部及び泗水地域の全部を範囲として指定された５，６２４ヘクタール、用途地域は平成２５年９月に決定された隈府地区を中心に第１種住居地域をはじめとする７種類の用途地域３６７．６ヘクタールとなっております。

今後の方向性についてですが、令和６年度から２か年をかけて都市計画マスタープラン改定に着手しており、ＴＳＭＣ関連企業の進出における周辺地域の動向や、本市のゾーニング等の定住化施策を計画に反映しながら策定してまいります。

次に、インフラ整備についてですが、開発を検討している区域によって状況が異なりますが、インフラ整備が必要な場所には、開発業者が整備を行う際に、市が整備を支援する方向で検討しているところです。

また、民間事業者の宅地開発における道路や側溝設置への補助金や集合住宅用浄化槽設置への補助金も申請により交付しているところでございます。

合併浄化槽、地域によってちょっと違うんですけども、インフラ整備が必要なところに関しましては、先ほど申しましたように、開発に合わせて、開発の状況によってしますけども、開発業者が整備を行う際に支援をしたいと考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　後藤英夫議員。

［登壇］

○１０番　後藤英夫　議員　　見通しのはっきりとはよく分からなかったところはあるんですが、開発業者が来てからということで、また考えていただきたいと思います。

本市では、快適で秩序あるまちづくりを行うため、都市計画区域を定め、その区域内において、機能的で良好な環境を有する市街地を形成することを目的に用途地域を設定しています。

ところが、現状では本市中心部より西側の上西寺区から野間口区にかけては、特に住宅やアパートが多く建設されていますが、用途区域ではありません。大琳寺区から深川区は田畑が多いのに用途地域で、上西寺区から野間口区は住宅やアパートが多いにもかかわらず用途地域外なのは少し違和感があるといった市民の声もあります。

市内の不動産業界の方からお話を伺うと、用途地域外だと農地転用の際、土地と建物を両方合わせた資金証明が必要で、用途地域内だと土地のみの資金証明で転用が可能な場合があるそうです。このことは市外の大手の不動産屋さんだと資金も豊富で問題ないのでしょうが、市内の不動産屋さんの間では大きなハードルとなっているそうです。住宅地近くに田畑がある場合、それが用途区域にあると、市内の不動産屋さんが農地転用の後に売買契約を行い、また、その土地を市内の不動産屋さんが市内の工務店や大工さんに仕事を発注し、市内でその材料の調達や雇用が生まれるなど、経済の好循環に期待できます。

用途区域を市内中心部より南側や西側へ広げる考え、上西寺区から野間口区を用途区域に追加する考えはありませんか。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　それでは、ただいまの後藤議員から質問がありました、新たな用途地域の考えについてお答えいたします。

西寺、野間口地域では、近年、住宅開発が活発に行われている地域になります。用途地域の指定に際しましては、その地域に強い規制をかけることとなるため、地域ごとの土地利用の現状及び動向、具体的な開発計画、都市施設の整備状況等を勘案して都市計画審議会で審議いただく必要があります。

用途地域の指定につきましては、今、新たに改定される都市計画マスタープランの方針を基に、都市計画審議会によりご意見を伺いながら検討してまいりたいと思います。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　後藤英夫議員。

［登壇］

○１０番　後藤英夫　議員　　次に、外国人労働者への本市の対応について質問します。

この質問は、令和元年第１回定例会で行った本市の外国人労働者と外国人技能実習生について、その実態、課題についてという質問と似たような質問ですが、当時から５年余り経過した現在、地域情勢の大きな変化があり、同じ趣旨の質問を改めて行いたいと思います。答弁のほどよろしくお願いします。

当時を振り返りますと、本市には約４００名の外国人がいらっしゃると答弁されていました。課題としては、住居確保の課題があったようです。また、将来的には外国人の定住化が進んでいくと考えられる。外国人との共生については、文化や生活習慣の違いを認め、生活者として受け入れ、孤独にさせない取組が欠かせないとの認識を述べられています。

さらに、お互いをどう理解していくかという取組が重要である。取組の先進事例としては、日本語習得のための手助けや、外国の文化を学ぶ講座の開催といった多文化共生への取組や、防犯・防災等、非常時の対応などがあり、今後の状況を踏まえて適切に対応していきたいと力強い答弁をいただいております。

繰り返しますが、前回の質問から５年余り経過した現在、社会情勢の変化は著しく、菊池市在住の外国人は１，３００名になると言われています。本市における外国人労働者、外国人技能実習生の状況と課題を質問いたします。

○水上隆光　議長　　宇野木市民環境部長。

［登壇］

○宇野木浩二　市民環境部長　　改めまして、こんにちは。外国人労働者の登録状況につきましてお答えします。

令和元年第１回定例会で答弁しましたとおり、平成３１年３月３１日現在の在住外国人数は約４００人、うち９割の約３６０名が技能実習生でございました。

令和６年３月３１日現在の在住外国人登録者数は１，２３１名となっており、うち約８割の１，０００名が技能実習生でございます。

在住外国人登録者数の出身国別の人数上位３か国につきましては、ベトナム、フィリピン、インドネシアの順となっております。

次に、課題に対する対応につきまして、主なものをお答えします。

外国人への災害対応としましては、避難所や避難場所であることの英語表記を行うとともに、市ホームページや防災・行政ナビにおいても外国語表示ができる体制を整えております。

ごみの分け方・出し方につきましては、令和元年度までの簡易的なごみの分類表から、英語、中国語、ベトナム語及び韓国語の４か国語にわたる新たな分類表を作成し、令和２年度より市民課での転入手続の際に配布するなどの周知を行っております。

併せまして、市内企業への配布や、令和２年３月１日（後に発言の申出があり、「令和２年３月１日」を「令和２年４月１日」へ訂正）より運用を開始しました、ごみ分別アプリの検索メニューの一つとして掲載するなどの周知を図っております。

そのほか、令和２年度より家庭ごみを排出する際の指定ごみ袋に関しましても、

先ほど申し上げました４か国語の表記を追加しているところでございます。

このような取組の実践により、外国人労働者に対する正しいごみの分別方法等に関する理解促進につながっているものと考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　後藤英夫議員。

［登壇］

○１０番　後藤英夫　議員　　ごみ出しのことに関しては、すごくやっておられるかと私も思います。

今月４日、国際交流協会主催の各企業・団体の外国人受け入れ担当者情報交換会が開かれました。１５企業、２３名の参加があったそうです。その中で、外国人労働者の医療機関受診の問題が提起されました。各企業とも通訳者を雇用しておらず、受診しても問診票が日本語のために理解できない、書けないとの問題点があるとのことです。この課題は企業自体で解決できる問題ではなく、行政、議会、菊池郡市医師会が一緒になって取り組むべき課題だという意見が出されたそうですが、私もそう考えます。

本市在住の外国人は、先ほど答弁ありましたが、１，２３１名に上ります。本市の各産業の大切な担い手であり、行政的にも交付税の恩恵にあずかっていると思います。何か本市にできることはないのでしょうか。

例えば、多文化共生講座で医療機関の受診方法や問診票の書き方を取り入れる。市役所窓口や電話、アプリで多言語対応の医療機関を案内する。市役所窓口やアプリで医療機関の受診方法や問診票の書き方などを教える。この場合、窓口対応が困難な場合は、小冊子などを配布する。続きまして、菊池養生園で多言語対応のスタッフなどで対応可能とし、外国人を案内する。国際交流協会、企業、行政で、課題解決に向けた意見交換の機会を増やす。外国人に向けたワンストップ窓口を新設し、より横断的な対応を可能にする。私はさきに述べたような内容であれば、本市の取組として可能性はあると考えますが、外国人による医療機関受診時における諸問題の現状認識と解決に向けた本市の考えを再質問いたします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　外国人の方が医療機関を受診されたときの諸問題の現状と認識ということでございます。

本市におきまして、外国人の方が医療機関を受診される際の支援につきましては、現在のところ、市が主導して行っている支援制度はございません。

県が策定しました第８次熊本県保健医療計画におきまして、菊池圏域では、ご指

摘のような課題が考えられるということで、外国人の方の外来受診の利便性向上と適切な受診を進めるために、「受診方法の案内や他言語表記のホームページの周知」などが記載されております。

具体的には、「他言語機能を備えた医療機関等検索システム」や、事業所や医療機関等が事前登録することで通訳サービスが利用できる「他言語コールセンター」などがございます。

本市としましては、このような県の支援制度の周知啓発を行い、また、医師会からも外国人の方が受診された際の困り事などをお聞きしながら、今後、どのような対応が必要か調査を行ってまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　後藤英夫議員。

［登壇］

○１０番　後藤英夫　議員　　外国の方をしっかりお迎えして、経済活動をしていただくためにも、しっかりと調査研究を行っていただきたいと思います。

最後に、４点目、北宮区、深川区、大琳寺区の道路整備について質問します。

今回の質問は、北宮区、深川区、大琳寺区の範囲内の２か所の里道、農道についての質問です。今回は里道ですけども、農道という表現にしたいと思います。

地元市民から市道認定、道路改良の要望が出ております。当該箇所の道路整備について、今後の見通しと課題を質問いたします。

１か所目は、北宮団地から国道３８７号へつながる農道の市道認定拡張、それから、２か所目は、１か所目の農道から南の国指定史跡菊之城跡へ延びている農道の市道認定、拡幅を道路改良対象としていますので、順次質問します。答弁のほどよろしくお願いします。

まず、１点目の北宮団地から国道３８７号へつながる市道の市道認定、拡幅についてですが、北宮区、深川区、大琳寺区の市民の声を代弁して、過去に３回ほど、市道認定、道路改良の早期着手・着工について、一般質問をしております。また、菊之池地区区長会長、北宮区長、深川区長、大琳寺区長がおそろいになり、２回直接市長に要望書を提出している箇所ですので、本市のほうでも十分に把握されていることと思います。

過去に質問させていただいた際の答弁を振り返りますと、平成２５年度に測量設計の業者委託を発注し、その後、現場への立入りの同意や、地元説明に不測の期間が要したので、平成２６年度に繰り越した。さらに平成２６年度に作業等を続けていた中で、同年１１月に大型商業施設の出店報道がなされて、計画次第では道路の線形や幅員が設計どおり施工できないという可能性があるため、平成２６年度、平

成２７年度の早い時期に中止している。本市の道路改良は、道路整備マスタープランに基づき整備の優先順位を決めているが、国道３２５号の４車線化など、地域情勢の変化により、整備の必要性が高くなった場合は、状況に応じて対応を図りたいなど、当時の建設部長から答弁をいただいております。

最後の質問からちょうど３年、現在は国道３２５号の４車線化も進んでまいりました。また、ＴＳＭＣインパクトなど地域情勢の変化により、整備の必要性が高くなったと言えるのではないでしょうか。

２か所目は、さきに質問した１か所目の農道から南の国指定史跡菊之城跡へ延びている農道の市道認定、拡幅についてです。

これは国指定史跡に決定した菊之城跡のアクセスに必要な道路だと考えます。また、この農道を並走する井手についても整備がされておらず、とても中途半端な状態だと地元市民からの声があります。

この２か所の農道について、市道認定、道路改良、早期に行ってはどうかと思いますが、今後の見通しと課題を質問します。

要旨の２点目も続けますが、この２か所の農道は、国指定史跡菊之城跡に近く、周知の埋蔵文化財包蔵地に該当する可能性が高いと考えられます。埋蔵文化財包蔵地を開発する際には、文化財保護法にのっとった手続が必要であり、場合によっては、埋蔵文化財の発掘調査が必要になります。埋蔵文化財の発掘調査は、基本的に原因者負担ですから、本市が埋蔵文化財の保存に努める必要があり、市の費用により実施することになろうかと思います。また、発掘調査には、埋蔵文化財の有無や範囲、時代背景を確認するために、確認調査と本調査とがあるようですが、本市では過去に当該箇所に測量設計の業者委託を発注しています。道路改良などの事業費を割り出すためにも、試掘・確認調査は不可欠だと思いますが、この２か所の道路及び当該農道付近で試掘・確認調査を計画または実施したことはありますか。当該箇所の発掘調査現状を教えてください。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　それでは、ただいま後藤議員の質問にありました１番目の道路整備のほうについて、私のほうでお答えさせていただきたいと思います。

北宮団地付近から国道３８７号線をつなぐ道路、これと接続する里道ということで、これの整備につきましては、現在正式な計画はない状態でございます。

ただし、本市としましても、この地域につきましては、非常に注視している場所でもあります。

今後も民間の動向や地域情勢を見据えながら、慎重に調査検討を進めていきたい

と考えております。

また、道路整備の大きな課題としましては、用地の取得や埋蔵文化財の調査等が考えられます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、埋蔵文化財発掘調査の現状についてお答えいたします。

２か所の農道部分は埋蔵文化財包蔵地内となっております。

１か所目の農道周辺につきましては、民間開発における調査依頼に基づき、これまで確認調査を実施しております。その結果、農道より北側の農地については、埋蔵文化財が残っていることが判明しております。

２か所目の農道は国指定史跡菊之城跡に隣接しており、国指定史跡周辺での民間開発の調査依頼があっていないため、確認調査は実施しておりませんが、この国指定史跡に関連する遺構が残存していることが予想されているところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　後藤英夫議員。

［登壇］

○１０番　後藤英夫　議員　　埋蔵文化財包蔵地ということで、試掘・確認調査を実施すれば、その結果、埋蔵文化財の有無や範囲、時代背景などがしっかり分かって、道路計画、改良などの事業費の割り出しなど、しっかりした計画が立てられると思います。道路のことを今まで質問してきましたけども、そこについてはよく分からないという回答が多かったので、こういった質問をしました。

現在、本市では、官民問わず、試掘・確認調査の必要があれば、地権者の同意のある調査依頼に限り、事業が未確定であっても、試掘・確認調査を実施する認識をお持ちだと思いますが、この２か所の道路改良事業を一歩でも前に進めるために、この当該道路の地域のところを試掘・確認調査業務に取り組む考えはありませんか、もう一度お聞きします。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、試掘・確認調査業務に取り組む考えについてお答えいたします。

現在のところ、開発の計画がないため、農道部分の確認調査は予定しておりません。

今後、地権者の同意を得た開発業者から調査依頼があれば、教育委員会で対応したいと考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　後藤英夫議員。

［登壇］

○１０番　後藤英夫　議員　　この地域の発展のために、建設部のほうで計画するつもりはあるのかということを、しっかりもう一回答弁をお願いします。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　それでは、ただいまの後藤議員の質問にお答えいたします。

最初の答弁のほうでもお答えさせていただきましたけども、今後の民間の動向や、地域情勢を見据えながら、慎重に検討を進めたいと思っております。

以上、お答えさせていただきます。

○水上隆光　議長　　後藤英夫議員。

［登壇］

○１０番　後藤英夫　議員　　調査研究を進めながら、ぜひ一日も早い着工をお願いしたいと思います。

質問を終わります。

○水上隆光　議長　　これで、後藤英夫議員の質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後１時４６分

再開　午後１時５５分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、島春代議員。

［登壇］

○５番　島春代　議員　　改めまして、皆様、こんにちは。議席番号５番、公明党、島春代です。暑い日が続いていますが、やっと梅雨らしい恵みの雨という時期がやってまいりました。大きな災害が起こらないことを願うばかりです。

では、通告に従いまして、質問していきたいと思います。

まず、帯状疱疹ワクチン接種への助成について。

帯状疱疹ワクチン接種の助成については、昨年６月定例会で質問させていただき、同じく緒方議員も質問されました。その後も全国の多くの自治体が公費助成を開始

されていますので、再度、改めて質問させていただきます。

帯状疱疹についても、また同時に、ワクチン接種が有効であるということも、テレビやネットなどで聞かれるようになり、多くの皆様に情報が行くようになりました。認識もされるようになったのではないかと思っています。

前回質問の部長答弁では、ワクチンの助成については、国の動向を見ているとのことでしたが、その後も助成制度を導入している自治体が県内外で増えていて、昨年４月時点ではワクチンの助成を導入しているのは２００自治体でしたが、本年５月末では６４４自治体と３倍を既に超えて増えています。熊本県内では１２市町村で、このうち８市町村が本年４月以降、開始したと聞いております。

まず、このように助成制度導入が増加していることをどのように受け止めておられますか、質問いたします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　帯状疱疹ワクチン接種の助成につきましては、先ほど島議員のほうからもご紹介ありましたが、前回の答弁で、「今後、国の動向を注視していく」と答弁させていただいたところでございます。

その後の国の動向につきましては、定期接種化に向け、帯状疱疹ワクチンの有効性、安全性、費用対効果などについて、引き続き慎重に検討されていると伺っております。

先ほどご紹介がありましたとおり、全国、県内でも助成を行っている自治体が増えてきていることは、市としましても認識をしているところでございます。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　島春代議員。

［登壇］

○５番　島春代　議員　　増えてきているということは認識されておられるということでございました。

帯状疱疹は加齢に伴って発症するということで、不安に思っておられる市民の方も少なくありません。地域の方で重症化した方の話を聞き、ワクチン接種を希望されている方もおられます。

病状については、皆さん、ご存じのことと思いますが、子どものときに感染し、発病した水ぼうそうのウイルスが治った後も、生涯体内に潜んでいたものが水痘・帯状疱疹ウイルスとなって発病いたします。加齢とともに、ストレスや疲労、またはがんや糖尿病など、免疫の働きが低下する病気にかかっている方、免疫の働きを抑える薬を服用されている方など、免疫機能が低下すると再び発病することがある

と言われております。発病してできた水疱と服が少しすれても痛いと言われるように、刺すような傷みや、後遺症となる帯状疱疹後神経痛（ＰＨＮ）に長く苦しむ方もおられます。そのことで日常生活動作の低下や、合併症の悪化などの弊害が大きくなります。５０歳以上の帯状疱疹患者さんの中で、この神経痛（ＰＨＮ）に移行するリスクは約２０％おられると日本疫学調査で推計されています。

国立感染症研究所感染症疫学センターの資料では、帯状疱疹は体内に潜伏しているウイルスが原因で発病するため、ほかの人から帯状疱疹としてうつることはありませんが、水ぼうそうにかかったことがない方は、ウイルス感染で水ぼうそうを発症することがあるそうです。水ぼうそうの入院患者さんのうち、約３割は帯状疱疹が感染源だったと報告されています。

ワクチン接種をすることで、重症化を抑えることや、家族への感染も避けられる可能性があります。このように、ワクチン接種する意義は大きいと思いますが、効果や必要性についてはどのように考えておられますか。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　再質問にお答えします。

帯状疱疹ワクチンにつきましては、生ワクチン、それから不活化ワクチンの２種類があり、接種方法や効果等が異なります。

国の資料によりますと、現段階では、生ワクチンの発症予防効果は１年で６８．７％、持続性が５年程度、不活化ワクチンの発症予防効果は１年目で９７．７％、持続性は１０年程度とされており、ワクチン接種の効果につきましては、一定の効果があるというふうに認識をしているところでございます。

一方で、生ワクチンの効果の持続性やワクチンの有効率が年齢とともに低下するといった研究結果もあり、先ほど申し上げましたとおり、現在もワクチンの有効性や安全性、効果的な接種時期などについて、国において議論がなされているところでございます。

ワクチン接種の必要性という点では、現在のところ、帯状疱疹ワクチンは任意接種の取扱いでありますので、ワクチンの効果や副反応等についてご理解の上、個人の判断において接種されるものと考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　島春代議員。

［登壇］

○５番　島春代　議員　　効果については、一定の効果があるという認識と、あと必要性としては個人の判断ということで考えておられるということでした。

地域のワクチン接種を希望されている方からは、効果はあるのに、費用の負担が大きいため、接種することを踏みとどまっておられることをお聞きします。助成をすることで接種人口を増やし、医療費の削減や経済的損失を防ぐことができるのではないでしょうか。

菊池市で帯状疱疹により受診され、治療された方の人数を健康推進課で調べていただきました。ありがとうございました。

５０歳から７４歳の国保被保険者の方だけにはなりますが、令和４年１１４人、令和５年１０３人でした。これは国保被保険者の方だけでしたが、これに加えて、さらに５０歳から６０歳代の会社員の方など、社会保険被保険者の方々や、７５歳以上の後期高齢被保険者の方々、帯状疱疹で受診された方々が少しでもおられたと考えますと、受診数は１２０人、１３０人、それ以上ではないかと予測しております。

では、医療費ですが、菊池市の本年４月末の５０歳以上の人口、これは１万２，３３７人でありました。日本疫学調査を基に、年齢層別帯状疱疹発症率を係数とした帯状疱疹患者数の推計では、この５０歳以上人口１万２，３３７人で算出しますと、１年間の患者数が１３８人、これは先ほどの国保被保険者の方が、実際、治療された人数に大きな差異はないと思われますが、帯状疱疹後神経痛（ＰＨＮ）にかかった方が２９人との人数が出ております。そして、それにかかる医療費の試算としては、８３３万２，８３３円かかったとなっております。５年程度の予防効果がある１回接種の生ワクチンが約８，０００円、９年程度の効果がある２回接種の不活化ワクチンが約４万円程度であります。

全国の公費助成自治体の助成額では、多くの自治体が助成しているのは半額助成でありまして、菊池市もワクチンの半額の、不活化ワクチン４万円の半額の２万円、それから生ワクチン８，０００円の半額４，０００円を助成すると試算します。

それから、ワクチンの選択率、これは接種希望者が不活化ワクチンか、生ワクチンか、どちらかを選択するかですが、全国の実施割合から、不活化ワクチンを接種された方７割、生ワクチンを接種された方４割の選択率であります。これを参考にして、対象人口の接種率の３％の３７０人がワクチン接種を受けられると想定したら、助成金額は５６２万４，０００円となります。

治療にかかる医療費８３３万２，８３３円、これに対して公費助成額５６２万４，０００円、この差額は２７０万８，８３３円となります。公費助成制度を導入しても、約２７０万円ほどの年間医療費削減ができるということになります。これは推計値の試算ではありますが、この２７０万円近く医療費削減になり、効果のある事業であると私は思いますが、このことはどのように考えられますか。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　医療費の削減効果について、どのように考えるかというご質問かと思います。

本市の国民健康保険、後期高齢者医療保険におきましては、健康診査等の保健事業をはじめとし、医療費抑制に取り組んでいるところでございます。

先ほど議員のほうからご紹介いただきました、ワクチン接種における医療費の削減効果につきましては、情報の一つとして参考にさせていただきたいというふうに考えます。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　島春代議員。

［登壇］

○５番　島春代　議員　　先ほどの医療費２７０万円近くは、かなり菊池市として削減になるかと思いますし、ワクチン接種を希望されている方が安心してワクチン接種を受けられるように考えてもらいたいと思います。

健康寿命が延びている状況の中で、医療費を削減することと、市民の健康を守る観点からも、さらに要望のあるこのワクチン助成は必要であると思います。全国の助成を行う自治体はこれからも増えていくのではないかと思われます。

それで、市長へお伺いしますが、本市に助成制度を導入する考えは改めてないでしょうか。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、ただいまのご質問、帯状疱疹ワクチン接種の助成をどう考えているかというご質問でございました。

部長のほうからご説明しましたとおり、帯状疱疹ワクチン接種の助成に関しましては、その効果の持続性であるとか、接種に最適な対象年齢であるとか、あるいは安全性等も含めて、現在も国において検討が続いておるものというふうに認識をしております。

今後も、国による検討状況や、他自治体の動向等を注視しながら、引き続き調査研究を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　島春代議員。

［登壇］

○５番　島春代　議員　　国の動向を見て検討するということですが、市民の要望が多

いこと、それから、医療費も削減できるということ、安全性も考えた上で、ワクチン助成の導入を考えている自治体も増加しているということを考えますと、菊池市でもできるだけ早く助成の導入をしていただけるようお願いして、次の質問に入ります。

次は、軟骨伝導イヤホンの設置について。

菊池市役所を訪れられる来庁者の方の中には、耳が聞こえづらい方や、窓口では大きな声で話さなければならない方もおられるのではないかと思います。新型コロナウイルス感染症拡大時はどこでもお客様との対面時に、感染対策でアクリル板や透明シートなどを使われていて、会話が遮られて、普通でも聞こえづらく、不便を感じたことを思い返します。

現在はアクリル板を見ることもゼロではありませんが、随分少なくなりました。ふだんから聞こえが悪い方や、聞こえづらく、不自由を感じておられる方に対しまして、本市での窓口対応はどのようにされていますか、お聞きします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　加齢や障がいなどにより、聞こえづらい方への対応につきましては、それぞれの窓口で、その方の聞こえの状況に応じて、聞き取りやすいよう低めの声で話したり、静かな場所に移動してお話を伺ったり、場合によっては筆談をするなど、聞こえづらい方に配慮した対応を行っているところでございます。

また、窓口にはマイクから入力された音声を聞き取りやすいクリアな音声に変換するスピーカータイプの対話支援器を、福祉課や高齢支援課、保険年金課、市民課、税務課、及び各支所・公民館の窓口に、合計１２台設置をしております。必要に応じて使用しているところでございます。

そのほか、高齢支援課には耳に当てて音声などを聞きやすい大きさにする音声拡張器も１台設置をしております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　島春代議員。

［登壇］

○５番　島春代　議員　　それぞれの不自由な方に対して、場所を変えたり、筆談、あとスピーカー、音声拡張器と、いろいろ様々に対応しておられるようです。

聞こえづらい方への対応は、窓口としても声が大きくなることにより、ほかの来庁者への配慮やプライバシーの保護を欠かないかなど心配はあると思われます。対応機器は置いてはありますが、拡張器ということで、窓口対応時、来庁者と職員、双方が不便を感じたり、不具合などで時間を要したりなどの意見とかはないでしょ

うか、質問です。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　窓口対応で苦慮していることというお尋ねかと思います。

聞こえづらいことによりまして、市民の方からの苦情等は、特に把握はしていないところでございます。

現在のところ、聞こえづらいことで窓口対応に特に苦慮はしておらないところでございますが、今後も市民の方に寄り添った、丁寧な対応を心がけてまいります。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　島春代議員。

［登壇］

○５番　島春代　議員　　苦情等はないということですが、大きな声で説明したり、コミュニケーションを取るときに、やはりプライバシーの保護や配慮も必要かと思います。

そこで、軟骨伝導イヤホンというものがございます。これを窓口に導入してはいかがでしょうか。軟骨伝導イヤホンは、耳の軟骨、この耳たぶから少し耳の穴に入ったところまでが軟骨と言われておりますが、この軟骨を使用して音を伝達させます。軟骨伝導は耳の入り口付近にある軟骨に振動を与えることで、耳の中で音源を発生し、空気の波が伝わって鼓膜が震え、音が聞こえる仕組みでございます。これは一般的な空気が振動して伝わる気道や、頭蓋骨を振動させ、音として伝わる骨伝導に次ぐ、第３の聴覚経路と言われています。軟骨伝導イヤホンは、イヤホンを耳のくぼみ、この耳たぶの上、くぼみに軽く乗せる感じで利用でき、従来の骨伝導イヤホンと違い、頭部を圧迫することもないため、装着時の痛みはほとんどありません。軟骨の振動で耳の中で音が伝達する仕組みのため、音量を上げなくても非常によく聞こえます。

また、普通のイヤホンと違い、耳の中にイヤホンを入れるようなものではなく、耳穴をふさがないため、閉塞感もなく、外の音も聞こえる状態です。イヤホン自体は普通のイヤホンのように穴は空いておらず、さらに凹凸もないため、衛生的に使用することができるメリットがあります。小さな声も鮮明に聞こえるため、来庁者にとっても、職員にとっても、大きな声で話す必要がないため、先ほど言われましたように、場所を変えたり、筆談、そういうこともなるべく必要がないという、ストレスがなく、音漏れも少なく、周囲に個人情報も聞かれることなく、先ほどから申しましたように、プライバシー保護にもつながります。

私も試着してみましたが、本当に小さなささやくような声も非常に明瞭によく聞

こえることが分かりました。

ほかの自治体の導入事例では、本年３月から千葉県八千代市、また、群馬県高崎市でも、保険年金課窓口に設置されました。あとまた、兵庫県西宮市でも４月から高齢介護課と障害福祉課の窓口に設置するなど、導入する自治体が増えております。本年４月からは、宇土市役所でも導入されておられます。導入したことで、対応もスムーズに行えて、対応時間が短縮にもなっているというような声が聞かれております。

スピーカーとか設置されておられますが、今後、不具合とか発生したときに、メリットの多いこの軟骨伝導イヤホンを窓口にも導入される考えはあるでしょうか、お聞きします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　軟骨伝導イヤホンの窓口設置を検討してはどうかというお尋ねかと思いますが、現在のところ、軟骨伝導イヤホンの窓口への設置は考えてはいないところでございます。

今後も丁寧な対応に努めるとともに、必要に応じて既に設置している対話支援機器や音声拡張器を活用し、対応してまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　島春代議員。

［登壇］

○５番　島春代　議員　　今後、窓口設置は考えていないということですが、窓口対応は、耳の不自由な方にとってはコミュニケーションを取るときも大変なところもあるかと思います。窓口対応のスムーズなコミュニケーション環境、また、市民サービスのためにも、今後の導入検討をお願いしたいと思います。

次に、がん患者のアピアランスケア推進についてお伺いします。

アピアランスとは、外見を示す言葉であります。そして、外見の変化に起因するがん患者さんの苦痛を軽減するケアのことをアピアランスケアといいます。がん治療に対しては、手術、放射線療法、薬物療法などがありますが、身体に対して侵襲性の高い治療は、副作用として手術による傷跡、瘢痕、頭髪の脱毛、眉毛やまつげの脱毛、皮膚や爪の障害、また、乳房摘出による乳房の消失、むくみなどが見られます。短期的なものから永続的なものまで、様々な外見の変化などの副作用を生じさせることは、皆さんもご存じかと思います。

闘病生活を送られるがん患者さんにとっては、副作用による外見の変化は精神的にも身体的にも非常につらいものがあることは言うまでもありません。

がん患者さんは、これらの副作用により、自分らしさを失ってしまったような喪失感を持ち、人の目が気になったり、周囲との関わりや社会的な関わりが精神的にもつらくなり、大変な苦痛を感じると言われます。

アピアランスケアとは、そのストレスを軽減するためのケアです。近年のがん医療では、身体的・精神的支援として、アピアランスケアがとても注目されています。外見のケアにより、患者さんの生活の質の向上に重要な役割となっていると思われます。

医療の進歩により、がん患者の生存率は伸びてきて、がん治療に対する環境整備も進んでおり、治療しながら働く患者さんが増加し、治療の継続や推進をする上で、外見の支援なくして語ることはできないほどです。

がん患者さんがこれまでどおり、安心して自分らしく明るく暮らしていただけるために、周囲の協力と支援をすることは大変な支えとなります。長期的には生活面や経済的な面で様々な支援も必要となってきます。療養生活の質の観点から、全国の自治体では医療用ウィッグや胸部補整具の補助を行っている現状があります。

では、質問ですが、本市のがん患者支援はどのようなものがあるでしょうか。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　がん患者の方に対する本市での支援ということでございます。

がん治療におきましては、抗がん剤や放射線治療により、脱毛や、体の一部を欠損するといった外見の変化が現れることがございます。

このような外見の変化は、仕事や学習など社会生活を続ける上で支障を来す場合もあり、ご指摘のとおり、患者の方の負担につながるものと考えておるところでございます。

こういった外見の変化に起因するがん患者の方の苦痛を軽減するケアを先ほど議員のほうからご紹介ありましたが、アピアランスケアと定義されています。外見の変化が気になる患者の方は、ウィッグ、それから補正下着などのアピアランスケア用品を購入することが考えられますが、治療費など経済的な負担を強いられている患者の方にとりましては、こうしたアピアランスケアにかかる費用は大きな負担になるというふうに思われます。

現在のところ、本市ではアピアランス用品購入や、治療費に対する経済的な支援は行っておりませんが、がん等の疾病の早期発見を目的とした健康診断による予防対策を実施しておるところでございます。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　島春代議員。

［登壇］

○５番　島春代　議員　　本市では、がんの早期発見に対する健康診断で支援しているということでしたが、具体的なものは特にないように思われます。

一般的なウィッグ、先ほど言われましたウィッグは医療用ウィッグではないため、敏感になっております皮膚のトラブルのおそれや、また、安価なものはずれてしまうなど、様々なことが考えられております。医療用ウィッグ、胸部補整具は高価なため、治療しながらの経済的負担が大きいことなどが挙げられております。精神的・身体的苦痛に加えて、経済的にも負担は大きいと考えます。本市としても、患者さんに寄り添った支援が必要ではないかと考えます。

では、県内でウィッグなど購入費助成制度を行っている自治体はあるでしょうか。導入状況を教えてください。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　県内での助成の導入自治体の状況はということでございます。

本市が調査しましたところでは、助成を行っている自治体は、全国で９０４自治体、県内では６自治体、熊本市、玉東町、和水町、大津町、南阿蘇村、益城町で実施されているというふうに伺っております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　島春代議員。

［登壇］

○５番　島春代　議員　　全国で９０４自治体ということで、県内では６市町村ということを、今、伺いました。

ウィッグとか人口乳房、シリコンパッドとかは、安くても１万円、それ以上、４万円とか５万円とか、かなり高額になっております。そういうものの助成をされている自治体、購入の２分の１補助を行っている自治体が県内では多いかと思います。やはりこういう補助を行っている自治体はいいけど、自分の自治体はそういうのはないかと、やはり不満を持っておられる方も少なくはないと思います。

がん患者さんが少しでも明るく、治療をしながら自分らしく生活し、また就労や学業など社会の中で活動していかれるように支援していくことは非常に重要なことであり、また本人、家族にとっては生活全般から、またこれからの人生に影響するその意義はとても大きいと思います。

このようなことで、アピアランスケアの助成制度の必要性ということについては

どう考えられますか。また、菊池市として、今後、支援のための助成をする考えはないでしょうか、お尋ねします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　がん患者の方の支援の必要性、それから、アピアランスケアの助成を実施する考えはあるかとのお尋ねかと思います。

がん患者の方の療養生活の質の向上を図ることは大変重要であるというふうに考えているところでございます。

アピアランスケアに対する助成につきましては、県において一部助成を実施されるというふうに伺っておりますので、他市町の状況を踏まえながら、前向きに検討してまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　島春代議員。

［登壇］

○５番　島春代　議員　　患者さんの生活の質の向上は重要ということで、熊本県も一部助成ということを検討し始めております。先ほど部長が言われましたように、県もアピアランスケアについては注目しているところかと思います。一部補助されるということであれば、本市としても助成を検討していかれるように、前向きにお願いしたいと思います。

厚労省の令和５年３月の第４期がん対策推進基本計画のがんとの共生の中で、がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現すること、そして、がん患者の社会的な問題への対策でアピアランスケアが位置づけられております。地域の支援、その意味でも、再度前向きにご検討をお願いいたしたいと思います。

では最後に、熱中症から市民を守るということで、午前中に稲継議員より、小中学校、それから部活動の熱中症対応についての質問がありました。児童生徒にも注意を払う必要があります。熱中症については、市民に対しての対応ということでお聞きしたいと思います。

近年の気候変動で災害発生のリスクは年々大きくなっております。気温の上昇も年々徐々に上がっていると私も体感しています。皆さんも同じではないかと思います。近年、全国的にも猛暑日や熱帯夜が増加しておりまして、熊本県では過去３８．８度の猛暑日の記録があったそうです。地球温暖化により、さらに気温の上昇は進むと考えられ、熱中症になる危険リスクは今後もさらに拡大することが考えられます。それに伴って、健康被害の拡大も危惧するところではないでしょうか。

菊池市では、昨年の熱中症による救急車での搬送件数は５４件だったとお聞きしています。全国では毎年１，０００人を超える方が熱中症で死亡されていると報告されております。

熱中症は日常生活、運動中、作業中など、様々な場面において発生していますが、年齢別に見ると、１０代は運動中、成年の男性は作業中、乳幼児や高齢者及び４０代以上の女性では住宅で多く発生しているということをお聞きしています。どの年代でも猛暑の中では熱中症の危険性は常にあります。特に高齢者では住宅での発生が半数を超えています。熱中症による死亡者の約８割以上が高齢者となっています。

２０１８年、少し古いですが、厚生労働省人口動態統計では、熱中症による死亡者のうち、住宅での死亡が５６％を占めていて、高齢者の熱中症に対する対策の重要性が高くなっています。乳幼児や高齢者などの熱中症弱者、特に高齢者の独り暮らしの方など、注意喚起は大切なことと思われます。

タイムリーな情報発信や伝達の在り方はどのようにされているのか、今後も危険な暑さが続くと見込まれますが、本市の市民への熱中症対策はどのようになっているでしょうか、お聞きします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　熱中症対策への取組ということでございます。

熱中症対策につきましては、広報誌やホームページで周知を行っているところでございます。

また、熱中症警戒アラート発令時に限らず、暑さが厳しくなることが予想される場合に、事前の周知啓発を行っているところでございます。

内容といたしましては、屋内では、扇風機やエアコンを使用し温度調整を行う。天気のよい日は、日中の外出を避ける。通気性のよい、速乾性のある衣類を着用する。小まめに水分補給をすることなどを記載しているところでございます。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　島春代議員。

［登壇］

○５番　島春代　議員　　様々な対応の仕方をホームページ、広報誌で、市民への注意喚起をするということを伺いました。

熱中症ということに関しましては、台風や豪雨、地震などの自然災害に比べても、暑さに対する予防的な対応というのは、個人の行動とか、受け止め方により多少の差があるのではないかと思います。命に関わるということの危機感が、地震、豪雨、台風、そういうものに比べまして軽視されがちではないかと思います。高温でも少

し無理して外で作業したり、長時間の仕事に夢中になったりすることが考えられます。災害に対する備えや、地域のコミュニティの大切さ、声かけや助け合いの重要性は当然不可欠と考えます。本市の対策を十分に理解し、行動に移してもらうことが重要かと思います。

令和３年度から熱中症による健康被害が生じるおそれがある場合に、警告を呼びかける、先ほど部長が申されました熱中症警戒アラート、これは最近、報道とかで警戒アラートというのを聞くような時期になっております。この警戒アラートを全国で開始され、取組が進められました。

しかし、死亡者数は依然増加傾向であったために、今後、被害がさらに拡大する危機感から、令和５年、国会で気候変動適応法が成立いたしました。熱中症による健康被害の発生を防止することが目的で、各市町村が地域において、暑熱避難施設（クーリングシェルター）を指定できる制度であります。熱中症特別警戒情報が発表された場合、指定されたクーリングシェルターを市民に開放することが義務づけされました。

クーリングシェルターは、熱中症の予防を目的として提供される休憩場所としており、暑さからの避難場所、また水分補給などしながら休憩を取ることができる場所、冷房などの空調設備が整っている施設となっております。公共施設や商業施設、協力店舗などが挙げられています。

本市のクーリングシェルターとしての施設の設置はあるでしょうか、また、今後の計画はどうなっているでしょうか、お聞きします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　本市におけるクーリングシェルターの設置状況というお尋ねかと思います。

クーリングシェルターにつきましては、先ほど島議員のほうからご紹介がございましたが、気候変動適応法の一部改正により、指定暑熱避難施設、いわゆるクーリングシェルターを指定することが規定され、令和６年４月に施行されているところでございます。

本市としましては、現在、本庁舎や各支所、各公民館など、市の施設をシェルターとして、設置に向けて準備を進めており、本年７月１日から指定して運用を開始したいというふうに考えているところでございます。

また、一定規模の民間施設等へも協力のほうをお願いしてまいりたいというふうに考えております。

設置の際には、防災・行政ナビや、ホームページなどでの周知を考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　島春代議員。

［登壇］

○５番　島春代　議員　　クーリングシェルターということで、準備、協力を求めて、今後、設置していくということで、やはり商業施設などは普通に入ることはできますが、こうやって指定されるということは、やはり市民のために情報公開、周知されていくと、やはり意識も変わってくるのかなと思っております。

市民の皆様への熱中症予防行動の重要性、熱中症対策のそれぞれ自分の安全、生命に関わるということで、この熱中症対策の周知、タイムリーな情報を本市としても迅速に発信していただき、指定クーリングシェルターの施設利用の周知も行っていただきながら、市民の健康と命を守る対応をお願いして、私の一般質問を終わります。

○水上隆光　議長　　これで、島春代議員の質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後２時４４分

再開　午後２時５１分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　皆さん、こんにちは。本日、最後の一般質問と私がなります。議席番号１５番、荒木崇之です。

初めに、公職選挙法に抵触するおそれがある事案に対しての選挙管理委員会の対応について質問いたします。

令和６年２月１５日発行の月刊ポリシー３１９号において、菊池市議会議員が有権者、すなわち、市民に対して５万円を支払ったとの報道がなされました。同様の報道は、令和５年１１月１日発行の３１７号でも報道されましたが、そのときは５万円を受け取った方も、その仲介役をした方も匿名であったため、真偽が確認できなかったことから、うわさ話程度と捉えていましたが、３１９号においては、受け取った方の氏名、渡したとされる市議会議員の後援会長、選挙長、そして、地区の区長さんの実名に加え、配ったことが事実であるとの証言が掲載されておりました。

昨今、公職選挙法違反に関する報道が県内で多く報道されております。ある熊本市議会議員は、選挙告示前に投票を呼びかける文書を配ったとして、公職選挙法の

罪に問われ、市議会議員を失職、５年間の公民権の停止、さらには１，３００万円の議員報酬の返還を請求されています。配った違法文書は僅か１８枚とのことであります。１８枚のビラを配ったのが公職選挙法違反なら、５万円を配ったということが事実であれば、もっと重大な違反ではないでしょうか。

公職選挙法第１９９条の２では、選挙の有無にかかわらず、選挙区内の人にお金や物を渡すことは寄附行為に当たるとして禁止されています。さらに、同法第２２１条の１、買収及び利害誘導罪にも抵触し、罰金、禁錮刑、懲役など、刑罰が科される可能性があります。

月刊ポリシー３１９号の市民の反響は大きく、会議や地元の集会、市外の方からもこの件に関する問合せは日に日に増えております。そのようなことから、菊池市選挙管理委員会に対して、市議会議員による有権者への寄附行為に関する調査要望書を５月７日に５名の市民とともに提出しました。これは原文になります。その後、選挙管理委員会から提出した５人の市民と会いたいとの申出があり、５月１６日に総務課長、選挙管理委員会事務局の合計３名から、今回提出した調査要望書を受け取らない、受け取り拒否だという説明がありました。

そこで、選挙管理委員会の古閑委員長にお尋ねいたします。

選挙管理委員会事務局が受け取りを拒否したことはご存じでしょうか。もしご存じであれば、選挙管理委員会が受け取りを拒否する理由をお尋ねいたします。

○水上隆光　議長　　古庄選挙管理委員会事務局長。

［登壇］

○古庄和彦　総務課長兼選挙管理委員会事務局長　　改めまして、こんにちは。通告を受けまして、地方自治法第１２１条の規定によりまして、選挙管理委員長より私のほうが委任を受けましたので、私のほうからお答えをさせていただきます。

まず、今回の要望書の件は、委員長が知っているかということでございますけれども、要望書が提出されたこと、また、その概要や対応状況について、委員長に報告するとともに、ほかの委員にも情報共有を行っておりますので、承知されているところでございます。

また、要望書を受け付けない理由ということでございますけれども、初めに、選挙管理委員会の業務についてご説明をさせていただきます。

主な業務としましては、公職選挙法に定められており、選挙人名簿の調製、選挙の執行、選挙が公正かつ適正に行われるよう啓発の実施などがございます。

また、文書の収受におきましては、提出された文書の内容に応じて、受付の有無を判断しているところでございます。

今回の案件につきましては、要望書の内容を確認しましたところ、公職選挙法に

定められております選挙管理委員会の業務の範囲ではなく、司法に委ねられるもののため、受け付けないこととしたものでございます。

以上です。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　総務課長、ちょっと５月１６日の件ですけど、あなた、違うこと言いましたよ。ほかの委員には知らせてないと言いました。５人の市民、ここにいます、みんな。あなた、そう言いましたよ。答弁違うじゃないですか。今から進めていきますから、どんどんうそがばれていきますからね。

私は古閑委員長に見解を聞きたかったんですよ。委員長が受け付けないとおっしゃっているからということをおっしゃっていたんで、５月１６日のやつは私がここに全部、テープで取っていますから、もうこれはそのときのメンバーに了解を得て、テープで取っていますから、証言はありますけども、私は古閑委員長にお聞きしたかった。しかし、委任された。委任されたのが公務員という、私は委任されるのは普通は副委員長が出てくるべきじゃないかなというふうに思うわけですが、それは出てこられない理由があるんでしょう。

では、選挙管理委員会の仕事には、選挙に関することが仕事なので、要は業務外に当たるという答弁でよろしかったと思いますが、ここに毎年１２月に選挙管理委員会から議員に配付する、寄附行為の禁止を啓発する総務省が作成したチラシがあります。「寄附行為、正しく守って明るい選挙」聞いていますでしょうか、皆さん。そこには三ない運動として「お金や物を贈らない・求めない・受け取らない」ということが記載されてあります。その三ない運動の目的は、政治家と私たち有権者とのつながりはとても大切です。しかし、金銭や品物で関係が培われるようでは、いつまでたっても明るい選挙、お金のかからない選挙に近づくことはできませんとのことです。

さて、古庄事務局長は、今回の寄附行為に関する調査要望書は、選挙管理委員会の範疇外であると、業務外であると答弁されましたが、選挙管理委員会の仕事というのを各自治体のホームページで調べてみました。これは大体一緒です。各種選挙の管理執行、選挙人名簿の調製、選挙啓発活動の実施、そして最後に、明るい選挙の推進に関することとあります。菊池市も同様であると、これは打合せの時点で確認していますが、先ほど示した三ない運動のチラシの目的を皆さん思い出してください。金銭や品物で関係が培われるようであれば、いつまでたっても明るい選挙、金のかからない選挙に近づくことはできませんと。明るい選挙の目的が推進と総務省は示しています。

さらに、菊池市の選挙管理委員会のホームページでは、これ、ホームページの写しなんですけど、寄附行為の禁止と選挙管理委員会のホームページに書いてあるんですよ。と赤文字で目立つように、寄附行為の禁止は選挙管理委員会の所管として記載されています。選挙管理委員会の仕事に明るい選挙の推進に関することとあるのに、明るい選挙を阻害する寄附行為に関して、業務の範疇ではないという理由をお示しください。

あわせて、寄附行為に関する事案が選挙管理委員会の業務外であるというならば、なぜ毎年、この三ない運動のチラシを配るのか、その整合性をお尋ねいたします。

○水上隆光　議長　　古庄選挙管理委員会事務局長。

［登壇］

○古庄和彦　総務課長兼選挙管理委員会事務局長　　ただいまのご質問にお答えさせていただきます。

寄附行為の禁止の啓発につきましては、選挙に関する啓発・周知ということで、選挙管理委員会の業務の１つとして、チラシの配付を行っているところでございます。一方で、寄附行為など個別具体的な行為についての違法性の調査や判断は、選挙管理委員会ではなく、司法に委ねられているところでございます。

毎年、チラシ等を配ることにつきましては、先ほど選挙管理委員会の業務の１つとして、啓発をしているところでございます。

以上、お答えさせていただきます。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　古庄事務局長も、いきなり古閑委員長から委任を受けて、初めての答弁で緊張されていることはお察ししますが、私が質問する内容だけを簡潔に答弁してください。

それから、古庄事務局長は、古閑委員長と違って公務員ですから、その発言はよく考えた上で、慎重にご発言ください。いろいろ食い違うと大変なことになりますから。

では、選挙管理委員会の業務は、選挙の管理執行であり、選挙期間中の違反であれば、例えば昨今問題になっている県知事選挙の２連ポスターの違反などの行政指導や撤去命令が出せると公職選挙法にも書いてあります。ただ、寄附行為について、調査ができないとは書いていません。そこは選挙管理委員会として、書いてないからやらない、やらなくてよい、調査することができないという解釈は、私は拡大解釈だと思います。

では、５月１６日の選挙管理委員会事務局とのやり取りは、先ほど言いましたよ

うに、録音しています。改めて録音を聞きましたら、古庄事務局長がこう発言しています。選挙管理委員会では調査権がありませんので、この調査要望書は受付できません。いいですね。調査、捜査は警察の管轄になりますので、いいですね、ここまで。菊池警察署には選挙管理委員会から送達しますとおっしゃっています。私は、受付もしない文書ですよ、受け付けてない行政文書の複写、コピーすることはできないと考えますが、菊池警察署にはどのような形で送達するのか、お尋ねしたいと思います。

○水上隆光　議長　　古庄選挙管理委員会事務局長。

［登壇］

○古庄和彦　総務課長兼選挙管理委員会事務局長　　ご質問にお答えさせていただきます。

菊池警察署への情報提供につきましては、概要を口頭でお伝えしようというところでお答えしたところでございます。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　それは５月１６日にもお聞きしたんですけど、口頭で本当に古庄事務局長が伝えるかどうかは分からないじゃないですか、私たちは。口頭で一言一句漏らさず、私たちが出した文書、これを言えるということはありませんよね。行政として口頭で伝えるって、これ１１０番じゃないんですから、そこは何かちょっと常識と違うかなと思いますけど、質問を続けます。

５月１６日のやり取りの中で、選挙管理委員会に調査権がないというのであれば、これは私たちの言い分ですよ。受付をして、文書にて選挙管理委員会には調査権がないので、調査することはできません。ただし、本文書を送達いたしますとの文書を出すか、不受理の理由を記した不受理文書というのを、不受理ですと、こういう理由から不受理にしますという文書を出すのが正しいやり方ではないかと申しました。行政に都合のいい文書は受付して、行政に都合の悪い文書は受け付けしないといった前例ができると思ったからです。

私たちがある議員は不倫しているだとか、ギャンブル依存症だとか、多額の借金があるから調査してくれといった、公職選挙法とは関係のない調査要望書を出しているのなら、受け取り拒否も納得しますが、そうでないことは分かるでしょうと古庄事務局長にお尋ねしたところ、事務局長は、とにかく業務外のことは受け付けするなと古閑委員長に言われていますからの一点張りでした。ですから、私たちが、じゃあ古閑委員長に非公式でいいから会って、この内容を説明したい、直接会って説明したいと申し出ましたが、事務局長は、委員長と会うことも、不受理の文書を

出すことも、古閑委員長がかたくなに拒否しているとの説明であります。間違いないですね。

そこで、古閑委員長が、今回、ご病気を理由に答弁を欠席されることとなったので、私、昨日、６月１９日の１２時４０分頃、ご自宅にお伺いいたしました。写真も一緒に撮ってきました。ご自宅に植えてあったブーゲンビリアと古閑委員長と私を一緒に撮っております。お元気そうにされていましたけど、ただ、５年前に手術した後遺症があられるとのことでしたので、私が入院とかされてないなら何よりですと言って、早急に立ち去ろうとしたところ、古閑委員長のほうから、車庫のベンチのところにちょっと座ってくださいとおっしゃったので、それで私が座りましたら、古閑委員長のほうから、荒木議員の調査依頼につきましては、選挙管理委員会のほかの委員には、６月３日に選挙管理委員会の定例会がありましたので、そこで内容を説明しましたが、私以外の委員が寄附行為の経緯が分からないために、取り上げないことにしました。しかし、詳しい寄附行為に関する事務的なことは私では分からないので、全て事務局にお任せしていますと話され、帰り際に、今回の一般質問以外の件であれば、いつでも説明に上がりますとおっしゃいました。

お尋ねします。

古閑委員長と古庄事務局長が言っていることが違いますが、どちらがうそをついているんでしょうか。

○水上隆光　議長　　古庄選挙管理委員会事務局長。

［登壇］

○古庄和彦　総務課長兼選挙管理委員会事務局長　　ただいまの質問にお答えさせていただきます。

まず、ほかの委員さんへの報告ということで、６月３日の日がちょうど定時登録日でございましたので、委員さんが集まられた中で、概要のほうは私のほうからお話しをさせていただいたところでございます。

また、古閑委員長へのお話なんですけれども、協議なんですけれども、それにつきましては、５名の方にご説明した翌日に、古閑委員長、それから職務代理者の方にお集まりいただきまして、協議をしたところでございます。

以上、お答えさせていただきます。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　５月１６日に、私たち５人の市民と、５人の市民、みんなここにいるんですよ。事務局長、選挙管理委員会事務局、３人で話したときのことは、古庄事務局長、覚えていますよね。録音していますので、本当に聞かせたい

んですけど、これ木下議員が、この調査依頼書を提出したことは、古閑委員長、事務局長・事務局、要はほかに誰か知っているのかと。事務局４名のほかに知っているのかと言ったら、調査依頼書を提出したことは、古閑委員長、事務局長、事務局職員２名しか知りません。受付拒否をしているものなので、文書なので、市長をはじめ、ほかの委員にお見せすることもありませんっておっしゃっている。ほかの委員に見せていいですかと私も聞いたら、いや、それはできませんとおっしゃったじゃないですか。これは認めますですよね。

では、仮にというか、もうご自分で認められているけど、６月３日の選管の定例会で、この調査依頼書が出されたことを選管の委員に伝えたとするならば、５月１６日に説明した内容と矛盾します。私たちが言っていることと、そうやって、いや、これからも絶対に公開はしませんと言っているのに、勝手に漏らしているじゃないですか。しかも、受け付けてない文書をですよ。受け付けてないでしょう、今でも。文書を他人に示すことは、これ職員の情報漏えいに当たる行為ではないですか。ご自分が矛盾したことを言っているのは分かりますか。

では、選挙管理委員会がこれまでもいかに矛盾してきた対応をしているか分かる書類があるので、提示をしたいと思います。ここに福島議員がご自身で自己情報開示請求をして、選挙管理委員会から開示された資料です。福島議員には許可を得て、私が公表します。

その内容は、ある市民が、福島議員は菊池市に居住実態がないと思われるから、居住実態を調べてくれとの依頼書があります。誤解がないように言っておきますが、福島議員は居住実態がありました。しかし、選挙前の嫌がらせだと思いますが、１人の市民から令和３年８月２５日に選挙管理委員会に調査依頼書が出されたわけです。ここに、それが調査依頼書、こちらですね。選挙管理委員会が出しとんなはるけん分かるでしょう、黒塗りになっていますけど出した人は。これを受けて、選挙管理委員会は令和３年１１月１８日に、福島議員には居住実態がないという理由で、選挙管理委員から取調べを受けているんですよね。その席には古閑委員長、選挙管理委員、そして当時の選挙管理委員会事務局長であった開田総務部長、事務局の４名が取調べに当たったとのことですが、令和３年１１月は選挙期間中でもありません。

お尋ねします。

福島議員の居住の実態を調べたこと、福島議員を呼び出して調べたことは調査ですか、捜査ですか、お尋ねをいたします。

○水上隆光　議長　　ここで、暫時休憩します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午後３時１２分

再開　午後３時１３分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

古庄選挙管理委員会事務局長。

［登壇］

○古庄和彦　総務課長兼選挙管理委員会事務局長　　ただいまのご質問の前に、先ほどの１つ前の質問のところで、私が選挙管理委員会のほうで、６月３日の日、ご説明したものにつきましては、先ほど言われた５月１６日の日に、選挙管理委員会のほうでも協議をしてくださいということでございましたので、協議を申し上げたところでございます。概要のみご説明したところでございます。

続きまして、ただいまのご質問でございますが、調査ですか、捜査ですかということでございますけれども、聞き取りを行ったものでございます。これにつきましては、選挙人名簿登録の正確性を期するために実施したものでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　先ほど、５月１６日から６月３日での間、じゃあ６月３日にあるから、そのときにお諮りしますと言えばよかったじゃないですか、５月１６日に私たちに。そのときに言いましたよね。皆さん聞いていますよね。そのとき、どうしてもかけないと。絶対議題にも上げないとあなたはおっしゃっていますよ。それ、後出しじゃんけんは駄目ですよ。いいんですけど、さっきのやつですね。じゃあ、調査で捜査でもないとおっしゃるわけですかね、福島議員のやつは。あくまでも聞き取りとおっしゃるわけですか。どうですか、そこは。今、分からなかったんですけど、調査でも捜査でもないということでいいですか。

じゃあ、６月１０日の一般質問の打合せの中で、この福島議員を呼び出したことは、これは調査ですと、はっきり私、事務局長から聞いていますよ。それで、令和３年１０月８日付で、選挙管理委員会の委員長名で、これは相手方に、このときにはご丁寧に回答書も出しているんですよ。おかしいのが、１０月８日に回答書を出して、これで終わったはずなのに、１１月１８日に福島議員を呼んでいる。これ全然時系列が合わないんですけども、この回答書を見ますと、それには福島議員の選挙人名簿を確認したら、選挙権を有していることが確認できたと回答されています。選挙人名簿を確認した。これ完全に調査しているじゃないですか。古庄事務局長、おかしいな、先ほど事務局長の答弁では、調査権は選挙管理委員会にはないと答弁

されているのに、なぜ福島議員は調査されたのでしょうか。

再度お尋ねします。

今回お金を配ったとされる市議会議員は、調査しないどころか、受付もしない。福島議員の場合は、調査権がないと言いながら、調査し、ご丁寧に回答書まで出すという矛盾した対応をご説明ください。

あわせて、選挙管理委員会は、その人ごとにより対応を変えている。つまりは、政治家ごとに差別をしていると理解してよいのか、お尋ねをいたします。

○水上隆光　議長　　古庄選挙管理委員会事務局長。

［登壇］

○古庄和彦　総務課長兼選挙管理委員会事務局長　　先ほどの聞き取りにつきましては、何回も申し上げますけれども、選挙人名簿の登録の正確性を期するために実施したものでございます。これにつきましては、公職選挙法に基づいて実施したものでございます。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　古庄事務局長、もし良心があるのなら、最後にお答えください。私たちは何回も言っているように、選挙管理委員会というのは、私たちは一応いきなり警察に行くといけないから、選挙管理委員会に一回出して、文書をもらって、その文書を基に告発状をつくるというのがこれが筋だから、そこの手順を踏んだだけですというふうに言いました。今でも、受け付けなかった、受付を拒否した、この判断は正しかったと思いますか。受付をして、回答書を出して、調査できませんと回答書を出すのが正しいやり方だったんじゃないんですか。今でも後悔してないかどうか、お尋ねをいたします。

○水上隆光　議長　　古庄選挙管理委員会事務局長。

［登壇］

○古庄和彦　総務課長兼選挙管理委員会事務局長　　警察への情報提供ということでございますけれども、過去に選挙違反の疑いがあると思われる通報等が選挙管理委員会にあった場合は、その際の対応として、これまで警察と連携を図り対応しているところでございますので、今回の場合もそのような対応としたものでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　私が言っているのは、警察と連携する云々じゃなくて、行政として文書を受け付けないということができるのかという話なんですよ。市長

への手紙でも出されたら、ちゃんと返すじゃないですか。人吉市、見てくださいよ。市長への手紙を怠っとったといって、４０件、それで謝罪したじゃないですか。私は行政として、ちゃんと１回受付をして、そしてそれを調査しないという理由を出すのが行政じゃないのかと言っているわけです。

まあいいです。これはあまりにも矛盾した答弁と選挙管理委員会の対応にあきれていますけども、選挙管理委員は人格が高潔で、政治及び選挙に関し公正な識見を有する者のうちから選出するとなっています。高潔かどうかは、私が高潔ではないので判断できませんが、少なくとも政治に関し公正な識見を持っているとは言い難いと、傍聴されている皆さんも、ここにおられる議員の方も思っていらっしゃるんじゃないですか。下手すりゃ関係のない職員さんはそう思っているんじゃないでしょうか。

この件につきましては、次回以降の一般質問で、古閑委員長の体調がよいときにお呼びして、お聞きしたいと考えております。

最後に、これはもともとのこの事の発端であるというのが菊池市議会議員なんでありますけども、最後に、肝腎な問題である菊池市議会議員による市民への寄附行為については、もう既に顧問弁護士によって告発状を作成し、ここにあります。菊池警察署への提出をするだけとなっていますことを市民の皆さんにお伝えして、次の質問に移ります。

次に、公共施設における政治的掲示物について質問いたします。

令和６年４月３日に市民の方から私に、菊池中央図書館に江頭市長の特別講演会の宣伝ビラが掲示してあるが、市長、聞いていますか、大丈夫ですか。市長の政治団体のビラを公共施設に掲示することは、市長の公共施設の私物化ではないかとの問合せがありました。

政治団体活動の宣伝ビラを公共施設に掲示するといったことを歴代の首長がしたことなど聞いたことがなかったので、私も４人ぐらいに仕えましたけど、その方たちもそういうことはされなかったので、中央図書館に実際に行って、その掲示物を撮影して、選挙管理委員会にその日のうちに電話をして、公共施設に政治的な掲示物を貼ることができるのかお尋ねしました。その後、２日後の４月５日に古庄総務課長から電話があって、中央図書館に掲示を許可したのは生涯学習センターの吉川良二センター長とのことであります。

そこで、吉川センター長にお尋ねします。

市長の政治団体ビラを中央公民館に掲示されていましたが、政治ビラの掲示を許可した理由をお示しください。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、教育委員会の事務のことですので、私のほうから答弁をさせていただきます。

議員の、今、質問の社会教育法第２３条第１項の解釈についてお答えいたします。

このことにつきましては、平成３０年１２月に文部科学省総合教育政策局地域学習推進課より、その解釈について改めて周知があっており、その趣旨として、特定の政党に特に有利又は不利な条件で利用させることや、特定の政党に偏って利用させるようなことは許されないが、公民館を政党又は政治家に利用させることを一般的に禁止するものではないと記されております。

菊池市生涯学習センターは、中央図書館と中央公民館の複合施設であり、その運営については、それぞれの根拠法及び条例にのっとって運営されております。

また、施設の共有スペースにつきましては、生涯学習センターの役割から社会教育法の第２３条に沿って公民館と同様に運営されております。

生涯学習センターの共有スペースにつきましては、公民館と同様の施設であると考えておりますので、今回の市政報告及び特別講演会のイベント告知に関する掲示は認めております。今回もこの趣旨に基づき判断したものであり、掲示許可については適正であったと考えております。

以上、答弁いたします。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　誰が答弁するかは、それは議長からの出席要求に基づいてやるわけですけども、私は生涯学習センター長の見解を聞きたいわけなんですよね。生涯学習センター長がこう判断したと古庄課長はおっしゃったんで、前川教育部長は４月１日から来られていますよね。だから、そこは生涯学習センター長を出してくださいよ。古閑委員長も出さない、センター長も出さないって、ちゃんと議論がかみ合うように出してくれと私は言っています。

答弁では社会教育法第２３条の１に基づいて許可したとのことでありますが、これも同じものを私も持っています。文科省の通達、これネットで載っているんですよ。そこを読み込んでいきますと、解釈の周知について、先ほど言われたやつ、公民館を政党又は政治家に利用させることを一般的に禁止するものではないと明記されていますけども、政治家が公民館で市政報告などを開催することはできると書いてあるだけで、市長の政治団体の宣伝ビラを図書館に掲示していい、公民館に掲示していいなんていう解釈はとてもできないんですよね。

また、百歩譲って、菊池中央図書館で、中央公民館で、市長の特別講演会が開催

されるなら、その案内として、当日掲載したということなら理解しないでもないですけども、これ場所、菊池市市民会館であっているんですよ。大ホールを、わざわざ小ホールまで変えて、大盛況だったから。菊池市市民会館で開催されている特別講演会のビラを中央図書館とか中央公民館に貼るといったことは、明らかに法令から逸脱しています。

さらに、社会教育法に基づいてとありますが、貼られていたのは中央公民館ですよ。掲示物に押された受付印も令和６年３月３１日、中央公民館と押印されているんですよね。

じゃあ、吉川センター長にお尋ねします。

法解釈も間違っている。しかも図書館と公民館では法令も違いますが、今回指摘されても、市長の政治的掲示物を許可したことは間違いないと言えますか。はいかいいえでお答えください。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、ただいまの質問に答弁いたします。

今回の掲示物につきましては、イベント告知用のものと認識しておりますので、問題はないと考えております。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　間違った解釈をお認めにならないということは、吉川センター長ということは、よほど教育行政にお詳しい方だと思うんですけども、私も菊池市職員でしたが、この吉川センター長を存じ上げてないんですよね。ということは、菊池市に勤務される前はどういった社会教育行政に携わる仕事をされていたのか、雇用するに当たっては、どのような経緯で雇用されたのか、簡潔にお答えください。

○水上隆光　議長　　音光寺教育長。

［登壇］

○音光寺以章　教育長　　ただいまの荒木議員のご質問にお答えします。

生涯学習センターは、市民への多様な学習の機会と情報の提供、及び学習活動や芸術文化交流を支援する生涯学習の拠点施設として設置しており、そのセンター長は生涯学習・社会教育分野に優れた知見を有する必要があります。

今年度から生涯学習センター長を採用すべく、公募によりハローワークに募集をかけ、課題論述書の審査、面接を経て、選考の結果、吉川氏を採用したものでございます。

吉川氏は、長年の教職経験、またくまもと県民交流会館パレアや県の教育委員会等での教育行政における勤務経歴があり、社会教育主事の資格も有していることから、生涯学習・社会教育分野に非常に精通されたセンター長の職に適任であるというふうに判断して採用いたしました。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　打合せの中でも職員の方からお聞きしたんですけども、任期付職員で平成３１年に菊池公民館副館長として採用されて、去年まで、令和５年度までが副館長、本年度から中央公民館と中央図書館を束ねるセンター長に就任されていますので、役職で言えば課長級の上、次長級ということになります。前職は、その熊本県とか、県民交流会館パレアとかにいらっしゃったと。合志市の教育委員会に勤務されていて、その前は学校の先生で、校長先生まで務められていたとのことであります。校長先生までされた方に存じ上げないと申して、大変失礼をしました。

では、ここに平成２７年１１月１０日の熊日新聞があります。「児童に体罰、監督永久追放」と題して、大津ジュニアバレーボールクラブの監督、当時５７歳が女児に馬乗りになり、頬をたたき続けた。床にたたきつけられ、びんたされ、蹴られた。頭にボールをぶつけられ、鼻血が出たなど、多数の証言により、この男性監督５７歳の体罰や暴言が継続的に数年間、日常的に行われていた。その事実を受け、熊本県小学生バレーボール連盟は、監督に対し最も重い永久追放処分をしたとの内容であります。

お尋ねします。

平成２７年に女児児童に暴行を振るい、永久追放となったのは監督、これは吉川良二センター長ですか。申し添えておきますが、私のこの発言が、総務部長、そわそわされているので、刑法第２３０条の名誉毀損に当たるかどうか、事前に弁護士に相談しております。刑法第２３０条の２、公共の利害に関する場合の特例に第１項、その行為が公共の利害に関する事実に係り、かつ、その目的が専ら公益を図ることにあったと認める場合には、事実の真否を判断し、事実であることの証明があったときは、これを罰しない。

また、前条第１項の行為が公務員又は公選による公務員、私たち議員ですね、の候補者に関する事実に係る場合には、事実の真否を判断し、事実であることの証明があったときは、これを罰しないとあります。つまりは、刑法の名誉毀損には当たらないことを弁護士に確認しております。

では、教育長、はいかいいえでお答えください。

○水上隆光　議長　　ここで、暫時休憩します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午後３時３２分

再開　午後３時３４分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

音光寺教育長。

［登壇］

○音光寺以章　教育長　　ただいまの荒木議員のご質問にお答えします。

今の熊日新聞に関しまして、氏名も公表されておりませんので、私からお答えすることはできません。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　本年５月の会員制情報誌に吉川センター長の名前が掲載されたことで、大津町のバレーボール関係者、バレーボール協会の関係者から、何で菊池市は女子小学生に馬乗りになり暴行した人間を生涯学習センター長なんかにするんだという抗議の電話が私にありました。事務所に実名も言われてありました。そして、当時の熊日新聞の記事もファクスで送っていただきました。

私は、過去に過ちを犯した人を一切雇うなとは言いません。しかし、皆さん、日本版ＤＢＳという言葉をご存じですか。子どもたちを性暴力から守るため、子どもたちに関わる業務に従事する者に性犯罪歴がないという証明を求める制度であります。要は、過去に児童への性的暴行をした教職員などを学校や保育園に従事させないとする制度で、塾や学童保育、ベビーシッターも対象となります。この法案は６月１９日、昨日の参院本会議にて全会一致で可決しています。

吉川センター長は、性的暴行はしていませんが、女児に馬乗りになりびんた、足蹴りするなど暴力行為は行っています。そのような方を子どもたちが利用する図書館や公民館で雇用する。ましてや、子どもたちの生涯学習の機会を奪った人を生涯学習センター長に任命する教育長、いや、江頭市長の考えが理解できません。

例えば平成２７年に暴力を受けた小学生は、１年生から６年生までいたとするならば、現在１５歳から２２歳になっています。もしかすると、市内の高校に進学して、図書館を利用しようとしたときに、吉川センター長を見て、ＰＴＳＤになるかもしれない。あるいは、私がよく言われる過呼吸になるかもしれない。

日本版ＤＢＳでは、過去に性暴力を犯した教職員は、最長で２０年は子どもと接する業務に就けないとされていますが、吉川センター長は退職後、すぐに菊池市教育委員会に就職されています。本来であれば、子どもたちと接しないところで雇用すべきなのではないでしょうか。ここまでは枕です。

では、このことを踏まえて、本題に入ります。

吉川センター長が社会教育法の解釈を拡大してまで、抜け穴を探してまで、江頭市長の政治団体をかばうのは、吉川センター長が女児への暴力で新聞沙汰となったにもかかわらず、拾っていただいた、雇用してもらった恩義があるからではないですか。

あわせて、５月７日に中央図書館に私の市政報告を掲示してもらうように持参しましたが、翌日の８日にお断りの電話がありました。なぜ私の市政報告は駄目で、市長の政治団体ビラはいいのか、お尋ねをいたします。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、私のほうから、ビラの掲示を許可して、議員がご依頼の掲示物についてはお断りをしたという件についてお答えをさせていただきます。（発言する者あり）

今回の市政報告会及び特別講演会のイベント告知につきましては、周知を目的としたものと捉え、掲示を許可いたしました。

議員よりご依頼いただきました政治活動報告書につきましては、地方公務員法第３６条第２項に基づき、掲示及び書架・カウンターへの設置につきましては、行政の中立的運営の視点から、公民館、図書館及び共有スペースにおいても設置が適当でないと判断させていただいたものです。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　じゃあ、恩義があるからという答弁がないということは、恩義があるから拡大解釈したということでいいということですよね。否定されないなら、いいですか。

じゃあ、次に行きます。

市長、あなたのことで言っているわけですから、あなたに尋ねているわけじゃない。いいです。

次に行きます。

○水上隆光　議長　　荒木議員、今、市長の発言はどうですか。

○１５番　荒木崇之　議員　　要らないです。だって、恩義、教育長が答えるなら分かりますよ。あなたのことで言われているんだから、市長。

○水上隆光　議長　　静かにしてください。

音光寺教育長。

［登壇］

○音光寺以章　教育長　　吉川センター長は、公正・公平な立場で選択されたというふうに認識しております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　市長ね、これ私ずっと黙っていたけど、あなたが紛らわしいビラを貼らせるからこうなるんじゃないですか、要は。そのことは自覚してくださいよ。職員に迷惑をかけているんですよ。

じゃあ、次に、総務部長にお尋ねします。

地方公務員の政治的行為の制限というのがあるのはご存じかと思います。それが先ほど言われた地方公務員法第３６条第２項に、これは要約して言いますと、特定の政党もしくは政治的文書の図画を庁舎等公共施設に掲示してはならないと定められていますが、今回の市長の政治団体のビラを掲示する菊池市職員の行為、貼った職員の行為、これは地方公務員法に抵触すると考えますか、お答えをお願いします。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　ご質問にお答えをいたします。

ただいまありました地方公務員法第３６条につきましては、ただいま議員からもご案内がありましたけれども、職員の一定の政治的行為の制限が定められております。第２項におきまして、「職員は、特定の政党、その他の政治的団体等を支持または反対する目的をもって、政治的行為をしてはならない」とされております。

制限される行為の１つといたしまして、同項第４号において、「文書又は図画を地方公共団体の庁舎、施設等に掲示し、又は掲示させること」と示されております。

この制限される行為に該当するかどうかという部分については、職員の行為に、さっき申し上げました特定の政党、その他の政治的団体等を支持または反対する目的をもって行われたものかが判断要素になると考えております。

今回の事案につきましては、冒頭教育部長のほうで答弁がありましたように、業務の一環といたしまして、職員が上司の許可を取り、掲示したものと考えております。

先ほどありましたように、掲示のほうをもともと認めているということでありましたので、業務の一環としてなされたものと考えておりまして、個人的にその支持する目的をもって行った行為とは言えないことから、地方公務員法第３６条に抵触するものではないと考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　政治的意図がないから、第３６条には係らない。第４項だったですかね。第３６条の第２項じゃなくて、第３６条の第４項。（発言する者あり）第２項に抵触しないとの答弁でありますけど、では、政治的意図があるのか、目的があるのか、総務部長は全ての市の職員の頭の中を理解する特殊能力でもおありなんでしょうか。この人はある、この人はない、それが分かるから、今回は政治的意図がなかったというふうにおっしゃっているんだと思いますけども、さて、菊池市の顧問弁護士の由井弁護士の見解でそうだったんですよね、これは。由井弁護士の見解がそうだったんでしょう。私がちょっと聞いているんですけど、そこは総務課長からお聞きして、由井弁護士がそう言ったと言われたんで、本当に言ったんですかといったら、後でメールですと言われたんですけども、さて、菊池市の顧問弁護士の見解でそう判断したとのことですけど、６月１０日に阿蘇市、合志市、山鹿市、大津町、菊陽町に、政治的掲示物の庁舎及び公共施設の掲示について許可するのか、各自治体にお尋ねしたところ、全ての自治体が、まず首長の政治団体が、市長、町長の政治団体がそのような依頼をした前例がないと。そういうことですよね。と前置きされた上で、公職選挙法及び地方公務員法第３６条の２に抵触するおそれがあるので、首長であっても、議員であっても、県議会議員であっても、許可しないとのことであります。もちろん国会議員であってもです、掲示はね。許可しないと。菊池市の顧問弁護士である由井弁護士は大丈夫でしょうか。

では、お尋ねします。

ほかの市町村では、政治的ビラの掲示を許可していないのに、菊池市ではなぜ江頭市長だけ政治的ビラを貼ってもよい特別なルールなのか、お尋ねします。

あわせて、市長だけを特別扱いする本市の条例があればお示しください。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、ただいまの質問にお答えいたします。

先ほどの答弁の繰り返しになりますけども、今回の告知用のビラにつきましては、市政報告会及び特別講演会のイベント告知につきましてなされたものということで

許可をしております。これにつきましては、議員さん各位が政治活動に係る報告会を開催するために公民館の研修室等をお申込みになられ、そのイベントの告知をなされる場合においても掲示は問題ないと考えて、運用を行っております。

以上でございます。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　総務部長、この地方公務員法の第３６条、これがどうしてあるのかというのを、私は再度読んでいただきたいと思うんですよ。最後の第５項というのがあって、職員の政治的中立性を保障することにより、地方公共団体の行政及び特定地方独立法人の業務の公正な運営を確保するとともに職員の利益を保護することを目的とするものであるという趣旨において解釈され、及び運用されなければならない。これで、要は誰のも貼らせないことをすることで、中立を確保して、そして、ひいては、こうやって一般質問をして職員が責められる。そういうことを防ぐために、中立的にやりましょうよというのがこれじゃないですか。それを何かもう法の解釈のどうのこうのといって、素直に市長がこれは間違っていました、ごめんなさいと言えば、謝れば済む話なんですよ。でも、それをされないから、皆さんが気を遣って、こうやって抜け道を探されているんだと思いますけども、岐阜県の池田町長、愛知県の東郷町長、福岡県の宮若市長など、相次ぐセクハラ、パワハラをした首長に共通しているのは、感覚が昭和だからと言っている評論家がいますが、私は違うと思います。首長に対して指摘できない風潮、いわゆる裸の王様だからだと考えます。菊池市でも、ほかの自治体では不適切なのに、菊池市では適切扱いすることは今まで多々ありました。市議会議員の税金滞納、第三セクターの不当支出、図書館の１脚１０万円の椅子の入札など、そのほか多々あります。

私は、市長がどんなに間違っていても、市の職員が恣意的な法解釈でかばうのなら、それは行政としての終わりの始まりではないかと警鐘を鳴らして、一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○水上隆光　議長　　これで、荒木崇之議員の質問を終わります。

以上で、本日の一般質問は終わりたいと思います。

次の会議は、明日６月２１日に行います。引き続き一般質問となっております。

本日は、これで散会します。

全員、ご起立をお願いします。

傍聴の方も、可能な方はご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

散会　午後３時４８分

第　４　号

６月２１日

令和６年第２回菊池市議会定例会

議事日程　第４号

令和６年６月２１日（金曜日）午前１０時開議

第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	本藤　潔
２番	安武睦夫
３番	稲継智康
４番	古田浩敏
５番	島　春代
６番	大山宝治
７番	田中教之
８番	福島英徳
９番	緒方哲郎
１０番	後藤英夫
１１番	平　直樹
１２番	東　奈津子
１３番	水上隆光
１４番	猿渡美智子
１５番	荒木崇之
１６番	工藤圭一郎
１７番	二ノ文伸元
１８番	泉田栄一朗
１９番	木下雄二
２０番	山瀬義也

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	江頭　実
副市長	芳野勇一郎
政策企画部長	北島悠子
総務部長	開田智浩
市民環境部長	宇野木浩二
健康福祉部長	中尾孝浩
経済部長	三池克徳
建設部長	久川知己
七城支所長	古田十咲
旭志支所長	佐野木成俊
泗水支所長	髙島英輔
財政課長	上野重智
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	古庄和彦
市長公室長	稲葉一郎
教育長	音光寺以章
教育部長	前川幸輝
農業委員会事務局長	中原親弘
水道局長	財津裕一
監査委員事務局長	髙木智生

事務局職員出席者

事務局長	松原憲一
事務局課長	髙山賢一
議会係	志水利貞
議会係	右田一樹
議会係	河田真沙恵

○水上隆光　議長　　全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○水上隆光　議長　　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

ここで、宇野木市民環境部長から発言の申出があっておりますので、発言を許します。

宇野木市民環境部長。

［登壇］

○宇野木浩二　市民環境部長　　改めまして、おはようございます。

昨日の後藤議員の一般質問の外国人への対応の答弁の中で、ごみ分別アプリの運用開始日を令和２年３月１日と申し上げましたが、正しくは令和２年４月１日でございます。おわびして、訂正させていただきます。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○水上隆光　議長　　日程第１、一般質問を行います。

初めに、田中教之議員。

［登壇］

○７番　田中教之　議員　　皆さん、おはようございます。田中教之でございます。喉の調子が悪いので、ちょっとお聞き苦しいことがあるかもしれませんが、ご了承ください。

今回は３つの質問をさせていただきます。

まず、１つ目の質問です。教育現場における保護者の諸費の支払いの現状についてお聞きします。

ご存じのとおり、義務教育における授業料は無償となっております。これはもう憲法にも第２６条、そして、教育基本法、学校教育法に基づいて、国公立学校における義務教育は無償というところで、学校教育法第６条をちょっと述べさせていただきます。「学校においては、授業料を徴収することができる。ただし、国立又は公立の小学校及び中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部及び中学部における義務教育については、これを徴収することができない。」ですが、実際には、やはり給食費や教材費など、いろいろ授業料や教科書以

外の教育費がかかるのが現状でございます。

私が小学生の頃は集金袋がありまして、それを先生からもらって、家に帰って、現金でそろえて自分で持っていくと。朝の時間に担任の先生が集めるという状況でしたが、この令和の時代においても、まだそういう状況が続いているということで、やはり現金による集金作業というのは、教職員、保護者、そして児童生徒のそれぞれが負担が生じていると思います。特に教職員の方が給食費等の支払いがない場合の催促ですとか、再請求とかするのは結構精神的な負担になっていると思います。

教育委員会は、各学校の集金作業のキャッシュレス化・ＤＸ化については、口座引落などで取り組んでいるというところで、そういう現状ですが、他の自治体でそういった集金作業そのものをもう既にシステム化して、ＤＸ化しているところがあります。なぜこういったキャッシュレス化やＤＸ化が進まないのか、ちょっと調べてみて疑問に思うことがあったので、今回質問させていただくことにしました。

それでは、１回目の質問をします。

教育現場において、保護者が支払う給食費や教材費等のキャッシュレス化の現状についてお示しください。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

登壇］

○前川幸輝　教育部長　　改めまして、おはようございます。それでは、ただいまの田中議員の給食費や教材費の支払方法の現状についてお答えいたします。

まず、給食費のキャッシュレス化につきましては、１５校中１３校がキャッシュレス化を導入しており、２校が現金徴収を行っております。

次に、学校徴収金につきましては、１５校中９校がキャッシュレス化を導入しております。現在、６校が現金徴収を行っておりますが、今後、２校がキャッシュレス化を導入予定となっております。

現在、給食費・学校徴収金の現金徴収を行っている学校におきましても、キャッシュレス化の導入を検討しているところでございます。

以上、答弁いたします。

○水上隆光　議長　　田中教之議員。

［登壇］

○７番　田中教之　議員　　支払方法については、キャッシュレス化はある程度進んでいるというご答弁でした。

給食費は特に残り２校というところで、これは基本的に口座引落という理解でよろしいんですよね。まず現金を扱わないというところでは、保護者の方は非常にそれは便利で楽かと思いますが、一般的に集金作業というのは、結構いろんなプロセ

スに分かれていると思います。これ学校の教育現場でなくて、これは一般的な企業だったり、いろんな請求する部分では似ていると思います。まず事務局の方が請求書というか、請求する通知、最初、こういう形で支払いますと。今度、こういうこと購入しますので、こういったことを申込書に入れてという形で、そういうことが発生すると思います。実際にお金を入れて集めていくというところで、実際、どれだけ集まっているのかというのを進捗を確かめて、払ってない方がいらっしゃれば再請求すると。領収書発行をして、銀行に入金して、その後、会計処理と仕分していくという、そういうのが一般的な流れかと思います。ですので、キャッシュレス化が進んでいるのは喜ばしいことですが、やっぱりこの業務プロセスをある程度自動化といいますか、教職員が負担にならないようなことを進めていかなきゃいけないと思っております。

やっぱり集金のこの業務のＤＸ化が進んでいる自治体の学校では、最初、システムの初期設定とか、途中の変更設定以外は、先ほど述べた請求行為であったり、領収書の発行はもう全部自動で、アプリのＬＩＮＥに送られるとか、それのメールに送られるとかというところで、ある小学校は毎月３０時間かかっていたこの集金業務を毎月３０分ぐらいで終われるようになっているというところで、非常に便利になったというところでございます。

キャッシュレス化の先にやはりＤＸ化をしていかないと、今、それなりの負担が多い教育現場では、こういった道具を使っていくのが必要だと思っております。ただ、いろいろな自治体の話をお聞きしますと、やっぱり進んでいるところと進んでないところあります。何で進まないのかなというところを考えていきますと、多くの自治体が、菊池市もそうですけど、やっぱりこれはもう学校での例えば購入行為なので、これは学校ごとの判断だと。学校長の判断に任せるといったところがあって、教育委員会としてはなかなか積極的ではないというところがあります。

また、ちょっと財政上の会計上の問題で、やっぱり給食費や教材費は公会計になってない部分、システム料等を自治体が負担するということになりますと、やっぱり財政課のほうから、ちょっと私会計のほうのお金を税金を使ってするのはどうかなという意見で、ストップがかかるという自治体もあるようです。なので、教職員の負担というよりも、ある程度、何かそういったルールみたいなのが、結構そういうＤＸ化が進まない、邪魔している原因なのかなと思っております。

集金作業のＤＸ化を支援する企業に何社かお聞きしましたところ、愛知県の豊田市、埼玉県の川口市で、お隣の熊本市は、結構給食費のみの場合もありますけど、もう全校一斉にこういったシステムを導入されて、業務を改善されていることがございます。

ＤＸ化を進めている埼玉県の川口市立前川小学校の校長先生と事務担当の方の導入後のお話を、その支援企業の方からお聞きすることができました。少し読み上げます。ＤＸ化の導入の背景として、教員や事務職員の業務負担を軽減することが目的でした。当校では教材費や修学旅行費などを現金で回収しており、全校分の集金を担任２１名と事務職員で担当していました。さらに、児童に現金を持ってきてもらうことからも、安全面から避けたいと思っていました。そのため、キャッシュレス化を検討していましたが、問題はどのようなシステムを使うかと悩んでいたところですということです。

ＤＸ化のメリット、この前川小学校でのメリットが５つあるということで、電子マネーやクレジットカード、ＱＲコード、コンビニ払いなど、決済の方法が結構豊富だというところで、保護者がこの口座振替用紙に記入してくださいという作業もなく、決済できるというところ、導入して集金に関する負担がかなり削減されましたと。今までは、先ほど述べたように、集金袋のやり取りがあったんですが、それはもうキャッシュレス決済なので、一気にゼロということで、あと集めた現金を事務の方が銀行に持っていく、昼間抜けて、銀行に持っていく作業が、以前は毎日ないし２日に１回はそうやって足を運んでいたというところで、これが全くなくなったというのは非常によかったということです。

あと３点目、未払いの対応が楽になったと。例えば毎月１０日に給食費を払ってくださいといくと、ここの学校は払うまで毎日請求が行くそうです。なので、担任の先生が何か申し訳なさそうに保護者に連絡するというのがなくなるので、先生方の負担が軽くなったと。

あと４点目、以前は大体１０日に請求したら、月末までに何とか回収するような感じだったらしいんですけど、先ほど言ったように、毎日メールが来ますので、平均して約１０日で、例えば２０日までにはもうほぼほぼ回収できるというところでございます。

あと５点目、最後になんですけど、保護者からこちらのほうが断然支払いが楽になったということで、保護者の方の評価が非常に高かったというところでございます。

最後に、校長先生より、当校では現代社会に適応した教育、職場環境を築くべきだと考えていますが、保護者の反応を見て、このようなシステムは今の時代の社会に合った集金手段だと強く感じたというところでございます。

こういったところは、一つの学校の特徴というか、住民サービスの向上につながるのかなと思っております。

２回目の質問になりますが、先ほど申したとおり、やはりいろんな要因があると

思いますが、できれば先ほど述べた自治体等々含めまして、キャッシュレス化・ＤＸ化を進めたところの会社等々、そういった学校等々の、今後、調査研究をぜひしていただきたいと思いますが、どうでございましょうか、お答えください。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、田中議員の２回目のご質問、再質問ということで、システムの導入について、調査研究してはどうかというご質問でございます。

１回目の答弁で申し上げましたとおり、現金徴収を行っている学校につきましても、口座振替等への変更を検討しておりますので、システム導入にかかわらず、まず口座振替等を、こちらのキャッシュレス化の導入を進めてまいりたいと思っております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　田中教之議員。

［登壇］

○７番　田中教之　議員　　キャッシュレス化がまず先だということだと思うんですが、先ほど述べたように、やっぱりこの先生がまた催促したりとか、事務方の集計の時間が延びるとか、そういったところ、あと保護者の利便性を考えると、ぜひキャッシュレス化で終わらずに、その先を見据えた形で進めてほしいと思っております。

学校ではなかなか進みませんが、保育園とか幼稚園は、コロナ禍のときにこういった集金業務のＤＸ化が結構進んでおります。背景として、保育士さんの働き方改革だったり、人材が不足してたり、あと現金の手渡し等は、やっぱり新型コロナウイルス感染症の当初はお札等でうつるんじゃないかというううわさが出ましたので、そもそも保育園、幼稚園で、子どもはやっぱりいろんな菌とかウイルスを持っていますので、衛生的にもやはりキャッシュレス化を進めたほうがいいんじゃないかと思っております。プラス、保育士さんの負担を減らすために、やはりシステム化するというのが、各保育園、幼稚園の園長さんなりがやはりそこは切実に思って、導入していただきたいと思っています。

なので、各学校のお話を聞くと、保育園とか、要は菊池市でいう子育て支援課の職員から教育委員会に提案があって、それで、教育長がじゃあそれでいこうということで、一気に進んだという自治体もございます。

あと菊池市で言うと、情報政策課のほうから提案があって、それは納税も含めて、全部含めてなんですけど、そういった集金作業に職員の負担がかからないようにということで、やはりそういった形で、学校にも導入があったということでありますので、教育委員会だけじゃなく、これは子育て支援課とか、税務課、情報政策課と

しっかり連携して、せめて調査研究ぐらいはしていただきたいと思います。

次の質問に移ります。

次、ゴルフによる地域活性化についてです。

ゴルフというスポーツは、サッカーとか、バスケットボールに比べて、屋外でそんなにハードではないスポーツということで、コロナ禍においても、野外スポーツということで、アウトドアと一緒にやっぱり人気がまた再燃しているというところでございます。

特に熊本県は女子プロゴルファーの多くの輩出地でございますし、最近は竹田麗央選手とか、大里桃子選手とか、ツアーで優勝して頑張っておられます。本市でも３つのゴルフ場があり、連日、菊池市内外の多くの方がゴルフを楽しんでおられるというところでございます。

ゴルフ場は、私も本格的に始めたのが１年半ぐらい前なんですけど、レシートを見て、ゴルフ場利用税というのがありまして、これ本市の一つの収入源となっております。そして、ゴルフ場があることによって、いろんな産業が、裾野が広い産業でございますので、それに対する雇用も生まれております。

そのゴルフ場利用税について、どういうものかということで、総務省のホームページより抜粋したところを説明しますと、ゴルフは、今では全世代で楽しまれているスポーツになりました。ゴルフを楽しむことは健康寿命の増進に一役買う一方で、山林原野を切り開いて広大なフィールドを確保するゴルフ場の維持管理には、アクセス道路の整備や地滑り対策など、多大な行政コストがかかっています。そこでゴルファーの皆さんにゴルフ場利用税という形で１日４００円から１，２００円程度、金額はゴルフ場によって異なるんですけど、ご負担をいただいていますというところです。ゴルフ場利用税は都道府県が徴収していますが、税収の７０％はゴルフ場がある市町村に交付されます。一般にゴルフ場は人里離れた山間などのアクセスしにくい場所にあることが多く、税収の少ない地方公共団体が多いです。そのためゴルフ場利用税やその交付金はゴルフ場までの道路整備など、ゴルフ場関連の様々な行政サービスのための貴重な財源となっていますというふうに説明されています。

ゴルフ場の利用税は、例えば１８歳未満の方とか、７０歳以上の方は免除されるとか。スポーツの正式な国体とかの場合には免除されるとか、そういった例外規定もございますが、ほぼほぼほとんどのゴルファーの方から、菊池市の３つのゴルフ場でやっていただくと、ゴルフ場利用税ということを支払っていただいております。

ゴルフ場利用税の利用だけじゃなくて、ゴルフを切り口にした地域活性化もいろんな自治体が取り組んでおります。１つ、ふるさと納税、菊池市もやっております。ゴルフ利用券をふるさと納税で選ぶと、それを持って菊池市のゴルフ場を利用して

いただくと。これは菊池市の場合は、３年間で５１件、１５１万４，０００円というふうにお聞きしています。まだまだ少ないですけど、１５０万円程度、平均すると年間５０万円ですが、ふるさと納税でそういった形で菊池市に貢献していただいているというところでございます。

ふるさと納税の金額が高い宮崎県の都城市は、ダンロップのゴルフクラブの工場があるので、ドライバーとかアイアンもふるさと納税でメニューに加えて、ちなみに、ドライバーは１本、寄附額は４４万円なんですよね。結構高額なメニューも受けるというのは、このゴルフとふるさと納税の一つのいいところかなと思っております。

あと、観光に利用したゴルフツーリズムみたいな形で、旅行した先でゴルフをして、その地域を楽しむという、昔からこれもいろんな方が利用されていることでございます。

ですので、菊池市ももっとゴルフによって地域活性化できないか、お聞きしたいと思っております。

まず、１回目の質問です。

本市におけるゴルフ場利用税交付金について、歳入額の過去３年分をお示しください。また、どのようにこの当該交付金を利用したかもお示しください。

本市のゴルフ場をさらに地域活性化に生かせないか、本市がこれまでどのような取組を行ったのか、お示しください。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　改めまして、皆様、おはようございます。田中議員のご質問につきまして、まず私から、ゴルフ場利用税交付金についてお答えさせていただきたいと思います。

ゴルフ場利用税交付金の実績につきましては、令和３年度２，９５４万９，３４７円、令和４年度３，０５７万２５８円、令和５年度３，２５４万９，３３６円でございます。

ゴルフ場利用税交付金は、特定の事業財源になる性質のものではございませんので、その使途として制限はなく、一般財源となるものでございます。

先ほど議員のほうからもご紹介がございましたが、本市におきましても、ゴルフ場周辺の道路整備といったものも含めまして、貴重な財源となっております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　改めまして、おはようございます。それでは、３点目のゴルフ場を利用した市の取組状況についてお答えいたします。

ゴルフ場を利用した観光面における市の取組は行っておりませんが、一部の旅館やホテルが、各ゴルフ場と連携しまして観光客誘致に取り組んでおられ、多くの外国人旅行者が訪れていると伺っております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　田中教之議員。

［登壇］

○７番　田中教之　議員　　ありがとうございました。

令和３年から令和４年に、急に５００万円以上の税収増があったということで、また昨年は３，２００万円、本年度予算も一応３，２００万円程度を見込んでいるというふうに、予算書にはそういう記載があったと思います。やはり一般財源に使える、もちろん特定のものじゃないとは思うんですが、やはりこうやってゴルフ場利用税を払っている人は、何かゴルフ場に関係するものに使ってほしいというのは、もちろん理解されると思います。できれば、こういうところに使いたいと、せめて枠とか、本当は菊池市はそういうところに優先順位を置くんだというところがあると、ゴルフ場の経営者の方々も、それはやっぱりありがたいと思うんですよね。ですので、そこら辺は今後のまたこれからの提案かと思いますが、特にどことは申しませんが、３つしかないのであれですけど、やはり山道があって狭くなったりありますので、ゴルフ場の方から、道路が、ここがちょっと穴がほげてるとか、ちょっと危険だというところは、やはり優先的に使っていただけると、ゴルフ場へ行かれる方は結構高級車で行かれる方もいらっしゃるんで、そういったところ、市道の管理にもつながると思いますの、ぜひそこら辺は考え方をもっと納税者のほうに寄り添ったほうにいっていただけるといいのかなと思っております。

本市においては、その観光という面でいくと、今もですけど、以前から韓国の方が多くゴルフを楽しみにいらっしゃって、温泉へ入って、菊池市に泊まっていただけるというところで利用されてきました。最近は台湾の方も、先日、数名の議員で台湾に参りましたが、やはり日本と似てて、ゴルフが好きな人が多くて、温泉も好きだというところで、菊池市へ来て、ゴルフを楽しんでもらって、温泉に入って、おいしいものを食べてもらうというところは、これは魅力の一つだと思っております。

そういうふうにゴルフを切り口に地域活性化している都市が何か所かあります。代表的な１つ、兵庫県の三木市の例をちょっと申します。

三木市は兵庫県のほぼ真ん中ですね。中央に位置するところで、人口が７万４，

０００人を超えるところでございます。西日本一となる三木市は２５か所のゴルフ場を持っております。年間１００万人を超えるゴルファーが訪れますということです。ただ、今、ゴルフ人気ですけど、いずれゴルフの人口の減少もあるという予想から、ゴルフのまちとしてブランド化を図っていこうと、２０２０年にゴルフのまち推進課というのを設置されております。いろんな大会の誘致、特に春高ですね。いわゆるバレーじゃなくて、ゴルフの春高、春の高校生の選手県大会を誘致して、そういった大会で盛り上げております。

「ゴルフ場が多いまち」から「ゴルフのまち」として、ゴルフ産業を振興すると特にインバウンドを推進していきたいというところで取り組んでおられます。

第２期三木市創生計画では、「ゴルフを核としたまちの活性化」として、２０３０年度までの４つの目標値を定めております。１つが、ゴルフ場利用者を２０２０年時点で１０４万人だったのを１２０万人、２つ目として、ジュニアの育成としてゴルフ教室やスナッグゴルフで、ゴルフを簡易化した子どもが楽しめるスナッグゴルフってあるんですけど、その大会の参加者数を１，４８０人から２，４００人、あとインバウンドへの参画事業者数を１０社から４０社、個人旅行を含む三木市での外国人宿泊者数を９０２名から４，０００人という形で取り組むと。

熊本県においても、インバウンドにおいては、先日、台湾の航空会社主催で、台湾のゴルフ愛好家が集まってゴルフコンペを行われるニュースを見ました。西原村でですね。

ですので、そういったところが今後、今、観光も一生懸命取り組んでいるところだと思うんですが、やはりゴルフ好きな人は、まず観光に行ったら、そこで名所を見るだけじゃなくて、プレーをしたいというのが、そういう人が多いので、こういったゴルフツーリズムが一つの柱になるかなと思っております。

２回目の質問ですけど、こういったインバウンドも見据えたこのゴルフと観光について、こういったことをどんどん戦略として取り組んだほうがいいと思いますが、どうお考えでしょうか、お示しください。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　それでは、ただいまのご質問にお答えします。

インバウンド施策の取組も含めてお答えいたしたいと思います。

本市の訪日外国人宿泊者数は、令和４年の水際対策緩和以降、増加傾向にあります。さらに、阿蘇くまもと空港新ターミナル開業、及びＴＳＭＣの熊本工場新設により、台湾を中心にさらなる誘客が見込まれます。

こうした状況を踏まえまして、インバウンドの施策として、昨年度、山鹿市・玉

名市・和水町と組織しております県北観光協議会におきまして、台湾・香港・韓国をターゲットに、海外旅行代理店やメディアを対象とした観光施設の視察を実施し、ツアーを造成したほか、現地の有力なインフルエンサーを招聘したプロモーションに取り組んでおります。

また、菊池一族をテーマとしましたインバウンド向け体験ツアーを造成し、プロモーション動画を制作したほか、デジタル多言語観光案内マップを制作しております。

引き続き、外国人向けのプロモーションや受入れ態勢の整備など、インバウンド施策に取り組みつつ、集客が見込まれますゴルフツーリズムに関しましても、観光協会が中心となって取り組んでいただけるよう、市も協力・連携しながら調査研究を進めてまいります。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　田中教之議員。

［登壇］

○７番　田中教之　議員　　調査研究していただけるということで、ぜひ進めてほしいと思います。

ゴルフ場利用税については、どういう形でもいいので、一度ゴルフ場の方と所管の担当の方で、どういったニーズはありませんかぐらいは、やっぱり年に何回か接する回数を増やしていただきたいと思います。

私がお聞きするのは、そういった道路関係と、プラス、やっぱりＷｉ－Ｆｉ基地の局が、なかなか電波が届かない地域が山奥なのであるので、そういった改善はできないのかなということもありましたので、何か枠をつくって、ここはゴルフ場に還元というか、ゴルフ場のために使うというところを優先順位をつけていただけるといいのかと思っています。

インバウンドも、もちろんそうですし、あと国内の皆さんにも、そうやって引き続き観光とゴルフということを活性化していただきたいと思います。

菊池高原カントリークラブは、大里桃子選手のお父さんがメンバーだったらしく、子どもの頃は回っていたというところで、ゴルフ雑誌を読みました。人生で初めてのバーディーを取ったのがその菊池高原カントリークラブだということで、今でも覚えているというところでいただいております。

あと、くまもと中央カントリークラブは、今現在、「オーイ！とんぼ」という、今、漫画がアニメ化されまして、その主人公のトカラ列島に住んでいる女の子が熊本に高校生としてやってきて、初めて回るコースがこのくまもと中央カントリークラブというところで、その漫画では、単行本３巻ぐらいはくまもと中央カントリー

クラブのコースの詳細なものが入って、先日も行きましたら、その等身大パネルとか、漫画も全巻そろってロビーのほうにありますので、そういった方でトンボを見て、このゴルフ場に来ましたという方が、多くはないですが、いらっしゃるということを支配人からお聞きしました。

このように、いろいろゆかりがあるとか、そういったことを何か引っかけるものをいろいろ組み合わせて、観光協会と一緒にいろんな見せ方をして、地域活性につながればいいかなと思っております。

最後の質問に移ります。

地産地消の推進についてということで、ここ数年、福岡県在住の貿易といいますか、九州のいろんな工芸品とか農産品を海外に輸出する、その支援をする方で、小島尚貴さんという方がいらっしゃるんですけど、この方が書いた書籍に「コスパ病」という本がありまして、これは何かというと、いわゆるコストパフォーマンスですね。いわゆる割がいいといいますか、値段の割にはものがいいとかいうことを表す表現なんですけど、やっぱり日本人は、最近、もうこのコスパ、コスパばっかり言い出して、結局、どんどんどんどんデフレが解消されず、こういったことを好む日本の消費者が日本経済を衰退させていく原因なんじゃないかというような形の本を、いろんな方面へ取材されてまとめられた本でございます。

その中で、日本しかない工芸品とか、農産品、農産加工物を海外、中国などで安く作って、それを日本に持ち込んで、日本に輸入して、地場の事業者を廃業に追い込むといいますか、そういう輸入をこの小島さんは自損型輸入と言っております。要は、もともと海外にあるものを輸入して、日本のマーケットが傷つくのはしようがないとしても、もともと日本にあって、海外にないものを、海外で作らせて日本に持ち込んで、日本のマーケットをどんどん縮小させていくというところでございます。

１つの代表例といいますか、この自損型輸入という言葉が生まれた背景となったのが八代市のイグサでございます。これは安い中国産がやってきたからということで、私もそう思っていたんですけど、実は３０年ぐらい前に、中国地方の畳業者がなかなか自分の経営がうまくいかないというところで、機械から何から全部、中国に持っていって、中国でイグサを作って、ある程度のそのノウハウも教えていって、そういった形で、要は日本人による、日本人に対する、ある意味、まさに自損していくような形のビジネスモデルが出来上がったんですよね。要は、外国企業が優れてて、日本に来て、マーケットが取られていくというのはまだ分かるんですけど、同じ日本人同士でパイを奪い合っていくというのが、この小島さんの取材によって分かったというところでございます。これは八代市議会でもテーマに取り上げられ

て、こういった現状があるということをお聞きしていました。

この「コスパ病」という本は、一部の業者や、今までタブーとされていた畳業界の方もショッキングな出来事ということで、少しずつでありますけど、こういう議会で取り上げられたり、行政の方が検証を行ったりされているというふうに伺っております。だからどうだという話じゃないんですけど、やはり結果的にこの小島さんが言うには、もう自分たちの地域で作ったものを自分たちの地域で消費するしかないと。こういった自損型輸入を、業者を駆逐するという言い方をされていますけど、するにはやっぱり地産地消を進めるしかないということで、今回取り上げることにしました。

それで、質問を行います。

本市において、自損型輸入によって衰退した産業や農産品はありますでしょうか、お示しください。

本市の農産品等の地産地消を推進していく必要があると考えますが、市民へどうやって啓発していくのか、お示しください。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　それでは、まず、自損型輸入についてですけども、本市では、自損型輸入によって、衰退した産業や農産品については、把握はしていないところです。

県及びＪＡに聞き取りを行ったところでも、本市において、該当する産業や農産品など把握していないとの回答をいただいております。

次に、地産地消の推進についてお答えします。

地産地消とは、地域で生産された農林畜産物を地域で消費することであり、幼少期より菊池産のおいしい食材を食べる経験をすることや、宿泊業・飲食業等において、菊池産の食材を使用し、菊池ファンを増やすなどの取組が大切であると認識しております。

本市の取組としましては、まず、令和５年４月より、市内の小中学校給食に、特別栽培で生産された地元の菊池米を提供しております。

また、地理的表示、いわゆるＧＩ登録を取得しております菊池水田ごぼうをはじめとする本市農林畜産物のブランド化の取組や、「菊池うまかもんスタンプラリー」等の取組により、地産地消を推進しているところです。

そのほか、各道の駅では、地元で生産された野菜や特産品を販売するほか、市内外の消費者に向け、ＳＮＳ等を活用し、情報発信を行っているところです。

今後もこのような取組等を通じて、地産地消を推進し啓発につなげてまいりたい

と考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　田中教之議員。

［登壇］

○７番　田中教之　議員　　特に食育ですね。特に菊池市は食材が豊富ですので、学校給食、非常に大事だと思っております。本当に地産地消のまず一つの原点かと思います。

私が９０年代後半、大学生をやっていたときは、やっぱり吉野屋の牛丼が２８０円と、非常に衝撃的なデフレが始まってもう数年たったときでした。結局、それから１００円ショップが台頭をし、特に私も反省しますけど、お茶わんとか、お皿とか、もうそういう陶磁器のメーカーさんなんて、地域の一つの大きな老舗のメーカーさんがたくさん地方にあったと思うんですけど、ほとんど衰退して厳しい状況です。やっぱり中国で日本人向けのデザインをしたお茶わんや、お皿が１００円ショップで買えるというところで、結局、それを推進した結果、日本全体、特に地方は衰退していったんじゃないかというところで、小島さんはそのように考えているというところでございます。

特に畳に関しては、生活スタイルが洋風スタイルになったということもありますけど、残念なことに、その３０年前にできた中国の畳メーカーが、今、八代市に進出しています。八代市で畳メーカーだというところで、日本人へ営業かけているという、これは非常に悔しいといいますか、ちょっと考えものだなと思っております。

熊本県も「阿蘇高菜漬け」、漬物がありますけど、福岡県でも売られております。小島さんが調べたら、大体ちゃんと阿蘇で作られたところと、あとすごい安い価格で「阿蘇高菜漬け」って書いてあるところもあるんですよね。ぱっと見ると、それはやっぱり中国産で、結局、福岡の食品メーカーが、中国にも高菜に似たような野菜ありますし、漬物もありますけど、いわゆる高菜漬けというのは中国にないんですよね。それをわざわざ現地で作って安くする。例えば阿蘇産だと幾らだけど、中国産だとその５分の１の値段なんですよね。やっぱりそら消費者としては安いほうを買うからというふうになっていくと。

菊池市産の「筍水煮」も同じような感じです。中国産のほうが５分の１で安いとなったら、やっぱりもう安いやつを買うよねとなってくるんで、やはり私たち一人一人の、これはメーカーに言っても多分難しいと思います。やはり消費者が自分たちの地域のものを買っていくと。議員の皆さんはもちろんやられると思いますが、やはりこれ、多くの市民の方、執行部も知ってもらいたいと思って、この自損型輸入のことを今回お伝えしようと思いました。皆さんやられていると思いますが、ま

ず菊池市のものを買って、なければ熊本県のを買って、それでなければ、九州のものを買っていくというところは、長期的に見たら地域の活性化になると信じておりますので、こういうことをしたいと思います。

以上で、質問を終わります。

○水上隆光　議長　　これで、田中教之議員の質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午前１０時４５分

再開　午前１０時５３分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、緒方哲郎議員。

［登壇］

○９番　緒方哲郎　議員　　改めまして、皆さん、こんにちは。議員が変われば議会も変わる、議会が変われば行政も変わる、行政が変われば菊池市も変わる。介して議し、議して論じ、論じて決し、決して行う。愚直に、そして確実に議会改革を行うべきと考えております、議席番号９番の緒方哲郎です。

それでは、一般質問をさせていただきます。

まず、本市の農業従事者について質問をいたします。

本日の熊日の朝刊に、「菊池地域農地転用１６４ヘクタール」というような見出しで記事が載っておりました。中には、周辺市町村に農家の減少を食い止めるための施策をやらなければならないというような記事でございまして、これは農地の減少による農家の減少を懸念したものでありまして、私のほうからは、農家人口の減少を別の観点から質問をさせていただきたいと思います。

まず、私はこの質問をするに当たりまして、県北広域本部へ行って、菊池管内における本市の農業の概要について話を伺ってまいりました。担当の方は資料を持って説明をしていただいたんですけれども、内容的には、まず水稲ですが、菊池管内（合志市・大津町・菊陽町）と比べますと、桁違いにやはり面積的にも大きく、県全体としても面積的には６．３％の面積で耕作がなされているということでございました。

ゴボウに関しましては、全然といいますか、県の面積に対しましても、おおむね９０％ほどの耕作をやっているということでございましたし、メロンに関しましても、七城地区において、菊池市が菊池管内においては断トツの面積で栽培をされておりました。

また、栗に関しましてあったんですが、栗に関しては、以前より小売価格が５倍程度に上がったことにより、耕作面積が急増しておるということで、美玖里という品種に関しましては大変評判がよくて、県の８０％ほどが栽培をされているということでもございました。

また、お茶に対しては、とても厳しい状況であると。文化の違いであったりなどしまして、ペットボトルが中心になったおかげで、お茶に対しては非常に厳しい状況であると。

また、畜産に関しましては、全国屈指の地域でもございます。そのようなことで、熊本県全体の飼養頭数あたりを見ますと、乳用牛に対しては４１．９％、肉用牛に対しましては３１．６％、豚の飼養頭数に関しましては４５．１％、採卵鶏に関しましては３８．６％などと非常に高い数値を示しておるということでもございました。

また、新規就農者に関しましては、菊池地域は以前より新規就農者数が多い地域であって、レベル的には非常に高いんじゃないかというようなお話を伺いましたし、菊池地域というのは、土地利用型作物中心が多い地域であるんじゃないかというような説明をいただいたところでございます。

このような他市にも誇れる農地を守り、本市農業を支えているのは、まさしく農業従事者ということになります。その農業従事者を守り、減少を止めることが大切だと思い、この質問を行うことにした次第であります。

農水省は、農村人口の減少で、２０５０年には３０万から７０万ヘクタールで営農経営が危ぶまれると分析しておりますし、令和５年（２０２３年）の農業構造動向によれば、全国の農業経営体数は９２万９，４００経営体で、前年比４．７％減少となっております。このうち、団体経営体は４万７００経営体で、前年に比べ１．５％の増加となっておりますし、この団体経営体のうちの法人経営体数は３万３，０００経営体で、前年に比べ２．５％増加しておるということで、団体経営体に占める法人の割合は８１％となっております。

そのようなことから、個人経営体数というのは８８万８，７００経営体となって、農業経営体数全体の９６％を占めるわけでありますけれども、団体経営体が増加している現状から考えますと、個人経営体数の減少率というのは、先ほど申し上げました農業経営体数減少率の４．７％よりも高くなることとなります。

そこで、本市の状況についてお尋ねをいたします。

全国で減少している個人経営体でありますけれども、本市における個人経営体の推移をお示しください。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

本市の農業経営体のうち個人経営体の推移について、２０１０年、２０１５年、２０２０年の直近３回の農林業センサスの結果を基にお答えいたします。

まず、２０１０年の個人経営体数は、２，４５０経営体でした。２０１５年は２，１５１経営体、２０２０年は１，８４５経営体となっております。よって、２０１０年から２０２０年の１０年間で６０５経営体が減少しております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　緒方哲郎議員。

［登壇］

○９番　緒方哲郎　議員　　２０１０年から２０２０年までの間に６０５経営体の減少ということであります。

これからも減少傾向にある個人経営体数を増やすまでもいかなくても、減少を食い止めることが必要となると考えております。しっかりとした状況分析をして、対応策を練っていくということになるわけですが、個人経営体が減少している理由として、１つ目に、若者が都市部に就職するケースが多く、農業を継ぐ人材が不足しており、高齢化と後継者不足であること、２つ目に、農業はリスクが高く、経営が難しいとされており、気象条件や市場価格の変動、農業政策の変更などが影響を与えて、個人経営体の維持が難しいなど、経営の難しさ、３つ目に、現代の農業は効率化や競争力を高めるために規模拡大が求められて、個人経営体では限界があるために、団体経営や法人経営の転換が進んでいる規模拡大の必要性、４つ目に、都市化が進む中で、農地が宅地や工業用地に転用されることが増え、農地の減少が進む都市化と工業利用の変化、このような要因が複合的に影響して、農業の個人経営体が減少していると言われております。

そこで、個人経営体と言われる中でも、主要生産作物は多種多様にわたると考えますが、大きく個人経営体における施設園芸等を含めた耕種農家戸数と酪農・畜産農家戸数、また、その割合をお示しください。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

耕種農家と畜産農家の戸数、割合については、農林業センサスでは販売農家が調査対象となっておりますので、数値を基にお答えいたします。

直近の２０２０年農林業センサスにおける本市の販売農家は１，８１７経営体となっております。このうち耕種農家は１，４９１経営体で、畜産農家が３２６経営

体となっております。

割合にしますと、販売農家のうち耕種農家の占める割合としまして約８２％で、畜産農家の割合は約１８％となっております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　緒方哲郎議員。

［登壇］

○９番　緒方哲郎　議員　　圧倒的に耕種農家戸数のほうが多いということが分かるわけですが、本年６月のＪＡ菊池の通常総代会資料によりますと、受託販売品取扱実績においては、農産、米、麦あたりが１０億１，９００万円程度、園芸において４２億６，０００万円程度、畜産においては１２２億９４万円程度、酪農に関しましては１１１億９，９００万円程度という報告があっており、販売品取扱実績においては、圧倒的に畜産農家のほうが多いのが分かるんですが、販売農家戸数においては、圧倒的に耕種農家と言われる方々のほうが多いことが分かりました。

そこで、本市総合計画にもありたい姿として、未来につなげる農業のまちとしてありまして、施策の目的として、農業者がやりがいを持つことで、次代の農業を担う後継者の育成につなげますというふうに書いてあります。

本市の基幹産業としての位置づけは何度もお聞きしておりますが、今後の本市農業者数の推移はどのようになっていくと認識されておられるのか、お答えをお願いいたします。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

先ほど答弁しましたように、農業経営体数につきましては減少傾向にあり、また、少子高齢化も進んでおりますので、このような現状を踏まえますと、今後も引き続き農業者数は減少していくのではないかと考えているところでございます。

こうしたことから、新たな担い手となる農業者の確保と育成を図ることが極めて重要であると認識をしております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　緒方哲郎議員。

［登壇］

○９番　緒方哲郎　議員　　ご認識としては、やはり減少傾向にこれからもなっていくんじゃないかというお考えだったと思います。その中で、担い手の育成などに力を入れていくということでございましたが、私はいろんな農業従事者の方々の年齢層についても知っておく必要があると考えまして、ＪＡさんから資料を頂きまして、

まとめてみました。これは各部会委員さんの年齢層ということになりますが、部会に入っておられない方もおられますけれども、本市農業において、数字的な割合には大きな違いはないと思いますので、資料をさしあげればよかったんですが、口頭でのご報告とさせていただきたいと思います。

まず、花弁ですね。花ですが、３０代、４０代の方々が７名で、全体の１７％、５０代，６０代、７０代、８０代の方もいらっしゃいまして、この方々が８３％を占めておられます。

また、イチゴに関しましては、２０代、３０代、４０代の方々がおられ、全体の１５％、５０代、６０代、７０代、８０代の方もいらっしゃいまして、全体のイチゴに関しましては、８５％が５０代、６０代、７０代、８０代の方々でありました。

次に、ゴボウです。ゴボウに関しましては、３０代、４０代の方々が全体の１７％、５０代から６０代、７０代、こちらも８０代の方もいらっしゃいまして、全体のゴボウにおいては８３％を占めておられます。

アスパラガスなんですが、アスパラガスに関してだけは逆でありました。２０代、３０代、４０代までが６４％を占めておられ、５０代、６０代、７０代の方が全体の３６％ということでありました。

また、春メロンに関しましては、３０代、４０代の方が僅か７％、５０代、６０代、７０代、８０代の方もいらっしゃいまして、全体の９３％。

お茶に関しましては、３０代、４０代の方はゼロ、５０代、６０代、７０代、８０代の方でお茶の生産をされているというようなことでありました。

また一方、畜産に関しましては、２０代、３０代、４０代の方に関してが２０％、５０代、６０代、７０代の方に関してが８０％でありました。

また、酪農に関しましては、３０代、４０代の方が３９％でありまして、５０代、６０代、７０代、８０代の方もいらっしゃいまして、６１％というような数値が出ておりました。

全体を通してみますと、１０代から４０代までの方々が２７％、５０代から８０代の方々に関してが７３％という数字が出てまいりました。それぞれの部会において、５０代、６０代、７０代、８０代の方々の占める割合が多いのが分かります。

例えば菊池市の人口を増やそうとしたときに、単純に考えれば、転出の数と転入の数で人口の増減が出てきます。転出が転入を上回れば人口減、反対に転入が転出を上回れば人口増というようになるわけでありますけれども、同様に農業従事者を減らさないためには、転出と捉えられる高齢の従事者の方が継続して農業を営んでいただくこと、また、転入とされる新規就農者や担い手を増やすような対策が必要と考えますが、その必要性のお考えと、本市においても独自の対応策を取られてお

ると思いますが、その内容と、それらの対応策で十分と考えておられるのか、お考えをお示しください。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

農業者の減少に対する現状の対策としましては、新たな担い手となる農業者の確保と育成を図る取組としまして、本市独自の新規農業就業奨励金のほか、国の農業次世代人材投資資金や経営開始資金による支援、農業経営力向上セミナーの開催、営農指導員による技術的な指導などを行っております。

また、国や県の各種補助事業を活用しまして、農業生産施設の整備や農業機械の導入に対する補助を行い、作業の効率化や規模拡大による生産体制を強化することで、安定した農業経営を図るための支援を行っております。

今後もこうした支援制度を活用しまして、関係団体と連携を行いながら、新たな担い手となる農業者の確保と育成に努めてまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　緒方哲郎議員。

［登壇］

○９番　緒方哲郎　議員　　各種奨励金であったり、国の資金、セミナー、指導などを徹底しながら、施設の整備、機械の導入、いろんな支援制度をもって、対応策を取られているというようなお話だったと思うんですが、基本的というか、私の考え方からすると、どれもどちらかというと新規就農者、担い手に対する支援が多いように感じるところが多いんです。

先ほど述べましたように、高齢の農業従事者が多いということはお伝えをいたしました。高齢の従事者が生涯現役で頑張っていただけるような施策、高齢の農業従事者と言われる方というのは、いろんな生産に関しましては技術も持っておられるんですが、なかなか労力的な問題から続けられないというようなことも言われる方がたくさんおられますので、機械化できるところあたりは機械導入の支援あたりもしっかり行っていくべきだということをまずは申し上げておきたいと思います。

それと、さきのＪＡ菊池から頂いた資料の中で、後継者についても回答があっておりましたので、それをお伝えしたいと思います。

これは畜産における後継者の数なんですが、畜産部会に入っておられる方が１０４名おられる中で、後継者がいますよというような回答をされたのが４９名おられました。全体の４７％ですね。酪農に関しましては、１０２名の部会員がおられて、３４名の方が後継者がおりますというような回答をされております。両方ともすご

いパーセントだなと。後継者がいらっしゃるんだなということにまずは驚いたわけですが、この畜産の結果、さきにお伝えしておりますので、この結果をどう捉えておられるのか、お答えをお願いいたします。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

本市の畜産業の後継者が多いと思われる要因としましては、本市の畜産業につきましては、日本有数の農業産出額を誇っており、早くからヘルパー体制が確立され、休日が確保しやすいことや、コントラクター組合などの作業受託組織の充実による家族労働力の軽減が図られていることと考えております。

また、大規模で優良な農家も多く、収益性のある農業経営をされていることや、ＪＡ菊池のほか、畜産農協、熊本酪農組合の専門農協の存在なども畜産業の後継者が多い要因であると考えております。

このほか、子どもの頃から家畜と触れ合っている機会が多いことから、畜産に対する愛情も深く、後継者となられた方も多いのではないかと考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　緒方哲郎議員。

［登壇］

○９番　緒方哲郎　議員　　ヘルパー事業あたりは、日本で最初に菊池地域が始められた事業だということも聞いておりますし、コントラクター事業あたりは、組合をつくられて、なるだけ経費的にもかからないような事業をされているんだなということの説明があったと思います。

私はこの畜産においては、それだけ若者がやりがいを持って就農できる環境にあるのではないかと思っております。それは大規模経営による機械化、機械の大型化など、その支援あたり、国や県、また本市の支援にも通じるものだと感じております。それはそれでしっかりこれからも、基本的に先ほど言いましたように、後継者あたりが１００％になるように、しっかりとしたこともやっていっていただきたいというのはあります。

また反対に、反面、耕種農家への支援というのが、私が思いますに、大変薄いようにも感じるところがあるんです。さきにお尋ねしましたように、耕種農家の割合というのは、農家人口の８２％を占めておるというようなお答えでありました。農家戸数の維持のために、もっと私は耕種農家への支援を行っていくべきとの考えを持っておりますが、お考えをお示しください。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、畜産農家に対しましては、畜産競争力強化対策緊急整備事業、いわゆる畜産クラスター事業等の活用によりまして、畜舎の整備や機械の導入が進んでおります。

一方、耕種農家につきましても、これまで、菊池生産基盤パワーアップ事業（後に発言の申出があり、「菊池生産基盤パワーアップ事業」を「産地生産基盤パワーアップ事業」へ訂正）や担い手確保・経営強化支援事業、くまもと土地利用型農業競争力強化支援事業などを活用しました施設整備や機械導入が行われております。

本市としましても、補助事業を要望された農業者の方が採択を受けられるよう支援をしているところでございます。令和６年度におきましても、産地生産基盤パワーアップ事業を活用しまして、市内のごぼう生産者２６名の方々が機械導入のための補助事業に取り組まれる予定です。

今後も引き続き、県や関係団体と連携を行いながら、多くの農業者の方が補助事業の採択が受けられるよう支援を行ってまいりたいと考えております。

以上、お答えいたします。

ただいまの答弁におきまして、「産地生産基盤パワーアップ事業」と言うべきところを「菊池生産基盤パワーアップ事業」とお答えしましたので、おわびして、訂正させていただきます。

○水上隆光　議長　　緒方哲郎議員。

［登壇］

○９番　緒方哲郎　議員　　畜産に関しましての耕種農家への支援も、いろんな事業を活用しながらやっているというようなお答えだったと思います。

これは私の感じるところなんですが、耕種農家が支援を申し込むと、いろんな事業に補助事業で申し込む際に、ポイント制というのがあって、なかなかそのポイントが足りなくて、事業活用ができないというようなことを感じております。その辺しっかりやっていただくことがまず第一だと思うんですが、農業従事者の減少を食い止めるためには、畜産においては、先ほども申しましたように、さらなる就農環境の整備をやっていただくこと、耕種農家においては、農家人口の割合が高いわけでありますから、先ほど言いましたように、ちょっと事業活用あたりができないことが多いんじゃないかというようなことがありますので、高齢の農業従事者への支援と、新規就農者、担い手の手厚い支援をさらに行っていただきたいということをお伝えをしたいと思います。

最後に、この新聞の記事がありましたので、お伝えしたいんですが、担い手支援

日本一ということで、山口県、これは県単位で行っておられるわけですが、ここはそのような感じで、担い手支援日本一ということの称号を掲げて、しっかり対策をしようということで、２本の柱で万全にやっているというような記事もございました。

熊本県に頼るんじゃなくて、この菊池市においても、このような担い手支援日本一を目指す地域であるというようなこともやっていかれるとどうかなということをお伝えして、次の質問に参りたいと思います。

次に、菊之池小学校の校舎についてお尋ねをいたします。

ご存じのように、菊之池小学校は、本年、１５０周年を迎える伝統ある小学校の一つであります。近年は県道植木インター菊池線沿いに大型家電量販店や大型店舗、飲食店や病院などが建設され、それに伴い、周辺に住宅街が広がることにより、児童数が増え続けている小学校となっております。

私が農業委員をしておりました１５年くらい前から、毎月の農業委員会総会時には必ず農地の転用が議案として上がってくる状態でありました。以前より農地の転用が進み、戸建ての住宅へ変わっている状態でありました。

実際、令和５年９月２５日の議会審議会に執行部より提出された市内小中学校児童生徒数の将来推計の資料によりますと、菊池市立の小学校、中学校の児童数、生徒数の将来推計まとめにおきましては、全１５校のうち菊之池小学校だけが増加に転じると報告があっております。また、これまで、児童数が増えることにより、校舎の増築改修も行われてきました。

そこで、お尋ねをいたします。

これまでの菊之池小学校の児童数の推移、クラスの数と児童数、これまでの増改築の経緯をお示しください。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、最初に、過去５年間の全クラス数と全児童数の状況についてお答えいたします。

菊之池小学校の令和２年度から令和６年度までの５年間の全クラス数と全児童数につきましては、５月１日時点の確定値でお答えいたします。

令和２年度・令和３年度が１３クラスで、このうち、特別支援学級が３クラスでした。

次に、令和４年度・令和５年度が１４クラスで、このうち、特別支援学級が４クラスでした。

令和６年度は１６クラスとなり、このうち、特別支援学級が５クラスとなってお

ります。

次に、児童数でございますが、令和２年度２７９人、令和３年度２７４人、令和４年度２８４人、令和５年度２９１人、令和６年度３０５人と推移しております。

次に、増改築の経緯についてお答えいたします。

まず、平成３０年度に普通教室３室とトイレ及び太鼓倉庫を増築しております。当時の児童数の将来推計では、平成３０年度に１１教室が必要と見込まれ、また、令和４年度に各学年２クラスが見込まれたことから増築をしたところでございます。

延寿太鼓を保管していた資料室も教室利用するために、別に太鼓倉庫を増設しております。

次に、令和３年度の将来推計では、令和６年度に教室不足が見込まれましたことから、令和５年度に図書室を増築し、これまでの図書室を特別支援学級に改修しております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　緒方哲郎議員。

［登壇］

○９番　緒方哲郎　議員　　令和２年から令和６年までのクラス数と児童数をお答えいただきました。

確実に増えている状況であるというのは、今の答弁でも分かると思いますし、改修におきましても、平成３０年に３教室を増築していただいた。倉庫も増設していただいた。トイレあたりも改修をしていただいたということで、将来推計あたりを見込んで令和５年度においても、図書室を改修して、そこの教室に関しましては特別支援学級に利用するというようなことであって、２部屋できたんですが、中割をして、将来は４部屋、４クラスになるような設計もされているというような話も伺っております。このように、確実に児童数は増えております。

そこで、お尋ねをいたします。

学校においては、子どもたちが学校生活をしていく上で、どのような施設が必要とされているものなのでしょうか。学校の施設について、どのようなものが必要かをお示しください。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、小学校に必要な施設についてお答えいたします。

文部科学省令の「小学校設置基準」に示されております。

内容としましては、普通教室や特別教室等、図書室、保健室、職員室と規定されております。

また、必要に応じて特別支援学級のための教室を備えるよう規定されているところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　緒方哲郎議員。

［登壇］

○９番　緒方哲郎　議員　　今の答弁によりますと、教室、普通教室と特別教室、図書室と保健室、職員室、必要に応じて、特別支援学級の教室が必要であるというお答えだったと思うんですが、私はそのほかにもプール、体育館というものが必要じゃないかというふうに考えておりますが、先ほど言われた文科省の小学校の設置基準の第１０条の中にその他の施設ということで、小学校には校舎及び運動場のほか、体育館を備えるものとすると。ただし、地域の実態、その他により、特別の事情があり、教育上、支障がない場合はこの限りではないというようなことが書いてありますので、このことからすると、このプールであったり、体育館の必要性というのは十分持っておられると思いますが、それでよろしいですね。ありがとうございます。

学校における必要な施設については、今、ご答弁をいただきましたが、最初に質問いたしました、これまでの増築改修で、菊之池小学校の校舎というのは随分と変わってまいりましたが、児童数が増えている中で、現状の菊之池小学校の教室などの把握はできておりますか、そこをお答えください。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、学校の現状をどのように把握しているのかとのご質問だと思います。

施設利用につきましては、毎年学校編制（後に発言の申出があり、「毎年学校編制」を「毎年学級編制」へ訂正）に合わせた、学校において諸室利用を検討され、普通教室や特別教室等を細かく記載した「校舎平面図」の報告がありますので、この報告により把握しているところでございます。

また、増改築などの工事を行う場合は、学校と協議しながら設計を行いますので、その際に学校の現状や困り事について把握に努めているところでございます。

以上、お答えいたします。

申し訳ございません。私のただいまの答弁で、「毎年学級編制」と申すところを「毎年学校編制」と誤って答弁をいたしました。訂正をよろしくお願いいたします。

○水上隆光　議長　　緒方哲郎議員。

［登壇］

○９番　緒方哲郎　議員　　毎年学級編制などによって、校舎の平面図などの報告を受けて、協議しているというようなことだったと思うんですが、私も、実際、菊之池小学校に行ってお話を伺ってまいりました。

さきの改修で職員室も改修されたと思います。更衣室をなくして、そこを広くしたというようなことで、更衣室がなくなったということで、更衣室確保のために、今まで物置にしていた２部屋を片づけて、更衣室として、今、使っておるというようなこと。

また、今度の職員室の改修で、職員室自体は広くなったんですけれども、これから先生方が増えることで、机をどうしても搬入せんといかんということで、机を搬入してしまうと、広くしていただいたスペースがなくなるというようなことも言っておられたのかなというふうに思います。

そういうことを考えたときに、今後も児童数は増えるだろうということが考えられるわけですが、今後、教室数の不足の見込みの考えはございますか、お示しください。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　今後の教室の不足の見込みということでございますけれども、菊之池小学校では、今年度、６年生の通常学級は１クラスですが、６年生が卒業し、新たな１年生は通常学級２クラスと見込んでおり、来年度は全学年が２クラスになる予定でございます。

なお、全学年２クラスになることは想定をしておりましたので、普通教室の不足見込みはございません。

また、現時点ではございますけども、出生人口による将来推計では、今後しばらくは全学年２クラスの予想であり、増築等の計画等はございません。

ただし、特別支援学級につきましては、令和５年度の先ほど議員のほうからご紹介がありました図書室増築に合わせて改修しました２教室に間仕切りを設置しておりますので、クラスが増えた場合は、間仕切りにより４教室として対応したいと考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　緒方哲郎議員。

［登壇］

○９番　緒方哲郎　議員　　今のお答えによりますと、今のところは教室数は足りていくんじゃないかなというようなお答えだったと思います。

令和５年度に頂いた資料によりますと、令和５年度で菊之池小学校が２９１名に

なる予定ということでありましたが、現在、令和５年度で２９１名ですね。一緒なんですね。

近隣の状況あたりを考えたときに、今、本当に宅地バブルといいますか、農地あたりもどんどん宅地に変えないかという話が出ておりますし、実際、アパートやマンションあたりも建設が多いように感じます。そのアパート、マンションに関しましては、定住というのはなかなか難しいのかなというように思うんですが、一方で、戸建ても非常に多く建てられているというのが現実であります。

校長先生あたり、先生も地域の方々と会合があったりなんかすると、地域の方々から、小学校は大丈夫なと、クラスは足っとっとかなというような心配もされておられるということもありますし、私も、もうちょっと足りなくなるのは近い将来あるんじゃないかというふうに考えております。

そういうことから、私は提案として、建て替えというものを、この質問をする中で提案したいということが大本にありました。今の場所で、例えば教室が足りないから増築をしましょうということになった場合に、今の菊之池小学校のスペースを考えたときに、もうないんですね。やるとするならば、プールをなくすか、体育館をなくすか、また、運動場の中に建てるかというような選択肢しかないように感じます。

プールにおいては、もともと菊之池小学校にはプールはなかったんです。それを地域の方々が必要じゃないかということで、募金を募って、プールを作られております。その記念碑もプールの横にありますし、記念碑には寄附金あたりもしっかり刻まれておるような状態でありますから、プールをなくすことに関しては、ちょっと支障があるのかなと思いますし、体育館においては、道路を挟んで菊之池体育館というものがございますが、校長先生とお話をさせていただいたときに、校長先生からは、どうしても道路を渡らないといけないという問題もあるし、雨の日あたりは特に傘を差してあそこまで移動するのは大変じゃないかと。安全面も考えたときに、体育館というのはあったほうがいいんじゃないかというようなお話あたりも伺っておりますし、やはり運動場に建てるということは、ちょっとこれからの体育祭あたりにも支障が出てくるんじゃないかというようなことであります。

以上のようなことから、先ほども申しましたように、建て替えを考えていったらどうかなというものを提案させていただきますが、その考えに対してどのようにお考えかをお示しください。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、建て替えの考えはというご質問だと思いますので、

お答えいたします。

現時点での建て替えの計画はございませんが、仮に建て替えるとした場合には、立地の課題や財源の課題があると考えております。

今後も、市の人口動態を注視し、児童数の将来推計を行う中で、増築や改築での対応が難しいと判断したときには、学校規模適正化に向けて協議してまいります。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　緒方哲郎議員。

［登壇］

○９番　緒方哲郎　議員　　今、建て替えの考えはないというようなお答えでありましたし、課題についてもお答えをいただきました。ありがとうございました。

立地あたりは、もうやっぱり探せばどうにかなっていくんじゃないかなと思いますし、財源的なものは、本当に一番頭を悩ませるところかなと思います。

今、菊池南中学校で長寿命化の改修工事をやっておりますが、令和５年、令和６年、令和７年、３年にわたって１８億７，１６１万９，０００円というようなお金も使っていかなければなりませんし、泗水中学校においても、令和２年度から令和４年度までに同じ長寿命化改修工事として、１６億６１３万円の財源で改修が行われております。思い切ってやってもいいんじゃないかなという考えでおります。

また、もう一つ、ちょっと問題になるところだと思うんですが、じゃあ今は児童数が多いと。将来的に児童数が少なくなったらどうするんだというような問題もあるかと思います。

そこで、１つ、隣の大津町の美咲野小学校、あそこを建設する場合に、もう設計の段階からいろんなものを考えて設計をされているということをちょっとお伝えしたいと思います。

まず、教室については、２棟、普通教室棟と特別教室棟が２つ、２棟に分けて建設されておりますし、玄関も別玄関になっておるというようで、特別棟のみ入室も、必要に応じてできるようになっておると。将来、児童数が減ったときには、この特別棟のほうを地域のほうへ開放しようというようなお考えの中で、例えば特別教室にある家庭科室、調理できるわけですが、この家庭科室を体育館になるだけ近いところに作っているというような工夫もされております。このような感じで、地域へ開放できる設計あたりをしていくと、その辺の課題というのはなくなっていくのじゃないかなというふうに思います。

地域の現状や実情を反映した計画を今から練っていかなければならないと思うわけですが、じゃあやりましょうという方向性だけでも、一日も早く学校規模適正化審議会など開催されて、方向性だけでも決めていくべきじゃないかと思っておると

ころでもあります。

また、このような状況というのは、菊池市の泗水小学校でも同じであるとお聞きしております。同様に検討していただくよう強くお伝えをして、質問を終わります。

○水上隆光　議長　　これで、緒方哲郎議員の質問を終わります。

ここで、昼食等のため暫時休憩します。

午後の会議は、午後１時から開きます。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午前１１時４７分

再開　午後　１時００分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、本藤潔議員。

［登壇］

○１番　本藤潔　議員　　皆さん、こんにちは。議席番号１番の本藤潔です。通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

今回は、認知症予防と対策についてと、少子化対策について、質問をいたします。

午前中、空調がよくなくて、大変暑い思いをしたんですけれども、大分回復したようで、昼からの１番ということで、眠くなるかもしれませんが、しっかり務めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

この認知症予防についての質問は、２年前に島議員が一般質問で取り上げられたことに関連しますが、その後、実は私の周りでも認知症での困り事の相談があったり、実体験の話を聞く機会があったり、当時、導入されましたどこシル伝言板、通称見守りシールの説明があって以来、その後、いろんな方に話をしたんですけれども、ほとんどの方が知らないとのことでした。

また、私、現在熊本県の県警本部が行っております、ゆっぴー安心メールに幾つかの複数箇所の地域登録をしているんですけれども、その地域の犯罪や防犯情報をタイムリーに提供されることから、頻繁にメール情報が届きます。その中に結構行方不明者の情報があり、察しますけれど、在宅において認知症の方の徘回が社会的にも課題となっていることから、身近なところでも認知症対策を取らないといけないということを強く思い、今回、改めて質問をさせていただきたいと思います。

認知症の早期発見・早期対応に対する取組と、認知症対策の現状と課題をお尋ねいたしますが、まず現状認識として、現在、菊池市では６５歳以上の方が人口の３５％に当たります１万６，１６５人いらっしゃいます。そのうちの介護保険の認定者数はどのくらいでしょうか。その上で、認知症の早期発見・早期対応に対する本

市の取組を教えてください。

○水上隆光　議長　　本藤議員、２つ目もされましたか。１回目で一緒にお願いしたいんですけど。

○１番　本藤潔　議員　　失礼いたしました。

最初の質問、先ほど認知症の早期発見・早期対応に対する本市の取組をお尋ねしましたが、併せて今後の現状と課題をお示しください。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　改めまして、こんにちは。本藤議員のお尋ねでございます。

まず、介護保険の認定者数はということでございます。

介護保険の要介護状態区分は、要支援が１から２、要介護は１から５の区分に分けて認定されます。要支援、要介護ごとの認定者数とその合計は、令和６年３月末現在で、要支援が６８６人、要介護が２，３８１人、合計の３，０６７人となっておりまして、近年の傾向といたしましては、認定者数にあまり増減はなく、横ばいの状態であるというふうに認識しております。

また、認知症の早期発見・早期対応に対する本市の取組はということでございます。

認知症に関することは、地域包括支援センターが窓口となっておりまして、相談内容や状態によって自宅訪問や専門医受診につなげる対応などを行っております。

また、毎月１回専門医による「もの忘れ相談会」を実施しており、家族や本人からの相談を受けております。

認知症の疑いのある方の早期発見につながる事業としましては、「認知症予防共生事業」を令和４年度から実施しております。この事業は、自動車学校で実施される７０歳以上の高齢者で、認知機能検査を受けられた方へ、認知症予防・共生に関する普及啓発を行い、相談や登録を促すものでございます。承諾された方には、身体・認知機能の維持改善のため、週１回、全２５回のプログラムを行っておるところでございます。

認知症への早期の対応としましては、見守り体制も重要であるため、多くの人が認知症を正しく理解できるように、「認知症サポーター養成講座」を定期講座と出前講座で実施しているところでございます。

この事業につきましては、平成１９年度より取り組んでおりまして、講座を受講された認知症サポーターの累計は、令和６年３月末現在で２万１，４０４人というふうになっております。

また、地域での見守り支援体制を築いていくために、「高齢者地域見守りネットワーク」を設置しており、各種団体や事業所等に協力員になっていただき、日頃の見守りと連携をお願いしており、年２回の研修の場となる連絡会を開催しております。

また、認知症の現状と課題というところでございますが、先ほど議員のほうからおっしゃりましたどこシル伝言板、そのあたりの普及も考えておりますけれども、なかなか導入に当たって人数が増えていかないというところも現状かというふうに考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　本藤潔議員。

［登壇］

○１番　本藤潔　議員　　要支援者が６８６名、要介護者が２，３８１名、合計で３，０６７人とのことでしたが、約２３％を占めております。最近は横ばいとのことでしたが、今後ますます増えるのではないかと推測をいたします。

厚労省が一昨年に発表しましたデータによりますと、２０４０年には、この認知症の方が約５８４万人、軽度認知障がいの患者数が６１３万人に上り、認知症は高齢者の６．７人に１人の割合で、今後、大幅に増える見通しを示しております。

独り暮らしの高齢者の方がこれから間違いなく増えていく中で、認知症になられても、地域で暮らしていける環境の整備が大きな課題であるかと思っております。

先般、地域でできる範囲で見守りや声かけをする認知症のサポーター、先ほど認知症サポーターの登録者数の答弁もありました。２万１，０００人を超えておるということなんですけれども、この認知症サポーターの登録者数は、県内でも非常に高いほうだと聞いております。これは菊池市民が健康や認知症についての関心度が高く、地域ぐるみで目配りや気配りが大切だと思っている方が多いということだろうと思っております。

先ほど説明がありました菊池市高齢者地域見守りネットワーク協力団体名簿があるんですけれども、登録団体が１７７、結構多くの方々が、協力されているということで、非常にありがたく思っているところであります。

先日、認知症の親と離れて住んでいらっしゃる方のお話を聞く機会がありました。今は介護施設にお世話になっているとのことでしたが、目を離せなく、在宅でのお世話が大変だったと切実な介護体験を聞きながら、これから増えていく認知症の方を考えると、家族や専門職の力だけで支えていくのも、ある意味、限界が来るのではないかと。これからは予防も含めて、認知症サポーターといったこれらの一般の方々の理解が必要だろうと感じたところであります。

そこで、再質問をいたします。

認知症と診断された対象者に対する本市での取組はどのようなものがあるのか、教えてください。

また、警察から認知症高齢者に対する情報提供があるとすれば、その件数としてどれぐらいあるのでしょうか、分かる範囲で教えてください。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　認知症と診断された方に対する本市での取組はということでございます。

認知症と診断された方やそのご家族に対する支援としましては、「認知症カフェ」を開催しております。本人や家族、地域住民や、福祉、介護、医療の専門職が集い、交流の場となっております。

また、「認知症介護家族のつどい」を毎月１回開催し、座談会や講座、リフレッシュ活動などを行い、交流や情報共有をすることで、介護ストレスや負担の軽減をする場となっております。

参加できなかった方にも、毎月１回「つどい通信」を郵送し、情報提供を行っているところでございます。

そのほか、行方不明になる可能性のある高齢者への対応の１つとして、先ほどもありましたが、「どこシル伝言板（見守りシール）」がございます。

この「見守りシール」は、行方不明になる可能性のある高齢者の家族が、事前に対象者の情報を登録してもらい、その登録情報を読み取れるＱＲコード付きのラベルシールを作成します。このシールを衣服や持ち物に貼ることにより、行方不明になった場合に発見者がＱＲコードを読み取ることで、身元確認が容易にでき、安否確認や家族への連絡がスムーズに行えるというものでございます。

この登録情報につきましては、警察や市役所の関係各課とも共有しておりまして、迅速な情報収集や捜索活動に活用でき、家族の不安軽減にもなり、有効な見守り方法の一つだというふうに考えております。

次に、警察からの情報提供はというお尋ねでございます。

菊池警察署より、地域での見守りが必要と判断された認知症高齢者等を発見された場合は、連絡票により情報提供をいただいております。

件数は、令和４年度が延べ２６件、令和５年度が延べ３０件でございました。

提供される情報内容につきましては、対象者氏名、発見日時、場所、状況等が主なものでございまして、緊急の場合は、電話での情報提供があり、警察と連携することで、より迅速な対応ができるものと考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　本藤潔議員。

［登壇］

○１番　本藤潔　議員　　ありがとうございます。

先日、認知症の予防と対策について、私もいろいろ調べたく思っておりましたので、専門の先生に話を伺おうと、菊池有働病院の院長先生を訪ねて、いろいろ話を聞いてまいりました。

非常に悩ましく、厳しい課題として対応しているとのことでしたが、今現在、根本的な特効薬がない中で、特に増加をしていると言われましたけれども、軽度認知障がいの人は、自分がそうだと思っていなかったりする対象者が比較的多く、いかに軽度認知障がいの方を家族からかかりつけ病院へ、受診、診断、治療といった、いかに医療につなげるかが鍵であって、地域ぐるみでの健診のように、早めに気づいてもらえるかが重要になってくるというようなお話をされました。

何よりも早期発見・早期対応だということを力説をされましたが、今、説明があったんですけれども、今日は空調が壊れましたが、復旧のめどが立たないと言われたんですけれども、修理をすれば回復をするでしょうが、認知症の場合はそうはいきません。見守りネットワークの話があったんですけれども、その伝言板のチラシですよね。先ほど紹介しましたネットワークを含め、いろんなところで周知をされていると思いますが、この見守りシールの現在の登録者数の推移と、この見守りシールの現状と課題をお示しください。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　まず、見守りシールの登録者数の推移はということでございます。

この見守りシールにつきましては、令和４年度より事業実施しており、登録者につきましては、令和４年度が１１人、令和５年度が１１人、令和６年度は５月末までに２人の登録がございまして、合計で２４人の方が登録をされているというような状況でございます。

現状と課題ということでございますが、この見守りシールを知っていただき、活用していただくために、高齢者地域見守りネットワーク連絡会や、介護サービス事業所の研修会などにおきまして周知を行っております。

また、地域包括支援センターで作成している、認知症施策について分かりやすく説明したパンフレットの中にも写真付きで紹介しており、チラシ等も作成し活用しているところでございます。

しかしながら、登録者数は、先ほど申し上げたとおりで、あまり増えていないのが現状でございます。

登録された方の中には、見守りシールを貼るのが恥ずかしいといった理由で、シールをはがしてしまうといったケースもございまして、利用に抵抗や不安を感じていらっしゃる家族もおられるようでございます。

今後につきましては、見守りシールの効果が期待される方へは、安心して利用していただけるよう丁寧な説明を行いながら、事業の周知啓発に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　本藤潔議員。

［登壇］

○１番　本藤潔　議員　　今の見守りネットワークの話を再度いただいたんですけれども、このどこシル伝言板、いわゆる見守りシールを付与されている、付与というサービスをしている自治体はあまり多くないんですね。これは行方不明になる可能性のある対象者の情報を、説明がかぶりますが、事前に登録をしてもらうことで、その登録情報を読み取れるＱＲコード付きのラベルシールを対象者の衣類や持ち物に貼ることによって、万が一、外出中に行方不明になった場合、発見者がそのＱＲコードを読み取ることで、身元の確認ができ、安否確認や引渡しがスムーズに行われるものということなんですけれども、当然、万が一、行方不明になった場合、ＧＰＳ機能等がついているわけではないですけれども、万能ではないにしても、見守りシールを多くの人にぜひ知ってもらい、使ってもらうことで、早期発見につながるものだと思っております。ぜひ多くの方、それから１回このチラシ等を周知したからではなく、再度、いろんな機会で周知していただければというふうに思っております。

再度、今言われた課題の解決に向けて、どう取り組んでいくのか、もう一度お尋ねをいたします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　課題解決に向けた今後の取組はというお尋ねかと思います。

令和６年３月に策定しました第９期菊池市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画では、「住み慣れた地域で支え合い、全ての高齢者が幸せを実感できるまち」を基本理念としており、様々な施策を推進しているところでございます。

その中でも、認知症への正しい理解や予防、早期発見・早期対応はますます重要

となりますので、民間事業所や各種団体へ向けた認知症サポーター養成講座の開催や、認知症高齢者への声かけ模擬訓練の実施を計画しておるところでございます。

また、見守りシールにつきましても、各種会議やイベントでの周知をさらに進めるとともに、現在の登録者から意見を収集し、課題と状況の把握を行ってまいりたいというふうに考えております。

今後も、地域包括ケアシステムの構築を基本に、必要な施策の継続と充実を図ってまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　本藤潔議員。

［登壇］

○１番　本藤潔　議員　　ありがとうございます。

やはり早期対応には、先ほどもお話ししましたけれども、受診から診断、医療へとつながることと、併せて見守りシールのさらなる周知徹底と、認知症サポーターの関わりを深くすることを通して、地域全体で支えていけるよう取り組んでいただきたいと思います。

次の質問に移ります。

少子化対策について質問をいたします。

少子化に歯止めがかかりません。歯止めがかかるどころか、想定以上のスピードで進んでいることが、２０２３年の人口動態統計の発表で明らかになりました。

今回取り上げます少子化対策、いわゆる人口減少問題は今に始まったことではなく、５年ごとの国勢調査を基に、国立社会保障・人口問題研究所が推計し発表される数字でありまして、２００８年をピークにして、それ以降、年々人口が減少しているのが実態となっております。

合計特殊出生率は、前年の１．２６％から１．２％まで下がり、ちなみに、熊本県は１．４７％と全国では５番目に高い結果となっておりました。

外国人を除く出生数も前年より４万人以上減って、７２万７，２２２人で、過去最少となり、また婚姻数も前年比６％減の４７万４，７１７組で、戦後初めて５０万組を下回りました。

様々な要因があり、政府が適切な対応をしてきたかどうかは甚だ疑問ではありますが、現政権の下、人口減少問題を国の重要課題の一つとして、次元の異なる少子化対策と銘打ち、この１０年がラストチャンスとして少子化対策に取り組み、今、国会で関連法が成立をしたところであります。

この菊池市におきましても、以前、ここで紹介しましたが、毎年４００名を超えていた出生数が、平成２８年度の４０７人を最後に、直近の令和４年度は２６７人、

令和５年度には２６２人まで減り、少子化に歯止めがかかりません。

これから質問の中で、子育て支援の視点から説明してまいりますが、人口減少を少しでも遅らせるために、本市として、各課において施策を駆使して行うべきものがあるのではないかという観点で質問をさせていただきたいと思います。

前回、人口減少対策として取り組んでいる菊池市子育て世帯移住支援事業について、一般質問をさせていただきました。

多くの自治体が人口減に歯止めをかけようと、移住定住策に力を入れています。ただ、どれだけ移住支援策に注力しても、その後、子育て世帯にとって、安心して住み育てることができるまちではないと感じたら、経済的にも、環境的にも、安心できる実感が持てないとしたら、定住どころか、しばらくの移住でも難しいかもしれません。

結婚、出産・子育てに関しましては、多様な意見や価値観がありますが、結婚や子育てを望んでいても、経済的な理由で足踏みをしてしまう。また、育児に関しても、不安といったことが少子化につながる原因の一つであるとするならば、今、住んでいる自治体として、そこにこそ注力すべきだと思い、２点お尋ねをいたします。

１つ目は、子どもを産み育てることを経済的理由で諦めない取組として、市独自の取組はどのようなものがあるのか、お尋ねをいたします。

２つ目に、子どもが健やかに育つという安心感を持てる市独自の取組はどのようなものがあるか、お示しください。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　１点目の経済的な理由で諦めないようにする市独自の取組はということに関しましてお答えします。

市独自の子育て世帯への経済的支援の取組としましては、１８歳までの子どもを対象としました子ども医療費助成事業、多子世帯に対しましては、保育所等の副食費補助や、すくすく子宝祝金の支給、ファミリーサポートセンターの利用者に対しましては、きょうだいで子どもを預けられる場合の第２子以降の利用料を無償化にしております。

また、教育委員会におきましては、中学校卒業後に進学するための経済的な支援としまして、小川基金を活用した給付型の奨学金や奨学資金貸付事業があり、市独自の経済的な支援として実施をしているところでございます。

次に、子どもが健やかに育つ安心感を持てる市独自の取組はということでございます。

今、述べましたが、経済的支援に加えまして、安心して子どもを産み育てること

ができる社会の実現のため、保育所等における待機児童ゼロの堅持や、医療的ケア児の受入れ態勢の確保などの子育て支援事業を実施しているところでございます。

また、子育てに関する不安を軽減するための取組としましては、つどいの広場や子育て支援センターなどの地域子育て支援拠点施設の設置や、こども家庭センター設置による相談体制の充実を図っているところでございます。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　本藤潔議員。

［登壇］

○１番　本藤潔　議員　　ありがとうございます。

様々な取組を実施されているということが分かるんですが、今言われたような、こうした子育て世帯への経済的支援というのは大切だと思っております。ただ、それだけではなく、今後、結婚する、出産する人、望む人たちへの支援に、もっと支援が必要ではないかと思っております。それは若年層にとって、生計の不安が切実であるからです。

再質問いたします。

少子化の最大の原因は未婚化だと言われて、若い人の価値観の変化や、娯楽の多様化が少子化の原因だとも言われております。

これも社会保障・人口問題研究所が発表した生涯未婚率のデータでありますが、１９８０年から２０２０年の４０年間で、女性は９．４５％から１７．８１％に、男性は２．６％から２８．２５％にまで増え、もはや男性の４人に１人以上が生涯未婚率という時代であります。

そんな中、様々な地域事情、環境条件が違うにせよ、いわゆる婚活事業に力を入れている自治体もあれば、または取りやめた自治体もある中で、熊本市のように、本年度から婚活支援を熊本市結婚チャレンジ事業として、地域の団体や、よかボス企業が婚活イベントであったり、結婚セミナーを開催する際の費用を補助するという婚活事業をサポートし始めました。

菊池市でも同じような形で婚活事業の予算を計上されておりますが、要するに、市としての少子化対策に対する危機感や、使命感による判断の一つであろうかと思っております。

先ほどお話がありました、菊池市では合併前からのすくすく子宝祝金を引き継いだ制度はありますが、子どもを産む前の結婚支援や、結婚祝金に関する制度はありません。

例えば結婚新生活支援事業というのは、地域社会の活性化と人口増を目指す目的で設けられることが多いのですが、これも調べましたけれども、全国でも仙台市や

成田市、松山市、神奈川県の山北町など、多くの自治体が取り入れており、隣の福岡県の八女市においては、結婚新生活支援事業として、上限６０万円、結婚記念品として、新夫婦に八女茶や夫婦の湯飲みセットの贈答品もあるようです。自治体としてサポートする、後押しをする事業は幾つかあるわけなんですね。

今後、少子化対策の一環として、結婚新生活支援事業などの施策についてのお考えはないか、お尋ねをいたします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　結婚する際の祝金ですとか、新婚生活支援金等の支給に取り組む考えはないかというお尋ねかと思います。

結婚に伴う経済的な支援の一つとしまして、先ほど議員のほうからもご紹介がありましたが、結婚新生活支援事業がございます。この事業につきましては、婚姻に伴う住宅取得費用、リフォーム費用、住宅賃貸費用、引っ越し費用を補助するもので、県内では、１４市中４市が令和５年度に実施しているというふうに伺っております。

本市としましては、少子化対策の一つとしまして、先ほど申し上げました市独自で実施している子育て支援施策の充実を図っております。結婚に伴う支援金等の給付につきましては、先進的な自治体の取組を見ながら、課題として受け止めさせていただきたいというふうに思います。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　本藤潔議員。

［登壇］

○１番　本藤潔　議員　　では、子育て世帯の負担軽減という点から質問を続けます。

子育て中で経済的負担の１つに保育料があります。２０１９年の１０月から幼児教育保育の無償化に伴いまして、３歳から就学前の保育料はかからなくなりました。ただ、０歳から２歳までの世帯収入ごとに約１０段階の階層区分があり、利用料がかかります。もちろん非課税世帯であったり、多子世帯など、要件を満たせば、第２子、第３子は半額または無料となる世帯もあるわけでございます。

県内いろいろの動きを確認しているんですけれども、八代市、天草市は、完全無償化、荒尾市は、本年度の４月から第２子以降を完全無償化といたしました。

本市での保育料の一部無償化の導入の見解をお尋ねいたします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　保育料の無償化についての考えということでございます。

令和元年１０月より始まりました国の制度でございます「幼児教育・保育の無償化」に基づきまして、本市におきましても、保育所等を利用する３歳から５歳児と、住民税非課税世帯の０歳から２歳児の利用料を無償としております。

国の基準では、保育所等を利用する最年長の児童を第１子とカウントして、０歳から２歳までの第２子は半額、第３子以降は無償となりますが、本市におきましては、熊本県多子世帯子育て支援事業により、１８歳未満の児童を養育している家庭の第３子目以降の児童については無償としております。

そのほかにも、ひとり親世帯や障がいの有無により、軽減の適用を制度に基づいて行っておりますので、現時点で無償化の対象を拡大する予定はございません。今後、他自治体の動向も見ながら、精査の上、方向性を考えてまいりたいというふうに思っております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　本藤潔議員。

［登壇］

○１番　本藤潔　議員　　私はこの市単独の無償化の効果をしっかり検証していただきたいと思います。私はこの保育料の無償化の効果は、大きく４つあると思っております。

まずは、経済的負担の軽減、家庭への保育料負担が減ることで、子育て世帯の経済的な支援となること。

２つ目は、子育て支援の充実です。保育料の心配がなくなることで、より多くの家庭が保育サービスを利用できるようになります。

３点目は、女性の社会進出の促進、保育料の負担がなくなることで、仕事と子育ての両立がしやすくなり、女性の職場復帰や労働力不足の解消に貢献することにもなります。

４つ目は、人口増への寄与です。子育ての経済的負担が軽減されることで、子どもを持つことへのハードルが下がり、出生率の向上につながる可能性があります。もっと言えば、教育的な影響もあると思っております。

無償化を導入することによって、保育サービスを受けられる子どもが増えることで、幼児教育・保育の機会均等が図られます。早期教育の充実が子どもたちの将来の学業成績であったり、社会参加によい影響を与えることが期待されるという点であります。

もちろん実際の効果は、地域や家庭の状況によって異なりますし、具体的な影響を評価するには、効果検証であったり、継続的なモニタリングが必要となるでしょう。しかし、保育料の無償化は、単に経済的な支援にとどまらず、地域の経済や社

会にとってプラスの効果をもたらす可能性があり、子どもたちの未来への投資として、また、地域経済への活性化に寄与する施策でもあります。せめて２歳児の保育料の無償化をする効果検討を進めていただきたいと思います。

では、負担軽減に関連して再質問いたしますが、では、小中学校への入学する際、小学校、中学校へ入学する際の経済的支援として、先ほどお話があったかと思いますが、もう一度、どのような施策があるのでしょうか、小学校入学祝金等があるのでしょうか、お尋ねをいたします。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　議員ご質問の小中学校への入学金等の支給については、本市では行っておりません。

ただし、経済的理由により就学困難と認められるご家庭につきましては、入学前の全ての保護者に就学援助制度を周知しており、支給認定を受けた保護者には、入学準備金または新入学用品費を支給しております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　本藤潔議員。

［登壇］

○１番　本藤潔　議員　　入学する際の経済的支援として、いわゆる必要な世帯に就学援助金や入学準備金等があるとのお答えでしたが、政策的にも、予算的にも、理にかなっているとは思います。しかし、これだけ物価高騰の影響を受けて、働く親の実質賃金が上がるどころか、下がっている現状で、入学する際、多くの方が必要な世帯と言ってもいいのではないかと思っております。

そういう観点からすると、以前、福島議員が一般質問されておりましたランドセル支給などは理にかなっているのではないかと思うところであります。導入している山鹿市では、今は好みの色も選択できるとの報道もあっておりました。

いずれにしましても、子どもが成長するにつれて、経済的な負担が続くわけですから、少しでも経済的な理由で諦めないような子育て支援の充実を要望したいと思っております。

次に、子どもが健やかに育つという安心感を持てる取組について、再質問をいたします。

先ほど医療的ケアや、子育て支援センターなどによる相談事業の充実等の答弁がありました。実は、私もこの取組は非常に大事だと思っております。私たちが住むまちが少しでも子育てのサポートをしてくれるという安心感が希望につながるからあります。

働きながら子育てする家庭の支援として、実は要望が高いのは、以前、古田議員、それから荒木議員が一般質問でもされました。現在１か所しかない、病児・病後児保育の増設についてであります。

先日もカンガルーのポケットとして、病児・病後児の預かりサービスを行っております菊池みゆきこども園さんからお話を伺いました。コロナ禍が収まってからは季節性感染症が相次ぎ、インフルエンザや、溶連菌感染症や、手足口病などで利用者が途切れない状況だそうで、もし増設されるのであれば、そのお手伝いは惜しまないとまで言われました。

現在の取組の現状や進捗状況を具体的に教えてください。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　病児・病後児保育について、２か所目の設置についての取組はということでございます。

病児・病後児保育施設の２か所目の設置につきましては、先ほど議員のほうからもご紹介がございましたが、本年第１回定例会での一般質問の際にもお答えをしております。現在、泗水地区におきまして、１か所の保育園から事業の実施について前向きに検討したいという回答をいただいております。

今年度に入りまして、事業実施をされている（後に発言の申出があり、「事業実施をされている」を「事業実施を検討されている」へ訂正）保育園と今後の病児・病後児受入れ規模や事業所の開設時期などの協議を始めているところでございます。

以上、お答えします。

失礼しました。「事業実施を検討されている」と申し上げるところを「事業実施をされている」というふうにお伝えしました。おわびして、訂正いたします。

○水上隆光　議長　　本藤潔議員。

［登壇］

○１番　本藤潔　議員　　簡単にはいかないとは承知しておりますが、現在実施されている病児・病後児保育の利用状況を見ても、また、共働き世帯でこれだけ核家族が増える中で、病児・病後児保育の増設は必須であると思っております。少しでも安心して子育て、それから仕事が両立できる、官民連携の中で本気度が試されていると言っても過言ではない、この課題への増設をぜひお願いしたいと思います。

あわせまして、先ほど答弁にもこれもありました、安心して子育てサポートをする地域子育て支援拠点事業について、再質問をいたします。

現在、菊池市内５か所で運営されておりますが、就園前の親子が利用される、まさに子育てを支援する事業であります。０から２歳児までの母親の約６割が社会と

のつながりが希薄となり、様々な問題を抱えている状況にありまして、利用者として助かったとの声をよく聞きます。

孤立した育児の実態が示されているデータが幾つもある中で、これは令和４年９月２８日の全世代型社会保障構築会議の資料の中では、就園前の子育て状況として、子育てしている親と知り合いたかったと、子育てでつらいと感じることがあったと、悩みや不安を話せる人が欲しかったと、大人と日常的な会話をしたかったとの声が８割にも上ります。多分菊池市でも対象者アンケートを実施すれば、同じような回答があるかと思っております。

これ以前、アンケートも取られたかと思いますが、こども家庭庁が昨年設置され、こども未来戦略方針というのがその中にありまして、その基本理念の一つに、子育てしづらい社会環境や、経済的・精神的負担や子育て世帯の不公平感が存在する中で、切れ目なく支援しましょうと。全ての子ども・子育て世帯を対象とする支援を充実させていきますねと。そのために安定的な財源も確保していきますねと、このような国からの説明が毎回ありました。

特に子どもの誕生前から幼児期までの子どもの育ちを保障するために策定されました「はじめの１００か月の育ちビジョン」というものが昨年１２月に閣議決定をされました。子どもの育ちをサポートするキーワードが、はじめの１００か月ビジョンに示されている方針を見ておりますと、どの地域においても、菊池市におきましても、孤独・孤立の子育てや、虐待防止の観点から、地域における子育て支援センターまたはつどいの広場等で、親子が集う場所の重要性を再認識するものであります。

菊池市におきまして、利用状況を見据えた今後の事業展開の見通しはどのようなものか、お示しください。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　地域子育て支援拠点事業についての今後の考えということでございます。

現在、地域子育て支援拠点事業につきましては、子育てについての相談や情報提供、助言その他援助を行う場所として、市内各中学校区５か所において実施をしているところでございます。

現時点で地域子育て支援拠点について不足しているというふうには感じてはおりませんけれども、現状の分析を行い、子育てをされる方がより身近で利用しやすい場所となるよう、検討してまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　本藤潔議員。

［登壇］

○１番　本藤潔　議員　　これをしっかり充実させていただき、子育ての不安解消と安心感を担保できるようお願いしたいと思っております。

次に、子どもが健やかに育つ環境として、皆が集う場所や、公園での遊び場が不可欠であることから、幼児期の子どもの遊び場についてお尋ねをいたします。

公園の遊具に関しましては、近年、菊池市ふるさと創生市民広場に大型遊具が設置され、七城町の鴨川公園にも人気の遊具があり、旭志地区にも今年の秋には大型遊具が設置され、泗水町の公園にも遊具が設置される予定であります。大変ありがたく思っているところであります。

現在、城山公園内にも木造の大型遊具が設置され、ここには週末には多くの方でにぎわっている人気の場所でありますが、現在、一部使用禁止となっております。

先日、担当課にお伺いをしましたけれども、あの木造の遊具は２０００年に設置された大型木造遊具であって、既に２４年がたち、使用期間の目安である１７年を既に過ぎているからとの説明でありました。よく分かります。

利用者の方々からよく話が上がるのが、低年齢児の遊ぶ遊具や場所、または自然の中で遊べる環境をという声であります。特に城山公園の遊具は、自然環境に近い環境にある希少価値の高い木造遊具だと認識しているところでありますが、公園内の遊具の今後の維持管理の見通しをお示しください。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　それでは、ただいまの本藤議員の質問にお答えいたします。

今後の公園の維持管理の見通しということで、全般的な形で回答させていただきます。

現在市で管理しております遊具は、２０か所の公園施設の中に４１基設置しております。

公園遊具につきましては、毎年行っております「公園遊具劣化診断」及び令和５年度に更新しております「菊池市都市公園長寿命化計画」に基づき管理を行っております。

劣化診断において、危険度も高く、修繕等が困難な遊具につきましては、安全性の面からも撤去を行い、その他の遊具につきましては、劣化診断等の状況を見ながら適正な修繕等を行うことで、皆様方に安心してご利用いただけるよう努めているところでございます。

また、今年度は旭志地区及び泗水地区に新たに遊具を設置する計画であり、今後

も市内全体のバランスを見ながら適正な遊具の維持管理を行ってまいります。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　本藤潔議員。

［登壇］

○１番　本藤潔　議員　　当然安全でなければならないわけでありますので、公園管理計画の中で維持管理されていると理解をしておりますが、幅広い年齢層の子どもたちが利用できる場所として、公園が生きる、人が集い、つながる場所を取捨選択していきながら、適正な管理の下で再利用できることをお願いしたいと思います。

最後に、市長にお尋ねをいたします。

少子化対策についてお尋ねをしてまいりました。１０年前から地方創生に取り組んできた政府でありますが、全国の地方自治体を分析した結果、交通アクセス、移住支援、子育て支援、企業誘致という４つの要素が、人口減少の速度を遅らせるプラスの要因だとの分析結果を先日発表いたしました。

さて、菊池市としては、特にどの要素に力を入れるべきなのでしょうか。これからの菊池市版地方創生は、子育て支援と移住・定住支援だと思いますが、少子化対策における子育て支援の強化について、市長の見解を伺います。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、お答えいたします。

少子化対策について述べよということでございます。

今、特にお子様をお持ちの若い世代が田舎に移住したいというニーズも大変増えてきておりまして、宝島社がそのための専門誌を月刊誌で発行するぐらいでございますけども、そこが毎年出しております「住みたい田舎ベストランキング」がございますけども、今年の分がつい２月に出たばかりでありますけども、この１２回目の住みたい田舎ベストランキングで、人口３万人から５万人未満のまちというカテゴリーにおきまして、本市が子育て部門で第４位にランクインしたところでございます。これは評価の基準が子育て施策の充実度をベースにポイントに評価し直したものと。それを全国規模で評価したものでありまして、これまで地道に積み上げてきました様々な少子化対策も含めた子育て世代への施策が評価されてきているものだというふうに認識をしております。

少子化対策といった場合に、もういろいろな切り口がございます。結婚支援をどう進めるか、それから、妊娠・出産支援の問題、それから、仕事と子育ての両立支援、それから、地域・社会における全体での子育て支援、あるいは経済的な支援、こういったふうなライフステージに応じた非常に相互的な取組が必要であるという

ふうに考えております。

今後は、国や県、近隣自治体の動向を見ながら調査・研究をするとともに、今、評価をいただいております本市の子育て支援策等に引き続き充実させるように取り組んでいきたいと、こういうふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　本藤潔議員。

［登壇］

○１番　本藤潔　議員　　ありがとうございます。

ランキングの話を私もよく存じ上げております。ただ、子育てを支える活動が盛んな地域は、出生率が高い傾向にあります。市政運営の中でも、将来像である「人と自然が調和し、希望と活力に満ちた『癒しの里』きくち」の中で、人口減少の抑制を目指した子育て支援の強化と充実を要望いたしまして、私の一般質問を終わります。

○水上隆光　議長　　これで、本藤潔議員の質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後１時５８分

再開　午後２時０６分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　皆さん、こんにちは。議席番号８番、福島英徳でございます。本日、最後の一般質問でございますので、しばらくの間、お付き合いください。

本日は、契約の在り方・補助事業の在り方について、また、カスタマーハラスメント（カスハラ）の現状について、質問いたします。

議長の許可も得ておりますので、聞いている方も分かりやすいように、まずは契約の在り方について質問いたします。

これまで、関連した一般質問を４回行いましたが、委託契約のやり方については、問題ないの一点張りで、双方の認識及び解釈は大きく乖離したまま、平行線が続いております。しかし、市民の方からや、作業業者の方からも、委託に関する改善を求める声が後を絶たないのも事実です。

そこで、本日は、その声も交えながら、今後の進め方について質問いたします。

年間１，７００万円近い委託事業を祭り、イベントの実行だけで、河川管理とは

畑違いのまつり実行委員会に随意契約とは、いつもお固い役所の処理としては違和感がある。

委託の流れは、国土交通省から市役所土木課に委託され、土木課はまつり実行委員会の事務局である観光振興課へ委託、観光振興課はまつり実行委員会へ、まつり実行委員会は別の業者へ委託、これが現在の流れです。

その際、事前協議に参加した業者の代表と随意契約とは、１業者に利益を誘導するような結果ありきの契約に映ります。さらに、その団体は指名審査会へ提案することを免除されていない団体でもあります。一般作業において、結果ありきの選定は不正などの何か裏があると思えて仕方ありません。

以前の一般質問時で、なぜ一般競争入札ではなく、随意契約だったのかとの質問に対して、当時の建設部長答弁では、組織体制、当該事業の業務遂行能力、会計年度任用職員の再雇用が可能かなどを判断して、指名審査会に諮って、契約をしたとのことでしたが、常識に照らせば、前項の項目を含めた仕様書を作成し提示して、一般競争もしくは指名競争入札にかけるべきではなかったのでしょうか。そのような当たり前の手順を踏んでいれば、複数者が候補に挙がったことと私は考えます。その手順を踏まず、当該１者としか協議せず、その他の業者には打診すらしなかったことは、重大な行政上の瑕疵ではないでしょうか。

そこで、１回目の質問です。

当該１者としか協議をせず、その他の業者に打診すらしなかった理由を再度お尋ねいたします。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　それでは、ただいまの福島議員の質問にお答えいたします。

七城地区の国管理の河川の除草、コスモスの植栽につきましては、地元七城区長会、商工会七城支部等で構成された「七城ふるさとコスモスまつり実行委員会」と単独随意契約を行っております。

河川の除草につきましては、他の地域でも同様に、地元行政区または地域で組織された団体との単独随意契約を行っているところです。

理由としましては、国や県から受託している河川の除草費用は、委託先である市が営利団体ではないために、経費部分を大幅に削減した金額になっています。そのため、基本営利団体では受託が困難と考え、地元の非営利団体と随意契約を行っているものです。

また、七城地区の国管理河川につきましては、除草作業のほか、コスモス祭りに向けてコスモスの植栽業務が追加されています。コスモスの植栽は祭りの根幹に関

わるものであるため、継続的な業務遂行能力、地域振興への寄与などを総合的に勘案し、指名審査会での審議を経て契約を行っているものです。

以上のようなことから、１者単独での随意契約を行っており、今後も現行の委託方法を継続していきたいと考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　部長も替わられたことですので、答弁内容に若干の期待は持ったのですが、残念ですね。

先ほど非営利団体への委託というふうにおっしゃったんですけども、確かにコスモスまつり実行委員会は非営利だと思います。でも、実際はそこからある業者に委託されているはずなんですけども、そのところは非営利団体と言えるんでしょうか。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　ただいまの質問にお答えいたします。

委託先につきましては、市のほうからは業者ではなく、七城ふるさとコスモスまつり実行委員会へ委託しているものです。その他につきましては、組織内で決定され、業務を行われているものと考えます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　そういう回答になるかとは思いました。このような同じような形態の委託契約を来年から見直す計画があるのかなという質問をしようかと思ったんですけども、見直す計画はないとお答えいただきましたので、次の質問に入ります。

先ほど河川除草関係は各場所で随意契約をしているということなんですけども、同じような形態の委託契約は、今後も１者の随意契約を菊池市は行っていく考えと受け取っても構いませんか。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　ただいまのご質問ですけども、ほかの地域の河川の契約も含めたところのお話ですかね。現状として、一部の行政区からは、もう返したいというようなお声もございますので、どうしてもその受託先、私たちがお願いしたところの組織的なもの、高齢化とか、人数が減ってきましたというところで、受託がで

きないところに関しては、当然ちょっとお願いができなくなりますので、その際は、何らか菊池市シルバー人材センターであったり、別のその組織ができればいいんですけども、そちらのほうにお願いするような形になるので、変更する可能性はあると思います。

コスモスの植栽のほうにつきましては、どうしてもコスモスが主体でありますので、どうしてもそれは咲かないとまずいので、それに責任を持って継続的にやってもらえるところでなければ、ちょっと難しいということで、そちらについては、これまでどおりコスモスまつり実行委員会のほうにお願いしたいと考えているところでございます。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　市民の皆さんからもいろんな苦情が来ていると思いますので、私は一度原点に返って、いろんなところを見直す必要があるんじゃないかというふうに思います。

それでは、次の質問に移ります。

本市から各区長さんを通して行う補助事業についてお尋ねします。

この補助事業は、菊池市補助金等交付規則という、こういった大枠がありまして、様々な補助事業は、この補助金交付金規則を基に要綱が作成されているとお聞きしております。

ただ、全ての補助事業についてお尋ねするには、あまりにも多過ぎますので、今回は地域住民に身近な地域づくり推進補助事業、自治公民館整備事業、そして、ＬＥＤ防犯灯に関する設置等補助事業の３つに絞って質問いたします。

補助事業のほとんどが申請書添付として、２者以上の見積り提出が必要だと聞いていますが、間違いはないでしょうか。

例えば地域づくり推進補助事業に関する要綱には、事業経費のうち、工事費、備品購入費については、補助金申請の際に、添付資料として市内業者からの見積書を２者分提出してくださいとの記載があります。３つの補助事業について、補助金申請におけるルール、見積書、申請時期と、それと流れについて、要点だけでも結構ですのでお示しください。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　それでは、ご質問の補助事業につきまして、３つがそれぞれの部署で担当いたしておりますので、まとめて私からお答えをさせていただきたい

と思います。

補助事業の申請時に必要な書類、及び決定までの流れということでございます。

先ほど議員からもご案内ございましたけれども、補助金の交付につきましては、菊池市補助金等交付規則にて基本的な事項を、個別事業の補助金交付要綱にてその他必要な事項を規定いたしております。

通常、どの補助金申請にも、補助金交付申請書及び事業計画書、事業収支予算書は必要となっております。

まず、「地域づくり推進補助金」の申請時には、別途、位置図や写真、原則市内業者２者分の見積書が必要でございます。

４月末日までに申請書を受け付けた後、庁内で組織します「菊池市企画振興検討委員会」において、申請内容を審査し交付決定を行っております。

次に、「自治公民館整備補助金」でございますが、前年度８月に整備計画書及び、原則市内業者２者分の見積書、現況写真等が必要でございます。その後、現地調査等の審査を行います。

４月に対象区の区長説明会を実施した後、申請時に、見積書１者分及び公民館長の同意書を提出いただいております。申請内容を再度審査し、交付決定を行っております。

次に、「防犯灯ＬＥＤ化補助金」でございます。取替箇所の位置図及び写真、原則市内業者２者分の見積書が必要でございます。

９月に次年度の希望調査を行い、翌年４月に申請書を受付、現地確認を行った後、交付決定を行っているところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　このことというのは、区長さんには周知してあるのでしょうか。私は複数の区長さんに確認しましたが、認識と申しますか、解釈の相違があるように感じましたので、どのように周知されているのか。それと過去５年間の申請件数をお聞かせください。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　それでは、再質問にお答えをいたします。

まず、「地域づくり推進補助金」につきましては、前年度の２月及び当該年度の４月に、全区長さんに対しまして区長文書でのお知らせ、またホームページや広報にも掲載を行っております。５年間の申請件数は５２件でございます。

次に、「自治公民館整備補助金」につきましては、毎年４月に各地域の区長会及び自治公民館長連絡協議会総会で説明を行い、７月には区長文書にて次年度の整備計画について照会を行っております。また、ホームページにも掲載し周知を行っているところでございます。５年間の申請件数は１６９件です。

次に、「防犯灯ＬＥＤ化補助金」でございます。次年度のＬＥＤ化希望基数調査を行うため、前年度の９月に全区長等へ通知を行っております。

この補助金につきましては、令和３年度に創設したものですので、申請件数３年間で１４６件となっております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　申請件数が５２件、１６９件、１４６件とのことでしたが、部長はこの申請件数が多いのか少ないのか、どういうふうにお考えなのかなというふうにお聞きしたいところなんですけども、私はちょっと少ないんじゃないかなというふうには思います。

やはりきちんとそごのないように周知をされるというのが行政の役割ではないでしょうか。

先ほど申請時期等の説明がございましたけども、例えば自治公民館等の井戸ポンプなど、ライフライン的な故障が発生した場合、故障した時期によっては、１年以上も補助金採択を待たなければならないケースが出てまいります。事業に当然該当する内容にもかかわらず、時期の関係だけで除外されることには、まちづくりを提唱される行政としては非常に違和感、そして羊頭狗肉感が漂います。

災害の場合、自治公民館は市民の一時避難所となる可能性は大いにあります。いざというときにライフラインが止まっていれば、負担は市民に降りかかるわけです。防災の観点からも、全ての案件とは申しませんが、状況に応じて随時の補助金対応が必要だと思いますし、何よりも補助事業が多岐にわたり、その事業ごとに要綱が違うことが、果たして市民に寄り添っているのか疑問です。

申請する側に立って考えれば煩雑感が拭えません。全ての補助事業の要綱を統一しろとは言いませんが、ある程度統一するのが申請者に対する配慮ではないでしょうか。煩雑感のある現状の補助事業制度を見直す考えがあるのかをお尋ねいたします。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、議員ご指摘の分の１つは自治公民館の補助金、こ

ちらについて、ちょっとお答えをさせていただきます。

先ほど総務部長が申しましたように、自治公民館の場合は、高額の補助等もあるため、事前に８月ぐらいに整備計画等をいただいて、審査をした上で、当初予算に計上しておるところでございます。

ただし、今、議員がおっしゃったように、ライフライン、こういったことで、やはり緊急を要して、地域の住民の方の自主学習であったりとか、公民館活動に支障も来すとか、そういった場合は、補正予算等で対応するところもございますので、こちらについては、その分をお伝えしたいと思います。

以上、答弁させていただきます。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　補助金交付要綱の一定のものについては、統合をというような内容のご質問ございましたけれども、それぞれの補助事業の性質でありましたり、内容等には多種多岐にわたっておるところでございます。多種多岐にわたっておりますので、やはりそれぞれで必要な事項と細部のものについては、個別に定める必要がございますものですから、現状では現行のままの対応をしていきたいと思いますし、その内容等については、十分申請者側への周知を徹底してまいりたいと考えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　分かりました。

何よりも市政を支えるのは区政であり、そのコミュニティの区政に税金を使ってこそ、生きたまちづくりではないかと私は思います。

堤防等周辺美化委託のように、約１，７００万円といった高額案件は、一般競争入札どころか、他の業者には打診もせず、当該１者のみと協議して、決定を下したことに対して、官製談合とも取れる契約に対しては、何の問題ないと一辺倒の執行部答弁ですが、今回提案してる案件は、多くても５０万円以下の少額なものです。市民の暮らしをよくするために、日々奮闘されている区長さん方に寄り添うため、申請しやすい環境づくりに期待をいたします。

これ、６月１４日、先週の６月議会開会時に上程された令和５年度一般会計補正予算において、商工業振興費の新型コロナウイルス感染症対策事業の中小企業・小規模事業者エネルギー価格高騰対策支援補助金が２，１１８万７，０００円減額されておりました。

これに関しては、令和５年第４回定例会の経済建設分科会におきまして、中小企業・小規模事業者エネルギー価格高騰対策補助金２，９８７万２，０００円が減額され、中小企業・小規模事業者エネルギー価格高騰対策支援補助金に全額予算の組替えをされておりましたので、あと３か月少々しかない状況で、きちんと執行できるのかと質疑をしたところ、執行部からは、令和６年１月中旬より申請を受付、２月中旬を期限と考えており、今回は申請確認後、補助要件に該当している事業者に対しては、随時交付決定、確定、支払いを行うので、年度内での完了は達成できるものと考えているとの答弁がありました。覚えていらっしゃいますね。

当初にもったいぶって上げたハードルを多少は下げたにしても、この短い期間で周知方法も従来と変わりばえしないやり方で、予算の執行が本当にできるのか大変心配しておりましたが、結果は２，９８７万２，０００円の予算に対し、８６８万５，０００円の執行額、執行率は２９％です。何を言いたいかと申しますと、補助要件を考えた市の職員が、いかに市内業者の実情や現状について把握していないかということです。申請方法の周知についても、事業の帳面消しと考えずに、市民生活に寄り添った対応をするべきではないでしょうか。つまり、それが公衆に奉仕する公僕の務めではありませんか。

今回のコロナウイルス感染症対策事業にしても、各補助事業におきましても、申請時における周知方法や煩雑さが影響しているのではないかと私は思います。

先ほど総務部長からは見直す考えはないと答弁されましたが、今申し上げたコロナウイルス感染症対策事業の執行率は２９％です。私は補助事業のやり方を早急に見直すべきだと思いますので、再度市長に考えをお聞きいたします。

○水上隆光　議長　　暫時休憩します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

休憩　午後２時３４分

再開　午後２時３５分

―――――――――――――――○―――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、私のほうからお答えをさせていただきます前に、反問権ということで、先ほどの質問の内容をいま一度、恐縮ですけども、確認をさせていただきたいと思います。

通告で打合せをさせていただいた内容とは、文脈、それから観点がちょっと違うようでございますので、いま一度、ご説明をいただければというふうに思いますけ

ども、１回戻りますので、よろしくお願いします。

○水上隆光　議長　　福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　これは通告はしておりまして、総務部長答弁の中で、見直すと、見直す考えがあると言われた場合には、それで終わろうと思っていました。見直す考えがないとおっしゃったので、でも、こういうふうに新型コロナウイルス感染症対策事業においては、こんなに低い執行率なわけですよ。だから、こういったものを踏まえて、そういった事業内容というのを見直す考えはあるのかないのか、それを市長にお聞きしているわけです。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、お答えいたします。

私の質問に対する理解が違っているといけませんので、あらかじめお断りをしておきますが、まず、これまで補助金申請に関わる手続が煩雑ではないかと、こういう文脈で来ておりましたけども、今、引き合いに出されました新型コロナに関わる中小企業・小規模事業者エネルギー価格高騰対策支援補助金、これは周知ができていなかったのではないかというご指摘でございまして、これはもう結果を見れば、そういうところが多々あったというふうに私どもも反省しておるところでございますので、これはまた今後、似たようなものがあれば、このことを一つの教訓として、改善をしていきたいとは思いますけども、現状、今、一般的に補助金の手続について、全般的に見直すということは特段考えておりません。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　市長、総務部長、見直す考えはないとおっしゃったんですけども、要するに、申請する側が申請しやすいような、そういった仕組みをつくるというのは、私は大事と思うんです。ぜひとも見直す考えにしていただきたいと思いまして、次の質問に移ります。

２つ目の質問としましては、先般、合志市議会で来海議員がカスタマーハラスメント（カスハラ）の現状についてを質問されておりました。

最近、メディアでも多く取り上げられているカスタマーハラスメントについては、常に受け身の姿勢である市の職員に対する本市の現状はどうなのか、気になっていたところでした。

そこで、最初の質問です。

直近５年の自己都合による退職者数と、その主立った理由についてお尋ねいたします。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　それでは、ご質問にお答えをいたします。

直近５年間の早期退職募集制度を含まない、自己都合による退職者数は、令和元年度が７名、令和２年度６名、令和３年度５名、令和４年度８名、令和５年度１４名の合計４０名でございます。

次に、退職願につきましては、一身上の都合として提出をされますけれども、具体的な理由を確認できたものとしましては、転職や心身の不調などがあるところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　４０名ですか、この中でカスハラが原因で退職した職員の方は何人程度かというのはお聞きしたいんですけども、非常に難しいとは思うんですよね。もしも、先ほどおっしゃった心身の不調とか、そういった中にこのカスハラというのが含まれているのか、お分かりであればお答えください。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　先ほど申し上げました退職者から、これまでカスタマーハラスメントについての悩みや相談を受けた経緯がないことから、現状では、カスタマーハラスメントが直接的な退職の原因のものはないと捉えているところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　そうですよね。相当なハラスメントを受けない限り、これが原因で辞めますということは言ってこないと思います。

ほかの自治体では、電話で長時間の拘束、卑わいな言葉、ばかやろう、頭が悪いなどと暴言を吐かれたり、殺すなどの脅迫を受けた職員が多く見られるとのことですが、本市では、職員に対してカスハラに関するアンケートとか聞き取りは行われているのでしょうか。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　ご質問のカスタマーハラスメントに特化したアンケートというものは実施してはおりませんけれども、毎年実施をしております職員の自己申告書におきまして、セクシュアルハラスメントであったり、パワーハラスメントについての項目を設けております。そのほか、職場の問題点など、自由に意見ができるような記述欄も設けておりますので、この自己申告書がアンケートとしての役割を持っていると考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　最近、民間企業におきましては、お客様であっても、度を越している人に対しては、組織として毅然とした対応を取り始めているようですが、毅然とした対応が横柄な態度と映る可能性も考えられ、非常にセンシティブな問題だとは認識しております。

自治体は、市民の生命に直結する問題も扱いますので、慎重さや丁寧さが求められ、配慮も要ると思います。また、場合によっては、職員の態度がカスハラを助長するケースも考えられないこともありません。しかし、職員を守り、ほかの市民対応への影響を最小限にするために、何らかの対策が必要だと考えますが、本市として取り組んでいること、もしくは今後どのように取り組む考えなのかを市長にお尋ねいたします。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　カスタマーハラスメントに対する対応策を述べよということでございます。

カスタマーハラスメント対策としましては、職員に対しまして、常日頃から全般的な接遇の徹底であるとか、接遇マナーブックを参考にした接遇向上に大いに努めているところでございます。こうしたことを踏まえて、職員は丁寧な対応に努めておるところでございます。

また、クレーム対応研修であるとか、不当要求防止講習の参加等によりまして、職員の資質向上にも努めてきているところでございます。

また、職員の名札について、平仮名や漢字あるいはローマ字を併記した名字のみの表記の方向で少し今は検討しているところでございまして、近年の社会情勢の変化を踏まえまして、多様な方々への配慮と職員がまた安心して業務に当たれる環境づくりに努めてまいりたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　他の自治体の対応、やはり職員を守るため、そして、市民にしっかり寄り添った対応をしていただきますことを申し述べて、私の一般質問をこれで終わります。ご清聴ありがとうございました。

○水上隆光　議長　　これで、福島英徳議員の質問を終わります。

以上で、本日の一般質問は終わりたいと思います。

次の会議は、６月２４日に行います。引き続き一般質問となっております。

本日は、これで散会します。

全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午後２時４６分

第　５　号

６月２４日

令和６年第２回菊池市議会定例会

議事日程　第５号

令和６年６月２４日（月曜日）午前１０時開議

第１　一般質問
第２　議案第５９号　工事請負契約の締結について
　　議案第６０号　工事請負契約の締結について
　一括上程・説明・質疑・委員会付託
第３　報告第　８　号　菊池市土地開発公社経営状況報告について
　　報告第　９　号　有限会社きくち観光物産館経営状況報告について
　　報告第１０号　有限会社ファームきくち経営状況報告について
　　報告第１１号　有限会社七城町特産品センター経営状況報告について
　　報告第１２号　有限会社七城町振興公社経営状況報告について
　　報告第１３号　有限会社七城町銘柄米センター経営状況報告について
　　報告第１４号　有限会社旭志村ふれあいセンター経営状況報告について
　　報告第１５号　有限会社有朋の里泗水経営状況報告について
　一括上程・報告

―――――――――――――――○―――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　一般質問
日程第２　議案第５９号　工事請負契約の締結について
　　議案第６０号　工事請負契約の締結について
　一括上程・説明・質疑・委員会付託
日程第３　報告第　８　号　菊池市土地開発公社経営状況報告について
　　報告第　９　号　有限会社きくち観光物産館経営状況報告について
　　報告第１０号　有限会社ファームきくち経営状況報告について
　　報告第１１号　有限会社七城町特産品センター経営状況報告について
　　報告第１２号　有限会社七城町振興公社経営状況報告について
　　報告第１３号　有限会社七城町銘柄米センター経営状況報告について
　　報告第１４号　有限会社旭志村ふれあいセンター経営状況報告について
　　報告第１５号　有限会社有朋の里泗水経営状況報告について
　一括上程・報告

出席議員（２０名）

１番	本藤	潔
２番	安武	睦夫
３番	稲継	智康
４番	古田	浩敏
５番	島	春代
６番	大山	宝治
７番	田中	教之
８番	福島	英徳
９番	緒方	哲郎
１０番	後藤	英夫
１１番	平	直樹
１２番	東	奈津子
１３番	水上	隆光
１４番	猿渡	美智子
１５番	荒木	崇之
１６番	工藤	圭一郎
１７番	二ノ文	伸元
１８番	泉田	栄一朗
１９番	木下	雄二
２０番	山瀬	義也

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	江頭	実
副市長	芳野	勇一郎
政策企画部長	北島	悠子
総務部長	開田	智浩
市民環境部長	宇野木	浩二
健康福祉部長	中尾	孝浩
経済部長	三池	克徳
建設部長	久川	知己

七城支所長	古田十咲
旭志支所長	佐野木成俊
泗水支所長	髙島英輔
財政課長	上野重智
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	古庄和彦
市長公室長	稲葉一郎
教育長	音光寺以章
教育部長	前川幸輝
農業委員会事務局長	中原親弘
水道局長	財津裕一
監査委員事務局長	髙木智生

―――――――――――――――○―――――――――――――――

事務局職員出席者

事務局長	松原憲一
事務局課長	髙山賢一
議会係	志水利貞
議会係	右田一樹
議会係	河田真沙恵

○水上隆光　議長　　全員、ご起立をお願いします。

傍聴の方で可能な方はご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○水上隆光　議長　　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第１　一般質問

○水上隆光　議長　　日程第１、一般質問を行います。

初めに、安武睦夫議員。

［登壇］

○２番　安武睦夫　議員　　皆さん、改めまして、おはようございます。議席番号２番、無所属の安武睦夫です。伝えよう輝く未来を子どもたちの手にをスローガンに、よりよい菊池市になるよう皆様と一緒に頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

今回は、大きく２つのことについて質問したいと思います。

１つ目が、定住支援施策について。２つ目が、半導体関連企業への竜門ダム工業用水供給事業についてであります。

それでは、通告に従いまして、質問に入らせていただきます。

まず、１つ目の定住支援施策について質問いたします。

皆様ご承知のとおり、本市の人口減少対策については、様々な施策を講じて、人口の推移は下降傾向にあるものの、転出者数と転入者数を比較する人口社会動態の推移は、これまで減少傾向にあったものが、ＴＳＭＣの影響もあり、令和４年度からプラスに転じているところであります。このことは大きく評価できるものであります。特に移住施策については、住宅開発支援策も含めて充実しており、その効果が現れてきているのではないかと思うところであります。

さらには、過疎指定を受けた旭志地域に対しましては、過疎地域持続的発展計画を策定いただき、子育て環境整備として、住民念願の公園整備や、移住補助金を拡充するなど、手厚く支援していただいていることに対し感謝申し上げます。

そのような中、市民の皆様と意見交換をするときに、親としては、地域に生まれ育った子どもたちが独立しても親の近くに住んでもらいたいと思う、子どもが多い

ので、近くに建てるための土地もなく、移住ではないので、様々な補助金も対象にならない、こういった声を聞くことがございます。また、近隣の自治体も移住施策は行っているので、このままでは子どもたちは近隣の自治体に出ていってしまうとの声を受けて、質問したいと思ったところでございます。

また、中山間地域の皆様からも、このままでは集落が維持できない、奉仕作業もできない、限界集落どころか、集落が消滅するのではないかとの声も聞こえているところでございます。

そのようなことから、今回は２つの観点から質問したいと思います。

１点目が、過疎地域や中山間地域に対する移住支援施策は十分なのか。

２点目、流出人口を減らすために、分家する若者に対して様々な移住施策を適用する考えはないかについて、質問を深めていきたいと思います。

以上のことを踏まえて、１回目の質問をしたいと思います。

１点目、過去５年間の住民基本台帳上における転入・転出の人口数並びにその比較数である、先ほど申し上げました人口社会動態の推移についてお示しください。

２点目、転出人口を減少させるためには定住支援策が大切だと思いますが、本市の定住支援策をお示しください。

以上、２点について、１回目の質問とします。

○水上隆光　議長　　北島政策企画部長。

［登壇］

○北島悠子　政策企画部長　　皆さん、改めまして、おはようございます。それでは、安武議員のただいまの質問にお答えをいたします。

まず、過去５年間の住民基本台帳における転入・転出の人口並びに社会動態の推移を示せというご質問でございました。

過去５年間における転入・転出に係る人口並びに社会動態についてお答えいたします。

本市の転入転出につきましては、令和元年度の転入１，７１３人・転出１，９３９人により２２６人の減、令和２年度転入１，５６７人・転出１，７９０人により２２３人の減、令和３年度転入１，５００人・転出１，７６８人により２６８人の減、令和４年度転入２，１００人・転出１，８６１人により２３９人の増、令和５年度転入２，０１７人・転出１，７３６人により２８１人の増でございます。

令和４年度・５年度においては、転入数が転出数を上回った結果となっており、推移の増加に関しましては、本市の移住定住支援施策もその一因であったものと考えております。

次に、転出人口を減少させるための本市の定住支援策を示せについての答弁でご

ざいます。

本市で実施しております主な定住支援策につきましては、移住定住希望者向けに情報提供する「空き家バンク」、同バンクを利用し土地や建物の購入に際し交付する「移住定住推進事業奨励金」。改修・補修に係る一部を補助する「菊池市定住促進空き家改修補助金」などがございます。

また、子育て世代をターゲットにした「高校生までの医療費無償化」や保護者や乳幼児が集い、相談や情報共有ができる場として「地域子育て支援拠点事業」がございます。

安心した子育てを本市で行うための「菊池市産後ケア事業」では、菊池温泉をケアプログラムの１つにするなど、地域資源の積極的な活用も併せて行っております。

その他、多子世帯教育・保育施設副食費補助事業や菊池市創業支援事業、耐震改修等事業補助金など、様々なニーズに応じて、本市に住んでよかったと思える支援施策を多数準備しております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　安武睦夫議員。

［登壇］

○２番　安武睦夫　議員　　ご答弁ありがとうございます。

今、ご説明があったように、転出人口は令和元年に１，９３９人から約１，７５０人程度、横ばい状態であるということでございます。また、令和４年度には転出人口を転入人口が上回り、プラスに転じたことは本当に評価できることだというふうに思います。

しかしながら、注目すべきところは転出人口でございます。令和元年が１，９３９人の転出、令和２年が１，７９０人、令和３年が１，７６８人、令和４年が１，８６１人、令和５年１，７３６人と、いわゆる転出人口はやはり横ばい状態であって、転入人口は増えましたが、転出人口が減少しているとは思えないというところでございます。転出人口を減らすことができれば、さらなる人口増が期待できるものでございます。

また、先ほど定住施策については、空き家バンクだとか、奨励金だとか、補助金、それから医療費の高校生までの無償化といったもので、少子化対策とかいうものにも関わってくるかもしれませんが、移住定住、少子化対策というものは、ワンセットで考えていくようなものがございます。

今回は、先ほど言いましたように、転出人口が減ってきていないということで、いわゆる定住施策に絞った形で質問をしていきたいというふうに思います。

それでは、２回目の質問を行います。

現在の菊池市の人口動態を考えたときに、私のイメージとしては、転入が街部や交通インフラが整備されている国道付近の西側のエリアに集中して増加傾向にあるように思います。中山間地域である東側と西側のエリアを比較したときに、人口自然動態や、いわゆる出生と死亡の差でございますが、先ほど申し上げました転出・転入の差であります人口社会動態の推移は、大きく違っているのではないかと思うところでございます。

そこで、お尋ねします。

１点目、本市として、各集落や各中学校区ごとの人口の推移を分析検討したことがあるのか、お尋ねします。

２点目、本市は現在の人口動態の状況をどのように見ているのか、教えてください。

以上、２点、２回目の質問とします。

○水上隆光　議長　　北島政策企画部長。

［登壇］

○北島悠子　政策企画部長　　それでは、ただいまの再質問にお答えさせていただきます。

まず先に、全体の人口動態状況についてお答えしたいと思います。

１回目の答弁でお答えいたしましたが、令和４年度・５年度において転入による社会増減が２年連続増加基調に転じております。

これは、ＴＳＭＣ進出に係る戸建てや集合住宅を含む居住地の需要が高まっていること、併せて本市の移住定住支援施策の効果の現れであり、この傾向は今後も続いていくものと考えております。

次に、人口推移の分析についてお答えいたします。

令和４年度より熊本県立大学の地域おこしスタートアップ事業として集落点検を行っており、過疎地域や高齢化率・人口減少などの課題を抱えている地域を選定しヒアリングを実施しております。

現時点において１３地域計２２回のヒアリングを行っており、今後も必要に応じて集落点検のエリア拡大等を通じて、熊本県立大学等と連携し人口推移の分析を進めてまいります。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　安武睦夫議員。

［登壇］

○２番　安武睦夫　議員　　ありがとうございます。

先ほど来から申し上げていますように、全体とすれば、令和４年・５年で移住定

住施策が功を奏じてプラスに転じてきていると。これは今後も増えていくということについては、私もそうだと思います。

ただ、問題は、先ほど言いましたように、地域ごとにどう分析していくかということなんですが、令和２年からスタートアップ事業でヒアリングを実施してきたということでございますが、本来はやはりマップ的なものとして、きちんと調査していくべきじゃないかというふうに思うところでございます。

そういうことを含めまして、３回目の質問をしたいと思います。

私は先ほど申し上げましたとおり、移住施策で人口は増えているというふうに思います。しかし、民間力で移住者が増えているのは、都市部や国道沿いなど交通インフラが整備された西側のエリアが増えているのではないかと思うところでございます。

住宅マスタープラン、都市計画マスタープランや、道路計画などを策定する場合は、小地域人口分布分析という半径１キロメートルもしくは２キロメートル単位で人口分析をしますが、少し精度は落ちますが、各省庁が公表する統計データを１つにまとめたものを政府統計の総合窓口（ｅ－Ｓｔａｔ）と申し上げますが、私でも見ることができます。２０２０年国土調査結果ですので、少し古いですが、それを見ましても、菊池市東側の中山間地域の人口が減少していることが分かるものでございます。

［パネルを示す］

議長にお断りしまして、資料を見せたいと思いますが、ちょっと見にくいですけども小さくて、こういった資料が個人でも取れます。この青い部分が中山間地域になるわけですけども、やっぱり人口が少ないというのが分かりますし、赤い部分が人口が多くて、下のほうがいわゆる菊陽町さんとか、大津町さん、合志市さんというところになりますけども、本市でも都市部の真ん中は赤くなっていると。これがさらに進んでいるのじゃないかなというふうに思うところでございます。

今回、質問しますに、定住施策については、先進自治体の状況を調べてみました。福岡県の八女市では定住対策課を設置して、組織的にも力を入れているところでございます。その取組を少し紹介したいと思います。

組織的には定住対策課１４名で、そのうち定住対策係、班ですが、正職員が５名、会計年度任用職員が２名の７名体制だそうでございます。それ以外に住宅係が４名、公共交通政策係が２名の配置ということで、この八女市につきましては、人口が５万８，０００人、面積が４８２．４４平方キロメートルなので、菊池市より少し面積的には大きいですが、人口的にはそう変わりないところかなというふうに思うところでございますが、本当に定住施策に力を入れているというのが組織的にも分か

るところでございます。

また、リーフレットを本市も作ってございます。それも見させていただきました。この八女市も同じように作成してありますが、やっぱり出生、入学、就職、結婚、老後と、ライフステージに応じた支援施策を詳しく説明してありました。

［パネルを示す］

少し紹介をしたいと思いますが、本市も移住定住支援制度という形でのリーフレットを作って、すみません、これ白黒なんですが、カラー版でちゃんと作ってあります。八女市さんのほうは、選べる田舎八女に住もうということで、ライフステージに沿った形でいろんなことを紹介してあります。

また、八女市に住んだらこうですよみたいな形の書き方とか、ライフステージに合った出産、入学、就職、結婚、住宅取得、老後というようなもので表現をされておりますし、様々、移住定住施策がもう山のようにつくってございます。

それで、特に紹介したいのが定住施策としてやられていることで、特に若年世帯家賃支援補助金（最大６６万円）、住宅取得や住宅賃貸、引っ越し費用を支援する新婚新生活支援事業補助金（最大６０万円）、新築マイホーム取得支援補助金（最大７５万円）、中古住宅取得支援補助金（最大４０万円）、小中学校入学祝金支援事業（小学校３万円・中学校５万円）、学生を対象とした、いわゆる高校生等だと思いますが、路線バス通学定期券補助金（購入金額の２割）、補助後の１万円４，０００円を超える分は全て補助するということでございます。などの支援事業が全て移住の転入者だけでなく、定住支援として転居者も対象となるところでございます。すごく定住支援施策が充実しているなと感心したところであります。

そこで、お尋ねします。

私は、やっぱり中山間地域や過疎地域についてはしっかりと分析して、さらなる定住支援施策が必要と考えていますが、菊池市としては、今後、どのようなことを計画的に支援していくのか、お尋ねします。

以上、３回目の質問とします。

○水上隆光　議長　　北島政策企画部長。

［登壇］

○北島悠子　政策企画部長　　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

定住支援施策については、既存の定住支援施策の検証を含め地域の実情やニーズを把握することが重要であると考えております。

現在行っております「集落点検」等の事業を活用し各地域の調査結果を基本に、本市に適した定住支援施策を検討するとともに、今ある支援制度の内容拡充・改善に関しましても、他自治体の事例を参考にしながら効果検証を進めております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　安武睦夫議員。

［登壇］

○２番　安武睦夫　議員　　答弁ありがとうございます。

今、検証をされていることと、ニーズ等をしっかり確認して、本市に適した支援施策を、内容を拡充していきたいということでございました。

移住定住施策という言葉でよく聞きますが、私はやっぱり移住と定住は施策が違うんじゃないかと。１つの施策として捉えてはいけないんじゃないかというふうに思うところでございます。

少子高齢化対策、それから、移住定住施策とかいう言葉がよく言われますけども、やっぱり少子化対策は少子化対策、高齢者対策は高齢者対策というふうに、それぞれの対策はそれぞれの意味があり、またそれについてはしっかりと分析をして行っていただきたいというふうに思います。

内容を拡充していきたいということですので、今後にご期待したいと思います。

それでは、最後に市長にお尋ねします。

私はこのままでは郷土愛あふれる若者の流出を止めることができないのではないかと思うところでございます。本市の移住支援制度は充実していると思いますが、後継者ではない地域の若者が結婚して親元に残るためには、何らかの支援が必要だと思います。これは冒頭に市民の方からの声を受けたものでございます。そのことが過疎地域や中山間地域の人口減少を防ぎ、地域の維持発展につながるものだと思いますが、まずは分家する若者に対して、移住者と同様の補助金を交付するなど、定住支援制度を拡充する考えはないかを含め、総括的にお尋ねします。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、改めまして、皆さん、おはようございます。安武議員からのご質問、特に定住人口を増やすための支援策はないかという趣旨のご質問でございました。

全体的な、今、社会増減の状況につきましては、部長よりご報告申し上げたとおりで、令和４年度あたりから明らかな増加傾向に転じているということでございますので、ぜひこの流れをしっかりと維持拡大をしていきたいというふうに考えておるところでございます。

ご指摘があっておりますのは、移住のほうではなくて、むしろ定住も同じように支援すべきではないかという趣旨でございまして、本市の定住支援施策につきましては、先ほど政策企画部長が答弁しましたとおり、地域の実情やニーズを踏まえて

多種多様な事業に取り組んでおります。

特に、議員のほうからご提案のあっております、もともと菊池市内に住んでいる若者、こういう方々がなるべく外に行かないで、引き続き菊池市に住もうというためには、やはり新しい世帯を構えて、しっかりと定着していただくということが非常に大事だろうと思っております。

現在、外からいらっしゃる方には新築等の補助があるわけでございます。こうしたことをぜひ住んでいらっしゃる方にも同じように扱っていこうということで、新たな定住支援施策として、新築等に係る補助金について、現在、実施に向けて準備を進めているというところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　安武睦夫議員。

［登壇］

○２番　安武睦夫　議員　　ありがとうございます。

市長のほうも、私と同じような考えだということで、とても大事だと。定住支援施策を拡充していきたいということでございました。

また、先ほどから申し上げますように、分家する若者、郷土愛を持つ若者がよそに出ずに、菊池市に残るような施策として、補助金も準備をしているという本当にありがたいご答弁でございました。ぜひとも、やはり地域が一番分かる人たちがその地域に残ることが、地域力がさらに向上していくことだというふうに思いますので、今後、そういったことについては、できるだけ早く実現していただくようによろしくお願いいたします。

それでは、次の質問に入りたいと思います。

大きい２つ目、半導体関連企業の竜門ダム工業用水供給事業について質問したいと思います。

本日は、九州地方に警報級の大雨ということで、今も雨が降っておるところでございます。少し前は雨が降らず、田んぼの準備として荒代を開けようとしますが、なかなか水がたまらないというふうに農家の方がこぼしておりました。こういったことが起きますと、そういった水を利用します利水事業だったり、または災害が起きないような治水事業だったりということで、本当に竜門ダムの大切さを実感するところでございます。

そういったこともあり、また、旭志地域は特に尾足片川瀬地域という南側の地域につきましては、河川が低くて、かなり上流から本田に対しては水を引っ張っております。その関係で、水がないときには用水路に補水田として、竜門ダムの水を送り込むというようなことをしていただいております。そのことで、実際、田植がで

きているというふうなこともございますので、本当に地域の皆様からすると命の水だということでございます。

そういうことで、今回は供給事業について質問していきます。

竜門ダム工業用水の菊池台地国営パイプラインの使用については、昨年、熊本県が活用に対する調査を実施し、先日実施された市長の市政報告会では、菊池台地用水土地改良区の総代会で、おおむね承認を得た旨の報告がなされたところでございます。また、その後、菊池台地用水土地改良区の受益者には、計画と経過の説明の資料が配布されていると聞いております。

今回、利用される国営パイプラインについては、菊池川竜門ダム建設事業と、ダム本体の建設でございます。国営菊池台地土地改良事業など、国営事業の採択において実施されたものであります。計画採択には関係自治体において同文議決による採択がなされていると思いますが、今現在においても議会に対する説明責任を果たしていないと思うところであります。

以上のことを踏まえて、１回目の質問をします。

１点目、ＴＳＭＣ進出に伴う竜門ダム工業用水利用計画のこれまでの経緯と計画の概要、進捗状況について教えてください。

２点目、国営事業の計画変更の必要性はないのか、また、その理由についてお示しください。

以上、２点について、１回目の質問とします。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　改めまして、おはようございます。それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

半導体関連企業進出に伴います竜門ダム工業用水利用計画につきましては、県の企業局が進められているところです。

その計画について確認をしましたところ、半導体関連企業進出による工業用水の需要が高まることが予測されることから、地下水のみならず、河川水を工業用水として供給できないか検討をされたところです。

その結果、県が有する工業用水の未利用水の一部につきまして、菊池台地国営パイプラインからの供給を計画されました。

併せて、菊池台地国営パイプラインの維持管理を行っております菊池台地用水土地改良区に確認をしましたところ、昨年の新聞報道後、県企業局より菊池台地用水土地改良区の理事会や総代会などに対しまして計画等の説明があり、菊池台地用水土地改良区は農業用水を守ることを条件に菊池台地国営パイプラインの使用を承認

したと聞いております。

また、昨年度末には、菊池台地国営パイプラインにつきまして、菊池台地用水土地改良区と県との間で、使用に関する合意書を締結をされたところです。

その結果を踏まえまして、菊池台地用水土地改良区は、組合員に対しまして、竜門ダム工業用水の菊池台地国営パイプライン使用について、書面で周知したとのことでした。

現在の進捗状況につきましては、県におきまして、浄水場などの候補地の選定を進めていると聞いております。

次に、国営事業の計画変更の必要性についてですけども、菊池台地用水土地改良区に確認をしましたところ、菊池台地用水土地改良区が維持管理を行っている菊池台地国営パイプラインにつきましては、土地改良法に基づいて作成された維持管理計画書に基づき、農業用施設を新たに増築する場合や農業用水としての地域を変更する場合などに該当すれば計画変更が必要となります。

しかし、今回の計画につきましては、菊池台地用水土地改良区の定款にも定めております他目的使用に該当するため、計画変更を行う必要性はないと聞いております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　安武睦夫議員。

［登壇］

○２番　安武睦夫　議員　　ありがとうございます。

今までの経緯、経過についてご説明がありました。菊池台地土地改良区さんとは県が合意書を交わしたと。また、計画の変更については、他目的使用なので、国の計画の変更は必要ないということでございました。

私もいろいろ今回質問するに資料を頂きながら、これが菊池台地用水土地改良区さんが受益者の皆様に配られた資料でございます。また、こちらのほうが熊本県が３月ですか、熊本県企業局が半導体関連企業への工業用水供給事業についてという説明資料でございます。

〔資料を示す〕

これを見ていきますと、いろんなことが見えてまいりますが、今、説明の中ではあまり触れられなかったんですけども、どういうふうに水が流れていくかということでございますけども、これについては、竜門ダムから東部幹線水路をたどって、旭志の九ノ峰区にあります２号ファームポンド、それから、エコヴィレッジ旭の前にあります３号ファームポンドを通じて、合志１号幹線水路を使うのではないかと。

企業局の資料では、いわゆる夏場とか春先において、農業用水が多く使われる時

期については、水を確保するために調整池を設置するというような考えを示されております。それについては、３号ファームポンドか、今いう合志１号幹線水路にあります大津町の２３－４の分水工付近かというようなことをまだ検討されているということでございます。

私はやっぱりこの合志１号幹線水路というのは、その旭志のエコヴィレッジ旭の前の３号ファームポンドから旭志・大津地域に通って、旭志地域に戻ってきます。片川瀬地域から川辺の地域に上がって、最終的には道の駅旭志の裏を通っていくものでございまして、この畑地かんがいの国営管を利用するんじゃないかなというふうに、私、個人的には思っているところでございます。

それでは、質問を深めていきたいというふうに思います。

それでは、２回目の質問をしたいと思います。

菊池台地土地改良区のホームページに公開されている国営菊池台地土地改良事業、いわゆる国営パイプライン事業の事業別受益地面積が示されております。田が１，３１３ヘクタールで、畑が３，３６９．１ヘクタール、合計４，６８２．１ヘクタールということでございます。関係市町村は、菊池市、合志市、山鹿市、大津町、植木町であり、全体面積の５３．６％の２，５０９．１ヘクタールが菊池市であります。国営事業の造成費は、受益地面積割合で負担金があったようにも聞いております。

そこで、お尋ねします。

１点目、ただいま申し上げました国営菊池台地土地改良事業、いわゆる国営パイプラインの造成費の総額と国、県、市町村、受益者の負担割合を教えてください。

２点目、菊池市の負担額とその根拠についてお示しください。

以上、２点について、２回目の質問とします。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

造成費に伴います国、県、市町村、受益者の負担割合につきまして、菊池台地用水土地改良区及び県に確認しましたところ、造成費約３１１億２，０００万円、負担割合につきましては、各年度で異なっておりますけども、事業完了年度における負担割合は、国が３分の２、県が３０分の７、市町村が３０分の３、受益者負担はゼロとなっております。

次に、本市の負担額につきましては、約２０億５，７００万円で、関係市町の受益面積の割合を基準として算出されておりまして、受益者負担金相当額についても市が負担しているところです。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　安武睦夫議員。

［登壇］

○２番　安武睦夫　議員　　ありがとうございます。

造成費約３１１億２，０００万円ということで、菊池市の負担額としては約２０億５，７００万円というようなことでございました。

本来は国、県、市町村、それから受益者というものが国営パイプラインの負担をしていくということでございますが、受益者については、県と市が負担をして、受益者負担はなかったというふうにも聞いているところでございます。

それでは、３回目の質問をしたいと思います。

ＴＳＭＣにつながる国営パイプラインの造成については、本来、工業用水で整備したものではなく、畑地かんがいとして国営事業の受益地である自治体が負担したものであります。ただいまご説明があったとおりでございます。いわゆる国営での畑地かんがいの受益地に応じて負担金というものは出てきたと。玉名市に行く分は玉名市のほうで計算されていますが、実際、菊陽町のほうに行く部分については、全て畑地かんがいというような受益地というふうな考えでございます。

それを構成する自治体は、先ほど申し上げましたとおりであります。今回の菊陽町は受益地外であり、国営事業に参加していないものであり、国営パイプラインの利用権限は本来ないものでございます。確かに工業用水の利用権限は熊本県にありますが、竜門ダムから直接菊陽町までパイプラインを造成するならば、何も言うことはありませんが、畑地かんがい用として受益地面積に応じて、関係自治体が負担した分は何らかの形で負担すべきではないかと思うところでございます。

さらに、菊池市はその市町村負担の半分を有しているところであります。受益者の皆様方から漏れ聞こえる話として、熊本県が維持管理費を負担するが、その費用は将来の国営パイプライン維持工事費の負担軽減のために、菊池台地用水土地改良区が基金積立てするとも聞いているところであります。そのようなことを菊池台地土地改良区だけで決定して、構成自治体の議会には何も説明がないことは議会軽視というほかありません。

そこで、お尋ねします。

１点目、国営パイプラインの維持管理費や造成費用に対する負担金の考え方について教えてください。

２点目、何らかの負担金が支払われるとするならば、その利用方法の考え方をお示しください。

以上、２点目について、３回目の質問とします。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

菊池台地用水土地改良区に確認をしましたところ、菊池台地国営パイプラインの維持管理費や造成費用に対する県の負担金の考え方につきましては、土地改良法に基づき菊池台地国営パイプラインの維持管理費を加えた他目的使用料を県企業局に負担してもらうことになっているとのことです。

なお、他目的使用料のうち、維持管理費は、維持管理を行っている菊池台地用水土地改良区へ支払われ、施設使用料につきましては、これまで菊池台地国営パイプラインの造成費を負担してきた国、県、市町へ支払うよう定められていると聞いております。

次に、その負担金の利活用についてですけども、他目的使用料につきましては、国が土地改良法に定める年額の算定方法により、菊池台地国営パイプラインの耐用年数に応じて算出されると聞いております。

現時点では明確な金額が把握できないため、利活用について具体的な計画を出すことが困難であると考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　安武睦夫議員。

［登壇］

○２番　安武睦夫　議員　　ご答弁ありがとうございます。

土地改良法に基づいて、維持管理費については他目的使用料として、菊池台地土地改良区にお支払いされるということで、受益者の皆様に総会等でご説明がされたように、基金積立てをされるのではないかと思います。

ただ、造成費用部分については、これも土地改良法に基づいて、施設造成費を負担していた国、県、市町村に対してお支払いされるということでございますので、この辺がなかなか今まで見えてきてなかったところでございまして、今、はっきり見えてきたところでございます。

それでは、３回目の質問を最後に市長にしたいと思います。

私も合併前に、県営の護川地区畑地帯総合整備事業の担当でございましたので、内容はよく知っております。国営菊池台地土地改良事業については、併せて県営畑地帯総合整備事業などによって面工事と、いわゆる基盤整備でございますね。管工事を、いわゆる竜門ダムの用水の利水するためのパイプライン工事を県営事業で行っていたところでございますが、採択していただいた地域の皆様の協力なしでは実現できなかったものでございます。

旧旭志村では畜産農家が多く、面工事は必要としますが、管工事は要らないと言われるものを、旧旭志村が独自で受益者負担分の一部を負担し、農家の皆様には、管工事をすることで農地の評価が上がるとして、無理してお願いしていった経緯がございます。現在でも竜門ダムの水を使ったことはないが、国営パイプラインの維持費を負担している農家は多数いらっしゃるところでございます。以前は、使ったことがないので、竜門ダムの蛇口は取ってほしいなどと言われる農家の声もあったところでございます。国営パイプライン維持費の将来負担軽減の考えもある程度理解しますが、農業が厳しい状況なので、現在の負担金の軽減に努める必要もあるのではないかと思うところであります。

市長は菊池台地用水土地改良区の理事長でもあり、菊池市の代表でもあります。また、先ほど申し上げましたとおり、菊池市は国営事業の全体受益地の半分以上を示しており、ＴＳＭＣなのか、熊本県なのか、菊陽町なのかは分かりませんが、過去に負担した造成費用の負担金の一部はどこかに請求しなければいけないのではないかと思うところでございます。もしその費用が菊池市に入ってくるならば、先ほどの説明では入ってくるのではないかと思いますが、単に菊池市の収入とするのではなく、受益農家の皆様の負担が少しでも軽減するよう努力する必要があると思いますが、総括して市長の見解をお示しください。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

登壇］

○江頭実　市長　　それでは、今のご質問にお答えいたします。

ご指摘のとおり、ダム建設当初から関係の市町村として、本市も多額の負担をしているわけでございます。その分、今回、他目的使用料として県から頂く予定でありますけども、そのうちの施設使用料として、経過年数を考慮した応分の負担を、今、求めているところでございます。ただ、これは国の資産でございますので、その金額等については、今、国のほうで算定をされている状況でございまして、現状では具体的にどういうふうになるのかが未確定でありますので、それを踏まえた上で、また検討していきたいというふうに思います。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　安武睦夫議員。

［登壇］

○２番　安武睦夫　議員　　ありがとうございます。

国が今から算定することなので、金額等が分からないからということでございました。

ただ、この畑地かんがい事業だったり、県営の圃場整備事業だったりというもの

については、実はやっぱり地域の発展のために、過去に地域の皆様方や、議員の諸先輩方、首長の皆様方が努力されてできております。

旭志地域には、亡くなられましたが、杉田貞治さんという方がいらっしゃいまして、商工会の会長だったりとか、道の駅旭志の社長さんだったりとかいうものを歴任された方でございます。この方が亡くなられる前にお話しをする機会がありまして、なぜ本田技研が大津町に来たんでしょうかという話をしたときに、それはやっぱり本田技研の前の道、国道３２５号線の４車線化、それから八代市に向かって、八代市に新港を造ること、部品を積む船を寄せるためには深い港が必要だったと。そこからの４車線化がなければ、本田技研が来ることはなかったということでございます。それで、地域の皆様方は創設換地によって、その国道の面積を有したところでございます。ですから、国道３２５号線沿いは全て農地でございます。

また、竜門ダムの水がないと、先ほど言いましたように、補水田の問題だとか、野菜が計画的な作付ができないとかいうようなこともあって、必要として、やってこられております。そうしながらも、畜産農家の皆さん方にとってみれば、先ほど言いましたように、１回も使うことがないというようなこともあるのも事実でございますので、ぜひぜひやっぱり地域の皆さん、今、非常に困っていらっしゃいますので、少しでも経費が下がるような施策を今回のもしお金が入るのであれば、よろしくお願いしたいというふうに思います。

また、今後、菊池台地用水土地改良区、土地改良法に基づいてのことだというふうにはよく理解いたしますが、その受益者だけではなく、国営事業を構成している自治体の議会や地元土地改良区の役員さん方にもしっかりと説明責任を果たしていただきますようお願い申し上げまして、私の一般質問を終わります。

以上です。

○水上隆光　議長　　これで、安武睦夫議員の質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午前１０時４５分

再開　午前１０時５３分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　皆さん、おはようございます。議席番号１２番、日本共産党、東奈津子です。通告に従って、質問を行っていきます。

まず最初に、ＰＦＩについてです。

ＰＦＩとは、「Private Finance Initiative：プライベート・ファイナンス・イニシアチブ」の略語で、公共施設整備や公共事業の企画立案や資金調達を民間事業に委ねる制度です。法律の正式な名称は民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律といい、１９９９年に立法されています。

ＰＦＩの特徴は、仕様発注から性能発注に変わるところにあると言われています。具体的には、公共施設の建設なら、従来は会議室の広さや数だけではなく、壁や柱や天井の素材などの仕様まで行政の側で定めて、その仕様どおりに建設が進んでいるかを細かく検査していきました。これに対してＰＦＩでは、行政は性能の発注をします。会議室の広さや数など、公共施設の性能だけを企業に発注し、企画や設計や仕様を民間企業に任せます。また、資金としても地方債などの公的資金のみではなく、民間金融機関などの資金を用いることが可能であると強調されています。

私が今回ＰＦＩを質問のテーマに取り上げようと思ったのは、この間、市議会全体で行ってきたＴＳＭＣ進出に伴う協議会で、執行部とのやり取りの中で、人口増加を進めるために若い世代に向けての公営住宅の建設の１つの手法として、ＰＦＩ活用の事例が紹介されて、改めてＰＦＩについて調べて、問題意識を持ったことがきっかけです。

この制度は、イギリスに似た制度があり、日本でも経済界が強く要望してつくられ、法改正が繰り返されてきました。しばしば民間の資金力、経営能力、技術的能力を活用することにより、国や地方自治体が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供できる事業について採用すると説明されてきました。また、この制度を用いると、国や地方自治体の事業コストが削減できるとか、より質の高い公共サービスが提供できるなどが言われています。

しかし、実際には多くの問題があり、イギリスでは既に新規には行われなくなってきています。日本でも契約が解除されたり、中止されたりする事例も出ています。ＰＦＩを公共施設整備や人口増加も含めた経済活性化の切り札のように描くＰＦＩ神話は既に崩壊しているのではないか、今回質問を準備するに当たって、この思いを強くしています。

それでは、早速最初の質問に入っていきます。

１点目は、本市におけるＰＦＩ導入の検討状況についてお聞きします。

若い世代向けの公営住宅の建設など、ＰＦＩ活用を検討されている事例はありますか。

２点目は、ＰＦＩ導入のメリット、課題について、本市としてどのように認識されているでしょうか。

以上、２点お聞きします。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　改めまして、皆さん、おはようございます。それでは、ただいまの東議員の質問にお答えいたします。

公営住宅建設に特化して答弁させていただきますが、ＴＳＭＣと関連企業進出や、本市の若年層の定住化対策等として市営住宅等の建設を考えた場合、様々な補助事業、起債事業等がございます。ＰＦＩ事業も、建設事業の候補となる手法の１つとして考えられます。

現在、調査・研究中でありますが、今のところ具体的な検討案件はございません。

続きまして、ＰＦＩ導入のメリットや課題についてですが、一般的に事業の規模や建設する建物の性格及び民間に委託する事業の範囲等によりメリット、デメリットも変わってくるため、具体的な検討案件がない現状としては、一概には申し上げにくい状況です。

現在、調査・研究中であり、知識不足の点もありますので、今後の勉強の課題とさせていただければと思います。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　１点目の検討状況については、１つの手法として考えられる。調査・研究中との答弁でした。

２点目のメリット、課題については、一概には言えない。今後の勉強課題との答弁でした。

１つの手法として考えておられるのであれば、今後、本市が検討を進めていく上で、ぜひ注視していただきたい点がありますので、再質問をします。

ＰＦＩ事業を推進するときによく言われることは、自治体の財政の持ち出しが少ないけど、立派な公共施設が建設できる。このようなメリットがうたわれます。本市が賃貸住宅にＰＦＩ導入を手法の１つとして考えていらっしゃるのは、このメリットを念頭に置かれていらっしゃるからでしょうか、お聞きします。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　それでは、ただいまの東議員の質問にお答えします。

ＰＦＩ事業のメリットに対する認識についてのお尋ねであったかと思います。

ＰＦＩ事業は、一般的に財政負担を平準化できると言われておりますが、ＰＦＩ

事業の形態は様々であるため、一概にはお答えすることができません。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　一般的に財政の平準化が言われるけれども、現段階では一概には言えないという答弁でした。

イエスともノーとも言われませんでしたが、私は１つの手法として、ＰＦＩ導入を検討されているのであれば、国が推奨するこのメリットを抜きには選択肢に上ってくるはずはない、こう思います。実際は、本市はこのメリットを念頭に置いて検討を進められていることと思います。

ここで、改めて、ＰＦＩ導入によって、民間に委ねるということによって、自治体の財政負担が少なく、立派な建物が建設運営されるというメリットについて反論をしておきます。

公共施設や公共サービスについて、質が高くて、かつ経費も安いということはありません。経費を削減しようとすれば質は下がりますし、質を維持しようと思えば経費は容易には減りません。そもそも民間業者は収益を上げるために参入するのであり、経費削減効果が乏しいこともしばしばあります。

具体例を少し紹介します。

高知県高知市では、協働しての高知医療センターの建設に際しＰＦＩ事業を採用、担当民間事業者は、民間なら予算単年度主義の縛りがなく、材料費を安くできると主張して落札しましたが、このような経営改善を実現できず、契約解除となりました。

滋賀県近江八幡市立総合医療センターでも、２００９年３月にＰＦＩ事業の契約が解除されております。

同じく滋賀県野洲市立野洲小学校・野洲幼稚園の増改築と清掃などの施設管理のＰＦＩ事業では、経費が削減できるとして民間業者に委ねたのに、かえって経費がかかるとなり、契約を解除したところ、解除したほうが経費は年間約５億円節約できると伝えられています。

国が行ったＰＦＩ事業においても、２０１８年度末までに終了した２９事業のうち２７事業について、会計検査院の調査では全ての事業でＰＦＩ事業が従来方式よりも１．０６倍から２．８５倍高額となったとの報告が上がっています。

このように、ＰＦＩ事業の導入例では経費削減でも効果は疑問があり、ほかにも事業者の経営破綻や、事故と損失の分担の問題、事業者と行政との癒着など、全国でも様々な問題事例が過去上がっています。課題山積であります。

そこで、課題、問題点という点について、再質問を進めていきます。

ＰＦＩ導入をすることによって、住民や議会の立場が後退しないかという点です。

２０年間などの長期間にわたり、公共施設の管理や公共サービスの運営を民間事業者のノウハウに委ねるということは、公共サービスについての情報も住民や議会には開示されなくなり、住民や議会は資料に基づく適正な判断ができなくなります。仮に本市でもＰＦＩ導入をして、公営住宅などの施設建設を進めるときに、施設完成前、完成後の事業運営において、住民や議会の声、チェックは機能するのでしょうか。

以上、お聞きします。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　それでは、ただいまの東議員の質問にお答えいたします。

議会のチェック機能が果たせるのかというようなお尋ねだったと思います。

先ほどの答弁でも申し上げましたとおり、現在、調査・研究中の事業であり、市としては、まだそのような状況まで想定できておりませんので、現段階ではお答えすることができません。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　先ほどと同じ答弁で、調査・研究中なので、想定できていないということでした。

しかし、実際に公営住宅建設にＰＦＩ導入を１つの手法として検討されているのなら、この議会と住民のコントロールについては、しっかりと認識をしていただきたいと思います。

各地で民間事業者の内訳を住民が情報開示請求したり、地方議員が資料要求しても、開示されない事例が各地で相次いでいます。この意味で、ＰＦＩ導入は数十年間の長期間にわたり、公共施設や公共サービスについて、住民や議会が資料の入手、適正な議論ができなくなり、民間業者が議会の審議を受けることなく、自由に扱えるものだということになります。この点は、今後、しっかりと認識をしていただきたいと思います。

課題について質問を続けます。

ＰＦＩ事業を取り入れた場合の懸念として、もう一つ考えられるのが債務不履行の問題です。２０２１年５月付で、国の会計検査院が出したＰＦＩ報告書についてという資料があります。議長の許可を得ましたので、実物を紹介します。分厚い資

料でありますが、これに国の事業だけではありますけども、検査した結果が載っております。

国が行ったＰＦＩ事業について、１１機関、５７事業について、債務不履行が２６事業、２，３６７件あったとの報告であります。国だけでもこれだけの債務不履行が起こっています。契約どおりの公共サービスが提供されていない事態がこれだけ起こっています。

１つの手法として考えている本市として、この債務不履行問題について、どのように認識しているでしょうか、お答えください。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　それでは、ただいまの東議員の質問にお答えいたします。

債務不履行の件でございますけども、先ほどの答弁でも申し上げましたとおり、現在、調査・研究中の事業であり、市としましては、まだそのような状況まで想定できておりませんので、現段階ではお答えすることができません。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　想定できていないので、お答えできないという答弁でした。

導入を検討するなら、この点もしっかりと認識をしないと大変なことになります。指摘をしておきます。

ＰＦＩ事業は公共サービスの本質とは異なるものです。すなわち、長期間にわたり特定の営利企業が公共施設の運営や公共サービスを独占することになりますので、サービスの水準や法令、契約内容の遵守について監視することが不十分となります。民間業者は使用料などを増やし、経費を削減すれば利益が増大しますので、値上げも生じやすく、また、安全やサービス維持のための経費削減もされる傾向があります。

イギリスやＥＵではこうした点が明らかとなり、英国検査院や下院が既にＰＦＩ事業が財政の節約につながると認めるに足りる証拠は見いだせなかったとする報告が出され、新たなＰＦＩ事業は実施しないとされています。

先ほど紹介したように、日本でも会計検査院が２０２１年５月の報告書で多数のサービス低下の例や、コスト高の例を指摘しています。

最後に、市長にお聞きします。

公営住宅など公務、公共サービスの本来の役割に照らせば、ＰＦＩ事業は相入れ

ないものが大きいと思います。現在、公営住宅建設の１つの手法として検討されているＰＦＩ事業に関しては、ＰＦＩ神話にとらわれることなく、様々な角度から検証、検討を行っていくべきではありませんか。

以上、お聞きします。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　ＰＦＩ事業の様々な懸念点を踏まえて、どう考えるかという趣旨のご質問でございました。

ＰＦＩ事業と一口で言いましても、今おっしゃったような長期の運営も含めたもの、あるいは、そうでないもの、様々な形態がございます。現在、調査・研究中、言わば勉強中の段階でございますので、具体的なコメントができる状況にございませんけども、今後、もし個別案件として事業提案が上がってきた場合には、ご指摘の諸点も含めて、メリット、デメリットを十分に見極めた上で、事業手法として採用するかどうか慎重に見定めていきたいというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　慎重に見定めていくとの答弁でした。

この２０年から３０年にわたり進められてきた新自由主義的な小さな政府論に基づく、民でできるものは民へという民営化政策は多くの問題を生み、行き詰まりを見せています。

さきに英国でＰＦＩ事業の実施が縮小、廃止されていることを述べましたが、ヨーロッパの欧州労働研究所の市場化の調査報告書では次のように述べられています。

明白なことは、今日の政治的議論や経済学の主流において、支配的な民営化・市場化の経済的な効果に対する積極的な期待はあまりにも単純化過ぎるし、あまりにも一面的だ。こう結論づけ、民営化を推進しようとする政策を批判しています。

今、我が国でも公共性を守り、あるいは民営化された公共サービスを再度公営化する動きは多数あります。先ほど紹介した高知県では、病院ＰＦＩ事業が一旦導入されましたが、県議会、市議会の議論などを経て、ＰＦＩ契約が解除されて、再公営化をされております。

愛知県小牧市では、図書館にＰＦＩ導入をするかどうかで住民投票が行われ、その結果、ＰＦＩ導入にストップがかかりました。

富山県の県立武道館もＰＦＩ導入が見送られました。

こうした取組は、世界で進む公共を取り戻す再公営化の動きに連なる貴重な事例

であります。ぜひ調査・研究していく材料にしていただきたいと思います。

そもそも公共施設や公共サービスについて、質が高くて、かつ経費も安いということはありません。経費を削減しようとすれば質は下がりますし、質を維持しようとすると経費は容易には下がりません。

ＰＦＩ・コンセッションは、変化の激しい時代に民間業者と行政、地方自治体との関係を数十年という長期間にわたり固定化する制度であり、ふさわしいものではありません。ＰＦＩ事業においても、民間業者と行政との関係は決して単純なパートナーではなく、厳しい利害関係を有する存在です。一方が利害を図れば、他方が損失を被るという複雑で困難な契約体系です。このような複雑な契約を締結しても、官から民へで、経費削減も、サービスの向上も実現できるという幻想が振りまかれているために、今、全国各地で行政と事業者の行き違いが多発しています。

さきにもるる述べてきましたが、破綻や失敗した事例も多数あります。ＰＦＩ・コンセッションの採用の検討は慎重の上にも慎重に行うべきですし、長期間にわたる公共施設の管理運営は行政、地方自治体の直営を基本とするべきです。このことを最後に指摘しまして、次の質問に移ります。

次に、マイナ保険証について質問します。

本人以外の公的給付金の誤登録が約１４万件、マイナ保険証に他人の情報が登録されたケースが７，４００件を超え、他人の年金記録が閲覧されたケースが１７０件、障害者手帳の誤登録６２件など、マイナンバーカードをめぐるトラブルは多方面で起きております。

このような中、昨年５月、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律、いわゆるマイナンバー法等の改正が国会で行われました。健康保険証の廃止や、マイナンバーカードの利用拡大を内容としたマイナンバー改悪法であり、マイナンバーカードをめぐって大混乱が続く中で、このような暴挙に対し、私自身、強く抗議の意思を最初に示すものであります。

国民健康保険証の廃止に関しては、どの世論調査でも延期、中止が７割を超え、保険証の廃止、見直しは今からでも遅くない、読売新聞社説をはじめ、多くのメディアが中止や見直しを主張しています。

今定例会にも市民の方から、現行健康保険証について当面の間の存続を求める請願も出されています。

また、マイナ保険証の利用率に至っては、過去最高となる今年５月の時点で全国でも７．７３％と低迷している状況です。

また、今年５月８日に厚生労働省が明らかにした国家公務員のマイナ保険証の利用率が僅か５．７％、推進側の公務員の利用も依然進んでいないのが実態でありま

す。

開業医の６割が加入する全国保険医団体連合会の調査では、医療機関で５，４９３件ものトラブルが発生、一旦１０割を窓口で徴収した例が１，２９１件あり、診療を受けずに帰宅してしまった人もいました。このまま保険証廃止を強行すれば、トラブルは１０８万件以上になるという推計も発表されています。

マイナンバーカードと保険証の一体化によるトラブルは、他人の医療情報がひもづけされていたなど、命にも関わる危険があり、絶対にあってはならないことです。

様々なマイナ保険証をめぐる問題が噴出する中で、保険者である地方自治体は、マイナ保険証は必要であるのか、保険証を廃止しても保険者機能の強化は図られるのか、今こそ立ち止まって考えていく必要があると思います。

ここで、最初の質問に入ります。

１点目は、本市でのマイナ保険証の取得、利用状況はどうなっているか。

２点目は、令和６年１２月２日から現行の保険証の発行はされないとのことですが、マイナ保険証を持っていない方への対応はどうなるのか。

３点目は、マイナ保険証についてのメリットと課題について、本市としてどのように認識しているのか。

以上、３点お聞きします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　改めまして、こんにちは。マイナンバーカードの健康保険証利用というお尋ねかと思います。

まず、取得、利用状況ということでございますが、本市の国民健康保険の令和６年４月のマイナ保険証登録率は５８．１９％、マイナ保険証の利用率としましては１０．１９％でございます。

また、後期高齢者医療保険の令和６年４月のマイナ保険証登録率は４９．５２％、マイナ保険証の利用率は５．０９％でございます。

１２月２日以降にマイナ保険証を持っていない方への対応はということでございますが、現在、８月１日付で交付する保険証の発送準備を進めておるところでございます。この保険証の有効期限は、原則令和７年７月３１日までとなっております。

マイナ保険証の所持の有無にかかわらず、有効期限まで使用できるようになっております。

１２月２日以降に新たに国民健康保険や後期高齢者医療保険の資格を取得された方や、本市に転入された方などで、マイナ保険証をお持ちでない方は、申請をされずとも「資格確認書」を交付する予定でございます。

続きまして、メリットと課題についてというお尋ねだったかと思います。

マイナ保険証につきましては、市民生活の利便性を向上させるものと認識しております。

被保険者の同意が前提となりますが、薬局等で受け取った薬の情報や特定健診の結果などを医療機関の間で共有できるようになるため、より正確な情報に基づく、よりよい医療が受けられることになります。

また、被保険者の方が市役所の窓口で交付手続が必要であった「限度額適用認定証」は、原則交付を受けることなく、病院で高額療養費の限度額を超える支払いが免除されます。

そのほか、医療機関では、直近の医療保険情報を確認できるため、医療機関の事務作業の効率化などが期待できるところでございます。

市としましてもマイナ保険証を安心して使用していただけることが大切だと考えております。

また、マイナ保険証を持っていない方や希望されない方などが保険診療を受けられないなどのトラブルがないよう、遅滞なく資格確認書を交付することや、マイナンバーカードの更新手続について効果的な周知方法が課題であるというふうに考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　今、答弁にありましたように、利用状況は国民健康保険で令和６年４月で１０．１９％、後期高齢者医療保険で５．０９％と、本市でも利用状況は低いことが分かります。

２点目の１２月２日以降、マイナ保険証を持たない方への対応について質問を進めていきます。

答弁では、現在、マイナ保険証を持たない方で、紙の保険証をお持ちの方は、来年７月末の有効期限まで紙の保険証が使える。その後は資格確認書が発行されるとのことです。

また、令和６年１２月２日以降、転居等でマイナ保険証をお持ちでない方も、市役所で資格確認書が交付されるとのことです。

資格確認書には氏名、生年月日、被保険者記号番号、保険者情報などが記載されており、その機能は現行の保険証と実質的にほとんど違いがありません。試算で国は保険証廃止で最終的にコストが削減されるとしていますが、逆に資格確認書交付のために約２５０億円もの予算が国で計上されているのです。この多額の予算を見

ても、何のために紙の保険証を廃止するのか、首をかしげたくなるのではないでしょうか。結局、令和６年１２月２日以降、マイナ保険証を持たなくても受診はできるということです。

ここで、再質問をいたします。

マイナ保険証の取得は任意であって、義務ではないということでしょうか、確認をいたします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　再質問にお答えいたします。

マイナンバーカードと保険証の一体化につきましては、任意でございます。

マイナンバーカード交付時にマイナンバーカードと保険証の一体化について任意である旨を説明し、希望される場合は登録のお手伝いを行っているところでございます。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　任意である。義務ではないとの答弁です。

令和６年１２月２日以降もマイナ保険証を持たなくても、ちゃんと医療機関で受診はできる。このことを確認しました。そうであるならば、先ほど課題のところでも述べられましたけど、市民に周知徹底すべきであります。

今、国はマイナ保険証の利用人数を一定数増やした医療機関に配る支援金の額を最大４０万円に倍増するとの方針を決めました。利用率が上がらない中で、公金を投入してのばらまきであります。

自治体もマイナ保険証取得へと市民をかき立てています。令和６年６月の広報と一緒に「マイナンバーカード、マイナ保険証をご利用ください。本年１２月２日から現行の保険証は発行されなくなります。」このようなチラシが配布されています。現物がこれです。

チラシと同様に様々な場所に同様のポスターが庁舎内にも掲示をされており、私のところにも多くの市民の方から、令和６年１２月２日以降、どうなってしまうのかとの問合せが相次いでいます。チラシの下のほうに小さく「本年１２月２日以降、マイナ保険証を保有していない方には申請いただくことなく、医療を受けることができます」と書かれてありますが、このチラシの見出しのインパクトのほうが大きくて、マイナ保険証を持たないと病院にかかれない、窓口で１０割負担が求められるのではないか、そのような誤解や不安をあおることにもつながっています。マイ

ナ保険証を持たなくても、従来の負担で受診が可能、このことをもっとちゃんと周知徹底することを改めて要望しておきます。

次に、３点目、マイナ保険証のメリットと課題について、質問を進めていきます。

答弁では、メリットとして、情報共有、過去の受診の確認などができて、よりよい医療が受けられる、こう答弁がありました。

しかし、実際はどうでしょうか。医療現場では逆にメリットを享受しにくい、閲覧できる情報は中途半端で活用が難しいとの声も上がっています。というのも、お医者さんが薬の処方歴などを閲覧できるまで時間がかかるからです。マイナ保険証の医療情報は診療報酬明細書、レセプトに記載された請求データが基になっています。

加藤前厚生労働大臣は、国会の中で、通常レセプトというのは月末締めでありまして、それが支払基金等に回って、それからということになりますので、最短で１か月ぐらいというふうに承知をしております、こう答弁をしています。国自身が最新の医療情報が取得できないことを認めています。

神奈川県保険医協会の田辺由紀夫理事長は、例えば糖尿病の患者さんが午前中に糖尿病クリニックに来て、午後や翌日に眼科に来ることはよくある。こうした場合、直近のデータを閲覧できないため、結局、お薬手帳を持ってきてもらうのが便利ということになる、こう指摘をされています。

厚生労働省が昨年６月に公表したマイナ保険証の利用者１，０００人を対象にした調査では、メリットを特になしと回答した人が５６．５％、半数を超えていました。

関連して、再度質問します。

マイナ保険証を持たない方には、資格確認書の発行がなされるとのことでした。従来、紙の保険証は住所を有している自治体保険者から毎年発行され、手元に届くシステムであります。令和６年１２月２日以降、この資格確認書とマイナ保険証、それぞれの方の有効期限が切れたときにはどのように更新が行われるのでしょうか。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　資格確認書につきましては、令和７年度の更新時も手続をされることなく、発行をする予定でございます。

また、マイナンバーカードを健康保険証として利用するためには、マイナンバーカードに搭載されている電子証明書が有効である必要がございます。この電子証明書の有効期限は、発行から５回目の誕生日までに設定をされております。有効期限の約３か月前に、国から本人へ有効期限通知書が送付されます。継続して健康保険

証として利用するためには、市役所窓口で電子証明書の更新手続が必要になります。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　マイナ保険証の方は、５回目の誕生日が来たら、ざっくり言うと５年で更新、国から期限の案内は来ますが、更新は自ら申請をしないといけない。資格確認書の方も、当面は自治体から発行されますが、今後は分からないということを担当課からも聞いております。政府の方針でも、原則資格確認書も申請主義、つまり、自ら窓口に行かないともらえない。申請主義に変更すると聞いています。

マイナンバーカード法の改定案、紙の保険証廃止の最大の問題は、無保険者扱いを大量に生み出すことが避けられないということです。無保険者扱いが大量に発生すると想定されるのは、５年ごとのカードの更新時期です。そもそも国民は健康保険への加入と保険料の支払いを義務づけられ、保険証は自治体や保険組合が責任を持って交付する仕組みです。ところが、マイナンバーカードと保険証の一体化によって、マイナンバーカードを持たない人は、今後、毎年資格確認書の申請が必要になります。マイナ保険証は５年ごとの更新が必要となります。申請、更新を忘れたり、できなかったら、保険料を払っていても、無保険扱いされ、保険医療が受けられなくなってしまいます。まさしく、国民皆保険制度の変質です。

国は、資格確認書を申請なしでマイナ保険証を持ってない方には送付するとし、実際、当面は送付対応となっていますが、そのような煩雑な事務を行わなくても、これまでどおりに保険証を存続すればいいだけです。保険証と違い、資格確認書を毎年送付することになれば、保険組合などに多大な業務を押しつけることにもなります。令和６年１２月２日からの廃止ありきは改めるべきであり、地方自治体としても、保険者としてしっかりと国に意見を上げるべきであります。

課題について、質問を続けていきます。

介護が必要な高齢者や障がいを持つ方々への対応についてです。

昨年のマイナ改定法の国会審議の中で、介護が必要な高齢者や障がいを持つ方がマイナンバーカードの申請、取得から事実上排除されている実態が浮き彫りになりました。参考人となった全国保険医団体連合会副会長の竹田氏は、介護施設の約８３％が利用者、入居者の保険証を管理している実態を述べ、マイナ保険証と暗証番号を施設で管理する責任はあまりにも重大だと答えています。

ここで、再質問します。

介護施設に入所されている方のマイナ保険証の管理等については、どのように対

応されているのでしょうか。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　マイナンバーカードの管理に不安を持つ高齢者の方や、高齢者施設等への国の対応としましては、令和５年１２月に、暗証番号の設定を要しない「顔認証カード」が導入されております。

「顔認証カード」につきましては、暗証番号が必要なサービスは利用できませんが、機器による顔認証または目視認証により、健康保険証として利用することができるということでございます。

これを受けまして、本市では、市内高齢者施設等に対しまして、「顔認証カード」についての周知を行っているところでございます。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　昨年末に暗証番号なしで保険証にだけ使えるマイナンバーカードの発行で対応しているという国の通知に基づいての対応をされているということであります。

これを聞くと、保険証にだけ使えるマイナンバーカードの発行をするぐらいなら、紙の保険証を存続させればいいのではないでしょうか、私はこう思います。もちろん国の責任ではありますが、このことを通しても、保険証廃止に何ら合理性がないことを証明するようなものではないでしょうか。何のためのマイナンバーカードか、根本が問われるケースではないでしょうか。

国会の参考人質疑の中で、全国保険医団体連合会と障害者の生活と権利を守る全国協議会から保険証廃止の撤回を求める強い要望が出されたことも併せて申し述べておきます。

日本はデジタル後進国、主要先進国に遅れを取っているといって、これだけトラブル続きのマイナンバーカードを国は国民に押しつけていますが、しかし、同一の個人識別番号を複数の行政機関で利用し、各行政機関が持つ個人番号を１枚のカードにひもづけようとしている国は、主要７か国、Ｇ７で日本だけであります。個人情報を守る点から見ても、世界の流れに逆行しています。

政府が保険証を廃止して、マイナ保険証に一本化して突き進む根本には、公正公平な負担と給付を求めるといって、徴税強化と社会保障費の削減をしていくという狙いや、国民の医療情報を民間企業に開放して、データの利活用をもうけの種にしていこうとする狙いがあります。

共同通信社のマイナ保険証をめぐるアンケートでは、全国の市町村の首長の４割強が延期を要請しています。また、昨年１０月１４日現在でも全国の８０を超える自治体から健康保険証の存続を求める意見書が上がっています。

最後に、市長にお聞きします。

国民皆保険制度を運用する保険者である市長として、保険証の廃止をどう受け止めているのか、見解をお聞きします。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、保険証の問題についてのご質問にお答えいたします。

まず、マイナンバーカードそのものでありますけども、私はデジタル社会の実現に不可欠なツールでありますし、市民生活の利便性を向上するものだというふうに考えております。

また、マイナンバーカードと保険証の一体化ということにつきましては、医療ＤＸの推進の基盤となるものだというふうに認識しておりますので、今後もマイナンバーカードと保険証の一体化を進めてまいりたいというふうに考えております。

こうしたことに不安を覚える方もいらっしゃるかと思いますので、そうした方には従来型の保険証に近いものをお渡しするという選択肢も用意していきたいというふうに考えています。

以上でございます。

○水上隆光　議長　　東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　私は、大切な個人情報の保護がデジタル化の大前提だと考えます。市民の暮らしに役立つデジタル化を否定するものではありません。また、新型コロナウイルス感染症防止のために、デジタル技術を活用することも避けて通れません。しかし、現時点での国の進めているデジタル化、マイナンバーカードのトラブルなど、それへの対応を見ても、国民は不安を増すばかりです。今回のマイナ保険証に伴う紙の保険証の廃止措置への暴走は、本当の意味でのデジタル化にも逆行するのではないでしょうか。

令和６年６月２０日号の週刊新潮、ここに原本を持ってきておりますが、特集が組まれておりました。「マイナ保険証廃止」やってはいけない。この記事の中で、さきに紹介した全国保険医団体の竹田会長は次のように述べています。国民の誰しもがいつでも僅かなお金で最高レベルの医療を受けることができる。この国民皆保険制度を維持するために、先人が６０年以上かけて一生懸命知恵を傾けてつくってきた。その結晶が健康保険証なんです。我々が保険証の廃止に関するアンケートを

取ってみても、９割が残してほしいと回答しています。きちんとした医療を受けることは基本的人権です。マイナ保険証の導入によって、一部の人が医療から排除されるようなことが絶対にあってはならない、こう述べられています。

持続可能な市町村確立、存続を図るために、多くの自治体ではコスト削減と国庫補助金獲得につながる自治体ＤＸ推進を掲げ、あらゆる事業において情報連携基盤となるマイナンバーカード普及を必要と考える首長は全国に多数いると思います。本市においてもデジタル化推進宣言を行っており、江頭市長におかれても同様の認識であると承知をしております。

しかし、マイナ保険証による保険証廃止については、国民健康保険の保険者の立場として、具体的な保険者業務の蓄積を通じて得られた課題を提起するとともに、住民福祉の向上のため、持続可能な国民皆保険制度を堅持するという立場から、必要な意見をぜひ国に述べていただきたい。このことを改めて要望いたしまして、一般質問を終わります。

○水上隆光　議長　　これで、東奈津子議員の質問を終わります。

ここで、昼食等のため暫時休憩します。

午後の会議は、午後１時から開きます。

――――――――――――――――○――――――――――――――――

休憩　午前１１時４１分

再開　午後　１時００分

――――――――――――――――○――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、二ノ文伸元議員。

［登壇］

○１７番　二ノ文伸元　議員　　皆さん、こんにちは。議席番号１７番、是は是、非は非で考えるがモットーの二ノ文伸元です。通告に従い、質問させていただきます。

今回、２点質問させていただきます。

まず１点目は、先日、熊日新聞で紹介されましたラブベンチについて質問いたします。

２０１６年から本市に初めて設置されたと記憶しております。

そこで、質問ですが、１点目、ラブベンチの設置理由、目的は何か。

２点目、現在の設置数と設置場所。

３点目、各ベンチの設置費用はどれくらいか。ベンチ製作費用及び賞金、副賞、審査員等含め人件費と総費用について、お願いします。

４点目、ラブベンチの費用対効果の確認はできておりますか。

５点目、これまでの広報活動内容をお示しください。

以上、５点について質問いたします。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　それでは、ただいまの二ノ文議員の質問にお答えいたします。

まず、ラブベンチの設置理由についてお答えいたします。

以前観光の専門家の方より観光地におけるベンチは観光客が快適に滞在し、心地よい空間を形成するためには必須のもので、観光戦略として整備する必要があるとのご意見をいただいておりました。また、菊池市では中心街の隈府と妻を英語でワイフということから、「おしどり夫婦の里」「妻（女性）を大切にするまち」としてイメージづくりを行っております。

ラブベンチは癒しの里づくりの一環として、おしどり夫婦やカップルがくつろぎ癒やしを感じることができるベンチデザインを募集し、菊池市にしかない親しまれるベンチを製作することを目的としております。

これまでに院の馬場ポケットパーク、御所通り、菊池公園城山展望所、菊池公園総合体育館付近の計４か所に設置しております。

次に、ラブベンチ設置に要した費用及び効果についてお答えいたします。

それぞれ事業費ベースであり、デザインコンペや広告宣伝等に要する費用も全て含めた金額となります。平成２６年度に院の馬場ポケットパークに設置された名称「三日月ベンチ」につきましては約１００万円、平成２７年度に御所通りに設置された名称「背中あわせ」につきましては約９９万円、令和元年度に菊池公園城山展望所に設置された名称「ふたりのベンチ」につきましては約１０３万円、令和５年度に菊池公園総合体育館付近に設置された名称「羽のベンチ」につきましては約１４０万円となっております。

次に、設置による効果につきましてお答えいたします。

これまで４か所に設置したラブベンチは長期的観光戦略の１つでもあり、点から線となり面へ広がってまいりました。これからこのベンチを観光資源の主要な素材として活用することにより、次のような効果が期待されます。

まず、ベンチとまちなかをつなぐ、「まちなかウォーカブルの推進」により、観光客の滞在時間を延ばし、地域経済の活性化が見込まれます。

次に、健康イベントなどと連動し、ラブベンチを巡るスタンプラリーとしての活用による健康の増進。

次に、これまで市内外から応募者を募ることにより、菊池市の認知度の上昇が期待されます。また最近では新聞やラジオでも取り上げられたことをきっかけに、Ｓ

ＮＳなどにも投稿される機会が増えてきております。

費用対効果につきましての具体的な数値化は困難ですが、これから様々な観光戦略等と連動させることにより、今後整備効果が現れるものと考えております。

次に、ラブベンチ設置後の広報活動についてお答えいたします。

広報活動としましては、市ホームページ及び広報誌への掲載、ラブベンチ設置後のお披露目会での各種新聞への取材依頼、それとラジオ番組への出演による紹介等を行っております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　二ノ文伸元議員。

［登壇］

○１７番　二ノ文伸元　議員　　ありがとうございました。

１点目のラブベンチの設置の理由の中で、観光地にはそういったベンチが必要であるということですが、今までにベンチがなかったわけではないとは感じているところです。

５月のある日、総合体育館横まで、ウオーキングがてら、一番新しいラブベンチを見に行きました。ちょうど人は誰もいなくて、ベンチのそばにいた野良猫が近づく私を警戒したような目でじっと見ながら、草むらの方向へ消えていきました。

私は堂山展望所にもよく足を運びます。一番奥に鞍岳方向がよく見えるベンチがあります。ある日、そこに行くと、仲よく肩を寄せ合いながら、談笑する高校生の二人組を見かけました。非常にほほ笑ましく感じたところです。これがラブベンチなら本当に絵になったのにと感じたところでした。

また、以前に飲食店街横にある最初に作られたラブベンチに行きましたが、汚れていて、残念ながらとても座れる状態ではありませんでした。私もラブベンチが話題になった場合は、場所も説明していますが、皆さん、関心が本当に薄いようです。癒しの里、おしどり夫婦がゆったりとくつろぎ、癒やしを感じるというコンセプトですが、菊池市民や観光客にとり十分周知しているのか不安に思うところです。

そこで、質問ですが、このラブベンチの発案者はどなたなのか。そして、案を取り入れた経緯についてお伺いします。

また、現在、菊池市として、ラブベンチデザインコンペ２０２４開催として、ラブベンチのデザインを広く募集中だと聞いております。募集要項には製作予算１基７０万円以内と書かれておりました。現在、４基設置されているのですが、当然今回の募集が５基目となるのかと思いますが、今後も継続して６基目、７基目と続けていかれるつもりなのか、お尋ねいたします。

○水上隆光　議長　　ここで、暫時休憩します。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

休憩　午後　１時０９分

再開　午後　１時１０分

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　ただいまの二ノ文議員のご質問ですが、これに関しましては、通告がなく、職員の聞き取りにおきましても、先ほどのご質問を承っておりませんので、答弁の用意が、できておりません。よって、答弁を差し控えさせていただきます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　二ノ文伸元議員。

［登壇］

○１７番　二ノ文伸元　議員　　私は、言っていることは当たり前のことを言っているんだろうと思います。私はちゃんと打合せはしたと思っております。打合せしてないというなら、それまでですので、ただ、やはり今言った質問は、答えられないような、そんなことではなかったかと思いますけど、次の質問に移ります。

再々質問いたします。

このラブベンチを意外と知らない人が多いという印象です。ラブベンチのワードは聞いたことがあるけれど、場所も知らない、行ったことがない、またはラブベンチを見ても通り過ぎただけという人が男女を問わず多いのも、残念のように感じます。

これからは、質問というより、提案の形になるかと思います。

私は、今あるラブベンチ、否定は全然しません。今あるものを取っ払って、どうですかなんて、そういうことは言いません。今あるものをやはりいかに「おしどり夫婦の里」、「癒しの里」に結びつけていくかが大事なことだろうと私も思っています。そういうことを置いて、提案という形でお話をさせていただきます。

本市においても、コロナ禍後、少し観光客が戻ったように思いますが、私がラブベンチを見に行くと誰もいないことが多く、せっかくコンペを開催し、設置に至ったとしても、市長が言われている「癒しの里」、「いい夫婦の里」に向けて、まだ啓発の検討が必要かと思いますが、いかがでしょうか。

ラブベンチで癒しと夫婦の里、歴史や自然、伝統、文化を求めるとのことですが、今、若者の間でＳＮＳやインターネットでバズるということがキーワードになるこ

とは、皆さん、ご承知のとおりです。

そこで、３点提案をさせていただきます。

１点目、新しくラブベンチを設置するのではなく、既存のベンチにも菊池市が感じられる景色がよいところがあります。先ほど申しました堂山展望所の一番奥にある、あれは本当に景色のいい、とても絶好の場所です。そういうところをラブベンチとして認定し、歴史や文化を提示していく、このことは経費削減につながると思います。いかがでしょうか。

２つ目、仮名ですけども、「ラブベンチフォト募集」または「ラブベンチフォトコンテスト」など効果的ではないでしょうか。このことは男女だけではなく、ファミリーまたは友人同士など、部門別に分けて趣向を凝らしたものなどはどうでしょうか。

３点目、観光客に向けてのラブベンチの案内やパンフレットをホテルや旅館に配布するというのもどうでしょうか。

最後に、市長のラブベンチへの思いと、ただいま私が提案しました３点について、ご見解をお示しください。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、二ノ文伸元議員のラブベンチに対するご質問にお答えします。

ラブベンチを生かしていくべきだという、非常に肯定的なご意見をいただきまして、大変心強く思っております。ただ、誰もいないことが多いぞというご指摘でもございました。もっともっと宣伝をしていかなければいけないという点は、もう全くそのとおりであろうというふうに思っております。

特に、このラブベンチというのは、建設部長も申し上げましたけども、「癒しの里」という名前の下に、ほかにない、ゆったりとくつろげるまちづくりをしていこうと。実はそのことがリピーターにもつながりますし、今、人が求めている、そういう癒やしという空間をつくる上でも非常に有意義であると、こう考えたわけですね。かつ、これは１年で例えば一度にどっと作るというものではありませんので、１年に１つ、あるいは２年に１つ、そういうふうに長期的にまちづくりの状況を見ながら、少しずつ設備をしていこうと。そうすると、これが何個ができたときには、実はこれ自体を巡ること自体も、１つの旅の目的にもなってくるのではないかと。そういったことを目しながら進めてきているわけでありまして、いろいろ進めております「まちなかのウォーカブルシティ」であるとか、それから、桜の里づくりであるとか、こうしたことは全て連動してくるんですね。ゆっくりといろんなところ

を巡りながら、まちなかでラブベンチを訪れて腰かける。それを写真に撮る。こうしたことが人々の心にしみ込んでいくのではないかなと。その演出の装置の１つとして、時間をかけながら長期的に取り組んでいこうというのが趣旨でございます。

そういう中で、今、お話のありましたフォトコンテストというのは、これは私も後々にはこういうことを考えておりまして、非常にご明察であるなというふうに思います。ただ、数がある程度ないと、なかなかこうしたことは話題性も出てきませんので、大変すばらしいご着想をいただいておるなというふうに思いましたし、ホテル等でもっと宣伝してはどうかということについては、まちなかのウォーカブルシティがそもそもこれからの１つの売りになってまいりますので、様々な史跡であるとか、それから、かわまちづくりもしてもらいましたけど、そこでも里山の雰囲気が楽しめますよといったふうなことと併せて、まちなかのそういう１つの訪れるべきスポットということで、紹介するようなことを少し旅館街とも連携をしながら考えていきたいというふうに思っております。大変な重要なアドバイスもいただき、ありがとうございました。

以上でございます。

○水上隆光　議長　　二ノ文伸元議員。

［登壇］

○１７番　二ノ文伸元　議員　　一番最初から、もう設置して１０年がたったのかなと思います。現在においては４基あるということで、もう十分なのかなと、私個人的には思うんですが、５基目も、今、計画されているということです。菊池温泉街リブランディング事業も、今、話が進んでいるわけですけども、それに絡めて、執行部としてもしっかり努力をしていただきたいなというふうに思うところです。

大切なのは、今あるラブベンチをいかに市長がおっしゃる「癒しの里きくち」に結びつなげていけるかが問われるのだろうと考えております。無駄にならないようにしっかりと管理計画をお願いして、次の質問に移ります。

それでは、子育て支援、その中でも子ども医療費助成制度について質問をいたします。

現在、菊池市では、０歳から１８歳まで、子ども医療費助成制度が活用されることにより、保護者の窓口負担はなく、実質無料となっております。これは子育て支援として大変重要なことです。

菊池市では、早期にこの支援の制度が実施されており、評価されるものではないかと考えていました。しかし、この充実しているはずの子ども医療費制度ですが、医療従事者からの相談でいろいろなことが分かってきました。

皆さんはＲＳウイルスをご存じでしょうか。ＲＳウイルスは１歳までに半数、２

歳までにほぼ１００％が感染していますが、免疫ができにくいため、子どもから成人まで感染し、生涯にわたり感染を繰り返しながら、症状は徐々に軽くなるようですが、このＲＳウイルスは感染力が非常に強く、呼吸器系に影響し、発熱、せき、鼻汁などの軽い風邪症状を起こし、時に重い肺炎等を起こし重症化することが挙げられています。

最近、さだまさしさん出演でＲＳウイルス感染症の６０歳以上の予防接種の周知を行っているのをよくテレビで見かけますが、呼吸器系の基礎疾患がある成人が重症化しやすく、注意が必要なため、早期の対応を呼びかけています。

今回は、このＲＳウイルスにより、一部乳幼児にも感染による合併症の細気管支炎、肺炎、呼吸発作、急性脳症など、重症化に至ることがあり、注意が必要なため、対応が必要となっています。

今回は、この新生児への対応について質問をいたします。

一部の乳幼児とは、６か月以内の乳児、基礎疾患を有する小児です。例えば早産児、心臓や肺に基礎疾患がある。神経・筋疾患、免疫不全の基礎疾患がある小児です。この乳幼児の場合、ＲＳウイルス感染症の重症化リスクが高いため、予防薬シナジスの接種を勧められます。このシナジスは幼い命を重症化から守るために必要ですが、ワクチンではなく、１か月に１回接種が必要であること、その子の体重に合わせた薬量が必要であり、費用が高価になるため、一旦支払いが必要であること、このことでなかなか接種をためらう理由になっているとも言われております。

ここで、お尋ねですが、まず１点目、本市の場合、この予防薬シナジスは子ども医療費助成制度の適用になるのか、お答えください。

さらに、２点目、菊池市では２万１，０００円を超える医療費については、一旦支払わなくてはならないという制限がありますが、シナジスに限らず、どのような理由で２万１，０００円を支払わなくてはいけないのか。

３点目、この２万１，０００円の線引きの根拠は何なのか。

４点目、シナジスの接種を必要とする乳幼児の人数や、接種を実施した乳幼児数、本市においてです。分かる範囲で結構です。

５点目、２万１，０００円を超える医療費について、現物給付ができないのか。

以上、５点についてお尋ねいたします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　それでは、二ノ文議員のご質問にお答えをしたいと思います。

子ども医療費助成制度の件ということで伺っております。

申し訳ございません。シナジスに関する数字等が通告で聞き取りをしておりませんので、その分は割愛させて、答弁のほうは差し控えさせていただきたいというふうに思います。

子ども医療費の償還払いということで、２万１，０００円の件をおっしゃいました。これにつきまして、ちょっと概略、子ども医療費の制度についてご説明をさせていただきたいというふうに思います。

子ども医療費助成につきましては、医療機関等の窓口で子ども医療費受給者証を提示することにより、保険診療分の医療費の一部負担金を支払わずに医療サービスを受けることができるということでございます。

しかしながら、先ほど２万１，０００円というお話がありましたが、幾つかのちょっと除外規定といいますか、規定がございます。県内の１つの医療機関での外来受診や調剤薬局で、１か月の一部負担金が２万１，０００円以上になる場合、それから入院の場合、県外の医療機関を受診した場合、市外の整骨院、接骨院を受診した場合は、一旦医療機関等の窓口で一部負担金を支払っていただき、後日、市へ申請していただいて、償還払いでの助成というふうになることになっております。

子ども医療費の助成につきましては、窓口でお支払いいただく一部負担金から高額療養費などの他の法令による医療費負担制度を適用した後に残った金額を助成するものでございます。

高額療養費とは、一月に医療機関等に支払った医療費の一部負担金が一定額を超えた場合は、申請により自己負担限度額を超えた金額が支給されるということでございます。

また、一部負担金が一定額を超えない場合でも、同じ世帯で同じ月内に２万１，０００円以上の自己負担額を２回以上支払った場合、それらを合算して自己負担限度額を超えた金額が申請により支給されるということでございます。

このため、１か月の一部負担金が２万１，０００円以上となる場合は、高額療養費に該当する可能性があるということでございますので、償還払いでの助成という制度になっております。

２万１，０００円を超える一部負担金の助成につきましては、ほとんどの自治体が償還払いで助成しているところでございます。ただ、他県で幾つか現物給付を実施している自治体もございますので、今後、子ども医療費における現物給付についても、調査・研究をしてまいりたいというふうには考えているところでございます。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　二ノ文伸元議員。

［登壇］

○１７番　二ノ文伸元　議員　　一番私が今回問うところは、２万１，０００円を超えたからといって、現物給付をできないかということを一番聞きたかったわけです。今、健康福祉部長のほうから、調査・研究をやるということですけども、いつも思うんですよね。調査・研究するのはいいけども、それが終わった後に何の連絡もない。できるのかできないかも分からない。そういったところを、ある程度認識が今あるならば、ちょっとお伝えしていただければと思いますが、そこをお尋ねします。

○水上隆光　議長　　中尾健康福祉部長。

［登壇］

○中尾孝浩　健康福祉部長　　再質問にお答えします。

調査・研究ということでございます。

実際、今回ご質問をいただく中で、県外にはなりますけれども、実施されている自治体もございました。ただ、かなり少数ということもございますので、今後、そのあたりをしっかりどういった形でやられているのか、確認、調査・研究というふうにさせていただきますけれども、そのあたりで、もし可能であれば、そういったところも取り組んでいければというふうには思うところですが、まずは調査・研究という形で進めさせていただきたいというふうに思っているところです。

以上、答弁とします。

○水上隆光　議長　　二ノ文伸元議員。

［登壇］

○１７番　二ノ文伸元　議員　　実際、やられているところがあるということを、今、伺いました。ということは、やれないはずはないんですよね。あとはどれだけ職員の方が真剣に取り組んで市民のためにしていただくかということにかかっているのかなというふうに、今、受け止めたところです。

日本の少子化の原因に挙げられている理由の中に、未婚化や晩婚化の進展、若者の結婚及び出産に関する意識の変化、育児に関する経済的負担、育児や家事に対する女性の負担があり、改善策として、本市としても出産育児一時金給付、保育助成や子ども医療費助成制度など、多くの支援策が検討され、実施されています。これだけ少子化、子育て対策が重要、大切と言われる時代です。妊娠、出産、そして子育てをする親の身体的、精神的、そして環境的負担を軽減する取組は必須と言えます。

シナジスが必要なご家庭を考えても、出産や子育てでお金が必要であり、育休中で金銭的な予算の減額、様々な事情により線引きされた医療体制により、高額な医療費を払うことになるため、一旦払うことがちゅうちょされる家庭があるのもうなずけます。

子どもの命と健康を守るために、ぜひ受けてもらいたい医療や予防対策が一時的とはいえ費用がかさむことや、工面に苦慮して受けられない、受けにくいという現実は、妊娠、出産、育児の切れ間のない支援とよく言われていますが、これこそ、かゆいところに手の届くような支援ではなく、重要なところが抜けた対応になるのではありませんか。

子どもを産み育てる親にとり、そうした手間や負担を除くことこそが本来の子育て支援と言えるのではないでしょうか。

最後に、このことについての市長のご見解をお聞かせ願います。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、私の考えを述べさせていただきます。

今、ご質問のありました医療費の現物給付を検討できないかという話でございます。

利用者、とりわけ子育て世代の様々な利便性を考えますと、全てこちらのほうで精算をしてあげるというのが一番丁寧であろうというふうには考えております。ただ、医療制度自体が非常に複雑でございまして、病気によっても違います。また高額の場合でも違うということで、そうした違う制度を相殺しながら、やっていかなきゃいけませんので、非常に事務的なところがどういうふうになるのか、そこら辺も見極めないといかんと思いますし、一時的な資金の問題がどうなるのか、そこら辺は少し研究してみないとというふうに考えております。

本市を含めて多くの自治体が、そういう意味では、なかなかそこのところが踏み切れていないわけでありますけども、少数ながら他県でそういう例があるというふうに聞いておりますので、そこを１つの事例として調べて、こちらでどういうふうに応用ができるのか、そこはじっくりと検討していきたいというふうに思います。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　二ノ文伸元議員。

［登壇］

○１７番　二ノ文伸元　議員　　このことについては、やはり市長の強い思いを持って、職員の方に指導をしていただき、ぜひこの医療体制というものが確立できて、やはり真の子育て支援につながることを願っております。

現在、世の中がオンライン化やＤＸ化により便利な時代だからこそ、菊池市でもほかの市町村の見本となるような対応をお願いし、今後、さらに子育てしやすい菊池市と言われるようにしてもらいたいと切にお願いをいたしまして、私の質問を終わります。

○水上隆光　議長　　これで、二ノ文伸元議員の質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

休憩　午後１時３６分

再開　午後１時４４分

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　皆さん、こんにちは。それでは、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

最初に、ジュニアスポーツ育成ゆうり基金の活用についてお尋ねをいたします。

この件につきましては、これまでに一般質問等で何度も指摘、要望を続けておりますが、令和５年第２回定例会で確認を含めた一般質問の答弁では、市としては、定期的に連絡は取っていない状況であり、所管の委員会で荒木議員より指摘を受けて、急遽手紙をさしあげたとのことでありました。その後、不動裕理様より直接お電話をいただき、本市の子どもたちにご貢献いただいているお礼と、基金の状況について報告をさせていただいたとのことでありました。

私としては、定期的にご挨拶に伺うなどして、敬意を示す必要があったのではないかと指摘をし、今後の対応を強く要望しております。

この基金は、平成８年から平成１５年まで、旧菊池市に在住のプロゴルファー不動裕理様より頂いた寄附金を基金として、合併後、平成２０年４月から補助金交付要綱が施行されております。

不動裕理様のこれまでの偉業については皆様もご存じだと思いますが、特に平成１２年から平成１７年までの６年間、日本女子ゴルフツアーの６年連続賞金女王、２００４年にはプロ通算３０勝を達成され、史上最年少で永久シードを獲得されておられます。

このような絶対王者的な存在として活躍された不動裕理様より頂いた寄附によって設立された基金が、菊池市のジュニアスポーツの育成を目的として活用されていることは、菊池市の子どもたちにとっても目標となり、大変すばらしいことであります。改めて、不動裕理様に敬意と感謝を申し上げたいと思います。

そこで、お尋ねをいたしますが、私が前回、令和５年第２回定例会での一般質問後に、令和６年４月１１日に「不動さんの支援、子どもたちに感謝」と熊日新聞に掲載されておりました。バンテリンレディスオープン出場に合わせて菊池市を訪問

されたとのことでありますが、訪問までの経緯について、また、今後の継続に対する取組があればお示しをいただきたいと思います。

以上、１回目の質問とさせていただきます。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　改めまして、こんにちは。それでは、ただいまの木下議員のご質問にお答えいたします。

最初に、改めまして、菊池市ジュニアスポーツ育成ゆうり基金について紹介をさせていただきます。

不動裕理さんからの寄附を基に「菊池市ジュニアスポーツ育成ゆうり基金」を創設しております。菊池市におけるジュニアスポーツの育成を図ることを目的とし、本市の小中学生を対象に、会員１０名以上で活動しているスポーツクラブであり、年間を通じて活動している団体に予算の範囲内において年間１万円、本市の小中学生を対象に行うスポーツ講習会などの講師謝礼として１団体年間１回３万円以内、そのほか菊池市教育委員会が特に認める事業に３万円以内を交付している事業でございます。

令和５年第２回菊池市議会定例会後の状況としましては、「菊池市ジュニアスポーツ育成ゆうり基金補助金交付要綱」に基づき交付を行い、ジュニアスポーツの育成はもとより、社会に貢献できる人材の育成につなげているところでございます。

また、本年４月には、ゆうり基金を利用した子どもたちがお礼を言いたいということで、ツアー中の大変お忙しい中ではございましたが、不動裕理さんにご来訪いただき、直接対面してこれまでの経過をご報告いたしました。

その後、子どもたちがメッセージを手渡し、お礼の言葉を申し上げました。

不動裕理さんは大変喜ばれ、子どもたちからの質問に対しては、自らの経験を生かした大変貴重なアドバイスをいただいたところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　ありがとうございました。

令和６年４月２７日に、４５歳以上の選手が出場するレジェンズツアーで不動裕理様が１３年ぶりに優勝されております。そのときの対応もちょっとお聞きしたいということで質問させていただいているんですが、いかがでしょうか。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　ただいまの再質問にお答えいたします。

そのときのご対応ということですけども、直接対応はいたしておりません。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　私の情報では、所管の職員の方が不動裕理様のほうに連絡を取って、優勝されたことに対しての謝辞のお祝いの連絡を取ったと。そういうふうに私のほうには連絡が入っておりました。私も優勝されたことの情報をすぐ所管の担当の職員の方にも連絡を取っておりましたので、その後の対応については、十分対応していただいたんだというふうにして認識をしておりました。

いずれにしても、これまでの経緯を考えると、やはり常々の連絡を取り合っていなかったからこそ、これまでの寄附についてのいろんなことも含めて、対応がまずかったんじゃないかなというふうにして思っております。

今後は、このすばらしいご縁をきちんとして対応するためには、やっぱりトップの方の市長としての取組が必要だと思いますので、市長としてのお考えもお聞きしておきたいと思います。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　不動裕理さんへのこれまでの感謝の思いと、今後について述べよと、恐らくそういう趣旨のご質問であろうというふうに思います。

不動裕理さんのご芳志により創設しました菊池市ジュニアスポーツ育成のゆうり基金事業、本年度で１６年目を迎えたわけでございまして、その間、その恩恵を受けたジュニアスポーツクラブの子どもたち、あるいは講師の方々、大変このおかげで活動に励みになったというふうに思いますし、数多くのスポーツ活動がこれによって大きな支援を受けたというふうに考えております。こうした活動を継続して行うことができましたのも、不動裕理さんのご支援があってこそということを感じておりますので、感謝の気持ちでいっぱいでございます。

今後につきましても、不動裕理さんとの関係を維持しながら、本市のジュニアスポーツの育成支援活動に様々ご協力いただければというふうに強く願っているところであります。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　ありがとうございました。

菊池市ジュニアスポーツ育成ゆうり基金の価値といいますか、将来の子どもたちに対しても本当に指針になると思いますので、今後とも信頼関係を築いていただきたいと思います。

それでは、次に移りたいと思います。

それでは次に、菊池市の公園の現状と維持管理等についてお尋ねをしたいと思います。

先ほど二ノ文議員のほうからラブベンチのことは詳しくお尋ねされておりました。

今回、足湯、またラブベンチ、菊池さくら千年プロジェクト等の維持管理、費用対効果についてお尋ねをしたいと思います。

私はこれまで、この件につきましては、本市の観光戦略「癒しの里」プロジェクトの下に様々な施策が推進されておりますが、長期プロジェクトとはいえ、現在の公園の維持管理、今後の維持管理を含めて、大変心配しております。

行政の優先順位、費用対効果の観点からも指摘を続けてまいりました。特に菊池さくら千年プロジェクトについては、コロナ禍のときに、本市の経済状況、必要性、緊急性を考慮し、見直しを含め、一般質問等でこれまで指摘を続けておりますが、本市はその後も毎年植樹を行われております。

公園についても、新たに令和５年４月１日より花房さくら坂公園が完成しておりますが、のり面の管理も含め、今後の維持管理を大変心配しております。

そこで、お尋ねをいたしますが、各施設の現状と維持管理費、費用対効果についてお示しをいただきたいと思います。

また、これまで、さくらサポーターについては、市民への推進をお願いしておりましたが、現状をお示しいただきたいと思います。

○水上隆光　議長　　久川建設部長。

［登壇］

○久川知己　建設部長　　それでは、ただいまの木下議員の質問にお答えいたします。

まず、菊池市内公園の年間維持管理費について、令和２年度以降の分でお答えさせていただきます。

まず、令和２年度が約６，１００万円、令和３年度が約６，５００万円、令和４年度が約６，５００万円、令和５年度が約５，７００万円となっております。

このうち、修繕工事等を除きまして、経常的な経費であります作業員等の人件費、除草清掃等の委託料、光熱水費等の維持管理費で申し上げますと、令和２年度が約５，４００万円、令和３年度が約５，０００万円、令和４年度が約５，１００万円、令和５年度が約５，４００万円となっております。

次に、横町、切明ポケットパークの維持管理費についてですが、令和２年度が約

１６０万円、令和３年度が同じく約１６０万円、令和４年度が約１５０万円、令和５年度が約１９０万円となっております。

次に、二ノ文議員の質問にもお答えした内容と重複することになりますけども、ラブベンチの設置に要した費用についてお答えいたします。

それぞれ事業費ベースであり、デザインコンペ、広告宣伝等に要する費用も含めた金額となります。平成２６年度に院の馬場ポケットパークに設置された名称「三日月ベンチ」につきましては約１００万円、平成２７年度に御所通りに設置された名称「背中あわせ」につきましては約９９万円、令和元年度に菊池公園城山展望所に設置された名称「ふたりのベンチ」につきましては約１０３万円、令和５年度に菊池公園総合体育館付近に設置された名称「羽のベンチ」につきましては約１４０万円となっております。

次に、菊池さくら千年プロジェクトにつきましてお答えいたします。

期間につきましては、公園同様、令和２年度以降についてお答えさせていただきます。

まず、事業費について、令和２年度が約３１２万円、令和３年度が約３２０万円、令和４年度が約１７１万円、令和５年度が約１５９万円となっており、総額が約９６２万円で植樹本数が２８０本、３２か所の地区に植樹している状況です。

なお、管理につきましては、平成３０年度からは協定書という形で進めさせていただいており、令和４年度より「菊池市桜の里プロジェクト桜苗木交付要綱」に基づき、市より苗木を提供し、植樹・管理に関しましては地区において地元対応にて実施していただいているところです。

また、「さくらサポーター」に関しましては、菊池観光協会の事業でありますので、事務局に確認したところ、令和５年度実績で依然７名と少ない状況であるとのことでした。

それぞれ費用対効果ということでしたけども、費用対効果につきましては、数値化につきましてはちょっと困難ですけども、単体では費用対効果が出にくいので、これらを素材として、他の事業や観光スポットと連動させることにより、費用対効果を発現させたいと考えております。

以上、お答えさせていただきます。

○水上隆光　議長　　木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　ありがとうございました。

この数字を聞いて、今日は何人も傍聴に来られている方がいらっしゃいますが、ちょっと数字を聞いてびっくりされた方もいらっしゃると思います。

本当に今後も含めて、この菊池市の財政の厳しい中に、費用対効果はなかなか難しいとおっしゃいますが、今後も例えば桜を植樹するにしても、後の維持管理費というのは物すごくかかってきます。あえて令和何年度からということで、本数的なものはちょっと少なくおっしゃいましたけど、当初から植樹はもう１，０００本以上超えていますよね。金額も４，０００万円以上超えています。場所によっては、私が迫間の茂藤里地区で植えたときには、４２本植えられて、１本当たり４万２，３００円の植樹の費用がかかっていると。そういう数字も出ております。

花房坂の公園も、この質問に当たって、ちょっと見に行きましたけど、本当にのり面の竹は物すごい勢いで伸びております。国道沿いののり面の整備となると、物すごく交通に対するその経費がかかるんじゃないかなと心配しております。

それと、ずっと前から６，０００万円強を整備費として答弁されていますが、これは堂山展望所とか、そういうのも含めてどんどん公園はできているのに、維持管理はほとんど６，０００万円台で推移しているという面についても、ちょっと不思議でしようがありません。ある方の情報では、予算の分だけ除草しているんじゃないかということを指摘される方もいらっしゃいます。

ラブベンチについては、先ほど二ノ文議員は肯定的な意見もございましたけど、私はもうこれ以上は絶対作らないほうがいいというふうにして、否定的な意見でございます。市民の方々に聞くと、そのラブベンチ自体がどこにあるかも全然分かっていらっしゃらないし、これだけいろんなことに市民生活が厳しいときに、何百万もかけて、そういうのは必要ないんじゃないかということをおっしゃっております。

桜というのは、やはりどんどん成長したら、あまりにも近くに植樹していると、またそれを間引きといいますか、そういうことをせざるを得なくなってきますから、将来の維持管理についてはとても心配しているような状況です。

特に今回は、さくらサポーターについては、これまでずっと私は申し上げておりましたけど、菊池観光協会に委託しているから、数字的なものはなかなか分からないということでは、私はいけないと思います。私もそのさくらサポーターのメンバーになっておりまして、毎年更新をしながら会費は払っております。だから、そういうのをやっぱり市民の力をいただくためには、さくらサポーターを増やして、そして、そのことによって、ある程度の維持管理費に充てれるようにするのが、やっぱりこれが行政の務めだと思いますので、そういうことも含めて、市長の考えをお聞きしたいと思います。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、ご質問にお答えする前に、ご質問で非常に多岐にわたる

お話をされたので、ラブベンチのことなのか、桜のことなのか、菊池さくら千年プロジェクトなのか、堂山展望所のことなのか、どのことについてのご質問か、ちょっと明確にしていただければというふうに思いますので、よろしくお願いします。

○水上隆光　議長　　木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　時間も限られておりますので、それでは、菊池さくら千年プロジェクトですか、その今後のことに絞って、今回はお聞きしたいと思います。

それと、さくらサポーターについても、関連もございますので、よろしくお願いします。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、桜の植樹に関する意見を述べよということというふうにお聞きしました。

木下議員におかれましては、桜や公園はあまりお好きではないという感じは非常に受けましたけども、実は、この桜というのは非常に狙いを持ってやっているわけでありまして、平成２５年度から着々と進めてきております。これまで１，０００本以上の植栽が行われてきたわけであります。

実は、ここに非常にてこの効果が起きておりまして、私どもが１年に大体１００本ずつぐらい、１０年ちょっと、１，０００本ちょっと植えるのに並行しまして、市民の皆様から、これは非常にいいと、次世代にとっても非常に宝物になるだろうということでご賛同をいただきまして、竜門ダムであるとか、旭志であるとか、様々なところで自発的に桜を植え始められました。これは基本的には市民の皆様の汗とお金でお植えになっているものでありますけども、これが約９，０００本以上に上ります。したがいまして、私どもが１，０００本植えたことで、今、菊池市には１万本以上、かつてなかった桜が存在してきているということであります。

それから、私どもが植えた桜につきましては、地元の方々がお世話をしていただくという約束の下で植えておりますので、その際に、必ず子どもを入れてくださいというお願いもしております。私どもの思いがこうした子どもに引き継がれて、地道にこれから着実に続いていくことだというふうに思います。

そして、もう一つ大事なことは、桜以外の普通の投資というのは、１回投資しますと、もうすぐに減価が始まるわけですね。５年なら５年にかけまして、価値がどんどん下がっていきますし、その間の機械であればメンテナンス等も必要になります。桜の場合は逆でありまして、毎年少しずつ少しずつ大きくなってまいります。３０年、４０年もたちますと大木になりまして、こればっかりはほかから一度に買

ってこようと思ってもなかなかできない。菊池市ならではの大きな観光資産になるわけであります。こうしたことが非常に桜の持っている魅力の１つであろうというふうに思います。３０年、４０年後は私どもはいないかもしれませんけども、次世代あるいはそのさらに次の世代に対して、確実に私どもは自信を持って渡せる資産である。宝であるというふうに思います。

目先は、今、確かにお金が苦しいときがあっても、できる範囲で、やっぱりその基礎の１つをつくってあげるということは非常に重要であろうというふうに考えている次第でございます。

以上、桜についての私の考え方を述べさせていただきます。

以上でございます。

［「サポーターは」と呼ぶ者あり］

○江頭実　市長　　さくらサポーターというのは、先ほど申しましたように、これは市の事業ではなくて、菊池観光協会さんの事業でありますので、事務局に対しましては、議員からもそういうお話があったと。今の状況をいま一段打破するようにというふうなご指摘があったということも申し伝えておきたいというふうに思います。

以上でございます。

○水上隆光　議長　　木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　ありがとうございました。

私は、市長が将来の宝になるとおっしゃいますけれども、各地域で、今、本市が行政のほうで植えていただいておるところは、ほとんど地域との覚書はできておりません。ですから、後の管理については、非常に私たちも地域も含めて心配をしております。

それと、桜はやはり大きくなったら、ある面では伐採せざるを得ないと。そういうこともあるから、この厳しい財政の菊池市にとって、本当にそれが正しいのかということで、申し伝えておるわけでございますから、その点は理解していただきたいと思います。

それと、さくらサポーターは菊池観光協会がやっているから、直接は関係ないようにおっしゃいますけど、それを推進するのはやっぱり行政の役目じゃないんでしょうか。そのことも申し伝えておきたいと思います。

それでは次に、竜門ダムの未利用水のＴＳＭＣ、ソニー等半導体関連企業、関係自治体への水源涵養林等の本市の活性化につながる取組の現状についてお尋ねをいたします。

この件につきましては、令和５年第１回定例会において、元日の熊日新聞に「竜

門ダム未利用水活用」の見出しで大きく掲載されましたので、私としては、菊池市の活性化に特に龍門地域の活性化に結びつくと考えて、本市の今後の取組を含め質問をいたしました。

現在の菊池市の竜門ダム関係としては、国有資産等所在市町村交付金、いわゆる竜門ダム交付金が平成１６年度から毎年約１億円が交付されております。しかしながら、現在は龍門地域に直接使用されておりませんので、私もこれまで、何度もダム交付金の一部を龍門地域の活性化に使用できる基金の設立の要望を一般質問等で続けております。

さらに、令和元年１１月２７日には、龍門地区区長会より、龍門ふるさと振興基金設立に関する陳情を市長に対して提出しておられますが、現在も設立に至っておりません。

このような状況の中、今回の竜門ダム未利用水活用は、菊池市との関係企業、関係自治体への連携によっては、間違いなく、特に龍門地域の活性化に結びつくと考えられます。

これまでの一般質問で申し上げておりますが、竜門ダムの水源池を守り続けていくためには、豊かな森林を育む水源涵養機能を維持するための資金も必要となると考えられますので、竜門ダムを応援するパートナー協定みたいなものをつくったらどうかと提案をさせていただき、市長にスピード感を持ったトップセールスをお願いいたしました。

その後も令和５年第４回定例会において、再度、本市としての取組の状況を確認をいたしましたが、市長の答弁は、竜門ダムの給水の可能性調査が続いている状況であり、その結論を待っている状況でございますと、具体的には本市としての取組は何もしていないとのことであります。

午前中の安武議員の一般質問でも竜門ダムの工業用水については触れられましたが、菊池台地用水土地改良区組合員には、既に竜門ダム工業用水の菊池台地国営パイプライン使用については、令和６年３月１９日の総代会において、農業用水の水利権が守られることを条件に、パイプライン使用について承認されたとのことであります。

竜門ダムは農業用水が基本でありますが、私はこれまで、地域に開かれた多目的ダムでもありますので、菊池市、特に龍門地域の活性化に結びつくような施策を要望しております。

今回の竜門ダムの未利用水の活用については、交渉によっては大きなチャンスでもあります。市長のトップセールスは大変重要であると考えますが、現在、具体的な取組があればお示しをいただきたいと思います。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、お答えいたします。

前回、令和５年第４回でお答えしている内容でございますけども、竜門ダムの給水の可能性調査が続いているということで、その結論を待っていた状況でございますけども、先ほどお話もありましたとおり、県が持っております工業用水の送水については、農業用のパイプラインを使ってもよろしいと。ただし、農業に影響を及ぼさないことということで、菊池台地用水土地改良区として承認を与えたものでございます。

先ほど来から、これはどういう言葉でしたか、トップセールスを行えという趣旨のことをおっしゃっておりますけども、恐らく工業用水の大本になるのは竜門ダムの水であるからという趣旨でおっしゃっていると思いますけども、私どもが菊池台地用水土地改良区として承認しているのは、パイプラインの使用についてでありますので、農業用水を売り渡すということでは一切ございません。工業地帯に持っていく水というのは、もともと県が保有している権利でありまして、加えて、県が一体どの会社さんにどれぐらいの量を売るのかということも、私どもは全く知る立場にございませんので、一番川下の事業家の方に、いろいろ私どもがセールスをするという立場にはないということはご理解をいただきたいというふうに思います。

また、この水を利用しておりますのは、工業地帯だけではなくて、当然農家の方もいらっしゃるわけでありますので、そこら辺をどういうふうに考えるのか、議論の整理も非常に必要だと思います。県ともそういったふうなお考えがあるということは伝えていきたいというふうには思いますが、私どもが末端の企業さんには働きかける立場にはないということはご理解をいただきたいというふうに思います。

以上、お答えさせていただきます。

○水上隆光　議長　　木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　全然趣旨が、私が申し上げていることが何か理解していただいてないような感じがいたします。私は菊池台地用水土地改良区の組合長としての意見を聞いているわけではございません。あくまでも、これまで申し上げたように、本市のトップとして、やはりその龍門地域のダムの水を使うとなれば、その涵養林とか、そういうのはやっぱり地元の人たちがきちんと整備をすることによって守られていくと。そういうのを例えば企業とか、ほかの今度、菊陽町の自治体の長とか、そういう方に理解をしていただく。これまでダムを造るときに、地域の人たちがどれだけ、やっぱり苦渋の選択でそれを受け入れて、頑張ってこられたとい

うのをトップとして、それをちゃんと交渉のやり取りにしていただきたいということをずっと申し上げておるわけですよ。

今回、菊池市議会としても、ＴＳＭＣの提言の中にちゃんとこの文言も入っております。やはり市民への十分な説明を行いつつ、本市にとっても有益な施策を講じるべきであると。これが提言が今から出てくると思います。

それと、私が先ほども申し上げたダム交付金の一部を基金でもつくっていれば、ある面では、そこに受け入れることもできたんじゃないかというふうに私は考えております。

それと、先般、令和６年６月１９日に木村知事との懇談会がございました。その場所にも龍門地域の方々が来られていましたけど、とにかくやっぱり私たちには何のメリットもないじゃないかと、そういうことを意見としておっしゃっていた方がいらっしゃって、直接知事にもいろんなお願いをされておりました。だけど、それは市長が知事のほうにいろんなことを、やっぱり地域の代表としてお願いするべきではないかというふうに思います。

ほか、阿蘇市の涵養林整備費を募るとか、いろんなことを、ほかの自治体はどんどんやっております。水田かん水についても、協力農家の助成の拡大とか、そういうのを全部、自治体のいろんな考えで取り組んでいらっしゃると思いますから、せっかく今度、菊池市のダムの未利用水を使われるということでございますので、表現は悪いですけど、ある程度は条件的なものを申し上げて、本市の活性化に結びつくようなことをやっていただきたいと思います。

それでは、次に進みたいと思います。

それでは次に、九州産廃菊池営業所廃止後の地元水迫地区への環境整備基金の活用の状況についてお尋ねをいたします。

令和４年１０月２１日に議会月例会で、九州産廃菊池事業所が法律に違反したことによる措置命令に対しての改善が令和４年３月２９日で完了したことが報告されました。

その後は、処分場内の地下水及び水処理施設、その他処分場周辺の河川水などの水質検査も引き続き行われていると思われますが、よろしくお願いしておきたいと思います。

また、これまでの一般質問でお願いしておりますが、私としては、九州産廃の溶融キルン式焼却施設の閉鎖後の解体を、これまで長い間、産廃問題の風評被害等で苦しんでこられた地域の方々のためにも、早急に行っていただきたいと思いますが、これまでの執行部の答弁では、会社としては解体する予定ではあるが、時期は未定であるとのことでありました。この件につきましては、引き続き本市としても強く

要望をお願いしていただきたいと思います。

これまで、環境整備基金につきましては、これまでの経緯も含め、何度も指摘、要望を一般質問等で続け、また、これまでの水迫地区区長の方々と協議を重ね、私としては、長い間、産廃問題でご迷惑、ご苦労をおかけした地域にぜひとも活用していただきたく、説明を続けてまいりました。

令和６年第１回定例会では、令和５年度の水迫地区区長様によって各地区の要望を取りまとめていただき、水迫地区としての陳情書が令和５年１２月１１日付で提出されましたので、状況を確認させていただきましたが、執行部の答弁では、それぞれの地区の要望と、水迫地区全体の要望と分けて提出されておりますので、私としては、地区全体の要望については緊急性もございましたので、早急な対応をお願いいたしましたが、何とも歯切れの悪い答弁でございました。各地区の要望については、それぞれ緊急性、公平性を考慮する必要がありますが、地区全体の要望については、これまでのご苦労を考えると、早急に取り組む必要があります。

今回、改めてお聞きいたしますが、水迫地区からの要望の現状、特に地区全体からの要望の対応についてお示しをいただきたいと思います。

○水上隆光　議長　　宇野木市民環境部長。

［登壇］

○宇野木浩二　市民環境部長　　改めまして、こんにちは。水迫地区から提出をされました陳情書に係る本市の対応状況についてお答えいたします。

本件につきましては、令和６年第１回定例会における木下議員の質問に回答させていただきましたとおり、令和５年１２月２７日に、水迫地区長ほか水迫地区関係区長８名の連名により、環境整備基金活用による全１８項目にわたる要望がなされておりますが、要望事項全体に対する概算費用と基金積立金額に差異が生じているため、優先度等のご検討をお願いしている状況でございます。

しかしながら、地元水迫地区で検討・判断いただくためには、費用算定にかかる設計積算等の技術的な根拠が必要であり、併せて時間的な制約上からも、現在、庁内各担当部署におきまして参考資料等を作成しているところでございます。

今後におきましては、作成をいたしました参考資料等を基に、水迫地区におきまして各要望事項に関する優先度等を決定いただき市へお伝えいただいた上で、庁内関係部署における協議を行い、環境整備基金条例に基づいた対応を図ってまいりたいと考えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　私が改めてお聞きしたいのは、その水迫地区全体から要望が出た分の対応を改めてお聞きしたいと思います。

○水上隆光　議長　　宇野木市民環境部長。

［登壇］

○宇野木浩二　市民環境部長　　ただいまの質問にお答えいたします。

水迫地区全体から出された要望といいますのは、里山の家の洗濯機のことだというふうに考えておりますが、それにつきましても、関係部署と協議が必要となっておりますので、検討を進めているというところでございます。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　これまで、もう私は何十回とこのこと、環境整備基金のことについては一般質問をしてまいりました。ようやく水迫地区全体の要望と各地区の要望が出てまいりましたので、その各地区の要望については、やっぱりなかなか難しいのは私も十分理解しております。しかしながら、やっぱり９地区全体として要望した分については、もう約１億１，９００万円しか残っておりませんけど、そっちのほうは早急に地域の思いというのをかなえてあげたいと思いますので、そのことについては大至急やっていただきたいと思います。

このことについては、やっぱり市長の考えもお聞きしておきたいと思います。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、環境整備基金に関わる私の考えを述べよということで、申し上げます。

中身はもう先ほど市民環境部長が答弁したとおりでございます。それぞれの要望事項については、もう環境整備基金の持っている枠を超えていますので、これを各区ごとの分を私どもが調整することがなかなか難しゅうございますので、これは皆さんで話し合って、優先順位をつけてくださいというお願いをしておりますので、これを待ちたいというふうに思います。

全体からのお申出というのは、先ほどの洗濯機のことですかね。これは、今、部長が申し上げましたとおり、その可否について、早急に検討を進めていきたいというふうに思います。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　市長のおっしゃることも十分分かります。各地区の要望については、その全体が超えているということは私も十分分かって申し上げている。だから、水迫地区全体の要望は早急にやるべきではないかと言っているんですね。

この約１億１，９００万円についても、過去の取組状況を確認すると、対応についての不備があって、６，５００万円ぐらい取り損ねた部分もあるんですよ。もうそのことについては、今回は触れませんので、やはりそういうことも含めた上で、できることから早急にやっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは次に、菊池市公共施設等総合管理計画の見直しの地元区長会からの要望の対応についてお尋ねをいたします。

この件につきましては、令和２年７月２１日、議会月例会において、施設マネジメント課よりの資料が示されました。私はそのときにも申し上げましたが、その後も一般質問等で一貫して、各支館の地域移管の問題、廃止となっている重味グラウンドについては、見直しを含め指摘、要望を続けております。

市のこれまでの答弁では、現状の個別施設計画は、施設本来の用途を基準に、将来の方向性を示したもので、避難所などの別用途として利用する公共施設の個別施設計画を推進する場合は、庁内関係各課、また関係機関と連携を図りながら、利用者などの意向を踏まえ、丁寧な説明を行いながら、合意形成を図っていきたいと、同じ答弁の繰り返しであります。

これまで何度も申し上げましたが、令和３年７月の総務文教常任委員会所管事務調査委員長報告では、本市の指定避難所等の総数は５２か所であり、非常時の収容人員は９，２８０名でありますが、コロナ禍における避難所運営の視点に立った場合、車中泊スペースを含め、避難所、避難場所の確保に十分留意し、慎重に行うことが重要であると指摘がありました。

本市でも、熊本地震による甚大な被害を受けた菊池市にとっては、このことをしっかり考慮して検討を進めなければなりませんが、現在の菊池市の説明の状況は、市民に選択権を与えない計画を一方的に押しつけています。

私は迫間地区に住む者として、迫間支館、重味グラウンドについては、市民の生命を守る施設として、従来どおり、市で管理するべきであると考えます。

これまでの一般質問の中でも何度も申し上げましたが、区長会として協議を重ねて、全会一致で迫間支館、重味グラウンドについては、行政で管理運営していただくように要望しておられます。昨年の１１月９日に行われた迫間支館の区長説明会でも、その当時の迫間地区区長会長が代表してはっきりと発言されております。

その後も執行部としては、各区に啓発用のＤＶＤだけを送りつけて、視聴するようにしてありましたので、私が各区を初寄り等で訪問したときには、各区長よりＤ

ＶＤだけでは、区民に見せることはできないとの苦情が多数出ておりました。住民の命を守る施設に対する取組にしては、丁寧さに欠けた対応だと思われます。

今後もアンケート実施を計画されているようですが、何回も申し上げますが、その必要はありません。令和６年２月に提出されております要望書で分かりますように、区長会としての考えは決まっておりますので、押しつけではなく、地域の意見を尊重していただきたいと思います。

そこで、確認も含めお尋ねをいたしますが、各区に送付された啓発用ＤＶＤの結果と、迫間地区区長会及び水迫地区区長会から提出された要望に対しての状況をお示しいただきたいと思います。

○水上隆光　議長　　前川教育部長。

［登壇］

○前川幸輝　教育部長　　それでは、ただいまの質問にお答えいたします。

最初に、公民館支館の進捗状況について、まずお答えいたします。

迫間支館を含めた公民館支館の進捗状況としましては、今年８月に地域住民へのアンケートを予定しており、現在アンケート内容について内部協議を進めております。

アンケートの結果を基に、地元区長説明会を開催し、支館の管理運営方針について協議を行う予定としております。

迫間支館につきましては、令和６年２月にいただきました要望書の内容も踏まえながら、合意形成に向けて丁寧に進めてまいります。

それから、ＤＶＤの件につきましては、ＤＶＤを配布した全ての区の視聴状況は確認しておりませんが、分かりやすかったと言っていただいた区長もおられますので、ある程度はご覧になっていただいたものと判断しているところでございます。また、改めまして、アンケートを実施する前には、ＤＶＤの視聴について周知をさせていただきたいと考えております。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　分かりやすかったという区長からの意見があったと。私のほうには全然そういう話はまいりません。見ることもなかったということもおっしゃった区もありますけど、私は２回見てみました。その中で、先ほども申し上げましたように、現状の個別施設計画は、施設本来の用途を基準に、将来の方向性を示したもので、避難所などの別用途にして利用している公共施設の個別施設計画を推進する場合はという形でうたってありますけど、私が見たＤＶＤ、２回見ました

けど、投票所とか、避難所に活用していることについての説明は一切ありませんでした。

ですから、なかなかその地域の人たちが、ほかの目的に使われていることをどう理解するかというのが非常に分かりにくかったと思います。ですから、そういうことを踏まえて、私は何回も申し上げますけど、もう区長会が全会一致で、今までどおりちゃんと行政のほうで管理運営をしていただきたいという要望書が出ているんですから、わざわざまた各戸にアンケートを回して、その税金をかけてする必要は私はないと思います。やはり地域の代表である区長さんがそれだけの思いで要望書を提出されておりますので、そのことを十分理解して対応されたほうがいいと思います。

先般、令和６年２月２９日に重味地区区長会に対して、重味グラウンドの説明会がありました。それと令和６年４月２５日に、これは水迫地区の区長会の新旧交代の懇親会がございましたが、そのときに市長がいろんな発言されましたけど、もうその真意が、どうしても私がちょっと理解できないものですから、そのことを改めてちょっと説明をしていただきたいと思います。

○水上隆光　議長　　江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　今の質問は、ちょっとすみません、確認ですが、今のはドクターヘリの発着場の件ということでよろしいですか。

ドクターヘリの発着場を作るということで、もう既に決定しておりますけども、ここに至る経緯を述べよという趣旨のご質問であろうというふうに考えます。

当初、これは社会体育課の管理する体育施設でありましたけども、社会体育課は体育施設としての廃止、それから、防災交通課のほうでは、地元からご要望のあったドクターヘリの発着場を検討しておりましたけども、近くにあるということで、防災交通課としては不要だという結論を出しておりました。

しかしながら、一方で、住民の皆様の声は、引き続きぜひ作ってくれというお声が非常に強かったので、私は大変不安に思いまして、一回差戻しをして、再度、検討の結果、やっぱりドクターヘリの発着場は必要だという結論に至ったわけであります。

なぜかといえば、どうしても縦割りの業務遂行で、社会体育課は体育施設では要らないの一点張りでありましたけども、防災交通課のほうは、やや残念ながら、地図上でこの議論を進めていたということで、確かに地図で見ますと、比較的近場に何か所か、ドクターヘリの発着場が既にあったわけであります。しかしながら、実際に現実問題を想定してみたときに、谷筋を幾つも控えておりますので、そこを越

えて救急車が行って、先発隊が行って、それでヘリの誘導をするということは非常に時間もかかるのではないかと。それから、実際の人口は、この重味地区から水源地区に行く道筋に一番人口が多いということがありましたので、これではいかんということで、やっぱりここに作ろうということで、私のほうで決定したわけであります。

このことが間違いないかどうかは、確認するために、令和６年３月の（後に発言の申出があり、「３月の」を「２月の」へ訂正）迫龍ふれあいセンターにおきまして区長説明会で、それぞれの各地区の区長さんのご意見をお聞きして、やっぱりその考えで間違いがないということで、ドクターヘリの発着場として作ると。その代わりに、舗装とか、トイレとか、そういうものはもう最低限にするということでご理解をいただいたわけであります。

この間、区長の皆様に対しては、大変時間がかかって、ご心配をおかけしたなということを大変申し訳なく思って、その場でおわびをいたしましたし、また、令和６年４月の水迫地区の区長会の懇親会にもお声をかけていただきましたので、その場におきましても同じように説明して、区長の皆様に同様のおわびを申し上げたと、こういう経緯でございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　これまで、私が一般質問等でこのドクターヘリの必要性については、もう一生懸命申し上げておりましたが、何か突然聞いたような市長の発言でございましたので、この真意については、改めて次回の質問でお聞きしたいと思います。

それでは次に、国道３８７号沿いの迫間地区における追尾型太陽光発電事業の地域への環境保全の現状についてお尋ねをいたします。

この件につきましては、当初、菊池市環境基本条例があるにもかかわらず、関係住民に説明会が行われずに開発行為が進んでおりましたので、その後、地域区長、地域住民とともに条例の確認をさせていただきました。菊池市も条例違反を認め、菊池市の立会いの下、菊池市環境基本条例に基づいて、これまで何度も地元説明会が開催されましたが、現在も地域住民の不安の解消に至っていない状況であります。

特に、令和５年２月１７日、菊池市役所において、開発業者としては工事を止めた状態での協議は最後であると示した上で、説明会が行われ、開発業者の提案と、地域住民からの排水の問題、また、これまでの開発業者が示した６基撤去の問題、迫間支館前の設置の問題等が折り合わず、結果的には物別れとなってしまいました。

その後、結果的には物別れになったとはいえ、開発業者による迫間支館の隣接に８基程度の追尾型太陽光発電設備が設置されている状況に、地元としても開発業者の誠意のない対応に憤慨されておられます。

昨年１１月には、菊池市を経由して、開発業者に迫間地区における太陽光発電事業の開発に係る協議について、迫間地区長、大柿区長、平野区長より、施設内の里道に関すること、施設内の排水に関すること、施設開発に伴う隣接地の補償に関すること、居住地に隣接する太陽光発電機器の撤去に関することが開発業者に提出されましたが、本年１月に開発業者代理人より協議に応じることはできないとの返事がありました。

この開発は、菊池市環境基本条例違反からスタートしておりますので、菊池市としても、いまだに地域住民の不安の解消に至っていない状況が続いていることを十分認識していただき、開発業者との対応をお願いしたいと思います。

現在、菊池市のような太陽光発電トラブルが全国の市町村の４１．２％で発生していることが、令和６年３月２１日の熊日新聞に掲載されておりましたが、菊池市においても、もちろんトラブルとして捉え、対応されていると思われますが、その点も踏まえ、今後の対応をお示しいただきたいと思います。

○水上隆光　議長　　宇野木市民環境部長。

［登壇］

○宇野木浩二　市民環境部長　　迫間地区における追尾型太陽光発電事業につきましてお答えいたします。

国では、２０５０年までにカーボンニュートラルの実現を目指すとともに、２０３０年度温室効果ガス排出量４６％削減に向け、再生可能エネルギーの電源比率を倍増する計画を策定し、その導入を促進しております。

ＦＩＴ制度が導入されて以降、全国で太陽光発電設備等が拡大された一方で、一部の太陽光発電設備等に関して、地域住民への説明が十分になされないまま事業が開始される例や、発電設備の設置後に土砂が流出する例などのトラブル等が発生しております。

このような状況等を踏まえ、気候的条件や地理的条件に恵まれた九州内７県の全市町村を対象に、去る令和４年８月から９月にかけまして、太陽光発電に関する基礎調査が実施されております。

その後、当該基礎調査結果等を基に、地域との共生を図りつつ、太陽光発電設備等の適正な導入が円滑に進められるための仕組みや運用の改善策、その進捗を把握するための方法を検討することを目的とした調査が実施され、本市におきましては同年１０月末に、本市区域内における対応状況や具体的な課題等に関するヒアリン

グが行われたところでございます。

なお、調査結果等につきましては、本年３月２６日に報告書として公表されているところでございます。

また、先ほど申し上げました各種トラブルが発生した場合における経済産業省へのオンラインによる通報の仕組みにつきましては、以前より把握しているところでございます。

加えまして、本市におきましては、経済産業省の出先機関である九州経済産業局に対しまして、現状報告……。

○水上隆光　議長　　質問時間の６０分となりました。発言を中止します。

席にお戻りください。

これで、木下雄二議員の質問を終わります。

ここで、１０分間休憩します。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

休憩　午後　２時４４分

再開　午後　２時５１分

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

ここで、発言の申出があっておりますので、発言を許します。

江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　先ほどの木下議員に対する私の最後の回答の中で、経緯説明の中で、「３月」の迫龍ふれあいセンターにおける区長説明会と申し上げましたが、実際にはうるう月でございまして、２月２９日でございましたので、「２月」の迫龍ふれあいセンターにおける区長説明会ということで、訂正をさせていただきます。おわびして、訂正させていただきます。よろしくお願いいたします。

―――――――――――――――――○―――――――――――――――――

日程第２　議案第５９号及び議案第６０号一括上程・説明・質疑・委員会付託

○水上隆光　議長　　次に、日程第２、議案第５９号及び議案第６０号の２案件を一括議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

江頭市長。

［登壇］

○江頭実　市長　　それでは、ただいま上程されました追加議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案第５９号及び議案第６０号は、菊池市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の規定による工事請負契約の締結でございます。

内容の詳細につきましては、この後、総務部長が説明をいたしますので、慎重ご審議の上、ご承認いただきますようお願い申し上げ、提案理由の説明といたします。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　改めまして、皆様、こんにちは。それでは、提案をいたします議案第５９号及び議案第６０号につきましてご説明をさせていただきます。

追加議案書は３ページになります。

タブレットのほうは反映できておりますでしょうか。

議案第５９号、工事請負契約の締結については、令和６年度防災行政無線等整備工事につきまして、菊池市市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例の規定により、議会の議決をお願いするものでございます。

この工事につきましては、５月３０日に条件付一般競争入札を実施し、１事業者から応札があり、その後の事務手続を経て、６月１８日に仮契約を行ったところでございます。

契約の目的は、令和６年度防災行政無線等整備工事。工事場所は、菊池市内一円。契約の方法は、条件付一般競争入札。契約の金額は、１億７，７７６万円。契約の相手方は、日本電気株式会社九州支社でございます。

続いて、追加議案書の５ページをお願いいたします。

議案第６０号、工事請負契約の締結については、令和６年度泗水小学校増築建築工事につきまして、同じく条例の規定に基づき、議会の議決をお願いするものでございます。

この工事につきましては、６月３日に条件付一般競争入札を実施し、２事業者から応札があり、その後の事務手続を経て、６月１７日に仮契約を行ったところでございます。

契約の目的は、令和６年度泗水小学校増築建築工事。工事場所は、菊池市泗水町豊水地内。契約の方法は、条件付一般競争入札。契約の金額は、１億８，１０３万８，０００円。契約の相手方は、吉安・緒方特定建設工事共同企業体でございます。

以上、議案第５９号及び議案第６０号の説明とさせていただきます。

○水上隆光　議長　　以上で、議案の説明を終わります。

これから質疑を行います。質疑は３回までとなっています。

質疑はありませんか。

荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　それでは、議案第６０号、工事請負契約の締結について、泗水小学校分についてを質問いたします。

先日、大津町では、あけぼの団地改修の談合情報によって入札を延期されています。そのようなことから、入札の議決については、議会として、公平性、競争性が保たれているか、厳しくチェックするものだと思っております。

その観点から、今度のやつは共同企業体、要はジョイントベンチャー（ＪＶ）でありますけども、応札業者を全てお答えください。何社で、どこどこが組んで、緒方・吉安が組んでいるのは分かります。ほかのところも教えてください。

それと、落札率を教えてください。

それと、通常であれば、一般競争入札もしくは指名競争入札をするんですけども、今回、一般競争入札から条件付にした理由、そして、その条件、どういう条件、例えば菊池市内だとか、菊池市内業者に限るだとか、１，３００点以上の経審ですね、経営事項審査をクリアしたものとか、そういう条件も教えてください。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　それでは、荒木議員の質疑にお答えをいたします。

まず、応札者でございますけれども、先ほどの契約相手方に加えまして、２者目が美麗・三牧特定建設工事共同企業体でございます。

次に、落札率でございますが、今回は９９．９％でございます。

条件付の理由といたしましては、市の学校の工事でございますので、その入札の条件といたしまして、まずは構成員が２者もしくは３者による特定建設工事共同企業体であること。２点目に、共同企業体の全ての構成員が満たすべき条件として、市内に建設業法に基づき設置された本店を有すること。市内の本店業者ということになります。

また、令和５年度・６年度入札審査資格者審査申請書を本市に提出をし、建築一式工事について資格を有すると認められ、令和５年度・６年度の入札参加有資格者名簿に搭載されているものとしております。

また加えまして、当該工事の設計業務等の受託者と資本もしくは人事面において関連がある建設業者ではないこととしております。

共同企業体の構成員としましての代表者が満たす主な要件としまして、建築一式の菊池市各付Ａ等級とされているもの。主任管理技術者としまして、一級建築士または一級建築施工管理技師を専任で配置できること。出資割合が、今回２者でございますので、７０％以内、構成員中最大であることとしております。

構成員が満たす主な要件としましては、建築一式の菊池市各付Ａ等級とされていること。主任技術者として、一級または二級建築士、一級または二級建築施工管理技師またはこれと同等の資格を有するものを専任で配置できること。出資割合といたしましては、２者でございますので、３０％以上というところの条件を付しておるところでございます。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　これ一般競争入札から、条件付をつけたら、もうほぼほぼ指名競争入札みたいになっているわけですよね。菊池市内業者、建築業者ということでなっている中で、これ、じゃあ菊池市内の業者、全部指名した場合に、何者できるって考えていたんですか、菊池市は。例えば１０者だったら５組できますよね。分かりますか、意味が。この条件を満たすところが、コリンズとか見れば分かる、コリンズというデータですね。工事データ情報を見れば、コリンズで大体クリアしているところというのは分かるんですけど、何者ぐらいを予定してたのか。何者ぐらいが該当するというふうに見られてたのか。菊池市内業者だったら大体分かると思いますけど、お答えできればお答えください。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　それでは、再度の質疑にお答えをいたします。

発注の際に想定ということでのご質疑でございますが、何者ぐらいの応札があるかとかという想定はこちらのほうではいたしてはおりません。ただ、複数者の構成はできるものだろうという考えの下、条件付一般競争入札に付したところでございます。

以上でございます。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　何でこれを聞いたかといいますと、要は４者しかいないなら、もう２つしかできないですよね、ＪＶ組むなら。５者だと２者しかできない。６者だと３つできる。ここでようやく競争の担保がとられるのかなと思うんですけど、最後にお尋ねしますけど、備品とか土木工事においては、何百万の案件でも、何十者と指名される。これは業者側からも言われるんですけど、何でこがん指名されっとだろうというのをたくさん聞くわけですよね。備品についても、土木工事についても、管工事についてもですね。ただ、今回２者応札でも競争性が確保できた

と判断する理由は何でしょうか。

○水上隆光　議長　　開田総務部長。

［登壇］

○開田智浩　総務部長　　それでは、３回目のご質疑にお答えをいたします。

２者の応札がございましたので、そこで競争性は担保できると捉えております。

以上、お答えします。

○水上隆光　議長　　ほかにありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　ほかに質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、委員会付託を行います。

議案第５９号及び議案第６０号は、総務文教常任委員会に付託します。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第３　報告第８号から報告第１５号まで一括上程・報告

○水上隆光　議長　　次に、日程第３、報告第８号から報告第１５号までの８件を一括議題とします。

ここで、執行部から説明の補足のため、資料配付の要請がありました。

会議規則第１５７条の規定によって、資料を配付することを許可しております。

資料はお手元に配付のとおりです。

提出者の報告を求めます。

北島政策企画部長。

［登壇］

○北島悠子　政策企画部長　　それでは、追加議案の７ページのほうをご覧ください。

報告第８号、菊池市土地開発公社経営状況報告につきまして、地方自治法第２４３条の３第２項の規定によりご報告をいたします。

９ページをお願いいたします。

令和５年度第５０期決算報告書でございます。

１０ページをご覧ください。

初めに、１の事業概要でございます。事業概要地につきましては、企業と交渉が設立し、令和６年度上半期には、用地の大幅な減少を見込んでいるところでございます。

２につきまして、理事会開催状況、３の土地取得・売却事業につきましては、記載しておりますとおりでございます。

次に、１１ページをご覧ください。

令和５年度第５０期決算報告書でございます。

収益的収入の収入済額が５１万９，２６２円。次に、収益的支出の支出済額が３６４万７，６９４円でございます。

１２ページに移っていただき、資本的収入及び支出でございます。

資本的収入はございません。資本的支出済額が１１万６，０００円となっております。

続きまして、１３ページのほうをお願いいたします。

令和６年３月３１日時点の貸借対照表でございます。

まず、資産合計が９，７３４万９，３５１円、負債合計が２１９万２，０００円、次に、資本合計が９，５１５万７，３５１円でございまして、負債合計と資本合計を合わせました負債資本合計は９，７３４万９，３５１円となります。

続きまして、１４ページをお願いいたします。

損益計算書でございますが、最下段になりますけれども、経常損失が３１２万８，４３２円となっております。当期純損失が３１２万８，４３２円となります。

１５ページ以降のキャッシュ・フロー計算書、財産目録、監査報告書を添付しておりますので、後ほどご確認いただければ幸いでございます。

以上が、令和５年度における経営状況でございます。

続きまして、１８ページをお願いいたします。

令和６年度の事業計画、当初予算、資金計画でございます。

まず、１９ページでございますが、令和６年度の事業計画につきましては、１の土地取得・造成では、除草に要する経費などとして７万７，０００円を計上しております。

２の土地売却等は、事業外用地の売却として１６筆、面積が７，２２９．０７平方メートル、売却額で４０２万１，０００円を計上しております。

続きまして、２０ページをお願いいたします。

令和６年度の当初予算でございます。

まず、収益的収入では４０３万１，０００円。次に、収益的支出は１２４万８，０００円を計上しております。

２１ページをお願いいたします。

資本的収入はございませんが、資本的支出として、事業用地の維持管理としまして、７万７，０００円を計上しているところでございます。

最後に、２２ページをお願いいたします。

資金計画でございます。受入資金と支払資金の差引きで６，６７２万６，０００円を計画しております。

以上、報告第８号、菊池市土地開発公社の経営状況報告とさせていただきます。

○水上隆光　議長　　三池経済部長。

［登壇］

○三池克徳　経済部長　　それでは、菊池市内にございます経済部所管の第三セクターの経営状況につきまして、地方自治法第２４３条の３第２項の規定に基づき、ご報告申し上げます。

追加議案書２３ページの報告第９号、有限会社きくち観光物産館から、１３１ページの報告第１５号、有限会社有朋の里泗水までの７件につきまして、各第三セクターの経営状況報告書を記載しておりますので、ご覧ください。

報告につきましては、議案書をご覧いただくとともに、本市議会会議規則第１５７条の規定によりまして、事前に議長の許可を得て、配付させていただいておりますＡ３判の補足説明資料、令和５年度第三セクター経営状況概要書を使用して報告をさせていただきます。この概要書は、各第三セクターの経営状況報告書の文言等を抜粋して作成しております。

また、概要書の金額につきましては、決算書を四捨五入により記載しておりますので、合計が一致しない箇所があります。

また、売上総額欄につきましては、出荷者協議会からの委託販売を含めた売上総額を記載しておりますので、委託販売手数料収入のみを計上している損益計算書の金額と相違がある場合もございますので、ご了承をお願いいたします。

それでは、補足説明資料、令和５年度第三セクター経営状況概要書をご覧ください。

最初に、報告第９号、有限会社きくち観光物産館の経営状況についてですが、出資の状況、令和５年度事業実績は、記載のとおりとなっております。

決算状況につきましては、負債・純資産の合計額が５，９９８万２，０００円、売上総額が１億８，１７０万円、当期純利益が２１５万９，０００円となっております。

概要書１ページの下段の表をご覧ください。

令和６年度の事業計画は、記載のとおりです。

売上総額としましては１億８，３５０万円とし、経常利益１００万５，０００円を見込まれております。

次に、報告第１０号、有限会社ファームきくちの経営状況について、ご報告いたします。

概要書１ページ、上段の表をご覧ください。

出資の状況、令和５年度事業実績は、記載のとおりです。

決算状況につきましては、負債・純資産の合計額が８，３１７万２，０００円、

売上総額が４，７７１万６，０００円、当期純利益がマイナス１万７，０００円となっております。

概要書１ページ、下段の表をご覧ください。

令和６年度の事業計画としましては、記載のとおりです。

売上総額としましては５，９０２万円とし、経常利益２７３万２，０００円を見込まれております。

次に、報告第１１号、有限会社七城町特産品センターの経営状況について、ご報告いたします。

概要書１ページ、上段の表をご覧ください。

出資の状況、令和５年度事業実績は、記載のとおりとなっております。

決算状況につきましては、負債・純資産の合計額が３億３１２万２，０００円、売上総額が１２億９，７５５万２，０００円、当期純利益が１，００１万４，０００円となっております。

概要書１ページ、下段の表をお願いします。

令和６年度の事業計画は、記載のとおりです。

売上総額としましては１３億２，３５９万円とし、経常利益１，２０４万７，０００円を見込まれています。

次に、報告第１２号、有限会社七城町振興公社の経営状況について、ご報告いたします。

概要書１ページ、上段の表をお願いします。

出資の状況、令和５年度事業実績は、記載のとおりとなっております。

決算状況につきましては、負債・純資産の合計額が１億８８３万円、売上総額が３億４，１７１万５，０００円、当期純利益が５２３万４，０００円となっております。

概要書１ページ、下段の表をご覧ください。

令和６年度の事業計画は、記載のとおりです。

売上総額としましては３億７，２８９万７，０００円とし、経常利益５４０万７，０００円を見込まれております。

次に、報告第１３号、有限会社七城町銘柄米センターの経営状況について、ご報告いたします。

概要書２ページ、上段の表をお願いします。

出資の状況、令和５年度事業実績は、記載のとおりとなっております。

決算状況につきましては、負債・純資産の合計額が１億２，３９７万２，０００円、売上総額が５，０６０万２，０００円、当期純利益が３１４万３，０００円と

なっております。

概要書２ページ、下段の表をお願いします。

令和６年度の事業計画は、記載のとおりです。

売上総額としましては４，８４２万７，０００円とし、経常利益１９８万９，０００円を見込まれております。

次に、報告第１４号、有限会社旭志村ふれあいセンターの経営状況について、ご報告いたします。

概要書２ページ、上段の表をお願いします。

出資の状況、令和５年度事業実績は、記載のとおりとなっております。

決算状況につきましては、負債・純資産の合計額が１億４，６２４万１，０００円、売上総額が４億９，７８６万５，０００円、当期純利益が１４１万５，０００円となっております。

概要書２ページ、下段をお願いします。

令和６年度の事業計画は、記載のとおりです。

売上総額としましては５億９００万円とし、経常利益２００万円を見込まれています。

最後に、報告第１５号、有限会社有朋の里泗水の経営状況について、ご報告いたします。

概要書２ページ、上段の表をご覧ください。

出資の状況、令和５年度事業実績は、記載のとおりです。

決算状況につきましては、負債・純資産の合計額が１億１，５９３万６，０００円、売上総額が３億９，６７１万９，０００円、当期純利益が２９９万７，０００円となっております。

概要書２ページ、下段の表をお願いします。

令和６年度の事業計画は、記載のとおりです。

売上総額としましては４億３５０万円とし、経常利益５７８万７，０００円を見込まれています。

以上で、報告第９号、有限会社きくち観光物産館から、報告第１５号、有限会社有朋の里泗水まで、７件の第三セクターの経営状況についての報告とさせていただきます。

○水上隆光　議長　　以上で、報告を終わります。

以上で、本日の議事日程は全部終了しました。

次の会議は、７月５日の午前１０時から開き、議案等の採決を行います。

本日は、これで散会します。

全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

散会　午後３時１７分

第　６　号

７　月　５　日

令和６年第２回菊池市議会定例会

議事日程　第６号

令和６年７月５日（金曜日）午前１０時開議

第１　各常任委員会の報告・質疑・討論・採決
第２　議事第４号　熊本県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙
第３　意見書案第２号　少人数学級・教職員定数の改善に係る意見書
　上程・説明・質疑・討論・採決
第４　意見書案第３号　現行健康保険証について当面の間の存続を求める意見書
　上程・説明・質疑・討論・採決
第５　議会改革検討特別委員会の中間報告・質疑
第６　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

―――――――――――――――○―――――――――――――――

本日の会議に付した事件

日程第１　各常任委員会の報告・質疑・討論・採決
日程第２　議事第４号　熊本県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙
日程第３　意見書案第２号　少人数学級・教職員定数の改善に係る意見書
　上程・説明・質疑・討論・採決
日程第４　意見書案第３号　現行健康保険証について当面の間の存続を求める意見書
　上程・説明・質疑・討論・採決
日程第５　議会改革検討特別委員会の中間報告・質疑
日程第６　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

―――――――――――――――○―――――――――――――――

出席議員（２０名）

１番	本藤　潔
２番	安武睦夫
３番	稲継智康
４番	古田浩敏
５番	島　春代
６番	大山宝治
７番	田中教之
８番	福島英徳

９番	緒方哲郎
１０番	後藤英夫
１１番	平　直樹
１２番	東　奈津子
１３番	水上隆光
１４番	猿渡美智子
１５番	荒木崇之
１６番	工藤圭一郎
１７番	二ノ文伸元
１８番	泉田栄一朗
１９番	木下雄二
２０番	山瀬義也

―――――――――――――――○―――――――――――――――

欠席議員（なし）

―――――――――――――――○―――――――――――――――

説明のため出席した者

市長	江頭　実
副市長	芳野勇一郎
政策企画部長	北島悠子
総務部長	開田智浩
市民環境部長	宇野木浩二
健康福祉部長	中尾孝浩
経済部長	三池克徳
建設部長	久川知己
七城支所長	古田十咲
旭志支所長	佐野木成俊
泗水支所長	髙島英輔
財政課長	上野重智
総務課長兼選挙管理委員会事務局長	古庄和彦
市長公室長	稲葉一郎
教育長	音光寺以章
教育部長	前川幸輝
農業委員会事務局長	中原親弘

水道局長	財津裕一
監査委員事務局長	髙木智生

―――――――――――――――○―――――――――――――――

事務局職員出席者

事務局長	松原憲一
事務局課長	髙山賢一
議会係	志水利貞
議会係	右田一樹
議会係	河田真沙恵

○水上隆光　議長　　全員、ご起立をお願いします。

傍聴の方で可能な方はご起立をお願いします。

（全員起立）

おはようございます。

着席をお願いします。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

午前１０時００分　開議

○水上隆光　議長　　これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

日程第１　各常任委員長報告（報告書は、巻末331～345頁参照）・質疑・討論・採決

○水上隆光　議長　　日程第１、去る６月１４日及び２４日の会議において、各常任委員会に審査を付託しました議案第３７号から議案第４３号まで、議案第４５号から議案第４７号まで、議案第５５号から議案第６０号まで、及び請願第１号、請願第２号並びに継続審査となっておりました陳情第２号の１９案件について、各常任委員長から審査結果の報告があっておりますので、これを一括して議題といたします。

ただいまから各常任委員会における審査の経過及び結果について、各常任委員長の報告を求めます。

まず、総務文教常任委員長、緒方哲郎議員。

［登壇］

○緒方哲郎　総務文教常任委員長　　改めまして、皆様、おはようございます。総務文教常任委員会委員長報告をさせていただきます。

本定例会で総務文教常任委員会に付託されました案件は、条例案２件、その他の議決案件３件、請願１件の６件で、それに継続審査となる陳情１件を加えた７案件を審査いたしました。

２日間にわたり慎重に審査しましたので、その経過と結果について報告いたします。

なお、報告書はお手元に配付しておりますが、本日の報告については、網かけ部分を割愛して報告いたします。

会議録については、全文記載された報告書を掲載します。

初めに、議案第３７号については、執行部より、本案は、法務省が「同和問題」の標記を改めたことに伴い、法務省の標記に準じた字句の取扱いとするため、条例の一部を改正する必要があり、条例改正を行うものであるとの説明があり、特に質疑はありませんでした。

次に、議案第４３号については、執行部より、本案は、菊池市泗水Ｂ＆Ｇ海洋センター艇庫を廃止することに伴い、条例の一部を改正する必要があり、条例改正を行うものであるとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、条例から艇庫をなくすこと自体の削除は不要なのか。また廃止する艇庫やその中の物品はどうするのかとの質疑に対し、執行部より、本市の条例において、「当該艇庫」の記載については、本条例第９条関係の別表第２の第４の部分のみであるため、艇庫の廃止条例は不要である。また廃止する艇庫の中の備品については、３つの艇庫分を一番広い旭志の艇庫に集約して貸し出したい。建物については、泗水支所の近くにある中央艇庫は、消防の積載倉庫として利用する予定であり、泗水西小学校敷地内にある西艇庫は、泗水西小学校に移管する予定であるが、老朽化が激しい東艇庫は使える状態にないとの答弁がありました。

また、委員から、Ｂ＆Ｇ財団からの助成金の精算については、問題はないかとの質疑に対し、執行部より、名称にＢ＆Ｇと入っているが、Ｂ＆Ｇ財団から助成を受けて建設しているものではないので問題はないとの答弁がありました。

次に、議案第５５号については、執行部より、本案は、火災、災害発生時等における消防団の諸活動が円滑に行われるように、老朽化した小型動力ポンプ積載車５台を更新するものであるとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、落札率は。また入札した者の数はとの質疑に対し、執行部より、落札率は９５．０％である。また入札者数は８者で、そのうち１者が市内業者であるとの答弁がありました。

また、委員から、今の古い積載車は活用するのかとの質疑に対し、執行部より、近隣の市町村と同様に、販売業者が古い積載車を処分するよう仕様書でうたっているとの答弁がありました。

また、委員から、昼間の火災での消防団員の出動人数は、少数であり、その代わりに予備団員やＯＢが出てくるような体制づくりが必要である。せっかく積載車を購入しても活用できなければ意味がないので、これから先の積載車の更新については、よく考えなければならないと思うが、それらについて団長たちとは話しているのかとの質疑に対し、執行部より、昨年度に消防団員の定数を削減しているので、それに伴い積載車の配置については、改めて各分団の状況を把握しながら適切に配置できるよう考えていきたいとの答弁がありました。

さらに、委員から、広域連合のように、古くなった積載車は、オークションしてはどうかという意見があり、執行部より、広域連合に確認の上、検証したいとの発言がありました。

次に、議案第５９号については、執行部より、防災行政無線等整備工事に関して、

落札業者及び契約金額が決定したため、議会の議決を必要とするものであり、スマートフォンを持っていない７５歳以上の高齢者世帯で、戸別受信機の設置を希望する世帯へ戸別受信機を設置するものであるとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、落札率は。また既に土砂災害警戒区域及び難聴区域に配置している今の器械はどうするのかとの質疑に対し、執行部より、落札率は９９．０％である。また既に土砂災害警戒区域及び難聴区域に配置している戸別受信機は、デジタル型なので取替えはしないとの答弁がありました。

また、委員から、財源は何か。また事業対象を７５歳以上に線引きした根拠はとの質疑に対し、執行部より、財源は、緊急防災・減災事業債である。また７５歳以上とした根拠については、まずは、スマートフォン等の利用率が低く、なじみのないと考えられる７５歳以上の方を対象としたものであり、今後、７５歳未満の方に対してもアンケート調査を行いたいとの答弁がありました。

さらに、委員から、７５歳以上の世帯を対象としているが、７５歳未満の方からの要望はなかったのかとの質疑に対し、執行部より、７５歳未満の方からの問合せはなかったが、それらの世帯についても、今後、整備に向けて検討を進めたいとの答弁がありました。

また、委員から、条件付一般競争入札によって範囲を九州内にまで広げたのに、なぜ入札が１者なのかとの質疑に対し、執行部より、６者ほどが条件を満たすと見込んでいたが、結果的に１者のみの入札となったとの答弁がありました。

さらに、委員から、今後のスケジュールはとの質疑に対し、執行部より、意向調査については、近日中に未回答者へ再調査を行いたい。また器械については、１２月以降に設置を進めていくとの答弁がありました。

次に、議案第６０号については、執行部より、本案は、泗水小学校増築建築工事に関して落札業者及び契約金額が決定したため、議会の議決を必要とするものであるとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、開札調書では、２者から入札があり、１者は予定価格と同額で入札され、もう１者は９９．９％の落札率で落札していることから、予定価格に問題はなかったのか。また予定価格が漏れたのではないかとの質疑に対し、執行部より、予定価格は、公共工事の積算基準に基づき適正に積算しており、併せて今回２者による競争があったので、適正な金額であると判断している。また予定価格は、全部、公表されているとの答弁がありました。

さらに、委員から、予定価格は、物価上昇分を反映させているのかとの質疑に対し、執行部より、可能な限り直近の単価で設計しているとの答弁がありました。

また、委員から、物品は市外からも購入しているのに、なぜ今回の工事は市内業

者のみを条件としたのかとの質疑に対し、執行部より、本市の事務取扱要領に基づき、本市の指名審査会で審議の上、過去の類似工事と同様に、参加資格を市内業者による共同企業体と決定したものである。なお、指名審査会の審議内容は、非公開となっているので詳細は話せないとの答弁がありました。

次に、陳情第２号については、迫間支館及び重味グラウンドを公共施設として存続を求める陳情であり、所管部署より状況確認を行いました。

執行部より、迫間地区の１７行政区の全てに自治公民館が存在している。また、迫間支館については、直近５年間の利用者数の実績を述べるとともに、熊本地震の際には、迫間支館を指定避難所としては開設していない。また、重味グラウンドについては、本年２月の重味地区の区長意見交換会においては、市は、グラウンドの施設及び電気水道を撤去して、ドクターヘリ発着所として利用することで、地元の了承を得ている。その後も本年４月に交代された関係区長に対して同様に説明の上、了承を得ているとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、迫間支館を熊本地震以外で避難所として開設したことはあるのかとの質疑に対し、迫間支館を熊本地震以外で避難所として開設したことはないとの答弁がありました。

さらに、委員から、迫間地区の区長さんから市へ自治公民館が使えないなどの相談等があったかとの質疑に対し、毎年、自治公民館整備事業の要望調査を全ての区長へ行っているが、迫間地区の区長からそのような相談等はあっていないとの答弁がありました。

議員間討議では、議案第５９号について、執行部は、「７５歳以上」と決定した根拠を尋ねると納得できる回答はなく、それでは市民も納得しないとの思うので、決定した根拠について、客観的な事実を明文化したルールをつくった上で、しっかりと対応すべきであるとの意見や、対象外となるスマートフォンを持っている７５歳以上の方でも、使い慣れない方もおられると思うので、そうした方にも配付できるような施策を行っていただきたいとの意見がありました。

次に、議案第６０号について、「入札」に関して、予定価格の設定や落札の最低価格などについて、私たちも研究しなければならないとの意見がありました。

以上、慎重に審査しました結果、当委員会に付託されました議案第３７号、議案第４３号、議案第５５号、議案第５９号、議案第６０号及び請願第２号については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決、採択すべきものと決定いたしました。

次に、討論がありました陳情第２号については、委員から、熊本地震でさえ指定避難所になっていない。また迫間地区の全ての行政区に自治公民館があり、それぞ

れに不満の声が上がっていない。さらに、全市的に支館はなく公正性を考えると賛成しかねる。地元の方から意見をお伺いした結果、陳情項目の２のヘリポートには賛成するが、１の迫間支館には反対するといった反対討論がありました。

また、委員から、陳情された区長さん方の思いを尊重する必要がある。迫水小学校跡が民営化によって避難所として使えなくなった現在、迫間支館は、高齢者が多い中山間地域では避難所としても必要な施設であるといった賛成討論がありました。

採決の結果、陳情第２号については、賛成少数により不採択すべきものと決定いたしました。

議員各位におかれましては、当委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、総務文教常任委員長報告といたします。

○水上隆光　議長　　次に、福祉厚生常任委員長、猿渡美智子議員。

［登壇］

○猿渡美智子　福祉厚生常任委員長　　おはようございます。

本定例会で福祉厚生常任委員会に付託されました案件は、条例案４件、請願１件の５案件です。

２日間にわたり慎重に審査しましたので、その経過と結果について報告します。

初めに、議案第３８号については、執行部より、熊本県重度心身障がい者医療費助成事業費補助金交付要領の一部改正に伴い、自己負担額を入院時の月額２，０４０円を２，０００円、通院時の月額１，０２０円を１，０００円へ変更されたため、条例の一部を改正するものであるとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、自己負担額が軽減されているものの、中途半端な金額に思えるがなぜかとの質疑に対し、執行部より、県の要領がそのように改正されたためであるとの答弁がありました。

さらに、委員から、県で統一されているのは理解できるが、４０円や２０円ではなく、市独自で検討し、自己負担額の軽減を図っていただきたいとの意見がありました。

また、委員から、医療費助成の現物給付の進捗状況はどうなっているのか、今年の８月に受給者証の更新があると思うが、更新の時期に合わせて現物給付になるのかとの質疑に対し、執行部より、４月以降に他市の状況や、支払基金及び国保連合会等と協議を行い検討を行っている。今年の８月からの開始については、予算も伴うことなので難しいと考えているとの答弁がありました。

さらに、委員から、今年の８月が難しいのであれば、最短で来年の８月となるのかとの質疑に対し、執行部より、そのことも含めて検討していきたいとの答弁がありました。

次に、議案第３９号については、執行部より、こども計画を子ども・子育て支援事業計画と一体的に策定することに伴い、子ども・子育て会議の所掌事務を見直すため、菊池市子ども・子育て会議設置条例の一部を改正するものであるとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、こども計画を追加することでどう変わるのかとの質疑に対し、執行部より、今までの支援施策以外に、子どもの貧困、若者に関する支援など、子どもを中心に考えた施策や、子どもを安心して多く産んでもらえるような少子化対策等も含め、子育て世帯や若者支援について取り組むことになっているとの答弁がありました。

さらに、委員から、こども家庭庁のこども計画策定のためのガイドラインを見ると、子どもや若者の意見を反映させるよう指針が示されているが、現段階でどのような形で意見の聴取を行う予定なのかとの質疑に対し、執行部より、小学校５年生と中学校２年生の子ども及びその保護者、また１８歳から３０代までの若者へのアンケートの実施を考えている。可能であればインタビューなども行いたいと思っているとの答弁がありました。

さらに、委員から、アンケートを実施した結果については、情報共有を行っていただきたいとの意見がありました。

次に、議案第４０号については、執行部より、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準の一部改正に伴い、条例の一部を改正するものである。主な内容は、施設の重要事項等の書面掲示に加え、インターネットを利用して公表しなければならないことなどを含めた、デジタル化を妨げる社会制度やルールの見直しのためであるとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、掲示物というのは、具体的にどういったものかとの質疑に対し、執行部より、園の重要事項である職員体制やプログラム等で、どのような園か保護者が確認できるようなものであるとの答弁がありました。

さらに、委員から、書面とインターネット両方行う必要があるのかとの質疑に対し、執行部より、両方行う必要があるとの答弁がありました。

次に、議案第４１号については、執行部より、家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴い、条例の一部を改正するものである。家庭的保育事業等は、児童福祉法等に基づき、原則０歳から２歳児までを保育所より少人数の単位で子どもを保育する事業で、本市に該当事業所はないとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、本市に事業所がないとのことだが、ニーズに照らし合わせた上で、将

来にわたって、本市では必要がないと判断しているのかとの質疑に対し、執行部より、職場の都合で市外の事業所を利用されている方もいるようだが、本市に待機児童はいないため、不要であると考えているとの答弁がありました。

さらに、委員から、保育所が遠い方にとっては、事業所が近くにあれば利用しやすくなるのではないかとの質疑に対し、執行部より、卒園後の小学校への通学ということを考えた上で、地元近くの保育園等を希望される保護者が多いと考えているとの答弁がありました。

次に、請願第１号については、委員から、現行の保険証を継続する場合、執行部にどういった不利益があると考えるかとの質疑に対し、執行部より、現行保険証の廃止に向けたシステム改修を行うので、現行保険証の発行及び資格確認書の発行の２種類の作業をすることになり、必要経費及び職員の業務量が増加すると思われるとの答弁がありました。

さらに、委員から、全市民がマイナ保険証を作るということはないと思うので、現行保険証を廃止しても、煩雑な資格確認書の発送業務は継続して行う必要があると考えるが、その業務の負担はないのかとの質疑があり、執行部より、マイナ保険証の登録率が５８．１９％であり、資格確認書を約４２％の方に送ればよいこととなるとの答弁がありました。

議員間討議では、議案第３９号について、今回の改正により、幅広く若者や特に子どもたちの声をアンケートなどによりしっかり聞いていくということで、初めての試みだと思うが、市の子育て施策にしっかり反映していただければと思う。こども計画の策定に当たっては、子ども分野の将来像として掲げてあるが、その実現に向け、市としての基本的な方向性であったり、取組を示す総合的な計画だと思っているので、いろいろな声を聞きながら、計画倒れにならない実効性のあるものになるようお願いしたいとの意見がありました。

以上、慎重に審査しました結果、当委員会に付託されました議案第３９号から議案第４１号及び請願第１号については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決・採択すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、当委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、福祉厚生常任委員長報告とします。

○水上隆光　議長　　次に、経済建設常任委員長、田中教之議員。

［登壇］

○田中教之　経済建設常任委員長　　皆さん、おはようございます。

本定例会で経済建設常任委員会に付託されました案件は、条例案１件、議決案３件の４案件です。

２日間にわたり慎重に審査しましたので、その経過と結果について報告します。

初めに、議案第４２号については、執行部より、本案は、蛇塚団地、元村団地及び林原団地を用途廃止するに当たり、条例の一部を改正するものであるとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、用途廃止後の計画はとの質疑があり、執行部より、林原団地については民間の企業より問合せがあっており、市場ニーズが高いことから、土地の評価額から解体費の見積額を差し引いた価格で売却しようと考えている。また、蛇塚団地、元村団地については、宅地化して売却する方向で検討しているとの答弁がありました。

また、委員から、用途廃止をする団地の築年数は何年か。また、同時期に建設している団地についても処分していくのかとの質疑があり、執行部より、築年数はいずれも４０年を超えている。また、菊池市公営住宅等長寿命化計画の中で、現在の団地の戸数１，１７０戸から令和９年度末までに９８６戸へ削減する目標があり、順次目標に基づいて実施していくとの答弁がありました。

次に、議案第５６号については、執行部より、市道路線を廃止するに当たり、道路法第１０条第３項の規定により、議会の議決を必要とするものであるとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、伊牟田２号線の廃止について、林道移管の理由はとの質疑があり、執行部より、この路線一帯に市有林及び民有林があり、森林環境譲与税及び森林環境税を活用して林道整備を行っていくためとの答弁がありました。

次に、議案第５７号については、執行部より、市道路線を認定するに当たり、道路法第８条第２項の規定により、議会の議決を必要とするものであるとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、開発行為に伴う市道路線の新規認定について、どのような確認方法を行っているのかとの質疑があり、執行部より、都市計画法に基づく開発のため、県の確認検査が実施され、その事前協議の中で市道の認定基準を満たすか確認しているとの答弁がありました。

次に、議案第５８号については、執行部より、市の区域内の字の区域を変更するには、地方自治法第２６０条第１項の規定により、議会の議決を必要とするものであるとの説明があり、特に質疑はありませんでした。

議員間討議では、議案第４２号について、団地の廃止は以前からの計画によるものとは思うが、最近は住宅需要の増加など事情が変わってきているので、存続や住宅の形を残した上で民間に売却するなど、今後の状況に合わせて計画を見直してほしい。団地の跡地については、人口増につながるような活用をしてほしいとの意見

がありました。

次に、議案第５７号について、出入口が１か所の路線の市道認定に当たり、周辺の道路へつながる道はないかなど検討してほしいとの意見がありました。

以上、慎重に審査しました結果、当委員会に付託されました議案第４２号、議案第５６号から議案第５８号については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、当委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、経済建設常任委員長報告とします。

○水上隆光　議長　　次に、予算決算常任委員長、工藤圭一郎議員。

［登壇］

○工藤圭一郎　予算決算常任委員長　　皆さん、おはようございます。

本定例会で予算決算常任委員会に付託されました議案は、議案第４５号から議案第４７号の３議案です。

６月１９日及び７月２日に予算決算常任委員会を、６月２６日から２７日に予算決算常任委員会分科会を開催し、各分科会において所管する分を慎重に審査し、各分科会長より経過報告がありましたので、その主なものについて報告します。

なお、報告書はお手元に配付しておりますが、本日の報告については、網かけ部分を割愛して報告します。

会議録につきましては、全文記載された報告書を掲載します。

初めに、議案第４５号中、その主なものを申し上げます。

学校給食費の物価高騰対策重点支援事業について、執行部より、学校給食食材費補塡事業補助金の１，４６４万１，０００円の増額については、近年の物価高騰により学校給食の食材が高騰する中、本年度も給食費の値上げを実施したが、それ以上に物価が上昇していることから、これまでどおりの栄養バランスや量を保った学校給食を実施するため、給食費の値上げ以上に物価が上昇している分に対して補助金を交付するものであるとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、職員に補助金を交付することに対して、執行部内で異議はなかったのか。また給食の先生は、この職員分に含まれているのかとの質疑に対して、執行部より、教育委員会では、学校給食は食育の場であり、食育の一環であると考えている。また給食の先生は、職員分に含まれているとの答弁がありました。

さらに、委員から、本市と同じように一般財源で職員分の補助金を計上している自治体があるのかとの質疑に対して、執行部より、近隣等の市を調べた結果、合志市のみが本事業を実施しているとのことだが、一般財源の持ち出しはないとの答弁がありました。

次に、予防費の予防接種事業については、執行部より、新型コロナワクチン接種は、令和６年度より予防接種法上の定期接種に位置づけられたが、６５歳以上及び６０歳から６４歳までの重症化リスクの高い方を対象に、感染拡大、重症化予防等を目的としてワクチン接種を行うため、７，９５６万５，０００円を増額するものである。対象者は６，０００人で、現時点での接種委託料が１人当たり１万５，３００円、うち８，３００円は国からの助成が行われる予定で、自己負担額は７，０００円の３割相当額の２，１００円となる予定であるとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、新型コロナワクチンの接種を行う期間と医療機関は決まっているのかとの質疑に対して、執行部より、近隣２市２町と協議の途中だが、接種期間については、国が令和６年１０月１日から令和７年３月３１日までと示しているため、それに従い準備をしたいと考えている。医療機関については今後、医師会へ説明を行う予定であるため、現時点では決まっていないとの答弁がありました。

さらに、委員から、対象者以外の接種希望者は、１万５，３００円負担する必要があるのかとの質疑に対し、執行部より、現時点では、全額自己負担でお願いしたいと考えているとの答弁がありました。

また、委員から、今まで相当数のワクチンが廃棄され、財源も無駄になっているというような報道があったが、想定する６，０００人から増減があった場合の体制はどうなっているのかとの質疑に対し、執行部より、ワクチンの確保については、必要に応じて補正予算をお願いしたいと考えている。また、製薬会社がどこになるかという情報など詳細が来ていないので、その点も含めて現在調査中であるとの答弁がありました。

次に、議案第４７号については、執行部より、旭志中学校の水道給水管において、中学校の量水器以降に３件分の給水管が分岐され、それぞれの量水器が設置されていることから、旭志中学校の水道料金について、ほか３件分の水道料金が加算されていた状況であることが判明し、平成２６年度から令和５年度までの１０年間遡って還付を行うため、１０２万８，０００円を増額するものであるとの説明があり、質疑を行いました。

委員から、３件の方は水道料金を支払っていたのかとの質疑があり、執行部より、３件の方についてはそれぞれお支払いいただいており、３件分を加算して旭志中学校に請求していたものであるとの答弁がありました。

以上が、各分科会長からの経過報告となります。

次に、各分科会長報告に対する質疑を行いました。

委員から、重味グラウンドの工事については、菊池市営グラウンド設置条例の廃

止は上程していなかったが、廃止に向けての解体に問題はないか。またヘリポート設置については、何をもって決定しているのか。また陳情案件が継続審査中であるが、地域との合意はできているのかとの質疑があり、総務文教分科会長より、１点目については、執行部より、市の方針では、施設を所管替えする場合は、先に所管部署が更地にした後に所管を移すことになっており、今回は社会体育施設として不要な設備を先に撤去するので、手順に問題はないとの答弁があっている。また２点目及び３点目については、いずれも分科会の中では議論はなかったが、常任委員会の審査の中で、執行部より、重味地区の区長意見交換会の中で、市長同席の下、重味グラウンドは、施設及び電気水道を撤去してドクターヘリ発着所として利用することで、地元の了承を得ているとの説明があったとの答弁がありました。

また、委員から、学校給食への交付金活用について、事業内容については必要だと思うので、否決せずに教職員への一般財源による実施をしないような附帯決議の議論はあったのかとの質疑があり、総務文教分科会長より、質疑にあるような議論はなかったとの答弁がありました。

さらに、委員から、学校給食費の物価高騰対応重点支援事業について、一般財源による職員分の補助は不適切であるとの修正案が提出されるようだが、自己負担すべきという議論が前提だったのかとの質疑があり、総務文教分科会長より、職員は給食費を自己負担すべきであることが前提であったと答弁がありました。

以上、慎重に審査しました結果、当委員会に付託されました議案第４５号については、委員より、児童福祉施設費の保育所等給食費補助金と、学校給食費の学校給食食材費補塡事業補助金を比較した場合、同議案の同様の補助制度において、官民での活用が統一されていないため、学校給食食材費補塡事業補助金の職員分に充てられた補助金全額を減額修正するという理由により、学校給食食材費補塡事業補助金１，４６４万１，０００円のうち１８４万６，０００円を予備費に計上するという修正案が提出されましたが、特に質疑はありませんでした。

討論では、原案に対して１人の委員から賛成討論があり、また修正案に対して１人の委員から賛成討論がありました。

次に、修正案について採決を行い、その結果、賛成多数で可決すべきものと決定しましたので、修正可決した部分を除く残りの原案についても採決を行い、その結果、賛成多数で可決すべきものと決定しました。

次に、議案第４６号については、討論において１人の委員から反対討論がありましたが、採決の結果、賛成多数で可決すべきものと決定しました。

次に、議案第４７号については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、当委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げて、予算決算常任委員長の報告とします。

○水上隆光　議長　　以上で、委員長報告を終わります。

ただいまの各常任委員長の報告に対して質疑を行います。質疑は３回までとなっています。

質疑はありませんか。

荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　総務文教常任委員長にお尋ねします。

陳情第２号、迫間支館及び重味グラウンドを公共施設として存続を求める陳情の審査において、反対討論の中で、陳情項目の２のヘリポートには賛成するが、１の迫間支館には反対するといった反対討論があったとのことですが、委員会として、一部採択といった手法を取ろうという意見はありませんでしたか、お尋ねをいたします。

○水上隆光　議長　　総務文教常任委員長、緒方哲郎議員。

［登壇］

○緒方哲郎　総務文教常任委員長　　ただいまの荒木議員の質疑にお答えさせていただきます。

陳情第２号に対する討論の中で、一部採択する手法の意見はなかったのかという質疑だったと思いますが、そのようなご意見はございませんでした。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　ありませんでしたとのお答えですけども、先ほどの予算決算常任委員長報告では、この部分は割愛されて、討論だけ残されましたけども、本議会の補正予算の中で、体育施設費の工事請負費で、重味グラウンドをヘリポートとして令和７年度から使うから、トイレと照明の撤去費用として２５３万円が提案され、総務文教分科会では可決しています。

総務文教分科会は同じメンバーです。地元の区長さんから出された陳情、これは否決で、このお願いは否決で、市長が出してきた予算案は可決と。同じ内容を同じ委員、同じ委員会が矛盾する結論を出していることには私は理解ができませんが、陳情の取扱いとして、一部採択をという手法を取ることで、できるだけ陳情者、これで言えば地元区長の陳情の趣旨を生かすことが望ましいと、もちろん皆さんは読まれているものと思いますけど、地方議会運営事典では定めてあります。

そのことを踏まえて再質疑しますが、本来であれば、このようなダブルスタンダードな結論に対して議会事務局が気づき、一部採択があるという選択肢があることを伝えるべきと考えますが、議会事務局からそのような手法があることを委員長は教えてもらえませんでしたでしょうか、お尋ねをいたします。

○水上隆光　議長　　総務文教常任委員長、緒方哲郎議員。

［登壇］

○緒方哲郎　総務文教常任委員長　　ただいまの荒木議員の再質疑にお答えいたします。

同じ討論の中で、事務局からの一部採択の手法の提案はなかったのかというご質問だったと思いますが、そのような提案はございませんでした。

以上、お答えいたします。

○水上隆光　議長　　ほかにありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、委員長報告が修正可決であります議案第４５号、令和６年度菊池市一般会計補正予算（第３号）並びに委員長報告が不採択であります陳情第２号、迫間支館及び重味グラウンドを公共施設として存続を求める陳情書を除き、討論を行います。

議案第３７号から議案第４３号、議案第４６号から議案第６０号、請願第１号及び請願第２号の１７案件について、討論はありませんか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　皆さん、おはようございます。議席番号１２番、日本共産党、東奈津子です。

議案第４２号、菊池市営住宅条例の一部を改正する条例の制定について、議案第４６号、令和６年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）の２議案について、反対の立場から討論を行います。

まず最初に、議案第４２号についてです。

本議案は、菊池市公営住宅等長寿命化計画の中で、令和９年度末までに現在の団地の戸数を１，１７０戸から９８６戸へと削減する目標によるものであります。

以前の一般質問でも指摘しましたが、電気代など物価高騰が進み、各種保険料も値上げ、一方で、実質低賃金、年金では暮らせないなど、市民の暮らし向きがますます悪くなっているとき、収入に見合った相対的に低額な家賃の公営住宅の役割はますます重要になっています。

全国的にも公営住宅の空き家が増大しております。その多くが用途廃止を行うため、募集を行っていない空き家であり、公営住宅を減らすための用途廃止であります。公営住宅の応募者数は減っておりますが、これは２０１１年から公営住宅の入居収入基準の大幅切下げが実施されたことによる影響が大きいものと考えられます。

国の定める住生活基本法では、公営住宅について、住宅が国民の健康で文化的な生活にとって不可欠な基盤であることに鑑み、低所得者、被災者、高齢者、子どもを育成する家庭、その他住宅の確保に特に配慮を要する者の住宅の安定の確保が図られることを旨として行わなければならない、こううたってあります。

地方自治体がやるべきは、公営住宅の削減ではなく、入居者基準の引上げや、既存公営住宅の修繕、改修など、住民の住居確保安定の施策であります。

以上の理由から、議案第４２号には反対であります。

次に、議案第４６号について、討論を行います。

反対の理由は、一般質問でも述べましたが、これだけ反対の声、懸念の材料が山積している中での１２月２日での紙の保険証廃止のためのシステム改修には反対であるからであります。

以上で、議案第４２号、議案第４６号についての反対討論とします。

○水上隆光　議長　　ただいま、議案第４２号及び議案第４６号に対する反対討論がありましたので、まず、議案第４２号及び議案第４６号に対する討論を行います。

議案第４２号及び議案第４６号について、賛成者の発言を許します。

猿渡美智子議員。

［登壇］

○１４番　猿渡美智子　議員　　議案第４６号、菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）に賛成の立場から討論します。

この予算には、マイナンバーカードと健康保険証の一体化に関する広報チラシ及び加入者情報等を送付するための費用が含まれております。制度の変わり目において、情報を周知することは行政の大切な役割であると考えることが賛成の理由です。

ただし、情報には正確さが必要ですから、福祉厚生分科会の議員間討議で意見がありましたように、マイナ保険証がないと医療機関の受診ができないような誤解を招かないようなチラシの内容にすべきであることを述べて、賛成討論とします。

○水上隆光　議長　　議案第４２号及び議案第４６号について、ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　これで、議案第４２号及び議案第４６号に対する討論は終わります。

ほかに討論はありませんか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

田中教之議員。

［登壇］

○７番　田中教之　議員　　請願第１号、現行保険証について当面の間存続を求める請願ということに対して反対討論します。

理由は、審査の中でも出てきたように、オンライン資格審査の制度と紙の保険証制度、２つあるということが非常にコストが上がる状態でございます。このようなことで、やはり区切りをつけて、システム化に収れん化するように進めていくのが私の考えでございますので、請願第１号には反対いたします。

○水上隆光　議長　　ただいま、請願第１号に対する反対討論がありましたので、請願第１号に対する討論を行います。

請願第１号について、賛成者の発言を許します。

猿渡美智子議員。

［登壇］

○１４番　猿渡美智子　議員　　請願第１号について、賛成の立場から討論します。

請願の中にはマイナ保険証に関しての不安が解消されていないという文言がありますが、この不安は、決して根拠のない漠然とした不安ではなく、これまでに起きてきた数多くのトラブルに起因するものであり、その不安が４月時点での６．５６％という利用率の低迷につながっております。国は、国民が持つこの不安感とじっくり向き合うべきです。

この間、マイナ保険証に関して、市民の方からいろんな話を聞きましたが、１つのケースとして自分の話をさせていただきます。

この春、私の義理の母は、入所していた特別養護老人ホームから救急搬送されて、搬送先で亡くなりました。葬儀終了後、夫が搬送先の国立医療センターに紙の保険証を持参して支払いを済ませました。母は入所前にマイナンバーカードを作っており、健康保険証とのひもづけもしておりました。しかし、夫は暗証番号を把握しておりませんでした。火葬後であり、顔認証ができなかったのはもちろんのことです。

入所先の特別養護老人ホームでは、紙の保険証だからこそ、何の問題もなく、保険証を預かっていただいておりました。紙の保険証に助けられたという実感があります。

以上が賛成の理由です。

○水上隆光　議長　　請願第１号について、ほかに討論はありませんか。

平直樹議員。

［登壇］

○１１番　平直樹　議員　　おはようございます。請願第１号、現行健康保険証について当面の間存続を求める請願について、反対の立場で討論をいたします。

これまで、菊池市では、粛々とマイナンバーカードの普及等の事業を進めてまいりました。もちろんそれに伴う予算も議決をしております。この件に関しまして、国の方針に従い、スケジュールも遅れることなく、市としても対応していると私は認識をしております。

紙の保険証がなくなり、困られる方への対応も、資格確認書といった準備が進められております。このことにも予算を取り、職員さんの日々の仕事で遅滞なく進んでいると聞いております。つまり、何の問題もありませんので、不必要な意見書案提出を伴う本請願には反対いたします。

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　議席番号１２番、日本共産党、東奈津子です。請願第１号について、賛成の立場から討論を行います。

国民健康保険証廃止に関しては、どの世論調査でも延期、中止が７割を超え、また、多くのメディアも中止や廃止を主張しています。開業医の６割が加入する全国保険医団体連合会の会長は、メディアのインタビューで、同団体のアンケートでは９割が保険証を残してほしいと回答しています。

また、全国保険医団体連合会の調査で、医療機関で５，４９３件ものトラブルが発生、一旦１０割を窓口で徴収された事例が１，２９１件、このまま保険証廃止を強行すれば、トラブルは１０８万件以上にもなるという推計も発表されました。

マイナンバーカードと保険証の一体化によるトラブルは、他人の医療情報がひもづけされていたなど、命にも関わる危険があり、絶対にあってはならないことです。

さらに、本請願の趣旨は、マイナンバーカードを否定するものではなく、現行保険証についての当面の間の存続をというものであり、この趣旨については、マイナンバーカードを推進する立場の方々も共有できるものであると考えます。

共同通信のマイナ保険証をめぐるアンケートでは、全国の市区町村の首長の４割超が延期を要請、また、昨年１０月１４日現在でも全国の８０を超える自治体から現行保険証の存続を求める意見書が上がっています。菊池市議会でも本請願は採択すべきであることを述べ、賛成討論とします。

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　討論なしと認めます。

これで、請願第１号に対する討論を終わります。

ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　これで、討論を終わります。

これより、議案第３７号から議案第４１号、議案第４３号、議案第４７号、議案第５５号から議案第６０号まで、請願第２号について採決します。

ただいま討論がありました議案第４２号、議案第４６号、請願第１号、委員長報告が修正可決でありました議案第４５号、委員長報告が不採択でありました陳情第２号を除き、一括採決します。

お諮りします。議案第３７号から議案第４１号、議案第４３号、議案第４７号、議案第５５号から議案第６０号まで、請願第２号の１４案件について、各常任委員長の報告は、原案のとおり可決、採択であります。各常任委員長の報告のとおり決定することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、以上の１４案件は、各常任委員長の報告のとおり、可決、採択することに決定しました。

次に、討論がありました議案第４２号、議案第４６号、請願第１号は、起立により採決します。

最初にお諮りします。議案第４２号については、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、議案第４２号は、原案のとおり可決することに決定しました。

次にお諮りします。議案第４６号については、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、議案第４６号は、原案のとおり可決することに決定しました。

次にお諮りします。請願第１号については、原案のとおり採択することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、請願第１号は、原案のとおり採択することに決定しました。

ここで、暫時休憩します。

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

休憩　午前１０時５９分

再開　午前１１時０６分

――――――――――――――――――○――――――――――――――――――

○水上隆光　議長　　休憩前に引き続き、会議を開きます。

次に、委員長報告が修正可決であります議案第４５号、令和６年度菊池市一般会計補正予算（第３号）について、討論を行います。

討論はありませんか。

まず、原案に賛成者の発言を許します。

猿渡美智子議員。

［登壇］

○１４番　猿渡美智子　議員　　議案第４５号、一般会計補正予算のうち、修正案が出されました学校給食費の物価高騰対応重点支援事業について、原案に賛成する立場から討論します。

運営協議会で決定された給食費については、物価の変動があっても、年度途中での変更はせず、献立の工夫で対応するというのがこれまでの大原則であります。

今回の修正案は、職員分だけではありますが、年度途中での給食費の値上げを前提にしたものです。それは決定権を持つ運営協議会の議論の前に、ルールの変更を求めることにならないでしょうか。

学校給食を運営する上での基本的なルールを守り、かつ物価高騰の中で、給食の質を担保するための予算措置は認めるべきだと考えます。

これが賛成の理由です。

○水上隆光　議長　　次に、原案及び修正案に反対者の発言を許します。

なければ、修正案に賛成者の発言を許します。

荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　議案第４５号、令和６年度一般会計補正予算の修正案について賛成討論を行います。

物価高騰対応支援として、給食費の一部を子どもたちに補助するというだけではなく、今回は教職員への補助約１８５万円が含まれていました。そもそも仕事で給料をもらいに働きに来ている教職員と、義務教育で学校に来ている子どもたちでは意味合いが違います。

また、子どもたちは市民ですが、教職員は必ずしも市民ではありません。市民で

ない教職員に一般会計予算から給食費を補助する余裕などないことは、菊池市の財政状況を見れば分かることです。

最後に、令和５年度も含め、阿蘇市、合志市、山鹿市、玉名市、荒尾市は、同様の子どもへ給食費補助を行っていますが、教職員への給食費補助は行っていません。なぜなら、国から物価高騰対策予算を教職員への給食費補助に充てることは駄目だよとお達しが来ているからです。国が駄目と言っている予算を認めることはできません。ですから、教職員への給食費補助約１８５万円を予備費に移し、事実上、執行ができないようにする議案第４５号の修正案に賛成いたします。

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　議席番号１２番、日本共産党、東奈津子です。議案第４５号について、原案に賛成の立場から討論を行います。

本議案で提案されております学校給食における物価高騰対応重点支援事業について討論を行います。

教職員への補助をどう考えるかについてです。

小中学校の給食指導は、学習指導要領や指導の手引きなどによって、教育活動として行われております。指導内容は、給食の準備、会食、片づけなど一連の活動を通して、楽しく食事をするための環境づくりや、食育指導、事故防止、安全管理など、多岐にわたっています。まさしく、子どもたちとの給食の時間は、教員の労働時間であります。教員が昼食を自由にとるという選択肢はありません。学校教育の一環として行われている学校給食の、経費は子どもだけではなく、教員もともに教育に必要な経費として公費で負担されることは適切であると考えます。過去にも昨年度から始まった特別栽培米への市からの補助や、コロナ禍でのえこめ牛などの食材の提供も、教職員の分も含めて補塡、提供されております。

以上の理由により、議案第４５号については、原案に賛成といたします。

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

平直樹議員。

［登壇］

○１１番　平直樹　議員　　議案第４５号、修正案に対しての賛成討論をさせていただきます。

この修正案についてというより、まず原案に対して、私が一番引っかかったところは、同議案の中で、同じ補助事業の中で、保育園の先生に対しては出さない。でも、学校の先生に対しては一般財源を持ち出して出すというような、その不公平感

が一番引っかかっているところです。

修正案に関しましては、その不公平感を取り除き、一律に見ているという修正案になっていると思っております。この修正案を通すことが、チェック機関である議会としての仕事をきっちり果たすという意味と私は考えておりますので、修正案に賛成をいたします。

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　討論なしと認めます。これで、討論を終わります。

これより採決します。

議案第４５号については、予算決算常任委員長の報告は修正であります。よって、予算決算常任委員長報告の修正部分について、起立により採決します。

お諮りします。議案第４５号について、予算決算常任委員会の修正案に賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、議案４５号の予算決算常任委員会の修正案は可決することに決定しました。

次に、ただいま修正議決しました部分を除く残りの原案について、起立によって採決します。

修正部分を除く原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、議案第４５号の修正議決した部分を除く残りの原案は、原案のとおり可決することに決定しました。

ただいま議案第４５号、令和６年度菊池市一般会計補正予算（第３号）が修正議決されましたが、これに伴い、計数整理を要するものにつきましては、会議規則第４３条の規定により、その整理を議長に委任されたいと思います。これにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、議案第４５号の計数整理は議長に委任することに決定しました。

（安武睦夫議員退場）

○水上隆光　議長　　次に、委員長報告が不採択であります陳情第２号、迫間支館及び重味グラウンドを公共施設として存続を求める陳情書について、討論を行います。

討論はありませんか。

まず、原案に賛成者の発言を許します。

福島英徳議員。

［登壇］

○８番　福島英徳　議員　　陳情第２号について、賛成の立場で討論を行います。

この陳情書には、全２６区長の署名捺印がしるされております。私は区長さんの総意を重く受け止め、尊重すべきだと考えます。

以上が賛成の理由です。

○水上隆光　議長　　次に、原案に反対者の発言を許します。

平直樹議員。

［登壇］

○１１番　平直樹　議員　　陳情第２号について、反対の立場から討論をさせていただきます。

そもそもこの公共施設等総合管理計画というのは、２０年前の市町村合併から類似施設の増加したものをどうマネジメントしていくのかという視点から始まっています。

平成１８年に第１次行政改革大綱で民営化の推進、組織・機構の見直し、財政の健全化が示され、平成２２年からは第２次行政改革大綱で、さらに学校規模の適正化、公有財産の総点検が追加されております。

そんな中、平成２３年３月に週刊ダイヤモンドという雑誌に「ハコモノが地方を潰す」という記事にて、菊池市は「余剰ハコモノワースト６位」との衝撃の報道がされました。そこに併せて掲載された記事には、削減目標８０．２％というものでした。この記事をきっかけに、本市でも改めて施設保有総量削減への関心が広がっていったことは、皆様もご案内のとおりかと思います。

翌年、国からインフラ長寿命化計画や、公共施設等総合管理計画や個別施設計画の策定要請があっており、これを受けて、本市でも現在の菊池市公共施設等総合管理計画が出来上がっています。どの建物をどうするかという視点とともに、延べ床総面積を削減していくとしての計画で進められております。

私は現在３期生で、少なくとも１０年前からこの仕事に携わっておりますが、この大きな流れの中で、七城地区でのビニールハウス等の農業施設の民間移管や廃止、旧旭志幼稚園の売却、泗水幼稚園の民営化、河原小学校、迫水小学校の売却、勤労者体育館の廃止、ふじのわ荘やつまごめ荘の民間移譲、そして、甲森北集会所、七城行政公民館３５施設の地域移管等々、当時利用されていた菊池市民の皆様とともに、ある種の痛みをもって、ここまで進んできました。その大きな流れで幾つも決断してきた経緯をしっかり胸に刻んで、改めて考えました。

この陳情されているお気持ちは十分理解するところではございますが、これまで

の議会の議決を前提にしつつ、また、今回の委員会審査で熊本地震の際でも避難所として開設しなかった。全自治区に公民館があること。現状、自治公民館への不満も特にないということを確認した上で、私はさらに迷ったら、子どもたちが大きくなったときにどうかという判断基準に照らし考え、この陳情には反対といたします。

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　陳情第２号に対して賛成討論を行います。

賛成討論に入る前に、前回の総務文教常任委員会委員の１人として、委員会改選があると分かってたのに、継続審査になってしまったことで、現総務文教常任委員会委員の皆さんに苦しい選択を押しつけてしまったことは申し訳なく思っています。

また、陳情を出された地元の区長さんにも、２月に提出されたのに、７月になっても結論が出ず、大変お待たせしたことをおわびしたいと思います。

しかし、前総務文教常任委員会から２人の議員が今回も総務文教常任委員会に残っていますが、前回、継続審査にした理由として、市が住民アンケートを実施した結果で判断したいとか、こんな重要なことを私は決められないと言っていたのに、何を変節したのか、誰に頼まれたのか、我先に反対していることは理解ができません。

私は公共施設の削減は必要だと思います。しかし、順番が違う。市民に痛みを押しつける前に、人口が減っているなら議員を減らすとか、報酬を削減するとか、隗より始めよで、議員がその痛みをまず受け入れた上で、市民の方に理解を求めないと、誰が公共施設の削減を理解するでしょうか。年間１００万円の施設維持費は税金ですから、決して安い金額とは言いません。しかし、もっと先に削減すべき無駄な事業、人員、補助金があるのは事実です。市長は事あるごとに、住みたい田舎ランキングの上位に選ばれたと言われますが、今回の陳情を不採択にすることは、住みにくい田舎に向かうものだと考えます。

最後に、人口が減っているところを一律に切り捨てることは簡単です。しかし、バス路線がないといった地理的要因や、過去に学校まで統廃合されたという歴史的背景を考えたとき、地元が必要としている迫間支館まで取り上げることが、私は議会として正しい選択とは思えません。

以上が、賛成討論の理由です。

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

二ノ文伸元議員。

［登壇］

○１７番　二ノ文伸元　議員　　皆さん、こんにちは。私は、陳情第２号について賛成討論を行います。

今までの賛成討論に加えて、まず誰の発案か、そのような分からない、また、市民があまり望んでもいないラブベンチを約１００万円かけて作るより、水迫地区、皆さんの総意として出されたこの陳情どおり、迫間支館を財政的に支援することが優先されるべきであることから、この陳情に対して採択すべきものである。よって、賛成といたします。

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

木下雄二議員。

［登壇］

○１９番　木下雄二　議員　　皆さん、おはようございます。陳情第２号、迫間支館及び重味グラウンドを公共施設として存続を求める陳情書に、賛成の立場で討論をさせていただきます。

この件につきましては、令和２年７月に施設マネジメント課より管理計画が示されましたので、私は地元に住む者として、これまで、見直しを含め指摘、要望を続けてまいりました。

市は、現状の個別施設計画は、施設本来の用途を基準に将来の方向性を示したもので、避難所などの別用途として利用する公共施設の個別施設計画を推進する場合は、庁内関係各課、また関係機関と連携を図りながら、利用者などの意向を踏まえ、丁寧な説明を行いながら、合意形成を図っていきたいと答えておられます。

その後、令和３年７月の総務文教常任委員会所管事務調査委員長報告では、本市の指定避難所等の総数は５２か所であり、平常時の収容人員は９，２８０名でありますが、コロナ禍における避難所運営の視点に立った場合、車中泊スペースを含め、避難所、避難場所の確保に十分留意し、慎重に行うことが重要であると指摘がありました。

菊池市は熊本地震による甚大な被害を受けましたが、特に迫間、水迫地区は被害が大きかった地域であり、現在は民間に売却して使用できなくなっている旧迫水小学校跡地に市が指定した避難所が開設されましたので、多くの地域住民の方々が何日間も避難をされました。

地震発生時は４月で寒い中、体育館は暖房もなく、床は硬くて冷たい状況でしたので、高齢者、また小さい子どもたちはつらい環境でした。私にも、隙間風が入らないようにしてほしい、床に敷くものが何か欲しい、炊き出しの対応もできていませんでしたので、おにぎりを菊之池小学校まで取りに行かなければなりませんでした。そのほか、様々な要望がありましたが、十分な対応はできませんでした。

先ほど平議員の反対討論で、熊本地震のときには避難所として開設がなかったから、今後も必要ないような意見でしたが、熊本地震のときには、先ほど申し上げたとおり、市が職員を配置して開設したのは旧迫水小学校跡地でしたので、より多くの人が収容できる体育館に集約されたと考えられます。

しかし、避難所として開設されていませんでしたが、今回要望の迫間支館、重味グラウンドには車中泊のための避難場所として、多くの地域の住民が利用されておりました。

令和５年１１月９日に開催された迫間区長会の説明会でも、その当時の地区長様より代表して、地域は全会一致で現状維持で管理をはっきりと要望されております。

市長も本年の年頭の挨拶で、能登半島地震を踏まえ、まず防災、市民の生命・財産を守るという基本的な命題に立ち返ってほしいと市職員に訓示されています。

市の今回の公共施設等管理計画は、各支館の年間維持管理費約１００万円、重味グラウンドの維持管理費約６０万円の経費削減が目的で、行財政改革の一環として推進されていますが、現在の菊池市は完全に優先順位が間違っていると思います。

○水上隆光　議長　　木下議員、簡潔にお願いします。

○１９番　木下雄二　議員　　はい。菊池市は特に中山間地域を切り捨てる政策が続いており、これまでに毎月の水道検針を２か月に１回に改正することも決めております。菊池市民の声を地域住民の安否確認、見守りを兼ねた検針ができなくなります。

地域移管は、迫間支館の場合、１世帯当たり年間２，４００円の負担が必要となり、その後は施設改修や解体撤去費用には全て地域負担となりますと説明していますが、迫間、水迫地区は高齢化が進んでおり、各地区の区費の値上げもできない現状ですので、到底受け入れることはできません。

行政は、市民の命、安全を守ることが最優先でなければならないと考えており、私は一貫して、これまで市民の痛みの前に、議会としては定数削減による身を切る改革、市は、菊池千年さくらプロジェクト、足湯、ラブベンチ、各種イベント等、政策の見直し、平成２９年予算決算常任委員長報告での提言による市職員の市外勤務の令和４年度１４７名の通勤手当約１，６０１万円、住居手当約９９０万円の経費削減を図る必要があると考えます。

議員の皆さんも、自分自身が住んでいる地域の避難所、避難場所が廃止になることを望む人はいないと思います。いつ地震、豪雨等が発生するかもしれない状況で、廃止はあり得ません。

今回の陳情は、その地域で生活をしておられる方々の代表である区長会の切実な願いであり、重く受け止めなければなりません。

改めて、市民の生命を守るために、迫間支館及び重味グラウンドを公共施設とし

て存続を求める陳情にご賛同をよろしくお願いいたします。

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　討論なしと認めます。これで、討論を終わります。

これより、陳情第２号について採決します。

採決は起立によって行います。

陳情第２号、迫間支館及び重味グラウンドを公共施設として存続を求める陳情書に対する委員長の報告は不採択であります。よって、可を諮る原則により、原案について採決します。

お諮りします。陳情第２号について、原案のとおり採択することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立少数です。よって、陳情第２号は、不採択とすることに決定しました。

（安武睦夫議員入場）

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第２　議事第４号　熊本県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙

○水上隆光　議長　　日程第２、議事第４号、熊本県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙を議題とします。

緒方哲郎議員の熊本県後期高齢者医療広域連合議会議員辞職に伴い、欠員が生じましたので、熊本県後期高齢者医療広域連合議会議員選挙を行います。

お諮りします。選挙の方法については、地方自治法第１１８条第２項の規定によって指名推選にしたいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、選挙の方法は指名推選で行うことで決定しました。

お諮りします。指名の方法については、議長が指名することにしたいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、議長が指名することに決定しました。

熊本県後期高齢者医療広域連合議会議員に、猿渡美智子議員を指名します。

お諮りします。猿渡美智子議員を当選人と定めることにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、ただいま指名しました猿渡美智子議員が、熊本県後期高齢者医療広域連合議会議員に当選されました。

ただいま当選された猿渡美智子議員が議場におられます。会議規則第３２条第２項の規定によって、当選の告知をします。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第３　意見書第２号　上程・説明・質疑・討論・採決

○水上隆光　議長　　次に、日程第３、意見書案第２号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

総務文教常任委員長、緒方哲郎議員。

［登壇］

○緒方哲郎　総務文教常任委員長　それでは、意見書案第２号、少人数学級・教職員定数の改善に係る意見書について、申し述べます。

少人数学級・教職員定数の改善に係る意見書

学校現場では、貧困・いじめ・不登校・教職員の長時間労働や未配置など解決すべき課題が山積しており、子どもたちのゆたかな学びを保障するための教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況となっています。ゆたかな学びや学校の働き方改革を実現するためには、加配教員の増員や少数職種の配置増など教職員定数改善が不可欠です。

２０２１年の法改正により、小学校の学級編制標準は段階的に３５人に引き下げられ、計画通りに進捗すれば、２０２５年度に完了となります。今後は、小学校に留まることなく、中学校・高等学校での早期実施と、きめ細かい教育活動をすすめるために、さらなる学級編制標準の引き下げ、少人数学級の実現が必要です。

よって、国会及び政府におかれては、地方教育行政の実情を十分に認識され、地方自治体が計画的に教育行政を進めることができるように、下記の措置を講じられるよう強く要請します。

記

１　中学校・高等学校での３５人学級を早急に実施すること。また、さらなる学級編制標準の引き下げ等少人数学級について検討すること。

２　学校の働き方改革・長時間労働是正を実現するため、加配教員の増員や少数職種の配置増など教職員定数改善を推進すること。

３　自治体で国の標準を下回る「学級編制基準の弾力的運用」の実施ができるよう加配の削減は行わないこと。

４　教職員の処遇について、新規採用を持続的に確保し、専門性を発揮し意欲をもっ

て働くことができるよう、改善に必要な財政措置を講じること。

以上、地方自治法第９９条の規定により意見書を提出いたします。

令和６年７月５日

熊本県菊池市議会議長　水上　隆光

衆議院議長　　額賀福志郎　様
参議院議長　　尾辻　秀久　様
内閣総理大臣　岸田　文雄　様
財務大臣　　鈴木　俊一　様
総務大臣　　松本　剛明　様
文部科学大臣　盛山　正仁　様

意見書案第２号を別紙のとおり、菊池市議会会議規則第１４条第２項の規定により提出をいたします。

提案理由としましては、子どもたちのゆたかな学びや学校の働き方改革を実現するためには、教職員定数改善が不可欠である。

よって、関係行政庁に対し、さらなる少人数学級の検討や加配教員の増員、少数職種の配置増など教職員定数改善を推進することを求め、意見書を提出するものである。

これが、本案を提出する理由であります。

意見書案については、お手元に配付のとおりです。

議員各位におかれましては、本案の趣旨にご賛同いただきますようお願い申し上げ、提案理由といたします。

○水上隆光　議長　　以上で、説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

意見書案第２号については、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続いて審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　討論なしと認めます。これで、討論を終わります。

これより採決します。

お諮りします。意見書案第２号につきまして、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、意見書案第２号は、原案のとおり可決することに決定しました。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第４　意見書第３号　上程・説明・質疑・討論・採決

○水上隆光　議長　　次に、日程第４、意見書案第３号を議題とします。

提出者の提案理由の説明を求めます。

福祉厚生常任委員長、猿渡美智子議員。

［登壇］

○猿渡美智子議員　福祉厚生常任委員長　それでは、意見書案第３号、現行健康保険証について当面の間の存続を求める意見書について、申し述べます。

現行健康保険証について当面の間の存続を求める意見書

マイナンバーカードに健康保険証機能を組み込んだ「マイナ保険証」の普及のため２０２４年１２月２日に現行の健康保険証を廃止することが決定されました。

私たちは、マイナンバーカードの導入について反対するものではありません。しかしながら、マイナンバーカードを巡っては問題が続出しています。とりわけ「マイナ保険証」に関しては、窓口で無効と判断されて医療費の１０割が請求された事例や他人の情報がカードに紐づけられていたケースが判明するなど、国民の健康や生命に重大な影響を及ぼす恐れのある深刻な問題が顕在化しています。また、「マイナ保険証」の利用率は、昨年４月の６．２９％から１２月の４．２９％まで低下しています。

また、高齢者にとっては、マイナ保険証の紛失、暗証番号の失念、高齢施設でのマイナ保険証管理の問題等について懸念もぬぐえません。

さらに被保険者や医療現場からも懸念の声が上がるなど、国民の不安も解消されないままに廃止が決定され、国民皆保険制度の根幹が揺らごうとしています。

今、何ら不都合なく安心して使えている現行健康保険証を当面の間、存続させ現行保険証とマイナ保険証の選択制を打ち出していた原点に立ち返るために、日本政府の冷静な判断を強く求めます。

以上、地方自治法第９９条の規定により意見書を提出いたします。

令和６年７月５日

熊本県菊池市議会議長　水上　隆光

衆議院議長　　額賀福志郎　様
参議院議長　　尾辻　秀久　様
厚生労働大臣　武見　敬三　様
デジタル大臣　河野　太郎　様

意見書案第３号を別紙のとおり、菊池市議会会議規則第１４条第２項の規定により提出します。

提案理由としましては、マイナ保険証に関しては、他人の情報がカードにひもづけられていたケースが判明するなど、国民の健康や生命に重大な影響を及ぼすおそれのある深刻な問題が顕在化したが、不安も解消されないままに廃止が決定され、国民皆保険制度の根幹が揺らごうとしている。安心して使える現行健康保険証を当面の間存続されるよう意見書を提出するものである。

これが、本案を提出する理由です。

意見書案については、お手元に配付のとおりです。

議員各位におかれましては、本案の趣旨にご賛同いただきますようお願い申し上げ、提案理由とします。

○水上隆光　議長　　以上で、説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

田中教之議員。

［登壇］

○７番　田中教之　議員　　先ほどの意見書について質疑をします。

当面の間とありますが、具体的にどういった期間を想定されていますでしょうか。意見書を作成する上で、そういった議論があったか、お示しください。

○水上隆光　議長　　福祉厚生常任委員長、猿渡美智子議員。

［登壇］

○猿渡美智子　福祉厚生常任委員長　　田中議員の質疑に答弁いたします。

当面の間という文言について、委員会の中で論議をしたわけではありませんが、請願の趣旨から読み取りますと、これまでに様々起きてきたようなトラブルがなくなり、国民の不安が解消されるまでというふうに考えております。

以上、答弁いたします。

○水上隆光　議長　　ほかにありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　ほかに質疑なしと認めます。これで、質疑を終わります。

意見書案第３号については、会議規則第３７条第３項の規定によって、委員会付託を省略したいと思います。ご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決定しました。

委員会の付託を省略し、引き続いて審議します。

これから討論を行います。討論はありませんか。

まず、原案に反対者の発言を許します。

田中教之議員。

［登壇］

○７番　田中教之　議員　　先ほど提案がありました意見書について、反対します。

理由は、まず、先ほど当面の間というところで、当面の間は長ければ長いほど、それだけコストも混乱してまいりますし、ほかの自治体の議会で、この請願が不採択された自治体もございますが、その理由で、やはり政府はその後もマイナ保険証を利用されない方は資格確認書という紙に代わるものを発行されるわけですよね。となると、マイナンバーカードと、その資格審査の紙と、紙の保険証と、３つ対応しなきゃいけなくなることになります。

菊池市はデジタル推進化宣言を行っております。それにはマイナンバーカードを利活用していくと明記されております。

議会として請願を採択する。ここは１つの意思表示でいいと思いますが、私は意見書まで作成して、議会の意思表示をする。これについては、やはり議員の皆さんは、これは慎重に考えていただきたいと思います。

以上の理由から、この意見書には反対します。

○水上隆光　議長　　次に、原案に賛成者の発言を許します。

東奈津子議員。

［登壇］

○１２番　東奈津子　議員　　意見書第３号について、賛成の立場から討論を行います。

賛成の理由は、請願第１号の賛成討論と同じであります。

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

平直樹議員。

［登壇］

○１１番　平直樹　議員　　意見書案第３号に対して、反対の立場で討論をいたします。

反対の理由といたしましては、請願第１号のときに申し述べたとおり、出す必要がないからです。

以上です。

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

荒木崇之議員。

［登壇］

○１５番　荒木崇之　議員　　賛成討論を行います。

使い切るもんなよかですよ。デジタルになったっちゃ。でも、これなかなか使い切らんで、この前も親しい人とショートメールをやりよって、ようやくＬＩＮＥがつながって、それも私、お互いの奥さん同士で、うちの旦那はこれだよというので、つなげてもらって、紙で欲しがっている高齢者がおんなはんなら、紙でやったっちゃよかじゃなかですか。もう１個出たっちゃ、それよかじゃなかですか。

今度、免許証もマイナンバーカードの中に入って、免許証持っとってもいい、マイナンバーカードを持っとってもいいという国の流れはそうです。便利ならそっちに流れる。その選択肢を与えるというのが私は国と思うんですよね。

民間だったら切ってしまって、もうガラケーやめます、３Ｇやめます、４Ｇにしてください、５Ｇにしてくださいでいいけど、行政は、できん人に寄り添うのが行政なんですよね。そこをやっぱり考えて、おらできるけんええ、関係なかけんよかじゃなくて、やっぱりできない人のほうを考えて、行政というのはやるべきだと思いますので、私は当面の間で十分だと思います。

以上です。

○水上隆光　議長　　ほかに討論はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　討論なしと認めます。これで、討論を終わります。

これより採決します。

討論がありました意見書案第３号は、起立により採決します。

お諮りします。意見書案第３号については、原案のとおり可決することに賛成の方は起立願います。

（賛成者起立）

○水上隆光　議長　　起立多数です。よって、意見書案第３号は、原案のとおり可決することに決定しました。

―――――――――――――――○―――――――――――――――

日程第５　議会改革検討特別委員会の中間報告・質疑

○水上隆光　議長　　次に、日程第５、議会改革検討特別委員会の中間報告の件を議題とします。

議会改革検討特別委員会から中間報告の申出があっております。

お諮りします。本件については、申出のとおり議会改革検討特別委員会から中間報告を受けることにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　異議なしと認めます。よって、議会改革検討特別委員会から中間報告を受けることに決定しました。

議会改革検討特別委員会委員長、東奈津子議員。

［登壇］

○東奈津子　議会改革検討特別委員会委員長　　議会の許可をいただきましたので、会議規則第４５条第２項の規定に基づき、議会改革検討特別委員会の中間報告をいたします。

地方分権が進展する中、二元代表制の下、地方議会の果たす役割は重要性を増し、議会活動の充実・強化を図るとともに、情報の公開、透明性の向上を図ることが一層求められています。

よって、菊池市議会は、より一層市民の負託に応えるため、また市民生活の向上と民主政治の発展に寄与するため、令和５年第１回定例会において、本特別委員会が令和５年３月１７日に設置されております。

１０人の委員で構成された本特別委員会は、令和５年４月２１日から活動を始め、本年５月２０日までに１２回の委員会を開催し議論を重ねてきました。

また、本特別委員会で検討する項目については、議員定数、費用弁償、政務活動費、予算決算常任委員会、開かれた議会づくりの５つとし、最終報告を令和７年３月定例会にて行うことと計画しております。

最初に、これまで審査内容がまとまった検討項目である予算決算常任委員会、費用弁償、議員定数の３つについて、報告いたします。

まず、１項目めの予算決算常任委員会については、まず、予算決算常任委員会を設置する必要性を議論しており、審査した結果、議案の分割付託の違法性・不適切性を考慮し、予算決算常任委員会は存続させるとの結論を見ております。

続いて、その運用の改善について、議論を重ねており、審査の結果、１日目の予算決算常任委員会で執行部が説明する主要事業について、説明が予定されていない主要事業であっても、議会から執行部に対し、説明事業の追加を要求できるよう改善すること。

その次に、所管の分科会以外の委員からの意見等を共有することで審査を深める

ため、１日目の予算決算常任委員会の終了後に協議会を開催するよう改善すること。の２つの結論を見たところです。

なお、これについては、既に本年２月２２日の予算決算常任委員会で、本特別委員会が申し入れた後、３月１４日の予算決算常任委員会において、本定例会から運用することで決定していただいております。

続きまして、２項目めの費用弁償について、審査した内容を申し上げます。

本特別委員会では、県内１３市の支給状況を調査の上、議論を重ねております。

委員からは、議員の成り手不足を解消するためには費用弁償は必要である。報酬や政務活動費とセットで考えなくてはならない。交通費の実費分は支給するべきと思うので、旅費単価を見直してはどうかなどの費用弁償は継続とする意見に対し、交通費の実費支給は、現状では多くが費用弁償より振込手数料のほうが高額になると思うので廃止すべき。そもそも非常勤の職員に対して通勤手当の概念はない。交通費は、報酬の範疇であると思うため、廃止すべき。年間総額では高額になるこのお金は、市民のために使うべきであり、議員が身を切る改革をやるべきだなど、廃止とする意見がありました。

委員会の意見としては、採決により現状維持が２人、廃止が５人、実費支給が２人となり、多数決で費用弁償を廃止するという結論を見ております。ただし、交通弱者への配慮は必要であるため、今後、車の運転が困難などの理由で公共交通機関を利用する議員が現れた場合は、実費支給を条文化して加えるべきであるという結論となっております。

なお、引き続き費用弁償を廃止する改正条例の施行日等について、審査していくこととしております。

続きまして、３項目めの議員定数について、審査した内容を申し上げます。

本特別委員会では、本年の１月から２月にかけて市民３，０００人に対して「議員定数に関するアンケート調査」を実施しております。

その結果については、回収率が約３０％で、そのうちの１％が白紙または疑問でしたので、回答数は８８０人となり、その回答の内訳は、「増員」が２．２％、「現状のまま」が２６．１％、「削減」が６１％、「分からない」が９．７％という結果となっています。本特別委員会では、この調査結果を分析しながら議論を深めていきました。

まず、定数増を望む委員はおりませんでしたので、現状維持か定数削減かを議論しております。

委員からは、議会には多様性が必要であるため、定数の維持が望ましい。定数を減らすことは市民の声を削っていくことにつながり、悪循環に陥っていく。定数を

削減したにもかかわらず無投票になった自治体があった。議員の成り手不足を解消するため、門戸を広げておきたいなどの現状維持とする意見に対し、定数削減はやむを得ないが、３常任委員会の機能を維持できる委員会の定数は最低６人必要である。また議長は辞任せざるを得ないため、１人削減がふさわしい。議員の資質向上を図るためには定数を削減するしかない。市民アンケートの結果から判断すると削減しかない。無投票だったから議員を減らしたいのではなく、人口が減っているから議員も減らしたい。本市の人口は減り、財政状況もさらに厳しくなっていくであろう今だからこそ、私たち議会が身を切る改革を行い、市民からの信頼を得る必要があるなどの定数削減とする意見がありました。

委員会の意見としましては、採決により現状維持が３人、削減が６人となり、多数決で定数削減という結論を見ております。

続いて、削減する人数を審査したところ３案に分かれたため採決を採った結果、１人削減案が２人、２人削減案が１人、４人削減案が３人、棄権が３人となりましたので、引き続き議論を重ねましたが、意見は平行線をたどったまま、本特別委員会では削減人数は示さないとの結論を見ております。

最後に、審査が未着手となっている検討項目である政務活動費と、開かれた議会づくりの２つについては、直ちに審査を開始することとしております。

議員各位のご理解とご協力を引き続きお願い申し上げまして、議会改革検討特別委員会としての中間報告といたします。

○水上隆光　議長　　以上で、議会改革検討特別委員会の中間報告を終わります。

これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑は３回までとなっています。

質疑はありませんか。

［「ありません」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　　質疑なしと認めます。これで、質疑を終わります。

―――――――――――――――――――○―――――――――――――――――――

日程第６　委員会の閉会中の継続審査並びに調査について

○水上隆光　議長　　次に、日程第６、委員会の閉会中の継続審査並びに調査についてを議題とします。

閉会中の継続審査・調査

議会運営委員会
１　議会運営等に関する諸問題の調査について
総務文教常任委員会
１　一般行財政、企画開発、地域振興、情報処理、防災、教育等に関する諸問題

の調査について 福祉厚生常任委員会 1　福祉、環境、市税、健康管理、地籍調査等に関する諸問題の調査について 経済建設常任委員会 1　農政、林業、商工振興、観光振興等に関する諸問題の調査について 2　土木、都市計画、公共下水道、水道等に関する諸問題の調査について 予算決算常任委員会 1　予算及び決算に関すること 議会広報特別委員会 1　議会広報に関すること 政治倫理条例検討特別委員会 1　政治倫理条例に関すること 議会改革検討特別委員会 1　議会改革に関すること

議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長から所管事務調査事項について、議席に配付の閉会中の継続審査並びに調査申出一覧表のとおり申出があっております。

お諮りします。議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査並びに調査とすることにご異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○水上隆光　議長　異議なしと認めます。よって、議会運営委員長及び各常任委員長並びに特別委員長からの申出のとおり、閉会中の継続審査並びに調査とすることに決定しました。

以上をもって本日の議事日程は全部終了し、今定例会に付議されました事件は全て議了しました。

これをもちまして、令和６年第２回菊池市議会定例会を閉会します。

全員、ご起立をお願いします。

（全員起立）

お疲れさまでした。

――――――――――――――――――――○――――――――――――――――――――

閉会　午前１１時５５分

地方自治法第１２３条第２項の規定によりここに署名する。

菊池市議会議長　水　上　隆　光

菊池市議会副議長　平　　直　樹

菊池市議会議員　島　　春　代

菊池市議会議員　大　山　宝　治

各常任委員長報告書

・総務文教常任委員長報告書

・福祉厚生常任委員長報告書

・経済建設常任委員長報告書

・予算決算常任委員長報告書

総務文教常任委員会　委員長報告

本定例会で総務文教常任委員会に付託されました案件は、条例案２件、その他の議決案件３件、請願１件の６件で、それに継続審査となる陳情１件を加えた７案件を審査しました。

２日間にわたり慎重に審査しましたので、その経過と結果について報告します。

なお、報告書は、お手元に配付しておりますが、本日の報告については、網掛け部分を割愛して報告します。

会議録については、全文記載された報告書を掲載します。

はじめに、**議案第 37 号**については、執行部より「本案は、法務省が『同和問題』の標記を改めたことに伴い、法務省の標記に準じた字句の取り扱いとするため、条例の一部を改正する必要があり、条例改正を行うものである」との説明があり、特に質疑はありませんでした。

次に、**議案第 43 号**については、執行部より「本案は、菊池市泗水Ｂ＆Ｇ海洋センター艇庫を廃止することに伴い、条例の一部を改正する必要があり、条例改正を行うものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「条例から艇庫をなくすこと自体の削除は不要なのか。また廃止する艇庫やその中の物品はどうするのか」との質疑に対し、執行部より「本市の条例において、『当該艇庫』の記載については、本条例第９条関係の別表第２の第４の部分のみであるため、艇庫の廃止条例は、不要である。また廃止する艇庫の中の備品については、３つの艇庫分を一番広い旭志の艇庫に集約して貸し出したい。建物については、泗水支所の近くにある中央艇庫は、消防の積載倉庫として利用する予定であり、泗水西小学校敷地内にある西艇庫は、泗水西小学校に移管する予定であるが、老朽化が激しい東艇庫は使える状態にない」との答弁がありました。

また、委員から「Ｂ＆Ｇ財団からの助成金の精算については、問題はないか」との質疑に対し、執行部より「名称にＢ＆Ｇと入っているが、Ｂ＆Ｇ財団から助成を受けて建設しているものではないので問題はない」との答弁がありました。

次に、**議案第 55 号**については、執行部より「本案は、火災、災害発生時等における消防団の諸活動が円滑に行われるように、老朽化した小型動力ポンプ積載車５台を更新するものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「落札率は。また入札した者の数は」との質疑に対し、執行部より「落札率は 95.0％である。また入札者数は、８者で、そのうちの１者が市内業者である」との答弁がありました。

また、委員から「今の古い積載車は活用するのか」との質疑に対し、執行部より「近隣の市町村と同様に、販売業者が古い積載車を処分するよう仕様書でうたっている」との答弁がありました。

また、委員から「昼間の火災での消防団員の出動人数は、少数であり、その替わりに予備団

員やＯＢが出てくるような体制づくりが必要である。せっかく積載車を購入しても活用できなければ意味がないので、これから先の積載車の更新については、よく考えなければならいと思うが、それらについて団長達とは話しているのか」との質疑に対し、執行部より「昨年度に消防団員の定数を削減しているので、それに伴い積載車の配置については、改めて各分団の状況を把握しながら適切に配置できるよう考えていきたい」との答弁がありました。

さらに、委員から「広域連合のように、古くなった積載車は、オークションしてはどうか」という意見があり、執行部より「広域連合に確認の上、検証したい」との発言がありました。

次に、**議案第 59 号**については、執行部より「防災行政無線等整備工事に関して、落札業者及び契約金額が決定したため、議会の議決を必要とするものであり、スマートフォンを持っていない 75 歳以上の高齢者世帯で、戸別受信機の設置を希望する世帯へ戸別受信機を設置するものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「落札率は。また既に土砂災害警戒区域及び難聴区域に配置している今の器械は、どうするのか」との質疑に対し、執行部より「落札率は、99.0％である。また既に土砂災害警戒区域及び難聴区域に配置している戸別受信機は、デジタル型なので取替えはしない」との答弁がありました。

また、委員から「財源は何か。また事業対象を 75 歳以上に線引きした根拠は」との質疑に対し、執行部より「財源は、緊急防災・減災事業債である。また 75 歳以上とした根拠については、まずは、スマートフォン等の利用率が低く、なじみのないと考えられる 75 歳以上の方を対象としたものであり、今後、75 歳未満の方に対してもアンケート調査を行いたい」との答弁がありました。

さらに、委員から「75 歳以上の世帯を対象としているが、75 歳未満の方からの要望はなかったのか」との質疑に対し、執行部より「75 歳未満の方からの問い合わせはなかったが、それらの世帯についても今後、整備に向けて検討を進めたい」との答弁がありました。

また、委員から「条件付一般競争入札によって範囲を九州内にまで広げたのに、なぜ入札が１者なのか」との質疑に対し、執行部より「６者ほどが条件を満たすと見込んでいたが、結果的に１者のみの入札となった」との答弁がありました。

さらに、委員から「今後のスケジュールは」との質疑に対し、執行部より「意向調査については、近日中に未回答者へ再調査を行いたい。また器械については、12 月以降に設置を進めていく」との答弁がありました。

次に、**議案第 60 号**については、執行部より「本案は、泗水小学校増築建築工事に関して落札業者及び契約金額が決定したため、議会の議決を必要とするものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「ＪＶの比率は」との質疑に対し、執行部より「吉安建設が 53％で、緒方建設が 47％である」との答弁がありました。

また、委員から「開札調書では、２者から入札があり１者は予定価格と同額で入札され、もう１者は 99.9％の落札率で落札していることから、予定価格に問題はなかったのか。また予定

価格がもれたのではないか」との質疑に対し、執行部より「予定価格は、公共工事の積算基準に基づき適正に積算しており、併せて今回２者による競争があったので、適正な金額であると判断している。また予定価格は、全部、公表されている」との答弁がありました。

さらに、委員から「予定価格は、物価上昇分を反映させているのか」との質疑に対し、執行部より「可能な限り直近の単価で設計している」との答弁がありました。

また、委員から「物品は、市外からも購入しているのに、なぜ今回の工事は、市内業者のみを条件としたのか」との質疑に対し、執行部より「本市の事務取扱要領に基づき、本市の指名審査会で審議の上、過去の類似工事と同様に、参加資格を市内業者による共同企業体と決定したものである。なお、指名審査会の審議内容は、非公開となっているので詳細は話せない」との答弁がありました。

次に、**請願第２号**については、国の関係機関へ「少人数学級・教職員定数の改善に係る意見書」の提出を求める請願であり、委員から事務局に対し他の自治体への提出状況の調査依頼があり、事務局より「熊本県議会には提出されており、現在審査中とのことである。また菊池郡市の１市２町並びに近隣の山鹿市と阿蘇市の議会事務局に問い合わせた結果、いずれも提出されてないとのことであった」との報告がありました。

次に、**陳情第２号**については、迫間支館及び重味グラウンドを公共施設として存続を求める陳情であり、所管部署より状況確認を行いました。

執行部より「迫間地区の 17 行政区の全てに自治公民館が存在している。また、迫間支館については、直近５年間の利用者数の実績を述べるとともに、熊本地震の際には、迫間支館を指定避難所としては開設していない。また、重味グラウンドについては、本年２月の重味地区の区長意見交換会において、市は、グラウンドの施設及び電気水道を撤去して、ドクターヘリ発着所として利用することで、地元の了承を得ている。その後も本年４月に交代された関係区長に対して同様に説明の上、了承を得ている」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「５つの支館の年間の費用は、地域移管とした場合、それぞれ１世帯当たりいくらになるのか」との質疑に対し、執行部より「水源支館が約 4,500 円、迫間支館が約 2,400 円、竜門支館が約 4,200 円、戸崎支館及び花房支館が約 2,000 円と試算している」との答弁がありました。

また、委員から「迫間支館を熊本地震以外で避難所として開設したことはあるのか」との質疑に対し、「迫間支館を熊本地震以外で避難所として開設したことはない」との答弁がありました。

さらに、委員会から「迫間地区の区長さんから市へ自治公民館が使えない等の相談等があったか」との質疑に対し、「毎年、自治公民館整備事業の要望調査を全ての区長へ行っているが、迫間地区の区長からそのような相談等はあっていない」との答弁がありました。

議員間討議では、**議案第 59 号**について、「執行部は、『75 歳以上』と決定した根拠を尋ねると納得できる回答はなく、それでは市民も納得しないと思うので、決定した根拠について、客

観的な事実を明文化したルールを作った上で、しっかりと対応するべきである」との意見や「対象外となるスマートフォンを持っている 75 歳以上の方でも、使い慣れない方もおられると思うので、そうした方にも配付できるような施策を行っていただきたい」との意見がありました。

次に、**議案第 60 号**について、「入札に関して、予定価格の設定や落札の最低価格などについて、私たちも研究しなければならない」との意見がありました。

以上、慎重に審査しました結果、当委員会に付託されました**議案第 37 号、議案第 43 号、議案第 55 号、議案第 59 号、議案第 60 号**及び**請願第２号**については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決、採択すべきものと決定しました。

次に、討論がありました**陳情第２号**については、委員から「熊本地震でさえ指定避難所になっていない。また迫間地区の全ての行政区に自治公民館があり、それぞれに不満の声が上がっていない。さらに、全市的には支館はなく公正性を考えると賛成しかねる」「地元の方から意見をお伺いした結果、陳情項目の２のヘリポートには賛成するが、１の迫間支館には反対する」といった反対討論がありました。

また、委員から「陳情された区長さん方の思いを尊重する必要がある」「迫水小学校跡が民営化によって避難所として使えなくなった現在、迫間支館は、高齢者が多い中山間地域では避難所としても必要な施設である」といった賛成討論がありました。

採決の結果、**陳情第２号**については、賛成少数により不採択すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、当委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、総務文教常任委員長報告とします。

菊池市議会　議長　　水上　隆光　様

令和６年７月５日
総務文教常任委員会　委員長　緒方　哲郎

福祉厚生常任委員会　委員長報告

本定例会で福祉厚生常任委員会に付託されました案件は、条例案４件、請願１件の５案件です。

２日間にわたり慎重に審査しましたので、その経過と結果について報告します。

はじめに、**議案第 38 号**については、執行部より「熊本県重度心身障がい者医療費助成事業費補助金交付要領の一部改正に伴い、自己負担額を入院時の月額 2,040 円を 2,000 円、通院時の月額 1,020 円を 1,000 円へ変更されたため、条例の一部を改正するものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「自己負担額が軽減されているものの、中途半端な金額に思えるがなぜか」との質疑に対し、執行部より「県の要領がそのように改正されたためである」との答弁がありました。

さらに、委員から「県で統一されているのは理解できるが、40 円や 20 円ではなく、市独自で検討し、自己負担額の軽減を図っていただきたい」との意見がありました。

また、委員から「医療費助成の現物給付の進捗状況はどうなっているのか、今年の８月に受給者証の更新があると思うが、更新の時期に合わせて現物給付になるのか」との質疑に対し、執行部より「４月以降に他市の状況や、支払基金及び国保連合会等と協議を行い検討を行っている。今年の８月からの開始については、予算も伴うことなので難しいと考えている」との答弁がありました。

さらに、委員から「今年の８月が難しいのであれば、最短で来年の８月となるのか」との質疑に対し、執行部より「そのことも含めて検討していきたい」との答弁がありました。

次に、**議案第 39 号**については、執行部より「こども計画を子ども・子育て支援事業計画と一体的に策定することに伴い、子ども・子育て会議の所掌事務を見直すため、菊池市子ども・子育て会議設置条例の一部を改正するものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「こども計画を追加することでどう変わるのか」との質疑に対し、執行部より「今までの支援施策以外に、子どもの貧困、若者に関する支援など、子どもを中心に考えた施策や、子どもを安心して多く産んでもらえるような少子化対策等も含め、子育て世帯や若者支援について取り組むことになっている」との答弁がありました。

さらに、委員から「こども家庭庁のこども計画策定のためのガイドラインを見ると、子どもや若者の意見を反映させるよう指針が示されているが、現段階でどのような形で意見の聴取を行う予定なのか」との質疑に対し、執行部より「小学校５年生と中学校２年生の子ども及びその保護者。また 18 歳から 30 代までの若者へのアンケートの実施を考えている。可能であればインタビューなども行いたいと思っている」との答弁がありました。

さらに、委員から「アンケートを実施した結果については、情報共有を行っていただきたい」との意見がありました。

次に、**議案第 40 号**については、執行部より「特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準の一部改正に伴い、条例の一部を改正するものである。主な内容は、施設の重要事項等の書面掲示に加え、インターネットを利用して公表しなければならないことなどを含めた、デジタル化を妨げる社会制度やルールの見直しのためである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「掲示物というのは、具体的にどういった物か」との質疑に対し、執行部より「園

の重要事項である職員体制やプログラム等で、どのような園か保護者が確認できるような物である」との答弁がありました。
さらに、委員から「書面とインターネット両方行う必要があるのか」との質疑に対し、執行部より「両方行う必要がある」との答弁がありました。

次に、**議案第 41 号**については、執行部より「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴い、条例の一部を改正するものである。家庭的保育事業等は、児童福祉法等に基づき、原則０歳から２歳児までを保育所より少人数の単位で子どもを保育する事業で、本市に該当事業所はない」との説明があり、質疑を行いました。
委員から「本市に事業所がないとのことだが、ニーズに照らし合わせた上で、将来に渡って、本市では必要がないと判断しているのか」との質疑に対し、執行部より「職場の都合で市外の事業所を利用されてる方もいるようだが、本市に待機児童はいないため、不要であると考えている」との答弁がありました。
さらに、委員から「保育所が遠い方にとっては、事業所が近くにあれば利用しやすくなるのではないか」との質疑に対し、執行部より「卒園後の小学校への通学ということを考えた上で、地元近くの保育園等を希望される保護者が多いと考えている」との答弁がありました。

次に、**請願第１号**については、委員から「現行の保険証を継続する場合、執行部にどういった不利益があると考えるか」との質疑に対し、執行部より「現行保険証の廃止に向けたシステム改修を行うので、現行保険証の発行及び資格確認書の発行の２種類の作業をすることになり、必要経費及び職員の業務量が増加すると思われる」との答弁がありました。
さらに、委員から「全市民がマイナ保険証を作るということはないと思うので、現行保険証を廃止しても、煩雑な資格確認書の発送業務は継続して行う必要があると考えるが、その業務の負担はないのか」との質疑があり、執行部より「マイナ保険証の登録率が 58.19％であり、資格確認書を約 42％の方に送ればよいこととなる」との答弁がありました。

議員間討議では、**議案第 39 号**について「今回の改正により、幅広く若者や特に子供たちの声をアンケートなどによりしっかり聴いていくということで、初めての試みだと思うが、市の子育て施策にしっかり反映していただければと思う」「こども計画の策定にあたっては、子ども分野の将来像として掲げてあるが、その実現に向け、市としての基本的な方向性であったり、取組を示す総合的な計画だと思っているので、いろいろな声を聞きながら、計画倒れにならない実効性のあるものになるようお願いしたい」との意見がありました。

以上、慎重に審査しました結果、当委員会に付託されました**議案第 39 号**から**議案第 41 号**及び**請願第１号**については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決・採択すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、当委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、福祉厚生常任委員長報告とします。

菊池市議会　議長　水上　隆光　様

令和６年７月５日
福祉厚生常任委員会　委員長　猿渡　美智子

経済建設常任委員会　委員長報告

本定例会で経済建設常任委員会に付託されました案件は、条例案１件、議決案３件の４案件です。

２日間にわたり慎重に審査しましたので、その経過と結果について報告します。

はじめに、**議案第 42 号**については、執行部より「本案は、蛇塚団地、元村団地及び林原団地を用途廃止するに当たり、条例の一部を改正するものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「用途廃止後の計画は」との質疑があり、執行部より「林原団地については民間の企業より問合せがあっており、市場ニーズが高いことから、土地の評価額から解体費の見積額を差し引いた価格で売却しようと考えている。また、蛇塚団地、元村団地については、宅地化して売却する方向で検討している」との答弁がありました。

また、委員から「用途廃止をする団地の築年数は何年か。また、同時期に建設している団地についても処分していくのか」との質疑があり、執行部より「築年数はいずれも 40 年を超えている。また、菊池市公営住宅等長寿命化計画の中で、現在の団地の戸数 1,170 戸から令和９年度末までに 986 戸へ削減する目標があり、順次目標に基づいて実施していく」との答弁がありました。

次に、**議案第 56 号**については、執行部より「市道路線を廃止するに当たり、道路法第 10 条第３項の規定により、議会の議決を必要とするものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「伊牟田２号線の廃止について、林道移管の理由は」との質疑があり、執行部より「この路線一帯に市有林及び民有林があり、森林環境譲与税及び森林環境税を活用して林道整備を行っていくため」との答弁がありました。

次に、**議案第 57 号**については、執行部より「市道路線を認定するに当たり、道路法第８条第２項の規定により、議会の議決を必要とするものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「開発行為に伴う市道路線の新規認定について、どのような確認方法を行っているのか」との質疑があり、執行部より「都市計画法に基づく開発のため、県の確認検査が実施され、その事前協議の中で市道の認定基準を満たすか確認している」との答弁がありました。

次に、**議案第 58 号**については、執行部より「市の区域内の字の区域を変更するには、地方自治法第 260 条第１項の規定により、議会の議決を必要とするものである」との説明があり、特に質疑はありませんでした。

議員間討議では、**議案第 42 号**について「団地の廃止は以前からの計画によるものとは思うが、最近は住宅需要の増加など事情が変わってきているので、存続や住宅の形を残した上で民間に売却するなど、今後の状況に合わせ、計画を見直してほしい」「団地の跡地については、人口増に繋がるような活用をしてほしい」との意見がありました。

次に、**議案第 57 号**について、「出入口が１か所の路線の市道認定に当たり、周辺の道路へ繋がる道はないかなど検討してほしい」との意見がありました。

以上、慎重に審査しました結果、当委員会に付託されました**議案第 42 号**、**議案第 56 号**から**議案第 58 号**については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、当委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、経済建設常任委員長報告とします。

菊池市議会　議長　　水上　隆光　様

令和６年７月５日
経済建設常任委員会　委員長　田中　教之

予算決算常任委員会　委員長報告

本定例会で予算決算常任委員会に付託された議案は、**議案第 45 号**から**議案第 47 号**の３議案です。

６月 19 日及び７月２日に予算決算常任委員会を、６月 26 日から 27 日に予算決算常任委員会分科会を開催し、各分科会において所管する分を慎重に審査し、各分科会長より経過報告がありましたので、その主なものについて報告します。

なお、報告書は、お手元に配付しておりますが、本日の報告については、網掛け部分を割愛して報告します。

会議録については、全文記載された報告書を掲載します。

はじめに、**議案第 45 号**中、その主なものを申し上げます。

まず、非常備消防費の消防団員退職経費について、執行部より「報償金の 2,240 万 8,000 円の増額については、消防団員の退職者の確定による増額である」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「対象者は、何人か」との質疑に対し、執行部より「今回の対象者は、160 人である。」との答弁がありました。

次に、目、事務局費の事業名、事務局費について、執行部より「普通旅費の 12 万 7,000 円の増額については、宮崎県西米良村で開催される菊池祭に参加するための旅費と、来年 10 月で児童生徒が使用する１人１台のタブレットの Windows サポートが切れるので、次期タブレットを選定するため、全国から各業者が集まり開催される機種の展示会とソフトのデモを視察するための旅費である」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「現在のタブレットの Windows バージョンは何か。また全てを Windows11 にバージョンアップするのか」との質疑に対し、執行部より「現在使用しているものは、Windows10 である。また来年度に Windows サポートが切れるとともに、タブレットの更新時期が来ることとなる」との答弁がありました。

さらに、委員から「来年度に Windows11 へバージョンアップするのか。または、タブレットを替えてしまうのか」との質疑に対し、執行部より「来年度のタブレット更新については、現在、県と一緒に検討している」との答弁がありました。

次に、学校管理費の小学校増築事業について、「4,010 万 1,000 円の減額については、当初予算で計上した菊之池小学校のエレベーター設置工事費及び監理業務委託料の予算が、本年３月定例会において補正が認められたので不要になったものである」との説明があり、特に質疑はありませんでした。

次に、学校給食費の物価高騰対応重点支援事業について、執行部より「学校給食食材費補填事業補助金の1,464万1,000円の増額については、近年の物価高騰により学校給食の食材が高騰する中、本年度も給食費の値上げを実施したが、それ以上に物価が上昇していることから、これまでどおりの栄養のバランスや量を保った学校給食を実施するため、給食費の値上げ以上に物価が上昇している分に対して補助金を交付するものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「給食の料金は、職員と児童生徒とでは同額か」との質疑に対し、執行部より「小学校の先生は、小学生と同額で、中学校の先生は、中学生と同額である」との答弁がありました。

また、委員から「職員に補助金を交付することに対して、執行部内で異議は無かったのか。また給食の先生は、この職員分に含まれているのか」との質疑に対し、執行部より「教育委員会では、学校給食は、食育の場であり食育の一環であると考えている。また給食の先生は、職員分に含まれている」との答弁がありました。

さらに、委員から「本市と同じように一般財源で職員分の補助金を計上している自治体があるのか」との質疑に対し、執行部より「近隣等の市を調べた結果、合志市のみが本事業を実施するとのことだが、一般財源の持ち出しはない」との答弁がありました。

次に、公民館費の自治公民館費について、執行部より「自治公民館整備補助金の76万4,000円の増額については、下長田区の公民館の井戸が渇水状態にあるため、井戸のボーリング及び給水施設の整備経費に対して、２分の１の補助金を交付するものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「その事業費に水質検査の費用は含まれているのか」との質疑に対し、執行部より「補助対象経費に水質検査の費用は含まれていない。地元には水質検査のことは言いたい」との答弁がありました。

さらに、委員から「水質検査で何か有害であるという結果が出た場合、この補助金はどうなるのか」との質疑に対し、執行部より「そのことについては、今のところは想定していない」との答弁がありました。

次に、体育施設費の体育施設整備事業について、執行部より「工事請負費の341万8,000円の減額については、当初予算に計上した七城屋内スポーツセンター内のテニスコートの照明器具のＬＥＤ化の予算が、本年３月定例会において補正が認められたので不要になった595万4,000円を減額するとともに、重味グラウンドが令和７年度からヘリポートとして活用する予定であることから照明の撤去工事費及び公衆トイレ解体工事費の253万6,000円を増額するものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「グラウンドの照明撤去の費用とトイレ解体の費用は、それぞれいくらか」との質疑に対し、執行部より「照明撤去工事が約123万6,400円で、公衆トイレ解体工事が129万9,595円と積算している」との答弁がありました。

障がい者福祉費の障がい者（児）福祉事業については、執行部より「議案第 38 号で説明を行った、重度心身障がい者医療費助成制度における自己負担額の減額に伴う、医療費助成額 28 万 3,000 円の増額である」との説明があり、特に質疑はありませんでした。

次に、児童福祉総務費の児童育成クラブ経費については、執行部より「児童育成クラブの利用児童数増により、菊池北小校区及び七城小校区の児童育成クラブのクラスが増えること及び障がい児受入れ数増などにより 2,365 万 4,000 円を増額するものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「児童育成クラブの待機児童はいるのか」との質疑に対し、執行部より「児童育成クラブを利用する児童は増えているが、待機児童はいないと認識している」との答弁がありました。

次に、児童福祉施設費の物価高騰対応重点支援事業については、執行部より「副食費の公定価格が、食材費の物価高騰に伴い増額されたため、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、保護者の負担軽減を図るため、195 万 2,000 円を増額するものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、小中学校給食では、副食を増やすとのことだったが、保育所等では負担軽減を行うとのことでよいか」との質疑に対し、執行部より「公定価格が 4,500 円から 4,800 円に増額されたが、保護者の負担軽減を図るため、増額分を補助するものである」との答弁がありました。

さらに、委員から「保育士への補助はないということか」との質疑に対し、執行部より「保育士への補助はない」との答弁がありました。

次に、予防費の予防接種事業については、執行部より「新型コロナワクチン接種は、令和６年度より予防接種法上の定期接種に位置付けられたが、65 歳以上及び 60 歳から 64 歳までの重症化リスクの高い方を対象に、感染の拡大、重症化予防等を目的として、ワクチン接種を行うため、7,956 万 5,000 円を増額するものである。対象者は 6,000 人で、現時点での接種委託料が１人当たり１万 5,300 円。うち 8,300 円は国から助成が行われる予定で、自己負担額は、7,000 円の３割相当額の 2,100 円となる予定である」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「新型コロナワクチンの接種を行う期間と医療機関は決まっているのか」との質疑に対し、執行部より「近隣２市２町と協議の途中だが、接種期間については、国が令和６年 10 月１日から令和７年３月 31 日までと示しているため、それに従い準備をしたいと考えている。医療機関については今後、医師会へ説明を行う予定であるため、現時点では決まっていない」との答弁がありました。

さらに、委員から「対象者以外の接種希望者は、１万 5,300 円負担する必要があるのか」との質疑に対し、執行部より「現時点では、全額自己負担でお願いしたいと考えている」との答弁がありました。

また、委員から「今まで、相当数のワクチンが廃棄され、財源も無駄になったというような報道があったが、想定する 6,000 人から増減があった場合の体制はどうなっているのか」との質疑に対し、執行部より「ワクチンの確保等については、必要に応じて補正予算にてお願いしたいと考えている。また、製薬会社がどこになるかという情報など詳細が来ていないので、その点も含め現在調査中である」との答弁がありました。

次に、畜産業費の物価高騰対応重点支援事業については、執行部より「輸入飼料価格や燃油・肥料・資材等の高騰による畜産経営への影響緩和及び事業継続の一助となるよう、上限額を 27 万円とし、令和５年中の飼料費に 100 分の５を乗じた額を交付するため、7,112 万 8,000 円を増額するものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「執行率はどのくらいを見込んでいるのか」との質疑に対し、執行部より「対象の農家戸数は 365 戸で、前年度の実績により、申請の数を約 290 戸と見込んでいる」との答弁がありました。

さらに、委員から「８月から年度末にかけて事業を進めるとのことだが、期間を早めることは可能か」との質疑に対し、執行部より「事業期間は年度内だが、早めに申請されていない方への申請の促しを行っていきたい」との答弁がありました。

次に、農林水産業費国庫補助金のデジタル田園都市国家構想交付金については、執行部より「県と市町村の共同申請事業による、熊本農地ＧＩＳを活用した情報化共有事業で、県より令和６年４月１日付で交付決定通知があったため、４万 1,000 円を増額するものである」との説明があり、特に質疑はありませんでした。

次に、雑入の創業支援事業補助金返還金については、執行部より「店舗新設及び改修費に伴う創業支援事業補助金は、営業月数が 36 月に満たない場合には、差額について返還を求めており、今回創業支援事業補助金を受けた事業者が 16 月で事業を廃止したため、店舗改修費について、差額の 20 月分の返還を求めたものである」との説明があり、特に質疑はありませんでした。

次に、観光費の観光施設整備事業については、執行部より「七城温泉ドームにおいて、年度当初に水中ポンプの取替工事が緊急的に必要となり、今後も緊急的な修繕などが見込まれるため、339 万円を増額するものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「水中ポンプは何年で壊れたのか。また、オーバーホールした予備品と取替えたのか」との質疑があり、執行部より「設置後７年で新品のポンプに取替えたものである」との答弁がありました。

さらに、委員から「工事費において、指定管理者の負担はあったのか」との質疑に対し、執行部より「指定管理契約の中で、50 万円以上の修繕については市の負担となっており、今回は市の全額負担である」との答弁がありました。

次に、同じく観光費の観光施設管理事業については、執行部より「孔子公園緑道のベンチの修繕のため 46 万 8,000 円を増額し、市民広場の樹木が腐食したことによる伐採のため 50 万円を増額し､菊池渓谷ビジターセンターの給水管に新たにフィルターを取りつけるため 33 万円を増額するものである」との説明があり、特に質疑はありませんでした。

次に、道路橋りょう新設改良費の道路橋りょう新設改良事業については、執行部より「菰入橋の上部工撤去において、関係機関との協議により工法変更が生じたため、653 万円の増額をするものである」との説明があり、特に質疑はありませんでした。

次に、土木費国庫補助金の地域住宅交付金については、執行部より「あさひが丘住宅改修工事及び蛇塚元村団地の解体工事等にかかる、財源の組替えによる歳入の補正で、社会資本整備総合交付金事業の配分の減額の決定のため、1,026 万 5,000 円を減額するものである。また、この減額に伴い、土木債の公営住宅建設事業債について、1,030 万円を増額するものである」との説明があり、特に質疑はありませんでした。

次に、**議案第 46 号**の目、一般管理費の事業名、一般管理費については、執行部より「マイナンバーカードと健康保険証の一体化に関する広報チラシ及び加入者情報等を送付するため、郵送料及びシステム改修委託料 262 万 1,000 円を増額するもので、財源はすべて国庫補助である」との説明に対し、質疑を行いました。

委員から「加入者情報確認の通知は今まで送付したことがあるのか、どのような内容か」との質疑に対し、執行部より「今回初めて発送する。個人番号の下４桁を記載し、加入者情報の確認をしていただく内容である」との答弁がありました。

さらに、委員から「他人の情報が紐づけられていないか確認のためか」との質疑に対し、執行部より「そういった目的のためである」との答弁がありました。

次に、**議案第 47 号**については、執行部より「旭志中学校の水道給水管において、中学校の量水器以降に３件分の給水管が分岐され、それぞれに量水器が設置されていることから、旭志中学校の水道料金について､他３件分の水道料金が加算されていた状態であることが判明し、平成 26 年度から令和５年度までの 10 年間遡って還付を行うため、102 万 8,000 円を増額するものである」との説明があり、質疑を行いました。

委員から「３件の方は水道料金を支払っていたのか」との質疑があり、執行部より「３件の方についてはそれぞれお支払いいただいており、３件分を加算して旭志中学校に請求をしていたものである」との答弁がありました。

議員間討議では、**議案第 45 号**について「同議案の同じ物価高騰対応重点支援事業であるにも関わらず、学校給食費の学校給食食材費補填事業補助金では、一般財源を持ち出して職員に対する補助金を計上されているが、児童福祉施設費の保育所等給食費補助金では、職員分の補助金が計上されておらず、不公平であるため賛成することはできない。よって、学校

給食食材費補填事業補助金のうち職員分に充てられた一般財源全額を予備費に回す修正案を提出したい」との意見があり、それに対し「今の意見の反対側の意見としては、特に今の小中学校の先生方は、環境が悪く負担も大きくて大変だから、他の市町村では職員へ補助金を交付されていないが、本市だけでも交付して先生達をフォローしたいという気持ちだったのではないかと思う」との意見がありました。

次に、物価高騰対応重点支援事業について、「一次募集をするなど執行率の見込みを早くつけた上で、この国庫支出金を有効に活用していただきたい。その上で、酪農対策で加算をするなど今後検討してほしい」「交付金の額に合わせて上限 27 万円とするのではなく、前回上限 30 万円であるなら、３万円分を一般財源から加算してでもやるべきではないか」との意見がありました。

次に、観光施設整備事業について、「七城温泉ドーム及びリバーサイドパークの維持管理費について、５年間で１億 5,000 万円程度かかっている。建物が 30 年程度経ち、今後も不具合が出ることは想定されるため、市に費用のかからないような方向で検討してほしい」「七城温泉ドーム及びリバーサイドパークの運営について、あり方自体を根本的に考えていかないといけない時期に来ているのではないか。今後も施設修理は色んな部分でかかってくるので、必要性を協議し規模を縮小するなりしてやらないと施設の維持自体が難しくなっていくのではないか。今後も修繕費については毎年報告してほしい」「公共施設等総合管理基金の活用について、第三セクターの施設だけに限らず、市内施設の維持管理費においても、今後活用計画を立て検討していくべきである」との意見がありました。

次に、**議案第 46 号**について「マイナ保険証を促進するためのチラシが加入者情報と同時に発送されるが、マイナ保険証がないと医療機関の受診ができないような誤解を招かないよう、12 月２日以降も、マイナ保険証がなくても、受診できるという旨を周知していただきたい」また「反対に受診できる旨を周知しすぎることで、マイナ保険証の推進が進まないことにならないように、うまくチラシを作成してほしい」との意見がありました。」

以上が、各分科会長からの経過報告となります。

次に、各分科会長報告に対する質疑を行いました。

委員から「重味グラウンドの工事について、菊池市営グラウンド設置条例の廃止は上程していないが、廃止に向けての解体に問題はないのか。またヘリポート設置については、何を持って決定しているのか。また陳情案件が継続審査中であるが地域との合意はできているのか」との質疑があり、総務文教分科会長より「１点目については、執行部より『市の方針では、施設を所管替えする場合は、先に所管部署が更地にした後に所管を移すこととなっており、今回は、社会体育施設として不要な設備を先に撤去するので、手順に問題はない』との答弁があっている。また２点目及び３点目については、いずれも分科会の中での議論はなか

ったが、常任委員会の審査の中で、執行部より『重味地区の区長意見交換会の中で、市長同席のもと、重味グラウンドは、施設及び電気水道を撤去してドクターヘリ発着所として利用することで、地元の了承を得ている』との説明があった」との答弁がありました。

また、委員から「学校給食への交付金活用について、事業内容については必要だと思うので、否決せずに教職員への一般財源による実施をしないような付帯決議の議論はあったのか」との質疑があり、総務文教分科会長より「質疑にあるような議論はなかった」との答弁がありました。

さらに、委員から「学校給食費の物価高騰対応重点支援事業について、一般財源による職員分の補助は不適切であるとして修正案が提出されるようだが、自己負担すべきという議論が前提だったのか」との質疑があり、総務文教分科会長より「職員は、給食費を自己負担すべきであることが前提であった」との答弁がありました。

以上、慎重に審査しました結果、当委員会に付託されました、**議案第 45 号**については、委員より児童福祉施設費の保育所等給食費補助金と、学校給食費の学校給食食材費補填事業補助金を比較した場合、同議案の同様の補助制度において、官民での活用が統一されていないため、学校給食食材費補填事業補助金の職員分に充てられた補助金全額を減額修正するという理由により、学校給食食材費補填事業補助金 1,464 万 1,000 円のうち 184 万 6,000 円を予備費に計上するという修正案が提出されましたが、特に質疑はありませんでした。

討論では、原案に対して１人の委員から賛成討論があり、また修正案に対して１人の委員から賛成討論がありました。

次に、修正案について、採決を行い、その結果、賛成多数で可決すべきものと決定しましたので、修正可決した部分を除く残りの原案についても採決を行い、その結果、賛成多数で可決すべきものと決定しました。

次に、**議案第 46 号**については、討論において１人の委員から反対討論がありましたが、採決の結果、賛成多数で可決すべきものと決定しました。

次に、**議案第 47 号**については、討論もなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決定しました。

議員各位におかれましては、当委員会の決定のとおり、ご賛同いただきますようお願い申し上げまして、予算決算常任委員長の報告とします。

菊池市議会　議長　水上　隆光　様

令和６年７月５日

予算決算常任委員会　委員長　工藤　圭一郎

付　　録

令和６年第２回定例会付議事件一覧及び審議結果表

（６月１４日・６月１９日・７月５日議決）

議案番号	件名	審議結果
議案第３０号	専決処分の報告及び承認を求めることについて （菊池市史跡調査検討委員会条例及び菊池市市民会館あり方検討委員会条例の一部を改正する条例）	原案承認
議案第３１号	専決処分の報告及び承認を求めることについて （菊池市税条例の一部を改正する条例）	原案承認
議案第３２号	専決処分の報告及び承認を求めることについて （菊池市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）	原案承認
議案第３３号	専決処分の報告及び承認を求めることについて （菊池市過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例）	原案承認
議案第３４号	専決処分の報告及び承認を求めることについて （令和５年度菊池市一般会計補正予算　第１７号）	原案承認
議案第３５号	専決処分の報告及び承認を求めることについて （令和５年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算第６号）	原案承認
議案第３６号	専決処分の報告及び承認を求めることについて （令和６年度菊池市一般会計補正予算　第１号）	原案承認
議案第３７号	菊池市西部市民センター条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第３８号	菊池市重度心身障がい者医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第３９号	菊池市子ども・子育て会議設置条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第４０号	菊池市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第４１号	菊池市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第４２号	菊池市営住宅条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案第４３号	菊池市泗水Ｂ＆Ｇ海洋センター条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決

議案番号	件　　名	審議結果
議案第４４号	令和６年度菊池市一般会計補正予算（第２号）	原案可決
議案第４５号	令和６年度菊池市一般会計補正予算（第３号）	修正可決
議案第４６号	令和６年度菊池市国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第４７号	令和６年度菊池市水道事業会計補正予算（第１号）	原案可決
議案第４８号	教育長の任命につき同意を求めることについて	原案同意
議案第４９号	教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて	原案同意
議案第５０号	公平委員会委員の選任につき同意を求めることについて	原案同意
議案第５１号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	原案同意
議案第５２号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	原案同意
議案第５３号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	原案同意
議案第５４号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	原案同意
議案第５５号	財産の取得について	原案可決
議案第５６号	市道路線の廃止について	原案可決
議案第５７号	市道路線の認定について	原案可決
議案第５８号	字の区域の変更について	原案可決
議案第５９号	工事請負契約の締結について	原案可決
議案第６０号	工事請負契約の締結について	原案可決

議案番号	件　　名	審議結果
議　　事		
議事第 1 号	常任委員会委員の選任について	20人選任
議事第 2 号	議会運営委員会委員の選任について	6 人選任
議事第 3 号	議会広報特別委員会委員の選任について	6 人選任
議事第 4 号	熊本県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙	1 人選任
意見書案		
意見書案第 2 号	少人数学級・教職員定数の改善に係る意見書	原案可決
意見書案第 3 号	現行健康保険証について当面の間の存続を求める意見書	原案可決
請　　願		
請願第 1 号	現行健康保険証について当面の間の存続を求める請願	採　択
請願第 2 号	請願書	採　択
陳　　情		
陳情第 2 号	迫間支館および重味グラウンドを公共施設として存続を求める陳情書	不採択
報　　告		
報告第 1 号	継続費繰越計算書について	原案報告
報告第 2 号	繰越明許費繰越計算書について	原案報告
報告第 3 号	事故繰越し繰越計算書について	原案報告

議案番号	件　　名	審議結果
報告第 ４ 号	繰越計算書について（菊池市下水道事業会計）	原案報告
報告第 ５ 号	専決処分の報告について（消防活動事故）	原案報告
報告第 ６ 号	専決処分の報告について（市営住宅に関する訴えの提起）	原案報告
報告第 ７ 号	専決処分の報告について（道路管理瑕疵）	原案報告
報告第 ８ 号	菊池市土地開発公社経営状況報告について	原案報告
報告第 ９ 号	有限会社きくち観光物産館経営状況報告について	原案報告
報告第１０号	有限会社ファームきくち経営状況報告について	原案報告
報告第１１号	有限会社七城町特産品センター経営状況報告について	原案報告
報告第１２号	有限会社七城町振興公社経営状況報告について	原案報告
報告第１３号	有限会社七城町銘柄米センター経営状況報告について	原案報告
報告第１４号	有限会社旭志村ふれあいセンター経営状況報告について	原案報告
報告第１５号	有限会社有朋の里泗水経営状況報告について	原案報告